【制節】(セイセツ) 程よくものを制限す。(節制)。漢書に「制節謹度、以防レ奢」

【制禮】(セイレイ) 禮儀をさだむ。晉書に「王者功成作レ樂、治定制レ禮」

【剞】カフ、ケフ。苦洽切。洽。割の古文字。一いる(入)二おちいる、おとしいる(陷)。

【刷】(ソウ)サツ、セツ。數滑切。黠。(ろ)セツ、セチ。所劣切。屑。一する、こする(刮、摩)二はらふ(拂)三きよむ(清)四けづる(削)五ぬぐふ(拭)六あらふ(洗)、すすぐ(滌)七そる(剃)。

【刷行】(サツカウ) 版にすり出す。

【刷羽】(サツウ) はねを撫でつくろふ。梁簡文帝「刷レ羽向二沙洲一」こすり去る。五代史に「外燎以レ火、刷二剔其皮膚一」ふきはらふ。

【刷掃】(サツサウ)

【刷新】(サツシン) 弊害を除きて事を新にす。

【券】ケン、クワン。去願切。願。(契)。一てがた、わりふ(契)二ちぎる(券約)。

【券書】(ケンショ) 約束のかきつけ。南史に「弘悉燔二券書一」

【券契】(ケンケイ) 約束てがた。わりふ。(要契)。管子に「定二券契之齒、金鉅之數一」

【剎】サツ、セチ。初八切。黠。一はしら(柱)二てら(僧寺、巨剎)三たふ(塔)四くに(國土)五極めて短き時間(瞬間)。

【剎那】(セツナ) 〔佛〕(梵語Kṣaṇa) 極めて短き時間。俱舍論に「時之極少名二剎那一」

【剎鬼】(セツキ)

【刺】(シ)シ。七賜切。眞。(ろ)セキ、シャク。七迹切。陌。(は)セイ、サイ。七計切。霽。刺は左部束に从ふ。一ころす(殺)二さす三そこなふ(傷)四とげ(棘)五はり(鍼)六なふだ(名刺)七そしる(譏)八せむ(責)九とる(取)十のぞく(除)十一かる(刻)十二はりさす十三やいばす(刃)十四さをさす(樗)十五うかがふ(偵伺)十六そしる(譏)。

【刺史】州の長官。太守に同じ。武德中太守を改めて刺史といひ、天寶中、又刺史を改めて太守といふ。唐書に見ゆ。

【刺斫】さすとき。

【刺猛】刺斫」言おほき貌。管子に「焉能去二刺猛一乎」

【刺刺】(シシ)(シシ)爲二喋喋一乎」

【刺客】(シカク) 暗殺を行ふもの。史記に「還二梁刺客一後、曹輩果遮刺二殺盎一」

【刺紅】(シコウ) 〔植〕ばらの異名。花譜に「薔薇一名刺紅」

【刺促】(シソク) いそがはし。晉書に「刺促不レ得レ休」

【刺船】(シセン) 舟にさをさす。漢書、陳平傳に「平心恐乃解レ衣亂、而佐刺レ船」

【刺傲】(シガウ) 物事をそしりておごる。北史に「好飲レ酒、頗涉二刺傲一」

【刺戟】(シゲキ) 體をさしつく。心を感動せしむ。又、注意を與へてはげます。

【刺激】(シゲキ) はげます。興奮さす。

【刺謁】(シエツ) 案内を請ひて人に見ゆ。劉無雙傳に「乃刺謁以從二姪禮一見遂中一」

【刺擊】(シゲキ) さしうつ。

【刺繡】(シシウ) ぬひとり。布地に金絲・銀絲或は絹絲等にて山水花鳥などをぬひつけたるもの。史記に「刺繡文不レ如レ倚二市門一」

【刺議】(シギ) そしる。

【刺レ股讀レ書】(シモヨミテ) 蘇秦、魏人張儀と同じく鬼谷先生に師事す、書を讀みて睡らんとする時は錐を引きてその股を刺し、血流れて踝に至りしといふ。事文類聚に見ゆ。

【刻】コク。苦則切。職。一ほる(彫)二きざむ三ちりばむ(鏤)四ふる(彫)五けづる(削)六さく(割)七はぐ(剝)八いたむ(痛)九そこなふ(害)十むごし(殘忍)十一漏刻、轉じて時間のことにいふ。十二豕の跡。

【刻下】(コクカ) ただいま。このごろ。

【刻法】(コクハフ) きびしきおきて。陸賈「深刑刻法、朝夕切切、而後行哉」

【刻苦】(コクク) ほねをりつとむ。宋史、孔文仲傳に「刻苦問學號二博洽一」

【刻限】(コクゲン) 定められたる時刻。

【刻期】(コクデク) いれずみ。黥。書經、傳に「刻二其額一而涅之曰レ墨」

【刻梏】(コクゴン) 頑固にして時勢に通ぜざるに喩ふ。齊書に「刻梏沙門、守レ株道士」

【刻意】(コクイ) 心をくるしむ。慾情をおさへつく。(尅意)。莊子に「刻レ意尚レ行」

【刻銘】(コクメイ) 銘の文をきざむ。きざみたる銘。宋史に「泰山有二唐明皇刻銘一」

【刻漏】(コクロウ) 水どけい。(漏刻)。周禮に「挈壺氏掌二刻漏一」

【刻薄】(コクハク) 殘忍薄情なり。史記に「商君天資刻薄人也」

【刻鏤】(コクロウ) きざみふる。禮記に「車不二雕幾一器不二刻鏤一」

【刻繪】(コクワイ) きざみゑがく。

【刻鵠】(コクコク) しのきおかす。漢書に「刻二鵠宋室一侵二辱功臣一」

【刻レ舟求レ劍】(コクシウニフネヲキザミテケンヲモトム) 頑固にして時勢に通ぜざるに喩ふ。呂氏春秋に「楚人有二涉レ江者一、其劍自二舟中一墜二于水一、遽刻二其舟一曰、是吾劍所二從墜一也、舟止從二其所レ刻處一入レ水求レ之、舟已行矣、而劍不レ行、求レ劍若レ此、不二亦惑一乎」

【剞】カツ、カチ。口八切。黠。一はぐ(剝)二つらはぐ三きる(切)。

【刪】サン。刪の古文字。

七 畫

【剃】テイ、タイ。他計切。霽。かみそる。

【剃刀】(テイタウ) かみそり。段成式「起就二夕陽一磨二剃刀一」

【剃髮】(テイハツ) かみをそる。宋史、徐孝克傳に「剃髮爲二沙門一、改二名法整一」

【剄】(ケイ)キャウ。古挺切。迥。くびきる。

【剄】(ケイ)ロウ、ル。洛侯切。尤。ツ。當侯切。尤。一すこしくほる二すこしくさく三さく(割)。

【則】ソク。子得切。職。一のり(法)二つね(常)三のっとる四律の名(十二律の一)五すなはち(助辭)。

【則效】(ソクカウ) のっとりならふ。左傳に「孟僖子可レ謂二則效一已矣」

【削】(サク)エン。於玄切。先。(ろ)ケツ、ケチ。娟悅切。屑。一くぼむ(窪)二けづる(剜)三かげとる(挑取)。

【剝】(ハク)ヒ。普角切。覺。一きる(斫)二くじく(挫)三きざむ(細切)四かどをけづる。

【削】(サク)シャク、サク。思約切。藥。(ろ)セウ。仙妙切。嘯。(は)サウ、セウ。所交切。效。(に)サ。蘇果切。哿。一きざむ(刻)二けづる(刮治)三おかす(小侵)四かく、へす五きる(斫)六よわむ(弱)七よわし(弱)八こがたな(書刀、古昔、紙筆のなかりしとき字を刻するに用ゐたるもの)九わかつ(割)十うばふ(奪)十一のぞく(除)十二かたなのさや(鞘に同じ)十三さびし(嶒に同じ)十四あみ(網羅)十五采地の稱十六きる(斫)。

【削成】(サクセイ) けづりなす。又、けづりたるやうになる。四岳記に「太華之山削成、四方共高五十仞」

【削除】(サクヂヨ) きりのく。はぶく。

【削哺】(サクホ) ついたて、屏風の類。後漢書に「有二風吹一削哺一」

【削消】(サクセウ) へる。(損消)。易林に「耗減寡居、日以削消」

【削然】(セツゼン) 和樂の貌。莊子に「孔子削然、反レ琴而絃歌」

【削減】(サクゲン) けづりへらす。漢中士女志に「患二諸侯强大一、建議削減」

【削剟】(サクサン) けづる。文同「巧者强削剟」

【剋】コク。乞得切。職。一ころす(殺)二けづる(削)三かつ(克)四たふ、あたふ、よくす(能)五きびし(嚴)、いそがはし六かならずとす(必)七きざむ(刻に通ず)。

【剋伐】(コクバツ) しひて從はしむ。拾遺記に「武帝好二微行一、而尚二剋伐一」

【剋殄】(コクテン) 敵をほろぼす。晉書に「所レ以創二啓鴻基一、剋殄强楚一者也」

【剋意】コク　こころをくるしむ。精出す。（刻意）。李商隱「平生忽忽不レ樂、始剋意事レ佛」

【剋翦】コクセン　きる。（截斷）。徐陵「剋翦無レ算」

【刺】ラツ、ラチ。力達切。曷。剌は左（戾）、たがふ（差）、ひがむ（僻）㊁もとる（恥）㊂弓を張る聲㊃魚の躍る聲。

【刺刺】ラツラツ　物の聲の形容。李商隱「去程風刺刺、別夜漏丁丁」

【前】㊀セン、ゼン。昨先切。先。㊁すすむ（進）㊂さき（先）㊃もと（故）㊄みちびく（導）㊅まへ（後の對）㊆さきんず（先）㊇そろへてきる（齊斷、俗に剪に作る）㊈あさぐろさいろ（淺黑色）。

【前王】センワウ　前代の帝王。詩經に「於乎前王不レ忘」

【前世】ゼンセイ　㊀むかし。詩經、疏に「雖レ刺二現世に生れ出づるまへのよ。

【前兆】ゼンテウ　事の起るまへのきざし。まへしらせ。韓駒「那知此相遇、乾鵲果前兆」

【前因】ゼンイン　前生のいんねん。（宿緣）。釋貫休「渾似レ有二前因一」

【前例】ゼンレイ　まへからのためし。南史に「魯有二靈光殿、漢之前例也」

【前艮】ゼンリヤウ　前時の善良なるもの。張衡「尙二前艮之遺風一分」

【前身】ゼンシン　前世のからだ。白居易「閑思往事、似二前身一」

【前卻】ゼンキヤク　進むと退くと。吳子に「前卻有レ節、左右應レ麾」

【前非】ゼンピ　先になしたる惡事。（先非）。崔湜「事往覺二前非一」

【前呵】ゼンカ　さきばらひ。韓愈「武夫前呵、從者塞レ途」

【前知】ゼンチ　その事の起らぬ前より知る。中庸に「至誠之道、可二以前知一」

【前突】ゼントツ　すすみつく。魏志に「馬超負二其力一、陰欲二前突一」

【前紀】ゼンキ　まへの世のことがき。謝靈運「國史以載二前紀一」

【前烈】ゼンレツ　先時の餘光。書經に「公劉克篤二前烈一」　前代の人の遺せるてほん。蔡邕「乃及二伊公、克光二前矩一」

【前哲】ゼンテツ　前時の賢者。左傳に「賴二前哲一以免也」

【前途】ゼントウ　ゆく先のみち。又、將來。陶潛「江山豈不レ險、歸子念二前途一」

【前登】ゼントウ　人に先きだちて登る。後漢書に「精兵八百、强弩千張、以爲二前登一」

【前塁】ゼンイ　まへの世のひじり。東都賦に「蓋六籍所レ不レ能談、前聖靡レ得言焉」

【前殿】ゼンデン　正殿の前にある殿舍。史記に「先作二前殿阿房一」

【前鋒】ゼンホウ　いくさのさきがけ。（先陣、先鋒）。史記に「大王宜レ悉二淮南之衆一、身自將レ之、爲二楚軍前鋒一」

【前緒】ゼンショ　先人の遺し置きたる事業のいとぐち。（先業）。張峻「位承二前緒一、世有二哲王一」

【前賢】ゼンケン　前時のかしこきひと。（先賢）。晉書に「前賢後聖代爲二師祖一」

【前慮】ゼンリヨ　事の起らざるまへのおもんばかり。戰國策に「前慮不レ定、後者有二大患一、將奈レ之何」

【前緣】ゼンエン　前生のいんねん。蘇軾「此殆世俗之所レ謂前緣者」

【前勵】ゼンレイ　まへかたのいさを。左傳に「復二修舊德一、以追二念前勵一」

【前蹕】ゼンヒツ　行列のさきのり。さきども。周禮に「王后之喪、遷二於宮中一、則前蹕」

【前驅】ゼンク　前に同じ。詩經に「伯也執レ殳、爲二王前驅一」

【前程萬里】ゼンテイバンリ　將來多望なるにいふ。南楚新聞に「魏公崔相鉉之子也、爲二童兒一時、隨レ父訪二韓滉一、指二駕上鷹一、命詠之、遂命二牋筆一、略無二佇思一、滉歎曰、此兒可レ謂二前程萬里一也」

【前古未曾有】ゼンコミソウイウ　古よりいまだなし。

【前車覆後車戒】ハゼンシヤノクヱシヤノイマシメ　前人の過を見て、後人の注意すべきことにいふ。說苑に「公乘不仁曰、周書曰、前車覆、後車戒、蓋言二其危一」

【前事不レ忘後事師】ゼンジフワスレズゴジシ　前事に注意して忘れざれば、後事を處置するによき參考となるなり。史記に「野諺曰、前事之不レ忘、後事之師也、是以君子爲レ國、觀二之上古一、驗二之當世一、參以二人事一、察二盛衰之理一、審二權勢之宜一」

【前門拒レ虎後門進レ狼】ゼンモンニコヲフセギテコウモンニオホカミヲススム　纔に禍を脫れて又禍に逢ふぐいふ。成語考に「禍去禍又至、曰二前門拒レ虎後門進狼」

【制】ホ、フ。補護切。遇。㊀きる（截）㊁ものたちがたな。シ。剌の俗字。

【刻】ラウ。盧埆切。養。あきらかに（明）。

八畫

【剖】サク。且落切。藥。きる、けづる。

【刪】ホウ。北朋切。蕩。きる（研）。

【剔】㊀テキ、チャク。他歷切。錫。㊁セキ、シャク。施隻切。陌。㊂ティ、タイ。他計切。霽。㊃一のぞく（除）㊄とく（解）㊅骨を解く㊆をさむ（治）㊇そろ（剃に同じ）。韓愈「爬羅剔抉」

【剔抉】テキケツ　ほりくじる。

【剔剃】テキテン　たち切る。詩經、疏に「攘二去之一、剔二翦之一者」

【剋】ハイ、ハイ。篇迷切。齊。㊀けづる（削）㊁へぐ（剝）㊂きる（斫）。

【剄】㊀ア、ヱ。乙牙切。麻。㊁衣架切。（剋）㊂くびきる（刎）。㊃はぬ（刎）㊄けづる。

【刑】ヒ、ビ。扶沸切。未。あしきる。

【刑辟】ケイヘキ　足きりのつみ。書經に「刑辟之屬疑赦」

【刑罰】ケイバツ　前に同じ。書經に「刑罰之屬五百」

【剖】㊀ホウ、フ。普后切。有。㊁フ、モ。方武切。麌。㊂わかつ（判、中分）、さく（拆）㊃わかる（分）㊄やぶる（破）。

【剖分】ホウブン　わく。わかる。成公綏「爾乃清濁剖分、玄黃判離」

【剖竹】ホウチク　たけをさく。わりだけ。史記に「塞子齊三日、親自剖レ竹、有二朱書一」

【剖判】ホウハン　わかれ開く。韓非子に「自二天地之剖判一、以至二于今一」

【剖破】ホウハ　さけやぶる。さきやぶる。蔡邕「白骨剖破」

【剖符】ホウフ　わりふを分つ。漢書に「與二功臣一剖レ符作レ誓」

【剖腹】ホウフク　はらをたちわる。（破腹、潰腹）。晉書に「岐伯剖レ腹以鑴レ腸」

【剖レ腹藏レ珠】ハウフクキテ　財を愛して命を愛せざる義。唐書に「太宗曰、西域賈胡得二美珠一、剖レ腹而藏レ之、愛レ珠而不レ愛二其身一也」

【剗】㊀サン、セン。初限切。潸。㊁初諫切。諫。㊂セン。側展切。銑。㊃けづる（削）㊄のぞく（除）㊅たひらぐ（平）㊆をさむ（治）㊇かる（刈）。

【剗穢】サイイ　よごれたるものを去る。白居易「新園聊剗穢」

【剞】キ、ギ。渠宜切。支。㊀まこと（信）㊁かつ（克）㊂さく（割）、きる（截）。

【剝】シヤウ、サウ。邪の俗字。シ。資四切。寘。

【剝】㊀おく（置）㊁さしこむ㊂さす（侈に作る）。

【剛】㊀カウ。古郎切。陽。㊁がう。慣用音。㊂こはし（柔の對）㊃かたし（堅）㊄つよし（勁）。

【剛日】ガウジツ　十干のうち、甲・丙・戊・庚・壬にあたる日。禮記に「外事用二剛日一」

【剛決】ガウケツ　おもひきりよくさだむ。唐書に「剛決犯レ上」

【剛者】ガウシヤ　志固く屈せぬ人。論語に「吾未レ見二剛者一」

【剛戾】ガウレイ　强情にして理にそむく。魏志、程昱傳に「昱性剛戾、與レ人多レ迕」

【剛氏】ガウシ　たけし。漢書に「其俗剛武、

上ニ氣力ニ」

【剛柔】ガウジウ かたきとやはらかなると。つよきとよわきと。易經に「剛柔者晝夜之象也」

【剛直】ガウチヨク 嚴格にしてただし。後漢書に「倫雖ニ剛直、然常疾ニ俗吏苛刻ニ」

【剛健】ガウケン すこやかにしてつよし。易經に「大哉乾乎、剛健中正純粹精也」

【剛烈】ガウレツ こはくしてたけし。後漢書に「肆情剛烈、成ニ其不撓之威ニ」

【剛耿】ガウカウ つよくして大いなり。（雄耿）。韓愈「剛耿凌ニ宇宙ニ」

【剛悍】ガウカン たけくしていさましい。左思「剛悍生ニ其方ニ」

【剛猛】ガウマウ つよくしてたけし。三國論に「高祖有ニ果鋭剛猛之氣ニ」

【剛氣】ガウキ たけだけしき氣。勇ましき氣。禮記に「剛氣不レ怒」

【剛挂】ガウケイ 石弓のやじりの名。潘岳「屬ニ剛挂ニ以僭擬」

【剛梗】ガウカウ てづよし。（強梗）。北史に「宣武嘉ニ其剛梗」

【剛斷】ガウダン おもひきりよくさだむ。（敢斷）。漢書に「酺雖ニ儒者ニ性剛斷」

【剛敏】ガウビン つよくしておごそかなり。元史に「廉直剛敏、憂レ國如レ憂レ家」

【剛愎】ガウフク かたくなにして人に從はず。左傳に「剛愎不仁、未ニ背用レ命」

【剛強】ガウキヤウ かたくしてつよし。曾鞏「剛強必死仁義王」

【剛棱】ガウロウ つよくして威嚴あり。後漢書、王允傳に「允性剛棱疾惡」

【剛腸】ガウチヤウ 物に屈せざる氣象。南史に「誹諧似レ優、剛腸似レ直」

【剛殺】ガウキ かたくしてつよし。論語に「子曰、剛殺木訥近レ仁」

【剛嚴】ガウゲン つよくしてきびし。舊唐書に「皆以ニ剛嚴操レ下」

【剛鷙】ガウシ つよくしてたけし。晉書に「剛鷙之鳥來集、破レ賊必矣」

【剛鷘】ガウレフ 〔動〕豕の異名。（參軍、曾津伯）。

【剛穀樹】ガウコク 〔植〕ひひらぎの異名。

【剛戾自用】ガウレイジヨウ カウモチヰル 傲慢暴戾を以て恣に人におこなふ意。史記に「始皇爲レ人天性剛戾自用」

【剝】ハク ㊀わかつ（剖判）㊁ほふる（屠コ、ク。苦姑切。虞。

㊂やぶる（破）。

【剜】ワン ㊀けづる（削）。於丸切。寒。

【剟】レツ、テチ。列の俗字。

【剔】ハク、ホク。北角切。覺。

㊀はぐ、はがる（褫）㊁むく、むかる（脫）㊂おつ、おとす（落）㊃そこなふ（傷害）㊄けづる（削）㊅さく（裂）㊆わる（割）㊇易の卦の名㊈うつ（擊）。

【剝民】ハクミン 賦斂を重くして民を苦しむ。

【剝啄】ハクタク こつこつと敲く音の形容。又、訪問者の戸を叩く音。驟耕錄に「門無ニ剝啄、松影參差」

【剝缺】ハクケツ はげかく。韓愈「斷裂在レ地、其文剝缺」

【剝奪】ハクダツ はぎとる。元稹「患在ニ于剝奪之不レ已」

【剝脫】ハクダツ はがしおとす。荀子に「不ニ剝脫、不ニ砥礪ニ」

【剝落】ハクラク はげおつ。李邕「苔蘚剝落、雨露淋漓」

【剝製】ハクセイ 鳥獸などの皮を剝ぎ取り、防腐劑を塗りて、これを原形の如く繼ひあはせ、標本などに用ゐる。

【剝ニ面皮ニ】ハクメンピ 厚顏者を恥ぢしむ。四京雜記に「不レ如レ剝ニ其面皮ニ矣」

【剞】キ。居宜切。支。㊀居綺切。紙。

【剞劂】㊀きざむ（鐫）㊁ほりもの刀㊂まがり刀（曲刀）。

【剞劂】ケツ 彫刻用のきざみ刀と曲り鑿と。轉じて、彫刻のこと。楚辭に「握ニ剞劂、而不レ用兮」

【剟】テツ、テチ。竹劣切。屑。

㊀ハク、ホク。北角切。覺。

㊁ホク、ボク。普卜切。屋。

㊂ハク、ホク。北角切。覺。

㊃ホク、ボク。普卜切。屋。

㊄ケツ、ケチ。詰結切。屑。鍥に通じ作る。

㊅フク、ホク。芳六切。屋。㊆ヒヨク、ヒキ。普逼切。職。㊇ヒウ、フ。敷救切。宥。

㊀わかつ（判）㊁わる（割）㊂さく（裂）㊃さく、わる（析）㊄そふ㊅たすく（佐）㊆かなふ（稱）㊇たすけ（佐）、そへ㊈つまびらかに㊉うつし（謄寫本、副本）㊊かみかざり、后・夫人の首飾。

【副主】フクシユ 皇太子の稱。後漢書に「儲君副レ主、莫ニ能專精博學若ニ此者ニ」

【副本】フクホン 正本のひかへ。唐書に「使ニ先驗ニ副本ニ」

【副車】フクシヤ かへぐるま。（屬車）。史記に「良擊ニ秦皇帝博浪沙中、誤中ニ副車ニ」

【副使】フクシ 正使にそひて助くる役。

【副啓】フクケイ そへて申す。手紙を一旦終りて後、添へ書きする時、その首に冠する語。（追啓、追白）。

【副貳】フクジ さしそふ。書經、傳に「副ニ貳三公、弘ニ大造化ニ」

【剟才】サイ さときはたらき。淮南子に「聖人制ニ剟才ニ」

【剟定】テイ きりさだむ。商子に「有レ敢剟ニ定法令ニ者ニ死」

【剋】コク ㊀ケイ、キヤウ。渠京切。庚。

㊁リヤク、ラク。力灼切。藥。

㊂リヤウ。力讓切。漾。

㊃いれずみ（黥に同じ、黥）㊄うばひとる（奪取）㊅かすめとる（鈔取）。

エン。以冉切。琰。

【剡】㊀けづる（削）㊁きる（斬）㊂するどし（鋭利）㊃ほこさき（鋒）㊄光り輝く鋭㊅たちあがる鋭。

【剡手】エシユ すばやき手わざ。史記に「剡手以衝ニ仇胸ニ」

【剡剡】エンエン ㊀かがやく鋭。風平「皇剡剡其揚レ靈」㊁立ちあがる鋭。禮記に「弁行剡剡起レ屨」

【剛】テウ。丁聊切。蕭。

㊀ふる（彫）㊁うつ（琢）。

九畫

【剢】クワク、コク。霍虢切。陌。物の破ぶる聲。

ショウ、ジヨウ。食證切。徑。

㊀あまる、あまり㊁ながし（長）㊂おほし（多）㊃あまつさへ。

【剩金】ジヨウキン つり錢。

【剩哀】ジヨウアイ 事の過ぎ去りて後、尙ほ殘れるかなしみ。（餘哀）。李嶠「莫レ聽ニ西秦奏、箏箜有ニ剩哀ニ」

【剩員】ジヨウオン あまりたる人數。玉海に「初置ニ剩員、以處ニ退兵ニ」

【剩語】ジヨウゴ むだぐち。傳燈錄に「和尙云、浮杯無ニ剩語ニ」

【剩餘】ジヨウヨ あまり。

【劍】トウ、ヅ。徒溝切。尤。

けづる。

エイ、ヤウ。於丙切。梗。

㊀けづる（削）㊁さす（刺）。

㊂へン。紕延切。先。

㊃へイ。匹銳切。霽。

㊄けづる（削）㊅ひとしくす（鈞）。

テイ、タイ。丁奚切。齊。

さく、きる（剔）。

セン。翦の俗字。

【剪】㊀タク、ダク。逢各切。藥。

㊁ド、ヅ。動五切。麌。

【劇】㊀タク、ダク。逢各切。藥。

㊁わかつ（判）㊂なさむ（治）㊃えらぶ（擇）㊄とづ、ふさぐ（閉）。

【剛】㊀タン。多丸切。寒。㊁セン。主兗切。銑。

㊂ととのふ（制齊）㊃こまかくきる（劃に同じ、細割）㊄齊敕の貌㊅きりもりす（制裁）。

【劇】㊀チク。烏谷切。屋。

㊁アク、オク。乙角切。覺。

㊂重くつみす、ころす（誅）㊄つみす。

【劃】カイ、ケ。苦圭切。齊。

さく、わる（刦に同じ）。

クワ、ケ。古瓦切。馬。

㊀又は爲に作る。

肉を切りて骨を置く、さく。

【劃】カク、ギヤク。逆各切。藥。

㊀かたなのは㊁ほこさき。

【刦】ケツ、ケチ。詰結切。屑。鍥に通じ作る。

きざむ（刻）。

【副】㊀フク、ホク。芳六切。屋。㊁ヒヨク、ヒキ。普逼切。職。㊂ヒウ、フ。敷救切。宥。

㊀わかつ（判）㊁わる（割）㊂さく（裂）㊃さく、わる（析）㊄そふ㊅たすく（佐）㊆かなふ（稱）㊇たすけ（佐）、そへ㊈つまびらかに㊉うつし（謄寫本、副本）㊊かみかざり、后・夫人の首飾。

【副主】フクシユ 皇太子の稱。後漢書に「儲君副レ主、莫ニ能專精博學若ニ此者ニ」

【副本】フクホン 正本のひかへ。唐書に「使ニ先驗ニ副本ニ」

【副車】フクシヤ かへぐるま。（屬車）。史記に「良擊ニ秦皇帝博浪沙中、誤中ニ副車ニ」

【副使】フクシ 正使にそひて助くる役。

【副啓】フクケイ そへて申す。手紙を一旦終りて後、添へ書きする時、その首に冠する語。（追啓、追白）。

【副貳】フクジ さしそふ。書經、傳に「副ニ貳三公、弘ニ大造化ニ」

【副絞】フクスボ 僕右の車に乘る時とるつな。禮記、疏に「副絞擬二僕右之升一」

十一畫

【剝】ゲイ。牛例切。霽。劇に同じ。
一はなきる 二はなきりの鼎。カツ、カチ。柯曷切。曷。
一さく(裂)二たつ(斷)三きる(切)四わる(破)五わかつ(分)六わかる(分)七そこなふ(損)八わざはひ(災害)。
【割牲】カツセイ わり(全數の十分の一)。
「天子祖、而割レ牲」
【割授】カツジユ さきあたふ。阮瑀「割二授江南一、不レ屬二本州一」
【割移】カツイ わかちてやる。宋史に「分煙析產、典賣割移」
【割烹】カツパウ 肉をさきてにる。今、料理の義に用ゐる。孟子に「伊尹以二割烹一要レ湯有諸」
【割符】カツフ わりふ。漢書に「亦皆割二符世爵一、受二山河之誓一」
【割腹】カツフク はらをきる。切腹。
【割愛】カツアイ 殘り惜しき心をすつ。心殘りをすつ。徐堅「割愛遠二和親一」
【割據】カツキヨ 土地の或部分をさきとりてたてこもる。吳志、注に「割二據江南一」
【割讓】カツジヤウ さきゆづる。
【割レ股啖レ腹】モモヲサキテハラヲクラフ 己を利せんがため、己を害して知らざるをいふ。貞觀政要に「若損二百姓一、以奉二其身一、猶二割レ股以啖レ腹、腹飽而身斃」

【剼】タフ、トフ。德合切。合。
一かま(鉤)二かま(鎌)。
一タク、トク。竹角切。覺。
二トウ、ツ。當侯切。尤。
【剼】一少しく穿つ 二さく(割)。
一セイ、セ。此芮切。霽。二エイ、エ。唯芮切。霽。銳の籀文。
【剼】一少しくそこなふ(小傷)二のぎ(芒)。
一ガイ。五來切。灰。
二カイ。居代切。隊。
【剴】一きる(斫)二きる(切)三うごく(動)
四ちかづく(近)五かま(鎌)。
【剴切】ガイセツ ていねいにあてはまる。唐書に「徵展二盡底蘊一、無レ所レ隱、凡二百餘奏、無不二剴切當一帝心一者」
【剛】ラ、ウ。汪乎切。陽。
一くさかりがたな。
二カウ。剛に同じ。
【剟】一ヘイ、ハイ。匹夾切。齊。
二ヘツ、ヘチ。方蔑切。屑。
一きる(斫)二さく(割)三けづる(削)。

【創】一シヤウ、サウ。千羊切。陽。
二初亮切。漾。
一さす 二きずつく(刀傷)三かさ(瘡に同じ)四はじむ(始)五つくる(造)六いたむ(傷)二ころ、こらす(懲)。
【創立】サウリツ はじめたつ。南史に「軍國器械、多レ所二創立一」
【創毒】サウドク きずつけそこなふ。後漢書に「數爲二羌所一創毒」
【創造】サウゾウ はじめて作る。(粉造)。
【創設】サウセツ はじめまうく。
【創傷】サウシヤウ きずつく。きず。(夷傷、瘡傷)。
【創意】サウイ あらたなる考案。新案。
【創統】サウトウ わざのこぐちをはじむ。魏書に「皇道開レ符、乾業創レ統」
【創置】サウチ はじめておく。名畫記に「漢武創二置祕閣一、以聚二圖書一」
【創殘末寇】サウザンマツイエズ 戰亂の餘毒の未だ除かれざるにいふ。漢書に「秦以レ事胡、陳勝等起、今創殘末寇」
【創業垂統】ソウゲフスイトウ 事業の基を定めてそのつづきを後世に傳ふ。孟子に「君子創レ業垂レ統、爲レ可レ繼也、若夫成功則天也」

【剽】ヒツ、リチ。力一切。質。
一けづる(削)二たつ(斷)。
【剿】一サン、セ。初牙切。麻。
二サイ、セ。初皆切。佳。
一さす(刺)二ちぢむ(縮)。

十一畫

【劇】サン、セン。楚簡切。濟。
けづる(剻に同じ)。
【剻刈】サンガイ かりとる。柳宗元「劇二刈穢草一、伐二去惡木一」
【劇雍】サンヨウ かりのぞく。郝經「劇雍撤二籓垣一、羅列倒二瑚簋一」
【剌】一シツ、シチ。祕栗切。質。
二シ。初紀切。紙。
一さく(割)二やぶる(傷)。
サク。策に同じ。
【剸】一セン。旨兗切。銑。
二タン、ダン。徒官切。寒。
一セン。之轉切。霰。一朱遄切。先。
二ろる一きる(截)二たつ(裁)三一きざむ(細切)二きりきざむ(切斷)四一ほしいままに二あはす。
【剸決】センケツ きむ。唐書、杜佑傳に「軍興餽濟、佑得二剸決一」
【廢】ヒ、ミ。忙皮切。支。
わかつ(靡に同じ、分)。
一ヒリク、ロク。力竹切。屋。
【剽】二ろキウ、ク。居尤切。尤。
一一けづる(削)二ころす(戮に同じ)三物の回轉する貌。
カウ、コウ。乎刀切。豪。
すこやかに(健)、つよし(强)。

【剼】コン。古困切。願。
けづる(削)。
【剼】一ロウ、ル。盧侯切。尤。
二郎豆切。宥。
【剼】一うがつ(穿)二きざむ(細切)。
一サン。師銜切。咸。
二かる(刈)三たつ(絕)。
【剼】一ヘウ。匹妙切。嘯。二符湳切。蕭。
一おびやかす(刼)二はぐ(剝)三きる(截)四かろし(輕)五はげし(烈)六あらし(悍)七とし(疾)八さす(刺)二しるす(識)三樂器の名一すぢ(末)。
【剼悍】ヘンカン すばやくあらあらし。(慓悍、標悍)。漢書、地理志に「患二其剼悍一」
【剼疾】シツ すばやし。爾雅に「厥性剼疾」
【剼剝】ハク うつ。擊す。史記に「指レ事剼剝儒墨」
【剼掠】リヤク おびやかしてかすむ。唐書に「山賊剼掠、戶口流散」
【剼奪】ダツ おびやかしてうばふ。(劫奪)。唐書に「寧常剼二奪草間一、求二活哉一」
【剼縮】セツ ぬすむ。主として他人の詩文を盜みてわがものとするにいふ。事文類聚に「能詩亦剼竊」
【剼賊】ゾク 一前に同じ。二おひはぎ。韓愈「降而不レ能乃剼賊」
【剿】一セウ。子小切。篠。二サウ、セウ。楚教切。效。
一初交切。肴。

【勢】カウ、コウ。乎刀切。豪。
すこやかに(健)、つよし(强)。

【劃】ワツ、リチ。力一切。質。
一けづる(削)二たつ(斷)。
【劃】一サン、セ。初牙切。麻。
二サイ、セ。初皆切。佳。
一さす(刺)二ちぢむ(縮)。
【劈】一ヘツ、ヘチ。匹麗切。屑。
二ヒ。匹智切。寘。
けづる(削)。
【劈】一ケツ、コチ。居月切。月。
二ケイ、ケ。居衞切。霽。
一ほりものこがたな(刻刀)二曲れる鑿
二ほる、けづる。

勵の字と同じからず。
一たつ(絕)二きる(截)三ころす(殺)
四一とる(取)二かすめとる(略取)五ぬきとる、とる。

十二畫

【劃】ソウ。七鄧切。徑。
一わる、さく(割)二あやまちて傷つく。
クワツ、ケツ。古刹切。黠。
一惡創の肉を刮去す二さく(割)。
【劇】一セウ、ゼウ。慈僑切。蕭。
二才笑切。嘯。
一たつ(斷)二かる(刈)、いれかる(穫)。
【劃】一クワク。呼麥切。陌。
二タク、トク。竹角切。覺。
一さく、わる(割)二末の尖りし刀
けづる(削)。
【劃】一サン、セン。士減切。豏。
二サン、ソン。徂感切。感。
一さす(刺)二ちぢむ(縮)。
【劈】一ヘツ、ヘチ。匹麗切。屑。
二ヒ。匹智切。寘。
けづる(削)。
【劈】一ケツ、コチ。居月切。月。
二ケイ、ケ。居衞切。霽。
一ほりものこがたな(刻刀)二曲れる鑿
二ほる、けづる。

【劉】㋑タウ、テウ。涉敎切。效。㋺タウ、トウ。刀號切。號。㋩シツ、ジチ。職日切。質。㋥タク、トク。竹角切。覺。㋑㋺おほいなり(大)㋩かる(刈)㋥草大いなり。

十三畫

【劅】タク、トク。竹角切。覺。本、斲に作る。　陰を去る刑。

【劇】㋑ケキ、ギャク。巨戟切。陌。㋺キョク、コク。竭億切。職。㋑㊀はなはだし(甚)㊁ます(增)㊂なやむ(艱)㊃たはむれ(戲、演劇)㊄さかん(盛)㊅はげし、いそがし(煩忙)㊆たはむる(遊戲)㋺ちまた。

【劇子】やくしゃ。俳優。

【劇旁】三方に通ずるみち。爾雅に「三達謂二之劇旁一」

【劇症】はげしきやまひ。

【劇烈】はげし。

【劇院】しばゐをする場所。

【劇甚】はなはだし。(太甚)。

【劇務】いそがはしきつとめ。北史に「不レ能レ處二劇務一」

【劇動】はげしくうごく。

【劇問】にはかにたづぬ。文士傳に「有二劇問一、以レ筆答レ之」

【劇虜】勢つよきえびす。後漢書に「陳俊謂レ弇曰、劇虜兵盛、可三且閉レ營休レ士以須二上來一」

【劇暑】はげしきあつさ。(隆暑、盛暑)。陸游「劍南無二劇暑一」

【劇盜】おほぬすびと。宋史に「招二劇盜書成一」

【劇園】芝居のなかま。(梨園)。

【劇談】はげしく話す。漢書に「口吃不レ能二劇談一」

【劇震】はげしき地震。

【劇繁】いそがはし。せはし。宋史に「博文以二吏事一進、多任二劇繁一」

【劇職】いそがはしきつとめ。張説「叨二劇職一、貴大憂深」

【劈】㋑ヘキ、ヒャク。普擊切。錫。㋺ハク。普革切。陌。㊀わく、わかつ(分)㊁つんざく(裂)㊂やぶる(破)㊃わる(割)。

【劈開】さきひらく。(擘開)。

【劈頭】そもそものはじめ。

【劉】㋑リウ、ル。力求切。尤。㋺リュ、ル。龍珠切。虞。㋩リウ、ル。力九切。有。㋑㊀まさかり(鉞)㊁ころす(殺)㊂つらぬ、つらなる(陳)㊃のぶ(陳)㊄そこなふ(殘)㋺木の枝葉稀疎にして均しからず㋩よし(美好)。

【劉覽】めぐらしみる。あまねくみる。淮南子に「劉覽偏照、復守以全」

【劊】㋑クワイ、ケ。古外切。泰。㋺クワツ、クワチ。古活切。曷。㊀たつ(斷)㊁きる(斫)。

【剿】㋑セウ。子小切。篠。㋺サウ。子皓切。皓。㋩サウ、セウ。楚敎切。效。㋑㊀きる(截)㊁たつ(絕)㋺わるがしこし(狡猾)㋩かすめとる(略取)。

【剿絕】たちきる。漢書に「將二百萬之師一、征伐剿二絕之一矣」

【劌】㋑ケイ、ケ。居衛切。霽。㋺カイ、ケ。姑對切。隊。㋑㊀さく(割)㊁やぶる(利傷)、むさぼる㋺あつまる(會)。

【劍】ケン。居欠切。豔。㊀つるぎ、たち、やいば㊁ころす(殺)㊂きる、さしはさむ(挾)㊃しらぶ(檢に同じ)。

【劍刃】つるぎのは。やいば。

【劍血】つるぎにつきたるち。戎昱「日暮歸來看二劍血一、將軍遺恨殺レ人多」

【劍光】つるぎのひかり。

【劍把】つるぎのつか。史記に「其劍把無二物可一レ裝」

【劍花】劍の相摩して散る火花。

【劍客】劍法に達したる人。後漢書に「吳王好二劍客一、百姓多二劍瘢一」

【劍盾】つるぎとたてと。史記に「持二劍盾一步走」

【劍術】つるぎをつかふわざ。唐書、賈至傳に「弧矢絕倫、劍術無レ前」

【劍棧】蜀の劍閣に渡せるかけはし。王勃「前趨二劍棧一、玉壘千尋」

【劍戟】つるぎとほこと。國語に「美金以鑄二劍戟一」

【劍舞】つるぎのまひ。史記に「軍中無二以爲レ樂、請以レ劍舞」

【劍鋏】つるぎのつか。邢居實「歎二羈旅之無レ友兮、彈二劍鋏一而浩歌」

【劍鋒】つるぎのきっさき。張正見「膽鷹斃二馬足一、饑鴟落二劍鋒一」

【劍鋩】前に同じ。柳宗元「海畔尖峰似二劍鋩一」

【劍璽】つるぎとたまと。帝位のしるし。李白「劍璽傳二無窮一」

十四畫

【⿰需刂】㋑ジュ、ニュ。汝朱切。虞。㋺ゼン、ネン。乳兗切。銑。㋑革の柔滑なる貌㋺さす(刺)。

【⿰監刂】㋑カン、ケン。古銜切。咸。㋺カン、ゲン。戶豏切。豏。㋩ラン、ロン。盧甘切。覃。㋥カン、ゲン。格懺切。陷。㋭ラン、ロン。盧瞰切。勘。㋑きる(切)、きざむ(細切)㋺とし(銳利)㋩あつめきる㋥するどきかたな(利刀)。

【⿰聚刂】ソウ、ズ。才奏切。宥。たつ(斷)、きざむ(細斷)。

【劑】㋑シ。津私切。支。㋺セイ、ザイ。在詣切。霽。㋑㊀きりそろふ、そろへきる(齊截)㊁てがた、わりふ(券書)㋺㊀まぜあはす(調合)㊁まぜあはせたる製藥、まぜあはせたる製味。

【劒】ケン。劍に同じ。

【劓】㋑ギ。魚器切。寘。㋺ゲイ、ガイ。午例切。霽。㊀さく(割)㊁はなきる(古刑の一)。

【劓辟】はなきりのつみ。書經に「劓辟疑赦」

【劓刵】前に同じ。書經に「劓刵之屬千」

十五畫

【⿰金刂】セン。七廉切。鹽。さく(割)、きりさく(切割)。

【⿰留刂】タク、トク。知捉切。覺。きる(斫)。

【⿰廓刂】㋑クワク。口郭切。藥。㋺クワウ。古晃切。養。㊀とく(解)㊁さく(裂)。

【劕】㋑シツ、シチ。職日切。質。㋺チ。陟利切。寘。㋑㊀わりふ(券)㊁あつむ(最)㋺物相あつまる。

十六畫

【⿰罃刂】アウ、イヤウ。於莖切。庚。きをきる。

十七畫

【劖】サン、ゼン。古咸切。咸。㊀ほる(鑿)㊁ゑる(彫)㊂たつ(斷)㊃けづる(剗)。

十八畫

【⿰巂刂】ケイ、ケ。胡圭切。齊。㊀けづる(削)㊁へる、へらす(減)。

十九畫

【劗】㋑サン、ザン。徂丸切。寒。㋺セン、ゼン。子踐切。銑。㋑㊀そる(剃)㊁きる(切)㊂へらす(減)㋺きる(剪に同じ)。

【劙】レイ、ライ。郞計切。霽。㊀さく(割)㊁とく(解)㊂やぶる(破)。

【劘】㋑バ、マ。莫婆切。歌。㋺ビ、ミ。忙皮切。支。㊀わかつ(分)㊁きる(切)㊂けづる(削)㊃する(劘)。

二十一畫

【⿰蠡刂】㋑リ。呂支切。支。㋺レイ、ライ。力霽切。霽。㋩リ。里弟切。薺。㋑㋺㊀やぶる(破)㊁とく(解)㊂分ち割く㋩刀にて刺す。

力部

力 部首

【力】リョク、リキ。林直切。職。㊀すぢ(筋肉)㊁ちから(筋力、勢力、能力、功績、勇力、學殖、膽力、徭役)㊂つとむ(勤、務)㊃はなはだし、病甚し㊄しもべ(僕)。

【力人】リョクシン ちからある人。左傳に「魏顆敗二秦師于輔氏一、獲二杜回一、秦之力人也」

【力士】リキシ ㊀ちからつよきもの。我國にて、特に相撲取をいふ。史記に「此特一力士之事耳」㊁(佛)佛法守護の大力者、詳しくは金剛力士といひて二神あり。

【力田】ゼリョク 農事をよくつとむること。漢書に「舉二民孝弟力田者一、復二其身一」

【力行】リョクカウ つとめおこなふ。中庸に「力行近二乎仁一」

【力臣】シンリョク 君の爲につとむる家來。左傳に「欒氏之力臣」

【力役】リョクエキ えだち。孔子家語に「省二力役一、薄二不智無禮賦斂一、則民富矣」

【力作】サクリョク つとめはたらく。晉書に「若二力作所レ致、雖レ微必喜慰」

【力爭】リョクサウ ちからをつくしてあらそふ。左傳に「師曠曰、公室懼二專臣一、不二心競一、而力爭」

【力政】リョクセイ ㊀ほねをりしごと。勞働。禮記に「五十不レ從二力政一」㊁武力を以て政をなす。漢書に「王道既微、諸侯力政、時君聖主、好惡殊方」

【力勉】リョクベン つとめはげむ。又、はげまず。宋史、劉沆傳に「父力二勉之一」

【力耕】リョクカウ つとめたがやす。漢書に「力耕敏耘、收穫如二寇盜之至一」

【力痛】リョクホ ちからつく。李華「漢傾二天下一、財殫力痛」

【力稼】リョクカ 農業をつとむ。陸游「兒孫力レ稼供二賦租一」

【力戰】リョクセン つとめてたたかふ。魏武帝「果勇不レ顧、臨レ敵力戰」

【力鬬】リョクトウ 前に同じ。陳書に「諸軍須二爲レ孤力鬬一也」

【力勝レ貧】チカラハヒンニカツ つとめはたらくときは貧苦にせまることなし。說苑に「力勝レ貧、謹勝レ禍、愼勝レ害、戒勝レ災」

【力貴レ實】チカラハジツヲタフト 實力あるを貴ぶ義。新論に「力貴レ實、智貴レ卒」

【力拔レ山氣蓋レ世】チカラヤマヲヌキキヨヲオホフ 勇氣のすぐれたるを形容する語。項羽が垓下に敗れし時の歌。史記に「力拔レ山兮氣蓋レ世、時不レ利兮、騅不レ逝、騅不レ逝兮、可二奈何一、虞兮虞兮奈レ若何」

三畫

【功】コウ、ク。古紅切。東。㊀いさを、いさをし(功績)㊁わざ(事業)㊂つとめ、やくめ(職務)㊃なる(成)㊄喪服の名。說文に「力に从ふ、工の聲」

【功力】クリョク てがら。又、ききめ。白居易「不レ如卯時酒、神速功力倍」

【功夫】クフ 孝をめぐらす。(工夫)。杜甫「功夫競槍槍」

【功田】クデン いさをによりて賜はる領地。韓秀「受以二功田一」

【功用】コウヨウ はたらき。又、ききめ。史記に「典職數十年、功用既興、然後授レ政」

【功伐】クバツ いさを。てがら。史記に「自矜二功伐一、奪二其私智一、而不レ師レ古」

【功名】コウメイ てがらとよき評判と。戰國策に「成二功名于天下一」

【功臣】コウシン 國家に功勞のある家來。戰國策に「張儀者、秦王之忠信、有功臣也」

【功級】コウキフ 勳功の等級。亢倉子に「天子躬率二諸侯一、耕二藉田一、大夫士第有二功級一、勸レ人尊二地產一也」

【功狗】クコウ はたらきあるいぬ。史記に「蕭何功人、諸君功狗也」

【功能】コウノウ はたらき。又、ききめ。漢書に「考二功能于官職一」

【功烈】コウレツ 大いなるいさを。國語に「社稷山川之神、皆有二功烈于民一者也」

【功略】コウリャク てがらとはかりごと。史記、淮陰侯傳に「臣請、言二大王功略一」

【功業】ゲフ いさを。易經に「功業見二乎變一、聖人之情見二乎辭一」

【功罪】コウザイ てがらとつみと。後漢書に「善惡要二乎功罪一」

【功閥】コウバツ いさを。蔡邕「迹二其功閥之最一、陟二于城雉之職一」

【功緒】シヨウ 前に同じ。周禮に「稽二其功緒一、糾二其德行一」

【功勳】コウクン 前に同じ。(勳功)。晉書に「帥二由舊章一、敬二重功勳一」

【功績】コウセキ 前に同じ。(勳績)。呂氏春秋に「故功績銘二乎金石一」

【功有二五品一】コウニゴヒンアリ いさをに五等あり。史記に「古者人臣功有二五品一、以德立二宗廟一、定二社稷一曰レ勳、以言曰レ勞、用レ力曰レ功、明二其勞一曰レ伐、積レ日曰レ閥」

【功成名遂】コウナリナトグ てがらも成し終り、名も十分あがる。老子に「富貴而驕、自遺二其咎一、功成名遂身退、天之道」

【功均二天地一】コウトンチニヒトシ 成したる功業の偉大なること天地の大いなるが如し。陸陲「功均二天地一、明竝二日月一」

【功疑惟重】コウノウタガハシキハソレオモクセヨ 功はあれども、その功の大小不明瞭なるときは、大なる格に從つて賞すべし。書經に「罪疑惟輕、功疑惟重」

【功虧二一簣一】コウキニカク ほとんど成りたる事を止むるにいふ。書經に「不レ矜二細行一、終累二大德一、爲レ山九仞、功虧二一簣一」

四畫

【功】コツ、クチ。苦骨切。月。つかれ極まる貌。

【加】㊀ます(增、益)㊁くはふ、くはは(施)㊅しのぐ(凌)㊆つく(著)㊇いはる㊈のぼる(上)㊉かさね(重)㊊ほどこす(施)㊋しのぐ(凌)㊌つく(著)㊍いよいよ、ますます。

【加之】カシ そのうへに。しかのみならず。

【加年】カネン としをます。

【加持】カヂ (佛)佛の大悲が衆生に加はり、衆生の信心が佛心に感じて、互に道交すること。祕藏記に「加者諸佛護念、持者我自行」

【加冠】カクワン 男子二十歲にして始めて冠を著くること。元服。說苑に「君子始冠、必祝二成禮加冠一、以厲二其心一」

【加添】カテン くはへそふ。白居易「加二添老氣味一、改二變舊容儀一」

【加減】カゲン ますとへすと。ぐあひ。杜甫「藥餌憎二加減一、門庭問二掃除一」

【加稅】カゼイ 年貢をます。唐書に「軍興加レ稅、諸道權宜、所レ增皆可レ停」

【加絰】カテツ 絰をつけて喪の裝す。左傳に「加二絰于顙一、而逃」

【加損】カソン ますとへすと。宋史に「千金之物、所二加損一、不レ過二銖兩一、而移焉」

【加罪】カザイ つみをくはふ。左傳に「君何以與、欲レ加二之罪一、其無レ辭乎」

【加置】カチ ましておく。(增置)。唐書に「高祖領二大尉一、加置僚佐」

【加餐】カサン 食物をます。攝養の義。後漢書に「君願愼レ疾加餐」

【加護】カゴ ㊀大切にまもる。陸倕「玉躬子加護」㊁(佛)天のたすけ。法苑珠林に「得レ成二此加護方便」

【劫】ケン、コン。居偃切。阮。(吃)㊁かたる(語)㊂つとむ(力)。

四畫

【劣】レツ、レチ。力輟切。屑。㊀おとる㊁うすし(薄)㊂わづか(僅)㊃よわし(弱)㊄いやし(鄙)㊅すくなし(少)㊆つたなし(拙)㊇おとりたる者。

【劣才】レツサイ おとりたる器量。(薄才)。

【劣弱】レツジャク おとりてよわし。(軟弱)。易經、疏に「若无二剛健一、則劣弱也」

【劦】㊀ケフ、ゲフ。胡頰切。葉。㊁レフ。力協切。葉。

【劦一】力をあはす㊁にはかに㊂いそがはし(急)㊃力めて輟まず。キ。居位切。寘。

【劦一】力乏し㊁つかる(疲)。

五畫

【勃】㊀ヒ、ビ。父沸切。赤。㊁平祕切。寘。

【勃一】いさまし(勇壯)

一たけし(武)二さかんなり(壯)㋐一さしはさむ(挾)三勇壯なり。

【助】㊥ジョ、ソ。銀據切。御。㊦一たすく、すく(佐)二たすけ、すけ三ます(益)四古昔の收税の名㋐一もとむ(求)二おごそかに(嚴重)三さる(去)。正字通に「且に从ふ、俗に、目に从ひて、助に作るは誤なり」

【助力】ジョリョク ちからをそふ。たすけ。漢書に「幾得二其助力一」

【助字】ジョジ 漢文に於いて、于・於・乎・矣・焉・哉・也の如き、我助詞に相當する文字をいふ。又、助語、助辭ともいふ。

【助成】ジョセイ たすけてまもる。南史に「元嘉二十七年、助二成彭城一」

【助長】ジョチョウ 一速かに大ならんことを欲して、卻って之を害する義。孟子に「心勿レ忘勿助長一也、無若二宋人一然上宋人有レ閔二其苗之不レ長而揠レ之者上芒芒然歸、謂二其人一曰、今日病矣、予助レ苗長矣、其子趨而往視レ之苗則槁矣」三力を添へて大ならしむる義。

【助理】ジョリ 理は治なり、天子を助けて天下を治む。漢書に「助二理萬機一」

【助桀】ジョケツ 暴虐者に加擁す。史記に「此所謂助レ桀爲レ虐」

【助賻】ジョフ 死者に贈るもの。香奠。後漢書に「助賻甚豐」

【努】㊥ド、ヌ。奴古切。㊦㋐一ど。奴都切。虞。

【努力】ドリョク 一つとむ(勉)二はげむ(勵)㋐ちからをあはす(戮力)。國訓ゆめ。

【劫】ケフ、コフ。居怯切。葉。一つとむ。李陵「努力崇二明德一」

【劫】ケフ 一かすめとる(强取)二うばふ(奪)三おびやかす(脅)四せまる(迫)五きざはし(宮殿の大階級)六佛語にて、極めて永き時間にいふ字。

【劫劫】ケフケフ 一つとめて息まざる貌。韓愈「人皆劫劫」三時時に同じ。白居易「生生劫劫、長爲二我師一」

【劫制】ケフセイ おびやかして從はしむ。唐書に「操二殺生之柄、劫二制天下一」

【劫略】ケフリャク おびやかしてとる。史記に「漢王起二巴蜀一、鞭二笞天下一、劫二略諸侯一、遂誅二項羽一、滅レ之」

【劫掠】ケフリャク 前に同じ。史記に「劫二掠代地一、代地吏民非レ有レ罪也」

【劫鈔】ケフサウ おびやかしてかすめ。晉書に「兵士劫鈔」

【劫盜】ケフタウ おびやかしてぬすむ。又、その者。南史に「每二火起及有二劫盜一、則身貫二甲冑一」

【劫奪】ケフダツ おびやかしてうばふ。(剽奪)。淮南子に「武士可レ以二仁義之禮一說上也、不レ可二劫而奪一也」

【劫縛】ケフバク おびやかしてしばる。柳宗元「鄉之行二劫縛一者、側レ目莫レ敢過二其門一者上」

【劬】ク、ゴ。渠俱切。虞。一つとむ(勤)二つかる(疲)。

【劬劬】クク 苦勞する貌。程俱「誰能三萬卷、懸頭苦劬劬」

【劬勞】クラウ 骨を折りてつとむ。詩經に「哀哀父母、生レ我劬勞」

【劭】㊥セウ、セウ。初堯切。蕭。㊦實照切。嘯。一すすむ(勸)二つとむ(勉)三よし四たかし(高)。

【劭】ヒ。滂悲切。支。つとむ(勉)、はげむ(勵)。

六畫

【券】ケン、ゴン。渠卷切。霰。今俗に、倦に作る。つかる(疲)、うむ(倦)。正字通に「契券の券と異なり、券は刀に从ひ、これは力に从ふ」

【勏】コウ、ク。去厚切。有。つとむ(勤)、はげむ(勵)。カウ、ゲウ。胡教切。效。

【効】效の俗字。正韻に「古は惟文に从ふ、力に从ふもの無し、後人傳寫して訛を承くること既に久しく、相承けて之を用ゐる」

【勃】ボウ、ム。莫侯切。尤。一はげます二つとむ(勉)。

【勖】キヤウ、カウ。曲王切。陽。一急迫なる貌二にはかに(遽)。

【勖勤】キヤウジヤウ 急にせまる。

【勑】ハウ、ヒヤウ。哺横切。庚。一おほいなり(大)二ちからつよし。

【勐】㊥カツ、カチ。恪八切。黠。㊦キツ、キチ。契吉切。質。一つとむ(勤)二かたし(確固)三つつしむ(愼)。

【勐悲】カツビ いましめつつしましむ。書經に「汝勐悲殷獻臣」

【勁】㊥カイ、ガイ。戶代切。隊。㊦コク、ゴク。胡得切。職。一きはむ(鞠)二かんがふ(覈)三しらぶ(按)四おす(推)五つとむ(勤)六とりしらべがき。

【勁按】ガンアン 告發してただす。唐書、令狐彰傳に「寶臣請レ勁二按無狀一」

【勁奏】ガンソウ 人の罪を調べて天子に申し上ぐ。漢書、元成傳に「以二元成實不レ病、勁二奏之一」

【勁狀】ガンジヤウ 人を法にあてんことを乞ふ書面。唐書、崔隱甫傳に「浮圖惠範倚二太平公主一、脅二入子女一、隱甫勁狀、反爲レ所擠、貶二邛州司馬一」

【勁彈】ガンダン 罪をしらべあばく。(彈劾)。

【勁繫】ケイケイ 告發してとらふ。唐書に「金吾勁繫、帝嘉レ之不レ罪」

七畫

【勁】コク。苦得切。職。一かつ(勝)二つとむ(自强)三つよし。

【勁弓】ケイキウ はりのつよきゆみ。漢書に「可レ賜二之堅甲及勁弓利矢一」

【勁利】ケイリ つよくするどし。尹文子に「兵甲勁利、封疆修理、强國也」

【勁卒】ケイソツ つよき兵士。晉書に「良將勁卒、屈二其沙漠一、勝敗相苦」

【勁弩】ケイド つよきいしゆみ。史記に「良將勁弩、守二要害之處一」

【勁風】ケイフウ つよく吹くかぜ。(猛風、剛風)。張正見「深松有二勁風一」

【勁直】ケイチク つよくしてただし。韓非子に「能法之士、必强毅而勁直」

【勁草】ケイサウ つよきくさ。顧凱之「疾風知二勁草一、嚴霜識二貞木一」

【勁秋】ケイシウ 風氣のはげしき秋の期節。文賦に「悲二落葉于勁秋一」

【勁健】ケイケン つよくしてすこやかなり。滹水燕談錄に「雖二點畫肥重一、而筆力勁健」

【勁烈】ケイレツ つよき威嚴あり。晉書に「勁烈隕レ身全レ節」

【勁疾】ケイシツ つよくはやし。詩經、籛に「東矢搜然、言二勁疾一也」

【勁悍】ケイカン つよくしていさましい。晉書に「夷僚勁悍、歷世不レ賓」

【勁氣】ケイキ はげしき氣象。蘇轍「有レ命孤蓬轉、勁氣肅二羣驕一」

【勁桷】ケイカク つよきたるき。沈亞之「傑棟巨楹、文梁勁桷」

【勁猛】ケイマウ つよくたけし。孔稚圭「吳楚勁猛、帶甲百萬」

【勁葉】ケイエフ かたきは。劉臻「疾風摧二勁葉一、沙岸毀二盤根一」

【勁厲】ケイレイ つよくはげし。魏志、注に「秦朗子秀、勁厲能直言」

【勁箭】ケイセン つよきや。范成大「有レ命孤蓬轉、何心勁箭加」

【勃】㊥ボツ、ボチ。蒲沒切。月。㊦一はか、にはかに(急率)二新色を變ずる貌三盛なる貌四怒る貌五おしひらく(擠排)、おこる(興起)六ほしいままに(放)七あらそふ(爭)、もとる(戾)八勃に通ずる一種の妖星、わざはひぼし(孛に同じ)。

【勃如】ボツジヨ 色をかふる貌。論語に「色勃如也」

【勃怒】ボツド さかんにいかる。長楊賦に「聖武勃怒、爰振二其旅一」

【勃勃】ボツボツ さかんに起る貌。韓愈「今胥中之氣、勃勃然復有二仕進之路一矣」

【勃屑】セツ 膝行する貌。楚辭に「嫫母勃屑而日待」

【勃窣】ソツ ㊀行くことゆるやかなる貌。子虛賦に「虛賦勃窣而上乎金堤」㊁言論の急切ならざる貌。晉書に「勃窣爲理窟」

【勃焉】ボツエン にはかに盛んなる貌。左傳に「禹湯罪レ己、其興也勃焉」

【勃然】ボツゼン ㊀色をかふる貌。孟子に「王勃然變ニ於色」㊁にはかなり。莊子に「忽然出、勃然動」

【勃磎】ボツケイ 相あらそひて、そむきもとる貌。莊子に「室無ニ虛空一、則婦姑勃磎」磎は一に、谿に作る。

【勃興】ボツコウ さかんにおこること。後漢書に「漢祖杖レ劍、武夫勃興」

【勃盧】ボツロ ながきほこ。越絕書に「越王身被ニ鵠夷之甲一、拔ニ勃盧之矛一」

勅

チョク、チキ。蓄力切。職。本、勅或は飭に作る。敕に同じ。現今は多くこの字を用ゐる。

【勅令】チョクレイ 天皇の親裁してなしたまふ命令。宋史に「章惇等進新修ニ勅令式一」

【勅旨】シチョク 天子のおほせ。宋史に「雖レ有ニ勅旨一、不レ得レ過ニ卅萬一」

【勅戒】チョクカイ いましむ。いましめ。韓愈「勅ニ戒四方一、侈則有レ咎」

【勅使】チョクシ 天子の使者。(星使、天使)。

【勅命】チョクメイ 天子のおほせ。

【勅宣】チョクセン 天子御躬らの御詔。みことのり。

【勅裁】チョクサイ 天子の御詞。みことのり。

【勅語】チョクゴ (詔勅)。宋史に「鄭略勅語堂判五卷」

【勅撰】チョクセン みことのりを奉じて書をえらぶ。(奉詔撰)。

【勅諭】チョクユ 天子の御さとし。(詔諭)。徐陵「勅諭分明、言誓殊重」

【勅額】チョクガク 勅命によりて寺を建つる時、天子親ら賜ふ額。名物六帖に「通鑑、周紀、世宗勅ニ天下寺院一、非ニ勅額一者悉廢レ之」注に「胡三省曰、勅額者、勅ニ賜寺額一、如ニ慈恩安國興唐之類一、按、勅許建レ寺、則賜レ額謂ニ之勅額一、非ニ宸筆扁額一也」

勅

キツ、ク。局虬切。尤。㊀つよき貌。㊁すこやかに(健)。チョク、チキ。勅の俗字。

勇

ヨウ、ユウ。余隴切。腫。㊀たけし(猛)。㊁するどし(鋭)。㊂いさむ(果敢、果決)。㊃すこやかなり(健)。㊄つよし(強)。㊅つはもの(猛者)。

【勇士】ユウシ いさましきさむらひ。孟子に「勇士不レ忘レ喪ニ其元一」

【勇武】ユウブ たけだけし。(壯武、武勇)。易林に「兩金相擊、勇武敢敵」

【勇壯】ユウサウ いさましくさかんなり。宋史、范廷召傳に「廷召、身長七尺餘、有ニ膂力一、以ニ勇壯聞一」

【勇退】ユウタイ いさぎよく身をひく。戴復古「日暮倒行非ニ吾事一、急流勇退有ニ何難一」

【勇者】ユウシャ いさましき人。又、守る所かたき人。論語に「勇者不レ懼」

【勇冠】ユウクワン いさましきこと衆人中第一なり。後漢書に「顏良文醜、勇冠ニ三軍一」

【勇俠】ユウケフ をとこだて。又、その者。魏武帝「士隱者貧、勇俠輕非」

【勇氣】ユウキ いさましき氣象。左傳に「夫戰勇氣也」

【勇悍】ユウカン いさまし。史記に「張次公亦爲レ郎、以ニ勇悍一從レ軍」

【勇健】ユウケン いさましくたけし。後漢書に「勝レ兵者二三千騎、皆勇健富彊」

【勇進】ユウシン いさましくすすむ。舊唐書に「勇進者但欲レ陵レ人」

【勇敢】ユウカン いさましく物事をおしきりてす。禮記に「有レ義之謂ニ勇敢一」

【勇態】ユウタイ いさましきさま。宣和書譜に「有レ類ニ仲由之勇態一」

【勇騰】ユウトウ いさましき氣力。荀子に「勇騰猛戾、則輔レ之以ニ道順一」

【勇斷】ユウダン 思ひきりよくさだむ。(剛斷)。五代史に「高祖以爲、勇斷類レ已」

【勇猛精進】ユウミヤウシヤウシン (佛)銀鍵を排して一意專念法に向って突進す。无量壽經に「勇猛精進、志願無レ倦」

【勇而無禮則亂】レイスレバラン 勇氣のみありて禮儀のこれに伴はざるときは、亂暴の行をなすに至る。孔子の語。論語に見ゆ。

【勇將手下無ニ弱兵一】ユウシヤクシユカニジヤクヘイナシ 勇敢なる大將の部下には、弱き兵卒なし。(强將下無ニ弱兵一)。孫子に「死人身邊有ニ活鬼一、勇將手下無ニ弱兵一」

勉

㊀つとむ(勤)、はげむ(勵)㊁すすむ(勸)、はげます(勵)。ベン、メン。亡辨切。銑。

【勉行】ベンカウ つとめおこなふ。(力行)。戰國策に「子勉行矣、寡人與レ予有ニ誓言一矣」

【勉勉】ベンベン つとめはげむ貌。詩經に「勉勉我王、綱ニ紀四方一」

【勉旃】ベンセン 勉勵せよとすすむる語。高適「行矣各勉旃、吾當レ挹ニ餘烈一」

【勉强】ベンキヤウ 難きをしひてす。又、つとめはげむ。後漢書に「太后其保ニ養幼弱一、勉强飲食」

【勉勸】ベンクワン つとめすすむ。漢書に「勉ニ勸農桑一」

【勉礪】ベンレイ つとめはげむ。又、つとめはげます。五代史に「能儉約自勉礪」

勤

㊀ケン、ゴン。巨員切。先。㊁ケン、グワン。區願切。願。㊂ケン、ゴン。渠眷切。霰。

【勤】㊀すこやかなる貌、つとむ㊁つとむ、すすむ(勸)㊂うむ、つかる(倦に同じ、疲)。㊃リヨウ。力承切。蒸。㊄里孕切。徑。㊅一しのぐ(陵)㊆おかす(侵)㊇馬をとどむ。ケイ、ギヤウ。渠京切。庚。

【勤敵】ケイテキ つよし、たけし(彊)。つよきかたき。左傳に「勤敵之人」

勒

リヤウ。呂奬切。養。㊀つとむ(勉)㊁こばむ(拒)㊂せまる(逼)㊃ちかづく(近)㊄ものうし(懶)㊅おこたる(惰)。

勒

キヤク。盧得切。職。㊀くつばみ、くつわ(馬轡)㊁おもがい、馬頭の絡㊂たづな㊃おさふ(抑)㊄きざむ(刻)㊅をさむ(治)㊆ふる(雕)㊇ほろ(鑿)。

勒

バク。莫杏切。梗。㊀たけし(猛に同じ)㊁おごそかに(嚴)㊂そこなふ(害)㊃あし(惡)。㊄ライ。落代切。隊。㊅チヨク、チキ。蓄力切。職。㊆ライ。㊇チヨク、チキ。蓄力切。職。㊈徐に同じ、いたはる、れぎらふ(勞)㊉敕に通じ用ゐる㊀いましむ、いましめ(誡)㊁まこと(誠)㊂ただし(正)㊃かたし(固)㊄みことのり(制書)。

勒

ロク。盧得切。職。㊀くつばみ、くつわ(馬轡)㊁おもがい、馬頭の絡㊂たづな㊃おさふ(抑)㊄きざむ(刻)㊅をさむ(治)㊆ふる(雕)㊇ほろ(鑿)。

【勒文】ロクブン 文を石にきざみつく。梁簡文帝「翠石勒レ文」

【勒石】ロクセキ 石にほりつく。(刻石)。(東風)「寂寞濱」

【勒住】ロクジユウ ひきとどむ。范成大「勒ニ住

【勒兵】ロクヘイ 兵卒を引きまはす。史記に「圍廬曰、可ニ以小試勒レ兵乎」

【勒花】ロククワ 寒氣强くして花を噤ます。歐陽修「霧色初含レ柳、餘寒尙勒レ花」

【勒馬】ロクバ 馬具をつく。

【勒韻】ロクイン 詩を作るに押す所の韻字を定む。唐詩紀に「同勒ニ天、前、煙、年四韻一、應レ制五言律詩」

勒

カツ、ガチ。許轄切。曷。㊀つとむ、はたらく(勤)㊁力を用ゐる聲。

勉

㊀ベン、メン。彌淺切。銑。㊁ビン、ミン。彌盡切。軫。つとむ(勉)、すすむ(勸)。ツツ、ス。作弄切。送。すすむ(勸)、はげます(勵)。㊃トウ、ヅ。徒孔切。董。㊄徒弄切。送。㊅ドウ。慣用音。

勉

㊀うごく、うごき㊁はたらく㊂なす(作)㊃さわぐ(噪)㊄いづ(出)㊅ふるふ(震)㊆みだる(亂)㊇ややもすれば㊈一うごかす(搖)㊉おこす。

【勉止】ベンシ うごくととどまると。又、たちゐふるまひ。易經、注に「勉止得ニ其常

體、則剛柔之分著矣」

【動用】ドウヨウ　つかひおこなふ。書經に「予亦不敢動用非德」

【動色】ドウショク　顏色をかふ。後漢書、班固傳に「君臣動色、左右相趨、濟濟翼翼莪莪如也」

【動地】ドウチ　勢さかんにして地をゆるがす。漢書に「車騎震起、殷天動地」

【動作】ドウサ　たちゐふるまひ。詩經、注に「動作容貌有常」

【動物】ドウブツ　禽獸蟲魚などのいきもの。周禮に「其動物宜毛物、其植物宜皂物」

【動容】ドウヨウ　ふるまひ。(擧動)。孟子に「動容周旋中禮者、盛德之至也」

【動脈】ドウミャク　(生)心臟より出づる生血を全身に送る脈管。靜脈の對。

【動産】ドウサン　(法)家産什器等の如き移動すべき財産。不動産の對。

【動悸】ドウキ　むなさわぎ。後漢書に「天命發于精神、心中動悸」

【動搖】ドウエウ　うごく。みだる。漢書に「人人自安雖動搖」

【動蕩】ドウタウ　こころ、うごく。王安石「歸心動蕩不可抑」

【動機】ドウキ　(哲)Motive. 行爲の由って起れる最も近き原因。

【動靜】ドウセイ　うごくとしづかなると。又、物事のかはり。人の安否。易經に「動靜有常、剛柔斷矣」

【勛】

キョク、コク。許玉切。沃。つとむ(勉)。

【勘】

(カン、コン。苦紺切。勘。
(一)さだむ(覆定)(二)さほむ(鞫)(三)かんがふ(校)(四)とふ(問)(五)よくす(能)。
(一)かんがへて比べあはす。宋史に「下一枚中刻空魚、令可勘合」
(二)わりふ。居家必用に「勘合、卽古之符契也」

【勘校】カンカウ　かんがへただす。兩京記に「唐初祕書省、惟主寫書貯、掌勘校」而已」

【勘書】カンショ　書物をかんがへしらべ。劉克莊「青燈細勘書」

【勘當】カンタウ　かんがへて罪にあつ。唐書に「軍中不暇勘當」

【務】

(ブ、ム。亡遇切。遇。(五)罔古切。
(二)つとむ(强)(六)バウ、モウ。誤袍切。豪。(七)ボウ、モ。莫候切。宥。
(一)つとめに同じ)(三)前高く後下し(四)くらし(昏)。道の根本に力をつくす。論語に「君子務本、本立而道生、孝弟也者、其爲仁之本與」

【務本】ムホン

【勛】

クン。勳の古文字。

【勛業】クンゲフ　いさを。てがら。宋史に「中外跂想其勛業」

【勑】

(チク、ウ。烏孔切。董。
(五)アウ、オウ。郎項切。講。
(六)つよし(風强)(七)力多し。

【勝】

(ショウ。書蒸切。蒸。(五)詩證切。徑。
(一)かなふ(稱)(二)たふ(堪)(三)あげて(擧)、ことごとく(盡)(四)すぐる(超出)(五)かつ、かち(負の對)(六)まさる(優)(七)すぐ(過)(八)くはふ(加)(九)すぐれたるもの、すぐれたる場所(十)婦人の首飾、かみかざり。

【勝地】ショウチ　景色のすぐれたるばしょ。唐書に「求勝地爲構」

【勝利】ショウリ　うちかつ。かち。歐陽修「冀因勝利、延錫禧祥」

【勝所】ショウショ　景色のすぐれたるばしょ。梁昭明太子「故敎遊兮拔勝所」

【勝致】ショウチ　すぐれたるおもむき。王晉「有園遊之勝致」

【勝流】ショウリウ　よき分際の人。南史に「唯以章叡年長且州里勝流、特相敬重」

【勝氣】ショウキ　すぐれたる氣象。梁簡文帝「勝氣無儔、高塵誰偶」

【勝敗】ショウハイ　かつとまくると。漢書に「無益於勝敗之數」

【勝景】ショウケイ　すぐれてよきけしき。元好問「每恨勝景不得寫」

【勝愜】ショウケフ　よきこころ。岑參「勝愜只自

知、佳趣爲誰濃」

【勝算】ショウサン　かつみこみ。

【勝槩】ショウガイ　すぐれたるけしき。舊唐書に「極二都城之勝槩一」

【勝軍木】ショウグンボク　〔植〕ぬるでのき。

【勝殘去殺】サンニカチガ　殘暴の人を化して惡をなさざらしめ、民を善に化して刑殺を用ゐず。論語に「子曰、善人爲邦百年、亦可二以勝殘去殺一矣」

【勝負兵家常勢】ショウブハイカノジヤウセイナリ　かちまけは兵法家の常なり。唐書に「一勝一負、兵家常勢」

【勝者所用敗者之棋也】ショウシヤノモチヰルトコロハハイシヤノキナリ　用ゐる器は一なれども勝つと負くるとはその人の技倆による。顧璘「勝者所用、敗者之棋也、興國所用、亡國之臣也」

【勞】

(一)つかる(疲)(二)いたはる(三)つとむ(勤)(四)うれふ(憂)(五)いさを(功)(六)はなはだし(劇)(七)こと(事)(八)なぐさむ(慰)(九)いたはる(十)ねぎらふ。

【勞乏】ラウバフ　つかる。(疲勞)。五代史に「因二其勞乏一而乘之、可二以勝一也」

【勞民】ラウミン　人民をいたはりつかふ。論語に「君子信而後勞二其民一」

【勞役】ラウエキ　ほねをりはたらく。又、ほねをる仕事。(苦役)。魏志に「勞役未已」

【勞困】ラウコン　つかる。又、つかれ。吳志に「彼益我損、加以二勞困一」

【勞來】ラウライ　來るものをねぎらふ。孟子に「放勳曰、勞之來之」

【勞使】ラウシ　おひつかふ。白居易「不見顧見二勞使一」

【勞畏】ラウキ　心をつからしおそる。元結「能辯二此勞畏一」

【勞疲】ラウヒ　くたびれつかる。易林に「歷險登危、道遠勞疲」

【勞問】ラウモン　ねぎらひみまふ。北史に「降書勞問、徵爲二侍中一」

【勞動】ラウドウ　體をつからし動かす。三國志に「人體欲得二勞動一」

【勞倦】ラウケン　つかれうむ。(疲倦)。荀子に「君子隘窮不失、勞倦而不苟」

【勞逸】ラウイツ　苦勞と安樂と。左傳に「而與之勞逸、闔廬勤恤二其民一」

【勞而無功】ラウシテコウナシ　骨折りて結果見えず。管子に「彊不能、告不知、謂二之勞而無功」

十一畫

【募】

ボ、モ。莫故切。遇。
(一)まねく(招)(二)よぶ(召)(三)つのる(求)(四)もとむ(求)(五)つかふ(使)
(四)兵士をつのる。唐書に「建中四年、下レ詔募レ兵」

【募兵】ボヘイ

【募呼】ボコ　よびあつむ。(嘯集)。

【募集】ボシフ　つのりあつむ。

【募選】ボセン　つのりえらぶ。荀子に「故招近募選、隆二勢詐一、尙二功利一、是漸之也」

【募緣疏】ボエンソ　〔佛〕寺院等の爲に喜捨をつのる文。文體明辨に「募緣疏者、廣求二衆力一之詞也」

【勤】

バク、マク。末各切。藥。
(一)うごく(動)(二)はたらく(動)。
(五)リク、ロク。呂竹切。屋。(六)レウ。憐蕭切。蕭。(七)リウ、ル。力求切。尤。

【勤力】リキリク　力をあはす。(戮力)。書經に「聿求二元聖一與之勤力」

【勢】

(カウ、ゴウ。胡刀切。豪。
(一)すこやかなり(健)(二)すぐる(俊傑)(三)つよし(强)。

【勦】

ヘウ。匹妙切。嘯。
(一)かすむ(掠)(二)おびやかす(劫)。

【勢】

セイ、セ。舒制切。霽。
(一)いきほひ(二)しほ(機會)(三)ありさま(形勢)(四)外腎。

【勢列】セイレツ　組になりてならぶ。荀子に「無二勢列之位一而可二以養一名」

【勢家】セイカ　ときめくいへ。いきほひあるいへ。趙壹「勢家多所宜、咳唾自成珠」

【勢望】セイバウ　いきほひと人望と。盧思道「恩寵勢望、爍灼朝野」

【勢援】セイエン　ちからぞへ。

【勢榮】外より來るさかえ。荀子に「爵列尊、貢祿厚、形勢勝、是榮從レ外至者也、夫是之謂二勢榮一」
【勢權】いきほひ。(權力、權勢)。曹植「滑二處蓬室一、不レ干二勢權一」
【勢利之交】權勢利益を目的とする交際。文中子に「以レ勢交者、勢傾則絶、以レ利交者、利窮則散、君子不レ與也」
【勢不レ可二兩立一】對立すべからざる形勢なり。史記に「齊秦勢不レ可二兩立一」

【勣】セキ、シャク。則歷切。錫。績に通ず。㊀いさを(功)㊁わざ㊂つとむ(勤)。

【勤】(漢)キン、ゴン。渠斤切。文。(呉)キ、ギ。渠覊切。支。(漢)懃に通ず㊀つとむ㊁はたらく㊂いそしむ、いたはる(勞)㊃ねんごろに(篤厚)㊄くるしみ、くるしむ(苦)㊅おこなふ(行)㊆老人の稱(期に通ず、耄勤)。
【勤王】王室の事に力をつくす。左傳に「求二諸侯一、莫レ如レ勤レ王」
【勤止】つとむ。止は助字。詩經に「文王既勤止、我應レ受レ之」
【勤行】㊀つとめておこなふ。(力行、勉行)。老子に「上士聞レ道、勤而行レ之」㊁(佛)ほとけに事ふるつとめ。
【勤苦】ほねをりつとむ。禮記に「時過然後學、則勤苦而難レ成」
【勤恪】つつしみぶかし。(恪勤)。晉書に「素有二識鑒一、加以二在レ公勤恪一、甚得二朝野稱譽一」
【勤勉】はげむ。(彊勉)、國語に「勤勉以勸レ之」
【勤惰】つとむるとおこたると。宋史に「察二官吏勤惰一以聞」
【勤勞】つとむ。書經に「厥父母勤二勞稼穡一、厥子乃弗レ知二稼穡之艱難一」
【勤儉】つとむるとつづまやかなると。白居易「恪恭而奉レ上、勤儉以牧レ人」
【勤整】つとめととのふ。晉書に「陶侃勤而整、自強不レ息」
【勤爲二無價之寶一】勤勉は無上の價ある寶なり。明心寶鑑に「勤無價寶、愼是護身符」

【勥】キャウ、ガウ。巨兩切。養。㊀せまる(迫)㊁おふ(追)㊂こばむ(力拒)。

【勦】(漢)サウ、セウ。楚交切。肴。(呉)楚敎切。效。(慣)セウ。子小切。篠。(漢)㊀いたはる(勞)㊁はやし(輕捷)㊂とろ(謀に同じ)(呉)かすめとる(抄取)(慣)㊀ころす㊁たつ(斷)㊂きる(截)。
【勦殄】敵をほろぼしつくす。柳宗元「勦二殄霸楚一、遂荒二神州一」
【勦討】うちつくす。
【勦剛】すばやくしてつよし。韓愈「稟生肖二勦剛一」
【勦滅】のこらずうちほろぼす。
【勦說】他人の說をぬすみとりて己の說とす。禮記に「毋二勦說一、毋二雷同一」
【勦截】たちきる。魏書に「摧二挫封豕一、勦二截長蛇一」

【[illegible]】テキ。敵に同じ。

十一畫

【[illegible]】リョク、リキ。林直切。職。いばら、おどろ(棘に同じ)。

【勨】シャウ、ザウ。徐兩切。養。(呉)ゆるやかに(緩)㊁つとむ(勉)㊂うごく、はたらく。

【勩】(漢)イ。以至切。寘。(呉)シ、ジ。神至切。寘。(慣)エイ。以制切。霽。㊀いたはる(勞)㊁つかれ、つかる(勞)㊂くるしみ、くるしむ(苦)。

【[illegible]】ヒ、ビ。平祕切。寘。或は省きて、勑に作る。㊀さしはさむ(挾)㊁さかんなり(壯)。

【勬】(漢)ケン。居倦切。霰。(呉)キン。居員切。先。㊀つとむ(勸)㊁つよし(强)㊂すこやかなり(健)。

十三畫

【勮】(漢)キョ、コ。其據切。御。(呉)リョ、ロ。良據切。御。

㊀つとむ(務)㊁おそる(懼)㊂はやし(疾)㊃うごく(動)。

【勰】ケフ、ゲフ。胡頰切。葉。やはらぐ、意思和合す。

【勱】バイ、メ。莫話切。卦。つとむ、はげむ(勉力)。
【勱相】はげましたすく。書經に「其惟吉士、用勱二相我國家一」

十四畫

【勳】クン、コン。許云切。文。いさを、いさをし。說文に「力に从ふ、熏の聲」正字通に「俗に、勲、勛に作るは非なり」
【勳功】いさを。てがら。
【勳烈】大いなるいさを。後漢書に「故大尉段熲歷二事二主一、勳烈獨昭」
【勳望】いさをとほまれと。北史、竇熾傳に「周明帝、以二熾前朝舊臣勳望兼至一、欲二獨爲造レ第」
【勳勳】いさを。宋書に「南北多士、勳勳彌積」
【勳勞】てがら。ほねをり。禮記に「成王以二周公一、爲レ有二勳勞於天下一」
【勳聖】いさをあるひじり。晉書に「以二姫旦之勳聖一、猶近則二公不レ悅、遠則管蔡流言」
【勳閥】いさをあるいへがら。宋史、吳挺傳に「挺少起二勳閥一、弗レ居二其貴一」
【勳緒】いさを。傅毅「秩二彼殷宗一、光二此勳緒一」
【勳績】前に同じ。(功績、功勳)。晉書に「刻レ石爲二三碑一、紀二其勳績一」

十五畫

【勴】リョ、ロ。良據切。御。㊀たすく(助)㊁つとむ(勉)。

【勵】レイ。力制切。霽。通じて、厲に作る。㊀はげむ、つとむ(勉)㊁はげます(勸勉)㊂すすむ(勸)。
【勵行】はげみおこなふ。又、おこなひをはげます。南史に「修レ身勵レ行、非レ禮不レ動」
【勵精】心をはげます。精出す。(厲精)。

【勶】テツ、テチ。儲列切。屑。㊀すつ(去)㊁とほる(徹)㊂おこす(發)。

十六畫

【[illegible]】(漢)リョ、ロ。良據切。御。(呉)ロ、ル。龍都切。虞。㊀たすく(助)㊁つとむ(勉)。

十七畫

【勷】ジャウ、ナウ。如羊切。陽。㊀はしる貌㊁せまる(迫)。

【勸】ケン、クワン。去願切。願。㊀すすむ(奬)㊁つとむ(勉、力)㊂たすく(助)㊃したがふ(從)㊄をしふ(敎)㊅はげます。
【勸工】工業をすすめはげます。
【勸分】ほどこすことをすすむ。黄庭堅「民貧吏勸分」
【勸化】(佛)信者の喜捨をつのる。釋氏要覽に「勸化得レ財、擬レ造二佛像一」
【勸戒】善をすすめ惡をいましむ。左傳、序に「其敎之所レ存、文之所レ害、則刊而正レ之、以示二勸戒一」
【勸進】すすめのぼす。六代論に「勸二進賢能一」
【勸率】すすめひきゐる。晉書に「勸二率有功一、深加二奬勵一」
【勸善】よきことをすすめてなさしむ。左傳に「子文無レ後、何以勸レ善」
【勸農】農業をすすめはげます。史記に「詔曰、農有二租稅之賦一、勸農之道未レ備、其除二租稅一」
【勸業】なりはひをすすめはげます。史記に「各勸二其業一、樂二其事一」
【勸誨】すすめをしふ。宋史に「建二學館一勸誨」
【勸誘】すすめいざなふ。書經、疏に「勸二誘我所レ友國君一」
【勸奬】ひきたててはげます。(奬勵)。唐書に「尊二尙師儒一、發二揚勸奬一」
【勸學】學問をすすめはげます。左傳に「敬敎勸レ學、授レ方任レ能」

【勸贊】すすめたすく。魏志に「勸ニ贊禪代之義、爲ニ文誥之詔ニ」
【勸懲】善をすすめ惡をこらす。宋史に「是非較然、用爲ニ勸懲ニ」

勹部

部首

【勹】ハウ、ヘウ。布交切。肴。つつむ(裹)。

一畫

【勺】シャク、ジャク。時灼切。藥。㊀くむ(酌に通じ用ゐる、挹)㊁とる(取)㊂すくなし(少)㊃さかづき(盃)㊄一合の十分の一㊅周旦の創作せし音樂の名。

二畫

【勻】㋑イン。羊倫切。眞。㋺キン。規倫切。眞。㊀すくなし(少)㊁ととのふ(齊)㊂ひとし(均)㊃あまれし(徧)㋺均に同じ。

【勼】國訓にほふ。又、匂に作る。說文に「少なり、勹に从ひ、二に从ふ」

【勼】キウ、ク。居求切。尤。㊀あつむ(聚)㊁とく(解)。

【〓】㋑ブン、モン。武粉切。吻。

【勽】㋺ハウ、ボウ。薄晧切。晧。㋩ハウ、ヘウ。必敎切。效。㋑㋺おほふ(覆)㋩鳥、卵をあたたむ。

【勾】コウ、ク。古侯切。尤。句に同じ。
【勾當】任務をとりあつかふ。歸田錄に「勾ニ當公事ニ回」
【勾檢】とりしらぶ。(案驗)。白居易「勾ニ檢簿書ニ多ニ鹵莽ニ」
【勾欄】てすり。通雅に「吐谷渾于ニ河上ニ作レ橋、長一百五十步、勾欄甚嚴飾、勾欄之名、始見レ此」

【勿】㋑ブツ、モチ。文拂切。物。㋺ボツ、モチ。莫勃切。月。㊀古昔、州里にて事變に際し人民を集むるに用ゐたる信號旗㊁なかれ(禁止辭、毋、莫)、なし(無)、あらず(非)㊂いつくしむ(愛)㊃つとむ(勉)㊄にはかに(猝)㋺はらふ(拂)。
【勿勿】㊀にはかなる貌。陸雲「勿勿少レ暇」㊁つとめてやまざる貌。禮記に「勿勿乎其欲レ饗レ之也」

【匁】〔國字〕もんめ。

三畫

【匃】㋑カイ。居大切。泰。㋺カツ、カチ。古達切。曷。一に、丐に作る。㊀もとむ(求)、こふ(乞)㊁あたふ(與)。

【匄】カイ。匃に同じ。

【包】ハウ、ヘウ。布交切。肴。㊀いる(容)㊁つつむ、つつみ(裹)㊂とる(取)㊃かぬ(兼)㊄ふくむ(含)㊅なさむ(藏)㊆おひしげる(苞に通ず、叢生、繁茂)㊇はらごもり、はらごもる(孕)㊈くりや(庖に同じ)㊉ひさご(匏に同じ)。
【包含】ふくみもつ。後漢書に「包ニ含山澤、遠帶ニ丘荒ニ」
【包括】まとめてひとくくりにす。西京雜記に「賦家之心、包ニ括宇宙ニ」
【包茅】祭に供ふるもの、束ねたる茅に酒をそそぎて用ゐる。左傳に「爾貢包茅不レ入、王祭不レ共」
【包圍】とりかこむ。
【包纏】つつみまとふ。韓愈「古道自愚惷、古言自包纏」
【包擧】囊にて物をつつむが如く、すべてを取り入る。賈誼「席ニ卷天下、包ニ擧宇內ニ」
【包藏】つつみかくす。左傳に「包ニ藏禍心、以圖レ之」
【包羅】ひきくるむ。孟子題辭に「包ニ羅天地ニ」
【包懷】つつむ。つつみかくす。晉書に「廓ニ清梁岷、包ニ懷楊越ニ」
【包レ羞忍レ恥】はづかしめをこらふ。杜牧「勝敗兵家不レ可レ期、包レ羞忍レ恥是男兒」

四畫

【匈】キョウ、ク。許容切。冬。㊀むれ(胸に同じ)㊁みだる(擾)㊂さわぐ(騷)㊃かまびすしき聲。
【匈中】むれのうち。漢書に「其於ニ匈中ニ曾不ニ蔕芥ニ」
【匈奴】支那の北方にて威をふるひしえびすの稱。土耳其種族に屬す。
【匈匈】㊀さわぎて安んせざる貌。漢書に「天下匈匈、勞苦數歲」㊁かまびすしく議論する聲の形容。荀子に「君子不下爲ニ小人之匈匈ニ而輟上中其行上」

六畫

【匊】キク、コク。居六切。屋。或は、掬に作る。㊀つかむ(握)㊁にぎる(握)㊂むすぶ㊃兩の手、一の手、たなごころ(掌)。

【匋】㋑タウ、ドウ。徒刀切。豪。㋺エウ。餘韶切。蕭。㊀すゑもの(陶器)㊁陶器を製る㊂やしなふ(養)㋺かはらがま(窯に同じ)。

【匌】カフ、コフ。公合切。合。㊀めぐる(周)㊁ふさぐ、きふさがる、いきごもる(鬱)㊂あふ、あはす(合)㊃かさなる(重疊)。

七畫

【〓】グン。軍の古文字。

【匍】㋑ホ、ブ。步乎切。虞。㋺フ、ボ。馮無切。麌。㊀ふす(伏)㊁はらばふ㊂つまづく(顚蹶)。
【匍匐】㊀はらばふ。孟子に「赤子匍匐、將レ入レ井」㊁はしりまはりて力をつくす。詩經に「凡民有レ喪、匍匐救レ之」

【〓】シュン。七倫切。眞。㊀やむ、とどまる(止)㊁伏して退く、しさる。

九畫

【〓】㋑キク、コク。丘六切。屋。㋺キョク、ゴク。渠六切。屋。脊をまぐ。

【匏】ハウ、ベウ。薄交切。肴。㊀ひさご、ふくべ㊁笙竽の稱。
【匏瓜】ひさご。論語に「吾豈匏瓜也哉、焉能繫而不レ食」

【匐】ホク、ボク。蒲北切。職。はらばふ、ふす(伏)。

十畫

【匔】㋑キュウ、ク。居雄切。東。㋺キク、コク。丘六切。屋。かがむ、謹み敬ふ貌。

【〓】アフ、オフ。烏合切。合。かみかざり、髻の飾。もとどりのかざりもの。
【〓葉】杜甫「翠爲ニ〓葉ニ垂ニ鬢脣ニ」

【〓】㋑ホク、ボク。蒲北切。職。㋺フ、ボ。符遇切。遇。㋑匐に同じ㋺ふす(伏)。

【匒】タフ、トフ。德合切。合。かさなる(重疊)。
【匒匒】かさなる貌。海賦に「磊匒匒而相遝」

十一畫

【〓】ロ、ル。郎古切。麌。はらばふ(匐)、ふす(伏)。

【〓】イヨ、オ。依倨切。御。あく(飽)。

【匓】キウ、ク。居又切。宥。㊀あく(飽)㊁いとふ(厭)㊂はかる(謀)。

十二畫

【〓】㋑フウ、フ。扶富切。宥。㋺フク。扶福切。屋。㋩ホク。匹北切。職。㊀㋺㊀かさなる、かさぬ、かされて(重)㊁また(復)㋩はらばふ(匐)。

【〓】㋑キウ、ク。居祐切。宥。㋺イヨ、オ。依據切。御。あく(飽)。

十四畫

【匈】キュウ、クウ。丘弓切。東。つつしむ(謹)、うやまふ(敬)。
【匈匈】つつしみうやまふ貌。史記に「匈匈如レ畏然」

匕部

首

【匕】ヒ。卑履切。紙。一さじ、かひ(匙)二やじり(矢鏃)三ならぶ(比敍)。
【匕首】あひくち。短刀。史記に「圖窮匕首現」
【匕箸】さじ。蜀志に「先主方レ食、失二匕箸一」

二畫

【化】クワ、ケ。呼霸切。禡。一かはる(變)二ばける三あらたまる(改)四うつる(移)五ばかす六かはらしむ七うつす八生育、死滅、消盡九てづま(幻術)十なまり、あやまり(訛に同じ)十一習慣、風俗、德教、訓育十二道士の居室。
【化力】造化のちから。搨壘後錄に「御製長嶽記曰、眞天造地設、神謀化力、非二人所一能爲一」
【化人】魔術をおこなふ人。列子に「周穆王時、西極之國、有二化人一來」
【化生】一形をかへてうまる。易經に「萬物化生」二(佛)無にして忽ち現出す。瑜伽論に「無而忽現、名二化生一」
【化石】〔鑛〕生物が或作用によりて、石に化せるもの。鄭元祐「鶴老離レ巢松化レ石」
【化成】そだててその生をとげしむ。易經に「聖人久二于其道一、而天下化成」
【化育】萬物をつくりそだつ。中庸に「能盡二物之性一、則可レ以贊二天地之化育一」
【化者】死にたるひと。孟子に「比二化者一無使二土親一膚」
【化洽】めぐみにうるほふ。晉書に「豈徒化二洽當年一」
【化感】政教によりて人心をなほし動かす。傅休奕「化二感海外一」
【化理】德化と治蹟と。柳宗元「有二其文武一、弘二吾化理一」
【化學】物質の元素及びその化合の分量、定則等を研究する學問。
【化導】德を以てみちびく。後漢書に「隨レ俗化導、各得二治宜一」
【化醇】醇は精なり、厚くして凝るなり、氣化する義。易經に「天地絪縕、萬物化醇」
【化】ハウ、ホウ。布抱切。皓。一ならぶ二くみあひ、十人組。

三畫

【北】ホク。必勒切。職。一そむく(背)二たがふ(違)三にぐ(奔)四やぶる(敗)五ふす(伏)六きた(子の方)七きたす八わかつ(分異)。
【北斗】天の北極に近き星宿の名。七星ありてその第七を搖光といふ、斗柄ありて一晝夜に十二方を指す。(大熊星)。小學紺珠に「北斗七星、天樞・璇・璣・權・玉衡・開陽・搖光」
【北邙】邙山は洛陽の北にあり、故に北邙といふ。漢以來の墓地。沈佺期「北邙山上列二墳墓一」
【北司】宦官をいふ。唐書に「宦人握兵、權二制海內一、號曰二北司一」
【北辰】北極星をいふ。論語に「譬如レ北辰居二其所一而衆星共レ之」
【北周】國の名。後周ともいふ、鮮卑の宇文部の裔なり始祖を宇文覺とす、五世、廿五年にして滅ぶ。
【北宗】一禪宗にて神秀を祖とせる宗派の稱。二唐の李思訓を宗とせる畫家の一派。
【北面】一臣事す。南面の對。史記に「王蠋布衣也、義不二北面於燕一」二轉じて、師弟の間にもいふ。漢書に「定國迎レ師學二春秋一、身執レ經北面、備二弟子禮一」

【北朔】ホク。北方のえびすの地。成公綏「廻二寒風乎北朔一」
【北涼】五胡十六國の一にして、匈奴種、初め段氏、後、沮渠氏これに代る、二世、三十八年にして滅ぶ。
【北堂】母の居所。よりて母の別稱とす。儀禮に「婦洗在二北堂一」又韓愈「主婿冶二北堂一、膳服適二親疎一」
【北極】北のはて。又、北辰星。爾雅に「北極謂二北辰一」
【北齊】國の名。始祖を高洋といふ、五世、三十年にして滅ぶ。
【北燕】五胡十六國の一にして、漢人種。始祖を馮跋といふ、二世、二十八年にして滅ぶ。
【北闕】きたのまど。禮記に「薄社北闕、使二陰明一也」
【北闕】闕は宮門なり、轉じて、內裏の稱。漢書に「立二東闕北闕前殿一」
【北道主】主人となりて來客の世話するをいふ。道案內の義に用ゐる。(東道主、南道主)。野客叢書に「後漢光武謂二耿弇、鄧晨等一、皆曰二北道主人一」
【北山之感】公事につかれて兩親を養ふを得ざるなげき。曾參「苦二於政役一、而不レ得レ養二父母一、則有二北山之感一、鵠羽之嗟一」
【北山移文】南北朝の時、齊の周顒、鍾山に隱れ、後、詔に應じ海鹽縣の令となり、卻つてこの山を過ぎんとせし時、會稽山陰の孔稚珪これを鄙みて北山移文を作り、山靈の威を假り、顒をして再びこの草堂を過ぎるを得ざらしむ、北山は卽ち鍾山、移文は後の移牒に同じ。
【北門鎖鑰】北方の守禦の義。世說に「寇萊公鎖二大名一、北使至、語レ寇曰、主上相公望重、何故不レ在二中書一、寇曰、車のながえを北以二朝廷無事北門鎖鑰非レ準不可一」
【北レ轅適レ楚】背くをいふ。南の楚にゆく。志と行との相に向けて、南の楚にゆく。白居易「欲レ望二鳳來百獸舞一、何異二北レ轅將レ適レ楚」

九畫

【匈】ダウ、ノウ。奴皓切。皓。腦に同じ。のうずゐ(腦髓)。シ、ジ。是支切。支。
【匙】さじ、かひ。

匚部

首

【匚】ハウ、バウ。分房切。陽。はこ(筐)。

三畫

【匡】キウ、グ。渠救切。宥。ひつぎ(柩に同じ、棺)。

四畫

【匜】イ。余支切。支。ダ。餐里切。紙。他タ、ダ。唐何切。歌。一はんざふ(盥器)二ひしゃく(柄杓)。
【匝水】たらひのみづ。儀禮に「匜水錯二于槃中一」
【匟】サウ。市の俗字。又、迺に作る。

五畫

【匠】一ソフ、ス。徂紅切。東。二セン、セン。縱緣切。先。三米を盛る器。ざる、いかき(竹籠)。シャウ、ザウ。疾亮切。漾。
【匠伯】たくみ、百工の通稱。
【匠】大工のかしら。莊子に「匠伯不レ順、遂行曰、散木也、無二所レ可レ用一」
【匠意】心のたくみ。かんがへ。(意匠)。許孟容穆公集序に「屬レ詞匠意、必本二于道一」
【匡】一キャウ、カウ。去王切。陽。二ワウ。烏老切。陽。一めしびつ(假器)二はこ(筐)三たすく(輔)四ただす(正)五すくふ(救)六おそる(恇に同じ)七ただし(方)八ながる(斜に曲る)九まぶち(匾に同じ)十くぐせ(危に通ず、癈疾)。
【匡牀】ねどこ。淮南子に「心有レ憂者、匡牀莊席弗二能安一也」
【匡益】たすく。晉中興書に「性剛

悍、志在匡徭」 ㊂ただしすくふ。晉書に「實賴有晉匡拯之德」

【匡拯】前に同じ。孝經に「將順其美、匡救其惡」

【匡救】ただしまもる。資治通鑑に「當深自匡持」

【匡持】ただしすくふ。元經に「建大策、匡濟國難」

【匡濟】ためなほす。蜀志に「咸共將護、無能匡矯」

【匡矯】たすく(贊翼)。晉書に「內外盡匡翼之規」

【匡翼】たすく(贊翼)。

【匡廬】廬山の別稱。周の世、匡裕といふ仙人、廬山に居りしによりて名づく。白居易「匡廬便是逃名地」

五畫

【匣】カフ、ガフ。胡甲切。洽。ひつ、はこ、くしげ(匳)。

【匠】セン、ゼン。似沿切。先。㊀はこ(匳に同じ)㊁いかき。

【匥】ヘン、ベン。皮變切。霰。㊀はこ㊁くしげ(笥)㊂竹の器㊃かんむりいれ(笲に通ず、冠器)。

六畫

【𠥤】セン、ゼン。從緣切。先。㊀み(箕)㊁ちりとり(塵取)。

七畫

【匧】テウ、デウ、徒弔切。嘯。あじか(蕢)。

【匧】ケフ。口頰切。葉。篋に同じ。㊀はこ(衣を藏むる笥)㊁とづ(緘)㊂をさむ(藏)。

【匩】キツ、キチ。枯詰切。質。まがる。

八畫

【匪】㋑ヒ、ビ。甫尾切。尾。㋺芳微切。微。㋩フン、ホン。數文切。文。㋑㊀はこ、かたみ(篚、方形の竹器)㊁あらず(非に同じ)㊂あやある貌㋺㊀行くに文飾ある貌㊁馬の行きて止まらざる貌㋩わかつ(分)。

【匪匪】行くにあやある貌。禮記に「車馬之美、匪匪翼翼」

【匪徒】あしきともがら。

【匪賊】前に同じ。

【匪類】前に同じ。

【匪石心】堅くして動すべからざる心。詩經に「我心匪石、不可轉也、我心匪席、不可卷也」

【匪躬節】我身の利害をかへりみずして、君の爲につくす。易經に「王臣蹇蹇、匪躬之故」又、韓愈「居無用之地、而致匪躬之節」

【匪夷所思】常人の考へ及ぶ所にあらず。易經に「渙有丘、匪夷所思」

九畫

【匬】ユ。以主切。麌。庾の俗字。

【匬】㋑トウ、ヅ。徒侯切。尤。㋺ユ。余主切。麌。㋑ます(斞に同じ、十六斗の量を容るるもの)㋺もたひ(甌器)。

【匭】キ。古洧切。紙。㊀はこ(匣)㊁まとふ(纏結)。

十一畫

【匿】ヨク、イキ。與職切。職。㊀あじか(田器)㊁おほがなへ。

【匯】クワイ、ヱ。胡罪切。賄。めぐる(回)。

十二畫

【匰】タン。丁安切。寒。宗廟の祭に木主をのする器。

【匱】キ。具位切。寘。㊀おほばこ(匣)㊁ひつ(櫃に同じ)㊂とぼし(乏)㊃むなし(空)㊄つく(竭)㊅もっこ(蕢)。

【匱乏】とぼし。鹽鐵論に「昔禹水湯旱、百姓匱乏、或相假以接衣食」

【匱竭】とぼしくしてつく。國語に「官不易方、而財不匱竭」

【匱彈】前に同じ。

【匱窮】とぼしくしてくるしむ。

十三畫

【匳】レン、ロン。離鹽切。鹽。匲に同じ。

【匲】レン、ロン。力鹽切。鹽。本、籢に作る。㊀かがみばこ、くしげ(鏡匣)㊁香を盛る器、かうばこ。

十四畫

【匴】㋑サン。先管切。旱。㋺セン。式撰切。銑。㊀かんむりばこ(冠箱)㊁米をかすざる、こめあげざる。

十五畫

【匵】トク、ドク。杜谷切。屋。櫝に通ず。㊀ひつ(匱)㊁はこ(函)。

二十四畫

【𠥻】㋑コウ、ク。古送切。送。㋺カン、コン。古禫切。感。㋑ちひさき杯㋺㊀はこ㊁ふた(蓋)㊂かしらおほひ(覆頭)。

匸部

部首

【匸】ケイ、カイ。胡禮切。薺。㊀かくす(藏)㊁おほふ(掩覆)。

二畫

【匹】㋑ヒツ、ヒチ。譬吉切。質。㋺ボク、モク。草木切。屋。㋩ヒキ。慣用音。俗に、疋に作る。㋑㊀布帛二端の稱㊁畜類を數ふるに用ゐる字㊂たぐひ(偶)㊃ならび(雙對)㊄とも(朋友)㊅ともがら(儕輩)㊆あふ(合)㊇あはす㊈たぐふ(配)㊉ならぶ(二)㋺あひろ(鶩に通ず)。

【匹夫】ひとりのをとこ。又、いやしきをとこ。論語に「匹夫不可奪志也」

【匹似】たとへば何何の如しの意。黃庭堅「田多穀少無人會、匹似無田過一生」

【匹配】ならぶ。(對偶)。易經、疏に「天地匹配、則能成品物」

【匹馬】いっぴきのうま。公羊傳に「匹馬隻輪無反者」

【匹婦】ひとりのをんな。又、いやしきをんな。孟子に「樹墻下以桑、匹婦蠶之、則老者足以衣帛矣」

【匹敵】つりあひ。優劣なきあひて。漢書に「人情非有匹敵」

【匹耦】ならぶ。詩經、箋に「男女相棄、各無匹耦」

【匹儔】つれあひ。又、たぐひ。韓愈「品彙匹儔」

【匹夫俠】身分のいやしきをとこだて。史記に「自秦以前、匹夫之俠」

【匹夫之勇】血氣にはやる小勇。孟子に「此匹夫之勇、敵一人者也」

五畫

【𠥑】ロウ、ル。郞豆切。宥。㊀のがる(側逃)㊁み(箕)。

【医】エイ。於計切。霽。一に、翳に作る。㊀うつぼ、やたて(箙)㊁矢を蔽ふもの、やおほひ。

六畫

【匼】㋑アン、オン。烏感切。感。㋺アフ、オフ。遏合切。合。㊀こぶ、へつらふ(媚、迎合)㊁づきん㊂まとひめぐる。

七畫

【匽】エン。於幰切。銑。㊀かくす(隱)㊁ふす(偃)㊂みぞ(路厠)。

【匽武】いくさをやむ。世の太平になりし義。漢書に「與文匽武」

九畫

【匾】ヘン。補典切。銑。扁に通ず。
【匾平】(ヘイヘイ)一うすし(薄)二まどかならず。ひらたし。
【匾額】(ガク)かけがく。横長き額面。

【匿】(ジク)ゼヨク、ニヤグ。女力切。職。
(トク)トク。惕得切。職。
一にぐ(逃)二かくる(藏)三かくす(隱)四さく(避)五かたまし(陰姦)。
【匿名】(トクメイ)名前をかくして記さず。舊唐書に「有ㇾ遺ニ匿名書于前者上」
【匿伏】(トクフク)かくれひそむ。
【匿空】(トクコウ)身をかくすあな。史記に「舜穿ㇾ井爲ニ匿空一旁出」
【匿竄】(トクザン)にげかくる。

【區】(ジク)ク、コ。丘于切。虞。(ジキウ)キウ、ク。祛尤切。尤。(ガウ)ウ、ウ。烏侯切。尤。(コウ)コウ、ク。居侯切。尤。
(ジク)一かくす(隱)二をさむ(藏)三ねどころ四こいへ(小屋、小室)五まちまち、ひとつひとつ六しな、わかち(差別)七さかひ(分域)八しきる、かぎる九ちひさき貌十得意の貌十一玉十箇の稱(ジク)一なか(臯)二さかひ(域)三わかち(分)(ガウ)一かくす(匿)二量の名、十六升(ガウ)かがまる(句に同じ、曲)。
【區分】(クブン)わかち。きりわく。郭璞「萬殊之區分」
【區處】(シクショ)わかちて處置す。漢書に「具爲ニ區處一」
【區別】(クベツ)類によりてわかつ。又、くぎり。論語に「譬ニ諸草木區以別一」
【區品】(クヒン)しなわけ。後漢書に「產載物類之區品」
【區區】(クク)一小さき貌。禮記に「河間區區小國」二得意の貌。呂氏春秋に「區區焉相樂」

【匾】テイ、タイ。土雞切。齊。うすし(薄)。

十畫

十部 首

【十】(ジフ)シフ、ジフ。是執切。緝。(ジシン)シン、ジン。是吟切。侵。
(ジフ)一とを二とたび(十回)三たはり(終)るとを。
【十千】(ジフセン)おほきかずにいふ。詩經に「亦服ニ爾耕、十千維耦」
【十干】(ジフカン)甲(閼逢)・乙(旃蒙)・丙(柔兆)・丁(强圉)・戊(著雍)・己(屠維)・庚(上章)・辛(重光)・壬(玄黓)・癸(昭陽)の稱。又、十幹とも書く。
【十方】(ジフパウ)四方と四隅と上下との稱。唐太宗「弘ニ濟萬品一、典ニ御十方一」
【十分】(ジフブン)一物事の滿ち足ること。孔平仲「花開已十分」二(ジフブン)分を十合せたる尺度。三(ジフブン)一時間の六分の一。
【十友】(ジフイウ)曾端伯、花を品して十友になぞらふ、一、桂花を仙友となし、三、海棠を名友となし、四、酴醾を韻友となし、五、梅花を清友となし、六、菊花を佳友となし、七、梔子花を禪友となし、八、瑞香花を殊友となし、九、蘭花を芳友となし、十、蝦蟆花を奇友となす。事文類聚に見ゆ。
【十手】(ジフシユ)多くの人の手。大學に「十目所ㇾ視、十手所指、其嚴乎」
【十目】(ジフモク)多くの人の目にてみる。
【十母】(ジフボ)一十干の異名。二親母・出母・嫁母・庶母・嫡母・繼母・慈母・養母・乳母・諸母の稱。居家必用に見ゆ。
【十戒】(ジフカイ)〔佛〕不殺生・不偷盜・不邪淫・不妄語・不飲酒食肉・不說過・不自讚毀他・不慳・不瞋・不謗三寶をいふ。法華經に「修ニ十善戒一、能生ニ欲界天一」
【十洲】(ジフシウ)仙人のすめりといふ島。十洲記に「漢武帝、既見ニ西王母一、言八方四海之中、有ニ祖洲・瀛洲・玄洲・炎洲・長洲・元洲・流洲・生洲・鳳麟洲・聚窟洲一、有ニ此十洲一、乃人跡稀絶處」
【十界】(ジフカイ)〔佛〕佛界・菩薩界・緣覺界・聲聞界・天上界・人間界・修羅界・畜生界・餓鬼界・地獄界の稱。大藏法數に「法界者諸佛衆生之本體也、然四聖六凡感報界分不同、故有ニ十法界一焉」

【十哲】(ジフテツ)一十人のすぐれたる十人。小學紺珠に「顏淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓・宰我・子貢・冉有・季路・子游・子夏・顏子配享、升ニ曾子一爲ニ十哲一」二我國にて、榎本其角・服部蘭雪・森川許六・向井去來・各務支考・內藤丈草・立花北枝・河合曾良・志田野坡・越智越人を蕉門の十哲といふ。
【十善】(ジフゼン)〔佛〕十惡をなさざるをいふ。法華經科註に「五戒十善、正出ニ三途一」
【十義】(ジフギ)父慈・子孝・兄良・弟弟・夫義・婦聽・長惠・幼順・君仁・臣忠の稱。雲笈七籤に「黃帝始制ニ七情一、行ニ十義之教一」
【十惡】(ジフアク)〔佛〕殺生・偷盜・邪婬・妄語・兩舌・惡口・綺語・貪欲・瞋恚・邪見の稱。大藏法數に「惡卽非理之行、謂衆生觸ㇾ境顚倒、縱ニ此感情一、於ニ身口意一、動與ㇾ理乖、成ニ此十惡一也」
【十體】(ジフテイ)十種の字體、卽ち、古文・大篆・小篆・籀文・八分・隸書・章草・行書・飛白・草書の稱。
【十襲】(ジフシウ)十重にもつつみかさねて大切にす。說苑に「革櫃十重、緹巾十襲」
【十二月】(ジフニグワツ)正月(陬)・二月(如)・三月(寎)・四月(余)・五月(皐)・六月(且)・七月(相)・八月(壯)・九月(玄)・十月(陽)・十一月(辜)・十二月(涂)。
【十二支】(ジフニシ)子(困敦)・丑(赤奮若)・寅(攝提格)・卯(單閼)・辰(執徐)・巳(大荒落)・午(敦牂)・未(協洽)・申(涒灘)・酉(作噩)・戌(閹茂)・亥(大淵獻)の稱。又、十二子・十二辰ともいふ。
【十二洲】(ジフニシウ)冀・兗・青・徐・荊・揚・豫・梁・雍・幽・幷・營の稱。その長官を牧といふ。
【十二律】(ジフニリツ)六律六呂の稱。陽六は律にて、黃鐘・大蔟・姑洗・蕤賓・夷則・無射。陰六は呂にて、大呂・夾鐘・仲呂・林鐘・南呂・應鐘なり。
【十七史】(ジフシチシ)支那の十七種の歷史、卽ち、史記・漢書・後漢書・三國志・晉書・宋書・南齊書・梁書・陳書・魏書・北齊書・周書・隋書・南史・北史・唐書・五代史の稱。
【十八公】(ジフハチコウ)松の異名。松字を分てば、十八公となるによる。詩韻集成に「吳之梓丁固、夢ニ腹生一松、曰、松十八公也、吾經ニ十八年一、當ㇾ爲ニ公矣、後果然」
【十八天】(ジフハチテン)〔佛〕三十三天の中にて、色界にありといふ十八天、卽ち、梵衆天・梵輔天・大梵天・少光天・無量光天・光音天・少淨天・無量淨天・偏淨天・偏愛天・熱天・福生天・廣果天・無想天・無煩天・無熱天・善見天・色究竟天の稱。
【十八般】(ジフハチハン)十八種の武藝、卽ち、矛・鎚・弓・弩・銃・鞭・箭・劍・鏢・杈・斧・鉞・戈・戟・牌・棒・鎗・槌・鎗・刀・劍・矛・盾・斧・鉞・戟・鞭・簡・槌・殳・把頭・叉・縛繩・白打をもいふ。
【十三經】(ジフサンキヤウ)十三種の經書、卽ち、周易・尙書・毛詩・春秋左氏傳・春秋公羊傳・春秋穀梁傳・周禮・儀禮・禮記・孝經・論語・孟子・爾雅の稱。
【十字街】(ジフジガイ)四つ辻の街。禪林句集に「十字街頭吹笛」
【十法界】(ジフホツカイ)〔佛〕地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上・聲聞・緣覺・菩薩・佛の稱。
【十弟子】(ジフテシ)〔佛〕釋迦の高弟十人の稱、卽ち、摩訶迦葉(頭陀第一)・阿難陀(多聞第一)・舍利弗(智慧第一)・目犍連(神通第一)・阿那律(天眼第一)・須菩提(解空第一)・富樓那(說法第一)・迦旃延(論義第一)・優婆離(持戒第一)・羅睺羅(密行第一)の稱。維摩經に見ゆ。
【十二列國】(ジフニレツコク)春秋時代に於ける十二の强國、卽ち、魯(姬姓)・衞(姬姓)・晉(姬姓)・鄭(姬姓)・曹(姬姓)・蔡(姬姓)・燕(姬姓)・齊(姜姓)・陳(嬀姓)・宋(子姓)・楚(羋姓)・秦(嬴姓)の稱。
【十日一水】(ジフジツイツスイ)十日間にわづか一水をゑがく意。畫工の念入にゑがくをいふ。杜甫「十日畫ニ一水一、五日畫ニ一石一」
【十中八九】(ジフチユウハツク)十中八九。おほかた。おほよそ。漢書に「平ニ處輕重一、十中八九」又、黃庭堅「人生不ㇾ如ㇾ意、十事常八九」

【十六羅漢】〔佛〕賓度羅跋羅惰闍（ビンドラバラダジャ）・迦諾迦伐蹉（キャナバダ）・迦諾迦跋釐惰闍（カリダジャ）・蘇頻陀（ソビ）・諾詎羅（タコ）・跋陀羅（バダ）・迦哩迦（ギャリ）・伐闍羅弗多羅（バダラフタ）・戍博迦（ジュバ）・半托迦（ハンタカ）・羅怙羅（ラゴラ）・那伽犀那（ナカセナ）・因揭陀（インダ）・伐那婆斯（バシ）・阿氏多（タシ）・注荼半托迦（ジュクハンタカ）の十六尊者の稱。

【十風五雨】（ゴフウ）氣候の順を得たるをいふ。陸游「十風五雨歲豐穰」

【十年磨二劍】（ジフネンマイツ）十年の間、一口の劍をみがく。賈島「十年磨二一劍一霜刃未二嘗試一」

【十讀不レ如二一寫】（ジフドクハイツシヤニシカズ）十たび讀むは、一たび寫すの精なるに如かず。鶴林玉露に「朕（宋高宗）思、讀十遍、不レ如二寫一遍一」

一畫

【千】セン。蒼先切。先。
一百を十倍せし數 二ちたび（千回）三ちぢ四ちまた（阡に同じ）。

【千】（セン）おほきかずにいふ。蔡襄「千露竹全瀟灑」

【千古】（センコ）一おほむかし。宋之問「聖德超二千古一」 二行くさき長き時間。蘇頲「激清一時流二譽千古一」

【千百】（センヒヤク）おほきかずにいふ。韓愈「所謂存二什一于千百一」

【千朶】（センダ）おほくのえだ。成廷珪「一聲兩聲松子落、千朶萬朶芙蓉開」

【千里】（センリ）遠くへだたりたるところ。李白「千里江陵一日還」

【千言】（センゲン）ながき詩文。陸游「落筆輒千言、氣欲レ吞二名場一」

【千劫】（ゼフン）〔佛〕ながき時間。唐太宗「無レ滅無レ生歷二千劫一」

【千秋】（センシウ）ながき年月。李陵「嘉會難二再遇一、三載爲二千秋一」

【千般】（センパン）おほくあり。いろいろ。韓偓「萬樹綠楊垂、千般黃鳥語」

【千鈞】（センキン）重量の大いなるにいふ。魏志に「千鈞之弩、不レ爲二鼷鼠一發レ機」

【千蓼】（センガク）おほくのはなぶさ。白居易「剪レ碧排二千蓼一」

【千億】（センオク）おほきかずにいふ。詩經に「千レ祿百福、子孫千億」

【千觴】（センシヤウ）杯をおほくかさぬ。李白「高談滿二四座一、一日傾二千觴一」

【千石舟】（センネキシウ）千石の米をつむほどのふね。大學衍義補に「造二千石舟一」

【千古名】（センコ）後世までのこころほまれ。李白「豈傳二千古名一」

【千金子】（センキンノコ）資產家のこども。史記に「千金之子、不レ死二於市一」

【千金字】（センキンジ）れうちある文字。權德輿「千金字」

【千金劍】（センキンノケン）たふときつるぎ。新序に「左賢三代意、工藝千金字」

「延陵季子兮不レ忘レ故、脫二千金之劍一兮帶二丘墓一」

【千金價】（センキンノアタヒ）甚だ貴きあたひ。論衡に「有二利劍千金之價一」

【千秋雪】（センシウノユキ）永久消えざる雪。杜甫「窗含西嶺千秋雪、門泊東吳萬里船」

【千秋節】（センシウセツ）我國の天長節に同じ。唐の開元十七年八月五日、玄宗の賀をなしそめとす。

【千里月】（センリノツキ）とほくかがやくつきかげ。李嶠「他鄉千里月」

【千里劬】（センリノク）遠路のつかれ。程俱「解レ衣臥二清晝一、慰二我千里劬一」

【千里信】（センリノシン）遠國よりのおとづれ。杜牧「故國杳無二千里信一」

【千里馬】（センリノウマ）一日に千里を馳する名馬。轉じて、才智の勝れたる人にいふ。韓愈「世有二伯樂一、然後有二千里馬一」

【千里駒】（センリノコマ）前に同じ。楚辭に「寧昂昂若二千里之駒一乎」

【千里眼】（センリガン）遠方まで見とほす力。北史に「楊使君有二千里眼一、那可レ欺レ之」

【千乘國】（センジヨウノクニ）大諸侯のくに。兵車千乘を出し得る國の義。論語に「道二千乘之國一、敬レ事而信」

【千歲冰】（センザイノコホリ）永久とけざるこほり。西陽雜俎に「頗梨千歲冰所レ化也」

【千山萬水】（センザンバンスイ）多くのやまかは。續元怪錄に「千山萬水、不レ見レ有レ路」

【千兵萬馬】（センペイバンバ）おほくの兵とおほくの馬と。南史に「洛中謠曰、名軍大將無二自牢一、千兵萬馬避二白袍一」

【千辛萬苦】（センシンバンク）一おほくのくるしみ。

【千里同風】（センリドウフウ）世の太平なる義。論衡に「千里不レ同レ風、百里不レ共レ雷」

【千里命駕】（センリメイガ）遠方の友を訪はんとて、車の用意をなす。晉書に「呂安與二嵇康一友、每二相思一、輒千里命駕」

【千門萬戶】（センモンバンコ）一宏大なる宮殿。漢書に「左二鳳闕一、右二神明一、號稱二千門萬戶一」 二人家のしげきさま。易林に「千門萬戶、大福所レ處」

【千枝萬葉】（センシバンエフ）道のあまたあるに喩ふ。淮南子に「道有二經紀條貫一、得二一之道一、連二千枝萬葉一」

【千狀萬態】（センジヤウバンタイ）いろいろのさまざま。

【千呼萬喚】（センコバンクワン）しきりによぶ。白居易「千呼萬喚始出來」

【千差萬別】（センサバンベツ）さまざまのちがひ。

【千思萬考】（センシバンカウ）いろいろに考ふ。

【千紫萬紅】（センシバンコウ）いろいろのはな。

【千搜萬索】（センソウバンサク）いろいろにさがす。韓愈「千搜萬索何處有」

【千載一遇】（センサイノイチグウ）千年に一たび相あふ。容易に遇ひがたき義。三國名賢序贊に「千載一遇、賢智之嘉會」

【千篇一律】（センヘンイチリツ）何れも同じさまにて變化なし。多く詩文にいふ。藝苑卮言に「自樂天詩、千篇一律」

【千慮一失】（センリヨノイツシツ）智ある者も時に失あり。史記に「廣武君曰、臣聞、智者千慮必有二一失一、愚者千慮必有二一得一、故曰、狂夫之言、聖人擇焉」

【千變萬化】（センペンバンクワ）いろいろにかはる。列子に「千變萬化、不レ可二窮極一」

【千巖萬壑】（センガンバンガク）おほくの山と谷と。博異志に「千巖萬壑、莫レ非二寰景一」

【千里不レ留行】（センリカクトドメズ）千里の遠きに行くにも、之を遮り止むる者なし。天下に敵なき義。莊子に「臣（莊子）聞大王（趙文王）喜レ劍放以レ劍見レ王、王曰、子之劍何能禁制、曰、臣之劍、十步一人、千里不レ留レ行、王大說曰、天下無二敵矣一」

【千里行始二於足下一】（センリノコウカヨリハジマル）天下の事、その始は皆微細なるものより起る喩。老子の語。

【千人所レ指無レ病而死】（センニンノユビサストコロハヤマヒナクシテシズ）多くの人につまはじきさるれば病なくとも死する意。漢書に見ゆ。

【千羊皮不レ如二一狐腋一】（センヤウヒノイツコノハクニシカズ）衆愚は一賢に如かざる喩。史記に「趙良曰、千羊皮不レ如二一狐腋一、千人之諾諾不レ如二一士之諤諤一」

【千金之裘非二一狐之皮一】（センキンノカハゴロモハイツコノカハニアラズ）國を治むるは衆賢の力による喩。說苑に出づ。

【千鎰之裘非二一狐之白一】（センイツノカハゴロモハイツコノハクニアラズ）小形のほとぎ。揚子方言に「千丈堤以二螻蟻之穴一潰」（センヂヤウノツツミモロウギノアナヲモチテクヒユ）小事をつつしまざれば大害を來す喩。韓非子に出づ。

卅

【卅】サフ、ゾフ。悉合切。合。三十、みそ、みそぢ。

卒

【卒】ソツ、ソチ。卒の譌字。

升

【升】ショウ。書蒸切。蒸。
一量目の名、一合の十倍 二ます（成）四よみ、布八十縷の稱 五易の卦の名 六すすむ（進）七のぼる、のぼす（登）八さかる（降）九みのる（成熟）。

【升平】（ショウヘイ）世治まりてやすらかなり。隋書に「既頌既雅、天下升平」

【升恆】（ショウコウ）人の壽をいはふ語。詩經に「如二月之恆一、如二日之升一」

【升降】（ショウカウ）一さかんなるとおとろふると。書經に「道有二升降一」 二上り下り。

【升斛】（ショウコク）ます。ますめ。（斗斛）。王褒「推レ之以二升斛一、正レ之以二權衡一」

【升遐】（ショウカ）天子のおかくれ。通鑒、梁武紀に「先帝升遐」

【升甌】（ショウオウ）小形のほとぎ。揚子方言に

〔簪瓶謂二之甌一、其小者謂二之升甌一〕

【升殿】殿上にのぼる。五代史に「給二二宮者一、掖而升レ殿」

【升聞】上にきこゆ。書經に「玄德升聞、乃命以レ位」

【升騰】のぼる。後漢書に「踴躍升騰、超レ等踰レ匹」

【升堂入レ室】道にすすむ次第をいふ。論語に「由也、升レ堂矣、未レ入二於室一也」

【午】

ゴ、ゲ。疑古切。奚。

一うま（十二支の一、時刻にて十二時、方角にて正南）二さかふ（違背）三まじはる（交）四たてよこ（縱横）。

【午下】ひるすぎ。

【午月】五月の異名。（皐月）。

【午供】ひるめしのそなへ。僧清璞「山廚修二午供一」

【午夜】夜の十二時。李賀「羅幃午夜愁」

【午梵】正午の勤行。王安石「午梵隔レ雲知レ有レ寺」

【午割】たてよこにきる。儀禮、注に「午割、縱横割也」

【午睡】ひるね。（晝眠）。張耒「深堂無レ人午睡餘」

【午寢】前に同じ。鄭谷「溪鷺喧二午寢一、山蕨止二春飢一」

【午餐】ひるめし。

三 畫

【卉】

キ。卉の俗字。

【半】

ハン。博漫切。翰。

一わかつ（分）二なかば（中分、中央）三大部、大片。

國訓 はん（奇數）。

【半子】むこ。唐書に「威安公主下二嫁可汗一、可汗上書曰二半子一」

【半月】一ゆみはりづき。（弦月）。二一ケ月の半分。

【半夜】よなか。（夜半）。于鵠「遙聽繞山半夜鐘」

【半直】つねの價のなかば。宋書、郭世道傳に「以二半直一與二世道一」

【半面】かほの半分。物のかたつら。南史に「必爲二半面妝一以俟」

【半夏】夏至より後十一日に當る日。凡そ七月一二日頃に當る。

【半幅】半分のはば。唐書に「欲レ收天下英雄之心、惟有二詔書紙半幅一」

【半旗】弔意を表する時掲ぐるはた。

【半輪】半ばかけたるつき。李白「蛾眉山月半輪秋」

【半可通】なまものしり。

【半面識】少しく相識れる義。書言故事に「後漢應奉、嘗詣二袁賀一、賀時出閉レ門、造レ車匠、於內開二扇戶一、出二半面一視レ奉、奉卽去、後數年路見二車匠一、識而呼レ之」

【半生半熟】十分に熟達せざるもの。拊掌錄に「半生半熟未二相諳一」

【𠬝】

セイ、世に同じ。

四 畫

【𠬝】

セイ、世に同じ。

【冊】

シフ。先立切。耕。一四十、よそ、よそぢ二こまさらへ（杷）。

【廿】

キ。許偉切。馬。一くさ（百草の總稱）二くさき（草木の總稱）。

【卉汨】疾き貌。漢書に「卉汨臧折奚遣」注に「卉汨、疾意也、臧、陳也」

【卍】

バン、マン。無販切。願。佛書にある萬の字。

五 畫

【牀】

シュク、シク。叔の俗字。

六 畫

【卑】

ヒ。補支切。支。ろ井弭切。紙。はヒン。吡賓切。眞。一ひくし（下）二いやし（賤）三いやしむ四いやしくす五しむ、せしむ（俾に同じ）六しかむ（蟹に同じ）。

【卑行】めしたの親類。鶴林玉露に「此簡蓋與二其親戚卑行一也」

【卑近】ひくくしてちかし。陸游「學不レ趨二卑近一、人誰非二聖賢一」

【卑佞】身をひくくしてへつらふ。晉書、石崇傳に「廣城君每レ出、崇除二車路左一、望レ塵而拜、其卑佞如レ此」

【卑陋】いやし。又、せまし。宋史に「第宰卑陋、才數十楹」

【卑秩】ひくき官職。歐陽修「窮賤守二卑秩一」

【卑陬】はづる貌。莊子に「子貢卑陬失レ色、頊頊然不二自得一」

【卑側】いやし。雲笈七籤に「欲レ無二卑側媚悅之巧一者希矣」

【卑淺】いやしくあさはかなり。曾鞏「末世之卑淺、以二先王之道一、爲二迂遠而難レ遵」

【卑猥】みだりがはし。洞冥記に「自云卑猥不レ獲レ處二人間一」

【卑溽】地ひくくしてむし暑し。歐陽修「地氣尤卑溽」

【卑鄙】いやし。諸葛亮「先帝不レ以二臣卑鄙一」

【卑賤】身分いやし。地位ひくし。韓詩外傳に「卑賤貧窮、非二士之恥一也」

【卑牆】ひくきかき。（短牆）。尸子に「卑牆來レ盜、槃辱由レ中」

【卑薄】ひくくやせたる土地。後漢書に「江南卑薄之域」

【卑濕】ひくくしてうるほふ。後漢書に「天竺國一名身毒、中略俗興二月氏一同而卑濕暑熱」

【卑屬】血統上己より地位ひくきもの。尊屬の對。家禮儀節に「卑屬謂二兄弟子孫一」

【卑辭重幣】言葉をひくくし贈物をあつくす。史記に「齊懼必卑レ辭重レ幣以事レ秦」

【卒】

ソツ、ソチ。作沒切。月。シュツ、シュチ。卽聿切。質。

はサイ、セ。取內切。隊。一しもべ（隸人）二下級の軍兵、雜兵三もろもろ（群衆、軍隊）四むら（民戶三百ある邑）五あわつ（匆遽）六にはかに（暴急）七をはる、をふ（終）八つくし（盡）九やむ（已）十しぬ（死）十一つひに（終）十二せがれ（倅に同じ）。

【卒伍】庶人の編制。周禮に「乃會二萬民之卒伍一而用レ之、五人爲レ伍、伍伍爲レ兩、四兩爲レ卒」又、史記に「願賜二骸骨一、歸二卒伍一」

【卒乘】ソツ、ショウ。歩を卒といひ、車を乘といふ。左傳に「卒乘輯睦」

【卒愕】あわておどろく。公羊傳に「桓公卒愕不レ能レ應」

【卒然】にはかなる貌。孟子に「卒然問曰、天下惡乎定」

【卒業】一定の業ををはる。史記に「百姓力屈、恐レ不レ能レ卒レ業」

【卒遽】にはかに。（急遽）。漢書に「御史大夫卒遽不レ能二詳知一」

【卒都婆】〔佛〕（梵語 Stupa 廟又は方墳と譯す）木石等にて地水火風空の五層の高き塔を作りて佛に供ふるもの。涅槃經に「一見卒都婆、永離二三惡道一、何況造立者、決定生二安樂一」

【卓】

タク、トク。竹角切。覺。

一たかし（高）、ほし（遠）二こゆ（越）、すぐ（殊）。つくる。まひる。正午。王士禎「蟬聲滿院日卓午」

【卓卓】高くたつ貌。文心彫龍に「孔氏卓卓、信含二異氣一」

【卓冠】ぬきいづ。後漢書に「卓二冠古人一、當世莫レ及」

【卓殊】すぐる。韓愈「功績卓殊、悅獠循レ樂」

【卓異】すぐれてことなり。後漢書に「詔擧二孝行與レ衆卓異者一、遣レ詣二公事一」

【卓偉】すぐれてえらし。吳志に「戴二赫烈之寵一、體二卓偉之才一」

【卓逸】すぐれひいづ。又、その者。（秀逸）。蔡邕「才藝言行、卓逸不羣」

【卓絕】卓絕、爽邁不羣」
すぐれひいづ。晉書に「才藻

【卓然】すぐれたる貌。杜甫「雋逸五斗方卓然、高談雄辯驚二四筵一」

【卓犖】ぬきいづ。〈超越〉。魏志に「博聞彊記、奇逸卓犖」

【卓爾】すぐれたる貌。論語に「如二有レ所レ立卓爾」

協

ケフ、ゲフ。胡頰切。葉。
㊀やはらぐ㊁かなふ㊂したがふ〈從〉、つく㊃あはす。

【協心】心をあはす。書經に「三后協レ心、同底二于道一」

【協同】力をあはす。

【協奏】種種の樂器を合せかなづ。〈合奏〉。宋史に「篪簧協奏」

【協比】やはらぎしたしむ。〈和比〉。左傳に「詩曰、協二比其隣一、昏姻孔云」

【協和】かなふ。やはらぐ。書經に「協二和萬物一」

【協睦】やはらぎむつぶ。〈和親〉。北史に「使レ朝廷協睦、遐邇歸心、天下皆當二肅清一」

【協議】はなしあひ。相談。宋史に「搢紳協議」

卌

シフ。七入切。緝。卌に同じ。よそぢ、四十。

七畫

南

ダン、ナン。那含切。覃。
㊀みなみ〈午の方〉㊁みなみすらむ〈任〉㊃雅樂の名。

【南斗】南方の星宿の名。その形斗に似たり。三輔黃圖に「長安故城、城南爲二北斗形一、故號二斗城一」

【南司】官名、御史中丞。南史に「君何敢以二鼎人一屬二南司一」

【南交】支那の南方、交趾の地。書經に「申二命羲叔一、宅二南交一」

【南至】冬至をいふ。毎年十二月二十二日頃にして太陽が冬至點に達する時なり。〈一陽來復〉。

【南宗】㊀禪宗にて、慧能の流派の稱。㊁唐の王維を宗とせる畫風の稱。

【南面】天子のくらゐ、天子の座は南に向ふが故にいふ。北面の對。易經に「聖人南面而聽、嚮二明而治一」

【南客】㊀南方の旅人。耿湋「偶宿俱南客、相看春盡歸」㊁〈動〉くじゃくの異名。楊文公談苑に「孔雀曰二南客一」

【南冠】楚國の冠の稱。又、楚人鍾儀が南冠して囚はれし故事により、囚虜の義とす。晉問二南冠一」

【南無】〈佛〉歸命、頂禮、眞實などと譯す。佛に祈る時、冒頭に用ゐる語。釋氏要覽に「唯識鈔云、梵語南無此翻爲レ名、卽是歸趣之義也、或云二那摩或曩謨一、皆梵音訛也」

【南極】㊀みなみのはて。㊁老人星。漢書に「老人星曰二南極一」

【南薰】みなみの風。又、世のよく治るを南風の薰といふ。孔子家語に「南風之薰兮、可二以解一吾民之慍一兮」

【南蠻】南方のえびす。孟子に「今也南蠻鴂舌之人」

【南山壽】長壽を祝するに用ゐる辭。南山は終南山にて、周の都なりし豐鎬の南方にあり。詩經に「如二月之恒一、如二日之升一、如二南山之壽一、不レ騫不レ崩」

【南天燭】〈植〉なんてん。本草綱目に「本名南燭、俗謂二之南天燭一」

【南北朝】㊀東晉の末より隋の一統に至るまで、對立百五十年間の稱。南北合せて五十君の內、二十六君は弒せられ、四君は廢せらる。㊁我國にては、延元元年、後醍醐天皇吉野に幸し給ふに及びて、足利尊氏は光明天皇を京師に擁立せり、よりて吉野を南朝、京師を北朝と稱す、爾後五十七年にして南北合一す。

【南柯夢】淳于棼の故事より、凡て夢の義に用ゐる。異聞集に「淳于棼醉うて、夢に大槐安國に入りて王に見ゆ、王曰く、吾南柯郡、卿を屈して守となさんと、凡そ二十年にして使者送りて穴を出づ、遂に寢む、古槐の下を尋ねし

に蟻穴あり、乃ち槐安國、又、一穴あり、直に南枝に上る、卽ち南柯郡なり」

【南八男兒】南八とは南霽雲のこと、となり、南氏の八男なるを以ていふ。韓愈「南八男兒死耳」

【南行北走】いそがはしく南北に奔走す。易林に「南行北走、延レ頸望レ食」

【南風不レ競】南風は南方の詩なり、その音微弱にして振はず、以て南方の國の勢力衰へて振はざるに比す。我國にて、南朝の威勢振はざるをいふに借り用ゐる。左傳に「晉人聞レ有二楚師一、師曠曰、不レ害、吾驟歌二北風一、又歌二南風一、南風不レ競、多二死聲一、楚必無レ功」

【南船北馬】支那の南方を旅行するには船を便とし、北方は馬を便とす。よりて忙しくかけまはることにいふ。

九畫

甚

シフ。子入切。緝。
㊀あつまる〈會聚〉㊁さかんなり〈盛〉、特に蠶の盛んなるにいふ。

卦

シフ。秦入切。緝。ことばあつまる。

十畫

博

ハク。補各切。藥。
㊀ひろし〈廣〉㊁あまねし〈普〉㊂おほし〈多〉㊃おほいなり〈大〉㊄かふ〈賀易〉㊅ひろむ〈廣〉㊆ひろさ㊇ばくち、すごろく。正字通に「俗に博、摶に作るは竝に非なり」

【博士】㊀學者の位階。漢書に「博士、秦官、掌レ通二古今一、秩比二六百石一、員多至二數十人一、武帝建元五年初置二五經博士一」㊁我國にて、古昔、大學寮及び陰陽寮などにて專門の道の敎授又は事務を掌りし者の官名。㊂我國にて、現今、專門の學術に熟達して、學位令の規定に適合したるものに授くる稱號。

【博文】ひろく事物の理をきはむ。論語に「子曰、君子博學二於文一、約レ之以レ禮、亦可二以弗一畔矣」

【博物】㊀博識のひと。左傳に「晉公聞二子產之言一曰、博物君子也」㊁理學の一部にして、動物・植物・鑛物等の學問。

【博奕】局戲と圍碁と。論語に「不レ有二博奕者一乎、爲レ之猶賢二乎已一」

【博洽】ひろくあまねし。後漢書に「京師士大夫、咸推二其博洽一」

【博習】ひろく學藝をならふ。禮記に「五年視二博習親一レ師」

【博愛】ひろく愛す。韓愈「博愛之謂レ仁、行而宜レ之之謂レ義」

【博雅】學ひろく身正し。又、その者。王逸「昔淮南王安、博雅好レ古」

【博搜】ひろくさがす。〈徧搜〉。丁謂「博搜二聖書一、廣召二文英一」

【博聞】ひろく物事を聞き知る。韓詩外傳に「博聞强記、而守レ之淺者鑑」

【博綜】ひろくすべくくる。晉書に「博綜二萬機一、不レ可二一日有一レ曠」

【博學】ひろく學問に通ず。禮記に「儒有二博學而不レ窮、篤行而不レ倦」

【博覽】ひろく書物をみる。漢書に「博二覽古今一、容二受直辭一」

【博濟】ひろくすくふ。〈廣濟〉。魏志に「成以博濟、加二於天下一」

【博戲】すごろくのあそび。論衡に「男子不レ讀レ經、則有二博戲之心一」

【博識】ひろく物事をしる。子華子に「隨武子明答以博識、晉國之儁老也」

卜

卜部

首

ボク、ブク。博木切。屋。
㊀うらなひ、うらなふ〈龜甲を灼き、その縱橫のわれめを見て、吉凶を判斷す〉㊁あたふ〈予〉、たまふ〈賜〉。

【卜占】うらなひ。書經、傳に「帝王立二卜占之官一、故曰二官占一」

【卜居】居所をうらなひさだむ。史記に「成王使二周公卜一レ居」

【卜祀】吉凶をうらなひて祭る。宋史に「三年卜祀、百世承レ基」

【卜相】ボク サウ　㊀占ふと相を觀ること。唐書に「凡推步、卜相、醫巧皆技也」㊁シヤウ　宰相となるべき人をうらなふ。史記に「今者聞君召二先生一而卜相」

【卜者】シヤク　吉凶をうらなふひと。(占者)。史記に「代王之入、任二於卜者一」

【卜筮】ボク ゼイ　卜は龜甲をやき、筮はめどぎを用ゐてうらなふ。(占筮)。左傳に「孟獻子曰、吾乃今而後知レ有二卜筮一」

【卜禘】ボク テイ　禘の祭の日をうらなひさだむ。禮記に「未レ卜レ禘、不レ視レ學、學二其志一也」

【卜戰】ボク セン　戰の吉凶をうらなふ。左傳に「吳伐レ楚、陽匄爲二令尹一、卜レ戰不レ吉」

【卜鄰】ボク リン　よきとなりをえらぶ。左傳に「非二宅是卜一、鄰是卜、二三子先卜レ鄰矣」

二畫

【卄】クワン。古患切。諫。㊀總角の貌㊁つのがみ、あげまき㊂をさなし(幼稚)。又礦の古文字。

【卞】ベン、ベン。皮變切。霰。㊀ハン、バン。蒲官切。寒。㊁㊀さわがし(躁疾)㊁のり(法)㊂かはる(變)㊃たのしむ(般に同じ、樂)。

【卞和】ベン クワ　古、名玉をもちし人の名。轉じて、名玉をいふ。史記に「昔卞和獻寶、楚王刖レ之」

【卞急】ベン キフ　さわがしくいそがし。左傳に「莊公卞急而好レ潔」

三畫

【卡】サフ、ゾフ。從納切。合。まもり(守)。ケイ、カイ。堅奚切。齊。うらなふ(卜)、かんがふ(考)。

【卟】㊀セン、ソン。之廉切。鹽。㊁セン。章豔切。豔。

【占】うらなひ、うらなふ㊁みる(視)㊂うかがふ(候)㊃はかる(隱度)㊄とふ(問)㊅ためす(驗)㊆㊀たもつ(有)㊁しむ。

【卧】㊀セン、ゼン。之廉切。鹽。㊁セン。章豔切。豔。

【卣】ユウ。以周切。尤。㊀ところ(彼に同じ)㊁氣のめぐる貌、すすむ、ゆく。

四畫

【卦】クワイ、ケ。古畫切。卦。うらかた、易筮にて六本の算木を種種に配合して、あらはれたる兆象。

【卦兆】クワイ テウ　卜筮のうらかた。淮南子に「審二卦兆一、察二吉凶一」

【卦筮】クワイ ゼイ　うらなひ。漢書に「費直治レ易爲レ郎、至二單父令一、長二于卦筮一」

【卤】ジョウ、ネウ。如乘切。蒸。㊀おどろくこゑ㊁ゆく(往)。

五畫

【卧】㊀セウ、セウ。之少切。嘯。㊁テウ、デウ。田聊切。蕭。

【卣】うらなひとふ(卜問)。イウ、ユ。于求切。尤。酒を盛る器、たる(尊)。

六畫

【卤】テウ、デウ。徒聊切。蕭。

【卤卤】テウ テウ　草木の實の垂れたる貌。類篇に「艸木實垂、卤卤然也」

七畫

【卤】イウ、ユ。以周切。尤。㊀ところ(彼に同じ)㊁氣のめぐる貌、すすむ、ゆく。

八畫

卩部(巳)

部首

【卩】セツ、セチ。子結切。屑。節の古文字。㊀しるし(信)㊁ふし(節)。

二畫

【卯】㊀カウ、ガウ。五剛切。陽。㊁ギヤウ、ガウ。魚向切。漾。

【卮】㊀㊀われ(我)㊁たかし(昂に同じ)㊂あがる(激厲)㊃㊀あふぐ(仰)㊁のぞむ(望)㊂むかふ(向)㊃れがふ(願)。

【卯】㊀セイ、サイ。子禮切。齊。㊁ケイ、キヤウ。丘京切。庚。はからふ、はからひ(處分)。

三畫

【卯】キヨウ。邛の僞字。

【卮】㊀シ。旨而切。支。㊁キ。丘奇切。支。㊀さかづき、酒漿を盛る器㊁べに(煙支)。

【卮言】シ ゲン　とりとめなきことば。一說に、味ある言なりといふ。莊子に「以二卮言一爲二曼衍一」

【卯】バウ、メウ。莫飽切。巧。一に、卯に作る、俗に、夘に作る。

四畫

【印】イン。伊刃切。震。㊀おして、しるし(文字を劃して證信とするもの)㊁痕跡を附く。

【印本】イン ポン　版にすりたる書物。

【印形】イン ギヤウ　印を捺してうつりたる形。轉じて、印そのものをもいふ。

【印刷】サツ　版にする。夢溪筆談に「一板印刷、一板已自布レ字」

【印刻】イン コク　文字、物象を彫る。東觀餘論に「但若二印刻字一耳」

【印章】イン シヤウ　しるし。周禮、注に「璽節印章、如二今斗檢封一矣」

【印象】イン シヤウ　〔哲〕*Impression*. 外界の事物の意識せられたる時、心に生ずるかげ。又、物の面に跡つけたる形。

【印號】イン ガウ　てがた。切符。申報字典に「入レ門印號」

【印綬】イン ジユ　印は官の印章、綬は印を帶ぶるくみひも。吳志に「策創甚、呼レ權佩二印綬一」

【印影】イン エイ　印を捺してうつりたる形。轉じて、印そのものをもいふ。

【印檢】イン ケン　捺印して封ず。何晏「故鄉有二書信一、縱橫印檢開」

【印譜】イン フ　いろいろの印影を集めたる書。學古編に「宣和印譜四卷」

【印鑑】イン カン　印章の見本。いんかがみ。

【印鹿】イン ジ　しるし。漢書に「單于印璽與二天子一同」

【危】キ、ギ。牛爲切。支。㊀あやふし㊁あやぶむ㊂あやふくす㊃おつ㊄屋の棟の上㊅たかし(高)㊆ただし(正)㊇はげし(厲)㊈うみやめ(廿八宿の一)。

【危坐】キ ザ　ただしくすわる。史記に「宋忠賈誼、瞿然而悟、獵纓正レ襟危坐」

【危空】キ コウ　たかきそら。盧綸「棧道響二危空一」

【危怖】キ フ　あやぶみおそる。吳志に「人居二世間一、猶二白駒過レ隙、而常抱二危怖一其可レ言乎」

【危拔】キ バツ　あやふし。唐書に「今城危拔」

【危殆】キ タイ　前に同じ。徐陵「釋二馬窮途一、唯濟二危殆一」

【危急】キ キフ　さしせまりたる危難。諸葛亮「此誠危急存亡之秋也」

【危悚】キ ショウ　あやぶみおそる。沈炯「延レ首當レ閣、轉增二危悚一」

【危砌】キ セイ　たかきいしだたみ。韋處厚「雨合飛二危砌一、天開卷二曉窓一」

【危然】キ ゼン　正しき貌。莊子に「危然得二其所一」

【危滑】キ クワツ　あやふくしてすべる。方干

「此中危滑轉レ身難」

【危慄】あやぶみおそる。易林に「鳥鳴ニ葭端一、呼三顧、動ニ搖東西一、危慄不レ安」

【危窘】あやふくせまる。五代史に「善因ニ危窘一出ニ奇計一」

【危榭】たかきうてな。(厚榭)。江總「危榭引ニ清風一」

【危溺】くるしみなやむ。唐書に「聖哲乘レ機、拯ニ其危溺一」

【危樓】たかきうてな。(岑樓、雲樓)。劉宰「大江東下峙ニ危樓一」

【危機】危害のおこらんとするきざし。あぶなきなり。晉書に「貧賤常思ニ富貴一、富貴必踐ニ危機一」

【危險】あやふくけはし。又、要害の地。南史に「以ニ江南危險一、宜レ立ニ重鎭一」

【危篤】やまひおもし。

【危檣】たかきほばしら。許渾「危檣轉レ浦斜」

【危懸】あやふくたれかかる。庾信「松桂危懸、風泉虛韻」

【危難】あやふきわざはひ。史記に「儀說ニ楚王一曰、秦兵之攻レ楚也、危難在ニ三月之內一」

【危懼】あやぶみおそる。書經に「慄慄危懼、若レ將隕ニ于深淵一」

【危欄】たかきてすり。李商隱「輕レ命倚ニ危欄一」

【危言危行】言行を高くす。論語に「子曰、邦有レ道危レ言危レ行、邦無レ道危レ行言孫」

【危如ニ累卵】あやふきことかの如し。史記に「秦王之卵を累ねたるがごとし。人生のはかなきに喩ふ。史記、商君傳に「君危若ニ朝露一、尙將欲ニ延レ年益レ壽乎」又、漢書に「人生如ニ朝露一、何久自苦如レ此」

五 書

【卽】セウ、ゼウ。市招切。蕭。たかし(高)、まさる。ソク。卽の俗字。

【却】キヤク、カク。卻の俗字。

【卵】ラン。盧管切。旱。ゆ たまご、かひこの魚の子。ろ コン。古門切。元。

【卵生】魚・鳥などの如く、卵の形にて生るるもの。禮記に「卵生者不レ洫」

【卵塔】そとば。はか。陸游「卵塔空尋默默師」

【卵翼】親鳥の卵を孵し、雛をはぐくむ如く、父母の兒を育つるをいふ。左傳に「楚子西謂ニ白公勝一曰、勝如レ卵、余翼而長レ之」

【卯】ボウ、ビ。兵媚切。寘。ゆ ヒ、ビ。兵媚切。寘。ろ シツ、シチ。所櫛切。質。ゆ つかさどる(宰)ろ 玉の鮮潔なる約。

六 書

【卯】シ。施智切。寘。よろこぶ、よろこび(慶)。ゆ ケン、クワン。居倦切。霰。ろ 居轉切。銑。ゆ コン。古本切。阮。ゆ ケン、ゲン。巨員切。先。

【卷】ゆ 一 まき(古昔、支那にては、竹簡に文字を書し、卷舒せらるる樣に製製せり、故に書物を凡べて「まき」といふに至れり)二 まがる、かがまる(卻)ろ まく(捲に同じ)、たさむ(斂)、とる(取)ゆ 貴人の禮服(袞に同じ)ゆ 一 まがる、かがまる(曲)二 ちひさし三 つつしむ(倦に通ず、謹)、れんごろ(懇)四 みめよし、好き貌。

【卷石】ひとかたまりのいし。中庸に「今夫山、一卷石之多」

【卷甲】よろひを卷きたさむ。兵戈を止むるにいふ。晉書に「卷レ甲韜レ旗、廣ニ農桑之務一」

【卷舌】したをまく。驚歎する貌。漢書に「禮官博士卷ニ其舌一而不レ談」

【卷耳】〔植〕みみなぐさ。(苓耳)。詩經に「采ニ采卷耳一、不盈ニ傾筐一」

【卷舒】まくとのぶると。又、進退の義。韓愈「卷舒不レ隨ニ平時一」

【卷經】聖人の書をまきたさむ。北史に「卷レ經而不レ談」

【卷置】まきたさめおく。周禮、注に「謂レ卷ニ置櫜中一也」

【卷懷】まきてふところにす。已が才能を晦ます義。張仲素「可ニ卷而懷一、謂ニ其製之貴焉一」

【卷土重來】一度失敗したる者が再び勢力を得て攻め來る。杜牧「江東子弟多ニ才俊一、卷レ土重來未レ可レ知」

七 書

【卸】シヤ、セ。四夜切。禡。一 ぬぐ二 おろす三 おつ(落)。

【卸】國訓 おろす、おろし(小賣商人に賣る)。

【卹】ゆ シュツ、シュチ。雪律切。質。ろ ソツ、ソチ。蘇骨切。月。ゆ めぐむ、あはれむ(恤に同じ)ろ かきなづ(撫摩)。

【却】キヤク、カク。卻の俗字。

【卷】キン、コン。乞隱切。軫。ひさご、さかづき(婚禮の式に用ゐる酒器)。

【卻】キヤク、カク。去約切。藥。一 とどまる(止)二 受けず三 しりぞく(退)四 あぶぐ(仰)五 かへりて六 ひま、すきま(閒隙)。七 六書正譌に「俗に、却、卻に作るは竝に非なり」

【卻走】しりぞきはしる。說苑に「赤レ有レ異乎卻走而求レ逮ニ前人一也」

【卻步】あとしざり。(退步)。蕭子顯「遇レ身隱ニ日扇一、卻步斂ニ風裾一」

【卻棄】しりぞけすつ。杜甫「衆魚常才盡卻棄、赤鯉躍出如レ有レ神」

【卻縮】しりぞきちぢまる。易林に「遷延卻縮、不レ見ニ頭目一」

【卼】ゴツ、ゴチ。五忽切。月。或は伉に作る。あやふし(危)。ギヨ、ゴ。魚據切。御。一 たさむ(理)二 すすむ(進)。

【却】ショク、ソク。子力切。職。

【卽】俗に、卽、即に作る。一 つく(就)二 ちかづく(近)三 ちかし(近)四 いま(今)五 すなはち六 もし(若)七 みつ(充實)八 もえさし(燭炬の燼)。日因留ニ沛公一與飲」

【卽日】そのひ。當日。史記に「項王卽

【卽世】死ぬ。國語に「闔閭卽レ世」

【卽且】〔動〕むかで。

【卽死】その場にて直に死ぬ。

【卽吟】その場にて作る詩歌。

【卽位】天子の位につく。左傳に「元年春王周正月不レ書ニ卽位一、攝也」

【卽周】ともしびのさきのもえさし。禮記に「卽周、燭頭燼也」

【卽事】その時見たる景色、事柄。

【卽刻】すぐそのとき。ただちに。

【卽炤】〔動〕ほたる。爾雅に「螢火卽炤」

【卽卽】なんどりのなきごゑの形容。論衡に「雄鳴曰ニ卽卽一」

【卽席】一 せきにつく。儀禮に「卽レ席坐」二 そのば、そのざ。

【卽座】前に同じ。

【卽答】直にこたふ。

【卽墨侯】硯の異名。文房四譜に「石虛中字居默、南越人、拜ニ卽墨侯一」

【卽心是佛】〔佛〕悟をひらき、その身そのまま佛となる。傳燈錄に「馬祖道卽心是佛」

九 書

【鄂】カク。遊各切。藥。鄂と異なり。うはあご(口中の上部)。ケイ、キヤウ。丘京切。庚。一 あきらかに(章)二 きみ(朝廷の高官、執政の臣)三 なんぢ(秦以後、天子の臣下を呼ぶに用ゐる稱)四 人の敬稱。五 むかふ(嚮)六 たっとぶ(貴)。

【卿】

【卿相】公家大臣。朝政をとる重職。詩經、疏に「宜入ニ王朝一而爲ニ卿相一也」

【卿卿】妻より夫を呼びていふ代名詞。世說に「親レ卿愛レ卿、是以卿レ卿」

【卿雲】めでたきくも。(慶雲、景雲。)。虞舜「卿雲爛兮、禮縵縵兮」

十一畫

【厀】シツ、シチ。息七切。質。今俗に、膝に作る。ひざふし(脛頭)。

【餕】シュン。子閼切。願。あやふし(危)。

十六畫

【䙴】セン。七然切。先。うつる、うつす(遷に同じ)。

厂部

部首

【厂】㋑カン。呼旰切。翰。㋺ゲン、ゴン。魚枕切。鹽。㋑㊀きし(岸)㊁いはほ(巖)㋺巖に同じ、省きて厂に作る。国訓がん(雁)。

二畫

【厃】㋑ギ。五委切。紙。㋺セン、ソン。之廉切。鹽。㊀あふぐ(仰)㊁すみぎ(屋梠)。

【厄】㋑グヮ。五果切。哿。㋺アク、ヤク。於革切。陌。㋑㊀梔に同じ、きのふし(木節)㊁肉なき骨㋺戹に同じ、わざはひ、あやふし。

【厄災】ヤクサイ わざはひ。

【厄難】ヤクナン 前に同じ。(禍難)。易林に「踐二履厄難一、脫二去危患一」

三畫

【𠨎】シン、ジン。市眞切。眞。辰に同じ。

四畫

【厊】ガ、ゲ。五下切。馬。たがふ。

【㕂】ヒ、ビ。符羈切。支。水なめにながる。

【厈】セキ、シャク。川隻切。陌。おふ(逐)。

【厷】シ。之是切。紙。㊀いたす(致)㊁ひとし(均)㊂たひらかに(平)㊃こゑ(聲)。

【仄】ショク、シク。阻色切。職。㊀いやし(陋)㊁かたぶく(傾)。

五畫

【厎】㋑シ。軫視切。紙。㋺旨而切。支。㋩テイ、タイ。都黎切。齊。㋥チ。陟利切。寘。㋑㊀とぐ(礪)㊁いたす(致)㊂さだむ(定)㋺㊀といし(柔石)㊁とぐ㋩いたる(至)㋥いたす。

【厏】㋑サ、セ。側下切。馬。㋺サク、シャク。陟格切。陌。㋑くひちがふ(齟齬)㋺俗に、窄に作る、せまし(狹)。

六畫

【㕇】㋑ラフ、ロフ。落合切。合。㋺リフ。力入切。緝。㊀石の聲㊁とりひしぐ(拉)。

【厒】㋑カフ、コフ。渴合切。合。㋺ケフ、コフ。乞業切。葉。やまぎし(山の左右にある岸)。

【厓】㋑ガイ、ゲ。宜佳切。佳。㋺ギ。魚羈切。支。或は、崖に作る。㋑㊀きし、がけ、きりぎし(岸)㊁みづぎは(水畔)㊂かぎり、きは(際限)㊃きはだつ、かぎりあり㊄まなじり、にらむ(睚に同じ)㋺きし。

【厓眥】ガイシ にらみみる。漢書に「厓眥莫レ不二誅傷一」

七畫

【㕅】イ。以支切。支。のむ(飲)、すする(歠)。

【厖】バウ、モウ。莫江切。江。㊀おほいなり(大)㊁あつし(厚)㊂ゆたかなり(有)㊃まじる、まじはる(雜)。

【厖大】バウダイ 甚だ大いなり。

【厖眉】バウビ としより。老人。四子講德論に「厖眉耆耇之老」

【厖然】バウゼン 甚だ大いなる貌。

【㕎】ガ。牛何切。歌。けはし、さがし(峨に同じ)。

【厘】テン、デン。直連切。先。俗に、釐の省となすは非なり。みせ、たな、いちぐら(市鄽)。

【厚】コウ、グ。很口切。有。㊀あつし(薄の對)㊁おほいなり(大)㊂こし(濃)㊃むつまじ(睦)㊄あつさ㊅あつくす。

【厚生】コウセイ 民のくらしをにぎはす。書經に「正レ德利レ用、厚レ生惟和」

【厚志】コウシ れんごろなるこころざし。

【厚味】コウミ うまき食ひもの。(美味)。列子に「豐屋美服、厚味姣色」

【厚恩】コウオン てあつきめぐみ。(崇恩)。舊唐書に「實慚二尸素一、有レ愧二厚恩一」

【厚待】コウタイ あつくもてなす。(敬待、禮待)。宋史に「故吾厚二待之一」

【厚秩】コウチツ てあつきふち。北史に「高位厚秩、與レ時終始」

【厚脣】コウシン あつきくちびる。周禮に「厚脣弇口、出目短耳」

【厚眷】コウケン あつきめぐみ。優渥なる恩顧。(深眷)。唐明皇「答二人神之厚眷一」

【厚情】コウジヤウ てあつきこころ。

【厚遇】コウグウ てあつきもてなし。(寵遇)。漢書に「漢王厚遇レ之」

【厚酬】コウシウ てあつくむくゆ。宋史に「厚酬以二金帛一」

【厚意】コウイ れんごろなるこころ。後漢書に「詔曰、倉卒蕪蔞亭豆粥、滹沱河麥飯、厚意久不レ報」

【厚葬】コウサウ てあつきはうむり。莊子に「莊子將レ死、弟子欲二厚葬レ之」

【厚祿】コウロク てあつきふち。漢書に「無レ使下二素餐之吏一久尸中厚祿上」

【厚福】コウフク あつきさいはひ。宋史に「能保全而享二厚福一者、由二忠正一也」

【厚榭】コウシヤ たかきうてな。(危榭)。墨子に「高臺厚榭」

【厚賜】コウシ てあつきたまもの。詩經、疏に「受二此厚賜一也」

【厚賞】コウシヤウ てあつくほむ。てあつき褒美。(重賞)。書經に「功多有二厚賞一」

【厚撫】コウブ てあつく慰めやすんず。北史に「毎厚二撫境外之人一」

【厚澤】コウタク てあつきめぐみ。虞世南「鴻施浹二幽遠一、厚澤潤二凋枯一」

【厚積】コウシ ゆたかなるたくはへ。(多積)。陸游「富商豪吏多二厚積一」

【厚謝】コウシヤ あつく禮をいふ。唐書に「更爲二遜言一厚謝」

【厚薄】コウハク あつきとうすきと。淮南子に「豈其趨捨厚薄之勢異哉」

【厚顏】コウガン あつかまし。面皮厚きものは感鈍くして恥を知らずとの意。(鐵面皮)。北山移文に「豈可レ使二芳杜厚顏、薜荔蒙レ恥」

【厚綃】コウシヨウ あつききぬ。後漢書に「陛下躬服二厚綃一」

【㕀】㋑イウ、ユ。以周切。尤。㋺シウ、シュ。子由切。尤。のき、たるき(簷椽)。

八畫

【厜】㋑シ。姊宜切。支。㋺スヰ、ズヰ。是爲切。支。或は崒に作る。やまのいただき(山巓)。

【厝】㋑サク。淸各切。藥。㋺ソ、ス。倉故切。遇。㋑㊀といし(厲石)㊁みがく(磨)㊂まじろ(錯の古文字、混)㋺おく(措に同じ、置)。

【㕐】㋑ガイ。牛代切。隊。㋺タク、チャク。陟革切。陌。㊀おほふ㊁石の名。

【𠩄】ショク、シキ。札色切。職。㊀かたぶく(傾)㊁いやし(陋)。

【厞】ヒ、ビ。父沸切。未。㊀かくろ、かくす(隱)㊁かすかに(幽)㊂いやし(鄙)㊃くらし(暗)㊄せまし(陋)。

【厚】シュン、ジュン。朱倫切。眞。㊀いたろ(至)㊁れんごろ(誠懇)㊂ひたす(漬)。

【㕍】タイ、テ。都回切。灰。或は堆に作る。うづたかし(聚土)。

【原】ゲン、グワン。魚袁切。元。
一はら、平かにして廣き處二もと(本)三みなもと(源に通ず)四ふたたび(再)五かさぬ(重)六もとづく(基)七たづぬ(尋)八ゆるす(宥)九つつしむ(愿に同じ、謹)、すなほなり(直)。
【原人】一人の性に本づきしたがふ。韓愈に原人の篇あり。二未だ發達せぬ太古の人間。
【原子】〔理〕Atom. 元素の分子を構成するもの。
【原天】天理にもとづき從ふ。天道をたづねもとむ。
【原文】一かき改めざる前の文。二譯し改めぬもとの文章。譯文の對。
【原心】こころをたづぬ。漢書に「原心定罪、探意立情」
【原田】はらとたと。左傳に「原田每每、舍其舊而新是謀」
【原由】事のもと。おこり。
【原本】一もと。根本。漢書に「教化之原本」二もとの書物。もとの文書。
【原色】〔理〕紅・黃・青の三色の稱。この三色の混合の度によりてスペクトル中に表はる如何なる色をも作り得べければなり。
【原因】物事のおこり。もと。
【原告】〔法〕訴訟を提起したる人。被告の對。
【原委】ゲン、ヰ。木と末と。禮記に「或原也、或委也」
【原始】はじめをたづぬ。又、はじめ。易經に「原始反終、故知死生之說」
【原則】もととなる規則。
【原宥】ゆるす。蔡邕「雖見原宥、仰愧三先臣、傷肌入骨」
【原活】死罪をゆるしていかす。唐書に「原活其餘」
【原泉】みなもと。(源泉)。孟子に「源泉混混、不舍晝夜」
【原案】もとのままの文案。
【原野】のはら。杜甫「始喜原野闊」
【原動】運動又は活動をおこすもと。
【原測】たづねはかる。(計測)。淮南子に「原二測淑清之道」
【原道】一もとのみち。二道の本源をたづぬ。韓愈に原道の篇あり。
【原廟】已に正廟を立てて更に重ねて、廟を立つること。漢書に「以三沛宮、爲三高祖原廟」
【原頭】はらのほとり。王昌齡「白草原頭望三京師」
【原藏】のはらとやぶと。孔子家語に「放牛馬於原藏」
【原隰】高きはらと低きはらと。詩經に「畇畇原隰、曾孫田之」
【原鶩】二度目のかひこ。二化蠶。淮南子に「原蠶歲再收」

九畫

【厠】シ。初寺切。廁。
一かはや二まじふ、まじはる(雜)三つぐ、ついづ(次)四いやし、いやしむ五そば(側)六きし、ほとり。
【厠牀】かはや。英雄記に「置三厠牀中」
【厠溷】前に同じ。(溷厠)。歸田錄に「雖三厠溷間、燭淚成堆」
【厠廁】前に同じ。
【悉】一り。陵之切。支。二チ、ヂ。澄之切。支。三さく、ひらく(坼)四なさむ、なさまる(治に通ず)。

十畫

【厤】レキ、リヤク。力的切。錫。
一曆の古文字二ふ、わたる(歷に同じ)三なさむ、なさまる(治)。
【厥】一ケツ、コチ。居月切。月。二クツ、コチ。九勿切。物。三その、それ(其)四みじかし(短)五さぐ、たる(頓に同じ、垂)六ほる、あばく(掘に同じ)七神氣逆上のやまひ(丈びす(突厥)。
【厥角】頭をさげて禮を行ふ貌。漢書に「漢諸侯王、厥角稽首」
【厥尾】尾のみじかき犬。中山詩話に「今人呼三尨尾狗、爲三厥尾」

【厥初】ケツ。そのはじめ。書經に「愼三厥初、惟三厥終、終以不レ困」
【厦】サ、セ。所嫁切。禡。一說に、廈の俗字。いへ、はりだしたるいへ(旁屋)。
【厯】一カフ、コフ。克盍切。合。二アフ、ガフ。烏合切。合。
【厲】一くづる(崩損)二ほらあな。テン。多年切。先。一つか(塚)二とどむ、とどまる(止)。

十一畫

【厩】キウ、ク。居又切。宥。廐の俗字。うまや(馬舍)。
【厳】キン、ギン。渠遴切。震。一こや(小屋)二わづかに(少)。ケイ、ケ。九芮切。霽。一せまる(迫)二せまし(迮)。
【厭】一シ。胥里切。紙。二ヨク、イキ。逸織切。職。とがる、とがり、かど。
【厳】一ギン、ゴン。魚金切。侵。二カン、コン。虎豔切。感。三タン、トン。吐敢切。感。四ガン、ゴン。五敢切。感。六けはし、さがし(險)七山のけはしき貌八山石の峙ちたる貌。
【厬】キ。短飾切。紙。
【厭】一かわく(潤)二水厓の枯土。一エフ、ガフ。於葉切。葉。二エン。於豔切。豔。三於琰切。琰。四アフ、エフ。乙甲切。洽。五イフ、ガフ。乙及切。緝。六おす(壓)七おさふ(抑)八つぶす(潰)九はらふ(禳)十あふ、あはす(合)十一そこなふ(損)十二あたる(當)十三したがふ(從)十四おそはる(魘)十五あく(飽)十六おそはる(魘)十七ふさぐ(鎖)十八いとふ(厭)十九ふさぐ(塞)二十つかる(疲)二十一うむ(倦)二十二にくむ(惡)二十三たつ(絕)二十四すつ(棄)二十五かくす(藏)、おほふ(掩)二十六おそふ(魘に同じ)二十七やすし(懸に同じ、安)、しづかなり(靜)二十八おす(押)二十九のぞむ(臨)三十うるほふ(潤)とおぼる(溺)。
【厭世】人生をいとふ。莊子に「千歲厭レ世、去而上僊」
【厭目】めをおほふ。荀子に「厭目而視者、視レ一以爲レ兩也」
【厭服】いとひながらしたがふ。後漢書に「莫レ不三厭服一焉」
【厭浥】うるほふ。詩經に「厭浥行露」
【厭祭】神靈に食を供へまつる。禮記に「攝主三厭祭」
【厭患】きらひにくむ。又、うれふ。
【厭然】一したがふ貌。荀子、注に「厭然、順服貌」二おほふ貌。大學に「見三君子一而后厭然」
【厭揖】手をひくと手をだすと。儀禮に「推手曰レ揖、引レ手曰レ厭」
【厭煩】いとはしくうるさし。劉恕「厭煩趨レ易、行將三泯絕」
【厭飫】食にあく。轉じて、人を疎んず。楚辭に「時厭飫而不レ用兮」
【厭當】おさへつく。漢書に「東游以厭三當之一」
【厭飽】あきいとふ。(饜飽)。易林に「行者疾至、可三以厭飽一」
【厭厭】一勢のみちみちたる貌。詩經に「厭厭其苗、綿綿其麃」二安靜なる貌。詩經に「厭厭良人、秩秩德音」
【厭翟】雉の羽の車かざり。周禮に「王后厭翟」
【厭縱】あきたりて我儘なり。國語に「豈敢厭三縱其耳目心腹一以亂三百度一」
【厭離】〔佛〕この世をいとひはなる。往生要集に「一厭離穢土、二欣求淨土」
【厭】シ。相杏切。支。厭に同じ。
【厭】一しもべ(僕)二わかつ、わかる(分)三はなる(離)。
【厭徒】しもべつかひ。史記に「厭徒負養在三其中一矣」
【厭養卒】しもべつかひ。こもの。漢書に「有三厭養卒一」

【厭】テン、デン。堂練切。厭。奠に同じ。

十三畫

【厳】キ、ギ。魚爲切。支。
けはし(險)。

【辟】㊀セキ、シャク。之石切。陌。
㊁ヘキ、ヒャク。匹歷切。陌。
一かたぶく(仄)二いやし(陋)。

【厖】㊀カン、ケン。苦咸切。咸。㊁ケン、ゴン。丘嚴切。鹽。㊂ケツ、ケチ。呼血切。屑。㊃ラン、ロン。盧甘切。覃。㊄ゲン。魚檢切。琰。
はあなたみがく(磨)。厓岸の危き貌。

【厲】㊀レイ。力制切。霽。㊁ライ。落蓋切。泰。㊂レツ、レチ。良薛切。屑。
一あらと(麁質の砥)二とぐ(研)、みがく(磨)三はげし(烈)、たけし(猛)五おごそかに、きびし(嚴)六たかし(高)七あやふし(危)八いそがし(急)、はやし(疾)九おそろふ、おこす(興)十あがる、あぐ(抗)十一くむ(疾)苦しへたぐ(虐)十二はげむ、はげます(勵)十三がけ(岸の危き處)十四あし(惡)、みにくし(醜)十五やむ(病)、えやみ(疫)、わざはひ(禍)、たたり(祟)十六さかひ(界域)十七おほおびる
かったい(癩病、癩疾)十八一おごそかに二襲に垂る飾。

【厲人】かたち醜き人。莊子に「厲人唯之恐二其子一、遽取レ火而視レ之、汲汲然恐二其似レ己也」

【厲民】たみをしへたぐ。孟子に「厲民以自養也」

【厲色】顏色をはげしくす。晉書に「厲レ色謂二左右一」

【厲行】きびしく行ふ。又、行をみがく。魏志に「祇節厲行、秉レ心不レ回」

【厲兵】武器をとぐ。(礪兵)。戰國策に「繅レ甲厲兵」

【厲風】一西北のかぜ。呂氏春秋、注に「厲風乾氣所レ生、一曰二不周風一」二おほかぜ。莊子、注に「厲風大風」三さびしく吹く風。莊子、注に「厲風悲風」

【厲鬼】やまひのおに。左傳に「今夢黃熊入二于寢門一、其何厲鬼也」

【厲莊】はげしくおごそかなり。柳宗元「韓安平厲莊端毅」

【厲疾】一はげしくはやし。禮記に「季冬之月、征鳥厲疾」二癩病の稱。

【厲階】怨をまねくいとぐち。詩經に「誰生二厲階一、至今爲レ梯」

【厲揭】水を涉る。衣を持ちて深き處を涉るを厲、衣をかかげて淺瀨を涉るを揭といふ。論語に「深則厲、淺則揭」

【厲禁】きびしくとどむ。(嚴禁)。周禮に「守二王宮與二野舍一之厲禁一」

【厲精】精出してつとむ。唐書に「天于厲精致レ治、視容清明」

【厲廟】おごそかにしてつつしむ。(嚴廟)。禮記に「色容厲廟、視容清明」

【厲聲】こゑをはげしくす。宋史に「厲聲折レ之曰、懦語沮レ軍、可レ斬也」

【厳】エウ。餘昭切。蕭。
ゐどころ(座)。

【厳】テン。多年切。先。
つか(塚)。

二十九畫

【厳】ゲン、ゲウン。源に同じ。

厶 部

部首

【厶】㊀シ。息夷切。支。
㊁ボウ、モ。亡后切。有。
㊂一わたくし(私に通す)二かたまし(姦邪)三それがし(某に同じ)。

二畫

【去】コウ。姑弘切。蕩。肱の本字。
リン。力神切。眞。鄰の古文字。

【厹】キウ、グ。巨鳩切。尤。
一三隅の矛二けだかし(氣高)。

厸 部

三畫

【去】㊀キョ、コ。丘據切。御。
㊁口擧切。語。㊂丘於切。魚。
一さる(行)二はなる(離)三たがふ(違)四すつ(棄、徹)五なさむ(藏)六のぞく(除)七はす(驅)に同じ。

【去來】キョライ ゆくとくると。張說「共知世事何嘗定、且喜年華去復來」

【去留】キョリウ 事の成らざると成ると。史記に「今吾事之去留在二張君一」

【去就】シュウ さるとどまると。己が身の處置。漢書に「知二去就之分一」

【去禁】キョキン 禁令をやむ。左傳に「使レ有司寬政、毀レ關去レ禁薄レ斂已責」

【去聲】シャウ 漢字四聲の一、送・宋・絳・寘・未・御・遇・霽・泰・卦・隊・震・問・願・翰・諫・霰・嘯・效・號・箇・禡・漾・敬・徑・宥・沁・勘・豔・陷の三十韻に分つ、これに屬する字は皆仄字なり。

【去來今】コライ・〔佛〕過去・現在・未來の略語。圓覺經に「無起無滅去來今」

【去者日疎】サルモノハヒニトトシ 相別れては漸く疎遠となる。古詩に「去者日以疎、生者日以親」

【厸】キョ、コ。去の本字。

九畫

【厹】イウ、ユ。與久切。有。或は菱に作る。

【參】㊀サン、ソン。倉含切。覃。㊁桑感切。感。㊂シン、ソン。所今切。
一みつ(三に通ず)二はかく、さそふ(誘に同じ)。
ろ(謀度)三わかつ(辨別)四まじはる、まじる(參錯、開廁)五あづかる(與)、くははる(加)、つちなる(列)六まゐる(覲)七まみゆ(謁)八つれ(同伴)九から(二十八宿の一)十まじふ(雜に同じ)十一むらがり立つ貌二齊しからざる貌(參に同じ)三長き貌。

【參伍】サン 入りまじる貌。荀子に「參伍明謹施二賞刑一」

【參夷】サイン 三族を誅す。(夷三族)。漢書に「商鞅造二參夷之誅一」

【參兩】サンリャウ 天と地と。易經に「參レ天兩レ地而倚レ數」

【參考】サンカウ てらし合せてかんがへ定む。魏志、注に「又參二考衆家一」

【參坐】サンザ 三人竝びすわる。戰國策に「因興レ之參二坐於衞君之前一」

【參具】サング 三つ備はる、卽ち、主は明に、相は知に、將は能なること。管子に「主レ兵必參具者也」

【參佐】サンサ 人のたすけをなす下役。魏志に「上疏固辭、歸二功參佐一」

【參決】サンケツ かんがへさだむ。元史に「日直二內廷一、參二決機務一」

【參看】サンカン てらしあはせてみる。

【參政】サンセイ まつりごとにあづかる。又、その官名。宋史に「目爲二魚頭參政一」

【參和】サンクワ 民を恤むこと、正しきこと、直きことの三つを備ふるをいふ。左傳に「恤レ民爲レ德、正レ直爲レ正、正レ曲爲レ直、參和爲レ仁」

【參差】シン そろはざる貌。高低出入ある貌。詩經に「參差荇菜、左右流レ之」

【參校】サンカウ いろいろ照しあはせて考ふ。柳宗元「得二大尉實跡一、參校備具」

【參酌】サンシャク はかりてよきをえらびとる。(斟酌)。後漢書に「參二酌秦法一」

【參差】シン 一叢り立つ貌。東晉「參參其檻」二ながき貌。張衡「長二金佩之參參一」

【參辰】サンシン 星の名。孔平仲「皎皎橫二參辰一」

【參商】サンシャウ 參と商との二星は相遠ざかるより、別れて後、久しく相會はざるにいふ。陸機「形影參商乖」

【參畫】サンクワク はかりごとにまじはる。元稹「參畫盡敦庸」

【參朝】サンデウ 朝廷にまゐる。(登朝)。舊唐書に「參朝之日、宜レ在二本品見任之上一」

【參與】サンヨ 事にあづかる。

【參罰】サンバツ 星の名。漢書に「太歲在レ巳、

太初在二參罰一」

【參管】サンクワン あづかり掌る。五代史に「參二管要機一」

【參綜】サンソウ 干渉してすべ治む。晉書に「殷浩爲二揚州刺史一、參二綜朝權一」

【參謀】サンボウ ㊀事にあづかりてはかる。劉克莊「丞相曾參二督府謀一」㊁幄幕の中にありてはかりごとにあづかる役。李氏利譏に「參謀秦漢之職、在二寶幕中一、籌二畫戎機一」

【參稽】サンケイ てらし合せて考ふ。荀子に「參二稽治亂一、而通二其度一」

【參總】サンソウ あづかりすぶ。唐書に「與二中書令一參總、而顧二判省事一」

【參禪】サンゼン 禪の道をまなぶ。蘇軾「暫借二好詩一消二永夜一、每レ逢二佳處一輒參禪」

【參贊】サンサン たすく。(翼贊)。南史に「欲レ引二時賢一參贊大業一」

【參議】サンギ 大政の議にあづかる。又、その官名。後漢書に「以レ固爲二中護軍一、與參レ議」

【參羅】サンラ まじはりならぶ。鄭符「衆象參羅、暾暾田田」

【參纂】サンサン 參考して撰輯す。唐書に「詣二祕書內省一參纂」

【參驗】サンケン 參考してしらぶ。韓非子に「循二名實一、而定二是非一、因二參驗一、而審二言辭一」

【參觀】サンクワン ゆきてみる。

【參牟子】サンボウシ 瞳の二重なるもの。荀子に「堯舜參牟子」

【參天貳地】サンテンジヒチ 德を地にくらぶるはこれ地を二にするなり。地と己と天とを并せて三とす、これ天を三にするなり、德を天地に均しくする義。司馬相如「勒二思乎參天貳地一」

【參知政事】サンチセイシ 宋代に、宰相の下にありて、國家の大政に參與し、庶務を掌理せし役。宋史に「參知政事掌レ副二宰相一、毗二大政一、參中庶務一」

十畫

【叅】サン、ソン、シン、ソン。參の俗字。

十二畫

【𠬝】シュン。七倫切。眞。㋐子峻切。㋑セン。逡緣切。先。

【又】イウ、ウ。有救切。宥。㊀て(手)㊁また(復)㊂さらに(更)㊃ふたたび(復)㊄たすく(祐)㊅ゆるす(宥)。

【又生】マタイウシヤウ また一つの敵を作れり。敵たる秦國ある上に他に一つの敵國を生ずといふ義。史記に「秦未レ亡而誅二武臣等家一、此又生二一秦一也」

一畫

【又】㋐サ、セ。初牙切。麻。㋑サイ、セ。初皆切。佳。㋒一こまぬく(拱手)㊁まじふ㊂わかる(分)㊃ふたまた(兩枝)㊄かんざし(釵に同じ)。

【又手】シユウ うでぐみす。(交手)。全唐詩話に「溫庭筠才思豔麗、中略凡八叉手而八韻成」

二畫

【叉】サウ、セウ。側巧切。巧。爪の古文字。つめ(手足の甲)。

【及】キフ、ギウ。渠立切。緝。㊀およぶ、およぼす、および(逮)㊁いたる(至)㊂かかる(繫)㊃つぐ(繼)㊄おふ(追)㊅と、ともに(與)。

【及瓜】キフクワ 任期の滿つるをいふ。左傳に「瓜時而往、曰、及レ瓜而代」

【及第】キフダイ 試驗に合格す。(登第)。唐書に「舉二明經一及第」

【及追】キフツイ おひつく。

【及逮】キフタイ おひつく。魏志に「但恐見二禁制一、不二相及逮一耳」

【友】イウ、ウ。于九切。有。㊀とも㊁いつくしむ、いつくしみ㊂ともとす、ともなふ。

【友于】ユウウ 兄弟の仲むつまじ。書經に「惟孝友二于兄弟一」

【友生】ユウセイ ともと。友人。詩經に「矧伊人矣、不レ求二友生一」

【友朋】ユウホウ 前に同じ。左傳に「豈不レ欲レ往、畏二我友朋一」

【友直】ユウチヨク 正しきものを友とす。論語に「友レ直、友レ諒、友二多聞一」

【友悌】ユウテイ 兄弟の仲むつまじ。唐書に「孝慈友悌、忠信篤行」

【友善】ユウゼン 友としてなかよし。蜀志に「惟博陵崔州平徐庶與レ亮友善」

【友愛】ユウアイ ㊀兄弟のいつくしみ。吳志に「友愛甚篤」㊁朋友のしたしみ。

【友睦】ユウボク 兄弟の仲むつまじ。南史に「兄弟友睦、修レ身勵レ行」

【友樂】ユウガク むつまじくまじはる。詩經、傳に「宜レ以二琴瑟一友樂之」

【友穆】ユウボク 兄弟の仲やはらぎてむつまじ。宋書に「弘微少孤、事レ兄如レ父、兄弟友穆之至、聲レ世莫レ及也」

【叉】

ポツ。沒の古文字。

【双】

サウ。雙の俗字として用ゐるは非なり。

【収】

キヨウ、ク。居竦切。腫。又、拜に作る。㊀つつしむ(竦手)㊁手をあはす。

【反】

㋐ヘン、ハン。甫遠切。阮。㋑ハン、ヘン。孚銀切。刪。㋒ハン、ヘン。パン。孚萬切。願。㋓ハン。方願切。願。㋔ヘン、ハン。甫遠切。阮。㋕ハン、ヘン。部版切。潸。㋖ハン、ヘン。孚銀切。刪。㋗ハン、ヘン。パン。孚萬切。願。㋘ハン。方願切。願。㋙そむく、たがふ、もかへす㊁かへる、かへって㊂そむく、たがふ、もどる、むほんする㊃かへす㊄かへる㊅ひるがへる、ひるがへす㊆かへし(切に同じ、或字の發聲と、或字の聲韻と相磨して、一の聲韻をなす法)㊇かたし(難)㊈くつがへす㊉ひさぐ(販に同じ)㊊くつがへる、くつがへす(覆)。

【反反】ハンハン つつしみて嚴かなる貌。詩經に「其未レ醉止、威儀反反」

【反手】ハンシユ 事の極めて易きをいふ。孟子に「以レ齊王、由レ反レ手也」

【反切】ハンセツ 一漢字の音を表するに他の簡易なる二字を以てする法をいふ。即ち、上の字(切字)の聲と下の字(韻字)の韻とを合せて一音を構成す。宋景文筆記に「孫炎作二反切一、語本二于俚俗一」

【反正】ハンセイ 正しき道にかへす。天下を平定す。國語に「撥亂反正」

【反目】ハンモク 目をそむけてにらみあふ。易經に「夫妻反目、不レ能レ正レ室也」

【反汗】ハンカン 前言を取消す。漢書に「號令如レ汗、汗出不レ反也、今出レ令未レ能踰レ時反レ之、是反汗也」

【反舌】ハンゼツ ㊀えびすの言語。(鴃舌)。呂氏春秋に「蠻夷反舌、皆服二德厚一也」㊁〔動〕百舌の異名。禮記に「反舌無レ聲」

【反求】ハンキウ 我身にかへりみもとむ。中庸に「射有レ似二乎君子一、失二諸正鵠一、反二求諸其身一」

【反命】ハンメイ 使者かへりて報ず。かへりごとす。又、かへりごと。儀禮に「凡使者歸反命曰、某既得レ將レ事矣」

【反坫】ハンテン さかづきのだい。周代に國君相會する時用ゐしもの。論語に「邦君爲二兩君之好一、有二反坫一」

【反戾】ハンレイ そむきもとる。潛夫論に「下民反戾」

【反逆】ハンギヤク 君主にそむきて亂をなす。(亂逆)。通典に「重罪十條、一曰、反逆」

【反俘】ハンフ とりこをかへす。宋史に「信儒曰、反レ俘歸レ幣可也」

【反相】ハンシヤウ むほんの人相。漢書に「汝狀有二反相一」

【反背】ハンハイ そむく。(違背)。書經、傳に「以反二背諷盟之約一」

【反射】ハンシヤ 運動・光・音・熱等の始の方向より全く反對にかへるをいふ。

【反哺】ハンポ 子が親に養はれし恩を、長じて後にかへす。禽經に「慈烏反哺、白眼不祥」

【反倫】ハンリン みちにそむく。埤雅に「負レ類反レ倫、何所レ不レ有」

【反殺】ハンサツ かへりうちにす。周禮に「凡殺人有二反殺者一、使二邦國交讐一之」

【反側】ハンソク ㊀れがへりす。詩經に「悠哉悠哉、輾轉反側」㊁そむく。後漢書に「使二反側子自安一」

【反動】ドウ〔理〕一運動ある時、これと反對に起る一運動。ゆりもどし。

【反貨】クワ 「積二反貨一而爲二商賈一」 くちびるをそらす。驚きあきろる貌。漢書に「反唇而相稽」

【反間】カン 敵中に入りて敵をあざむく語を放ち、又は敵狀を探りて歸るもの。周禮、注に「備二姦人內賊及反間一」

【反掌】ヘンシャウ 事の極めて易きをいふ。說苑に「變レ所レ欲爲、易二於反レ掌一」

【反復】フク くりかへす。蘇軾「歲月如二宿昔一、人事幾反復」

【反景】ハンエイ 夕日のかげ。周權濟「夕陽反景低二黃埃一」

【反經】ハンケイ 常道にそむく。公羊傳に「權者反二于經一、然後有二善者一」

【反葬】ハンサウ 客地にて死にたる者を故鄉に歸りはうむる。北史に「反二葬故里一」

【反駁】ハンバク 反對攻擊す。

【反照】ハンセウ ㊀てりかへす。㊁ゆふひ。

【反道】ハンダウ 道理にそむく。書經に「侮慢自賢、反レ道敗レ德」

【反對】ハンタイ 他のうらはらに出づ。うらはら。

【反撥】ハンパツ ㊀はねかへる。㊁他人の意思行爲等にむかって反對に出づ。

【反影】ハンエイ うつりかへるかげ。一事に應じて表るる他の現象。

【反錦】キン いはれなき贈物を反す義。左傳に「叔向、受レ羹反レ錦」

【反噬】ハンゼイ ㊀そむきかむ。恩を受けたるものに、又は親しかりしものにはむかふ。劉知幾「終反噬而相居」㊁おひつめられて反ってかみつく。

【反璧】ヘキ いはれなき贈物を反す義。左傳に「晉公子重耳及レ曹、僖負羈饋二盤飧一、置レ璧焉、公子受レ飧反レ璧」

【反覆】ハンプク ㊀本へもどす。史記に「欲レ反二覆之一」篇之中、三致レ意」㊁ひるがへす。漢書に「齋夸詐多レ變、反覆之國」

【反響】ハンキヤウ 〔理〕音響の反射をいふ。こだま。やまびこ。轉じて、一言論に對する社會の注意論評などをもいふ。

【反顧】ハンコ うしろをかへりみる。後漢書に「燔二燒屋室一、絕二其反顧之望一」

【反魂香】ハンコンカウ 香料の名。之を焚けば亡き人の靈をかへしてその姿を現すといふ。蘇軾「李夫人死、漢武帝念レ之不レ已、乃令二方士作一反魂香一、燒レ之、夫人乃降」

【反首拔舍】ハンシシヤ 髮を亂し形を壞り衣を毀つさま。左傳に「秦獲二晉侯一、以歸、晉大夫反首拔舍從」

【收】

シウ。收の俗字。

【叟】

㊀クワイ、ケ。古邁切。卦。㊁ケツ、ケチ。古穴切。屑。

【叟】

㊀わかちひらく(分決)㊁ゆがけ(韝)。㊀タウ、トウ。他刀切。豪。㊁なめらか(滑)㊂とる(取)㊃つづみ(鼓)。

三畫

【叔】

シュク、シク。式竹切。屋。㊀ひろふ(拾)㊁なさむ(收)㊂なぢ(季父)㊃なさなきもの(幼者)㊄兄弟の第三者㊅こじうと(小舅)㊆まめ(菽に同じ、豆)㊇よし(俶に同じ、善)㊈する(澆季)㊉する、となる、おとろふ。

【叔父】シュクフ 父の弟。なぢ。檀德輿「叔父貞二素履一」

【叔母】シュクボ 父の弟の妻。なば。南史に「叔母劉撫養」

【叔世】シュクセイ する。のよ。漢書に「三辟之興、皆叔世也」

【叔季】シュクキ する。の兄弟。淮南子に「始平叔季一、歸二乎伯孟一」

【叔粟】シュクゾク 豆とあはと。(菽粟)。漢書に「得レ以二叔粟一當レ賦」

【叔】

セツ、セチ。所劣切。屑。㊀ぬぐふ(刷に同じ、拭)㊁はらふ(掃)㊂さよむ(清)。

【叟】

テツ、テチ。陟劣切。屑。㊀つらなる(連)㊁つづる(聯)。㊂シュ、ス。此主切。爨。㊃ソウ、ス。此苟切。有。

【取】

(採、資)㊁をさむ(收)㊂うく(受)㊃もとむ(索)㊄めとる(娶)㊅とる、もとむ。

【取舍】シヤ とるとすつると。漢書に「莫レ如レ先審二取舍一」

【取笑】セウ 人にわらはる。杜甫「取二笑同學翁一」

【取稱】シヨウ 人にほめらる。舊唐書に「山東人李白、亦以二文奇一取レ稱」

【取青紫】トセイシ 仕官す。吏は青色紫色の印綬を帶ぶ、故にいふ。漢書に「取二青紫一、如俛拾二地芥一耳」

【取二進止一】シンシトル 朝命を仰ぐ。通鑑に「軍國大事、有二不レ決者一、槩取二天后進止一」

【取青媲白】ヒハクヲトル 種種の色をとりならぶ。詩文を作るに字句を排列するないふ。柳宗元「模擬竄竊、取レ青媲レ白」

【受】

㊀うく㊁つぐ(繼)㊂いる(容納)㊃もる(盛)㊄のす(載)㊅被る。

【受取】ジユシユ うく。漢書に「受二取賕賂一」

【受持】ジチ 事をうけもつ。王臺卿「承レ恩奉二教義一、方當二弘受持一」

【受納】ジユナフ うけいる。齊書に「天地休明、山川受納」

【受託】ジユクク 依賴せらる。柳宗元「以レ老母爲レ累二受託一、中略至レ忘二其子之去一」

【受祚】ジユソ ㊀さいはひをうく。薛綜「上下受レ祚」㊁天子の位をうく。

【受笞】ジユチ むちうたる。史記に「張耳蹶レ之、使レ受レ笞」

【受教】ケウ なしへらる。任昉「受二教君子一、將二二十年一」

【受殛】ジユキヨク つみをうく。李華「子雲投閣、方回受レ殛」

【受領】リヤウ うけとる。

【受福】フク さいはひをうく。詩經に「受レ福無レ疆、四方之綱」

【受罰】ジユバツ 仕置せらる。左傳に「有レ罪受レ罰」

【受祿】ジユロク さいはひをうく。又、ふちをうく。詩經に「受二祿于天一」

【受禪】ジユゼン 帝位のゆづりをうく。宋書に「受レ禪即阼、享二天祥一」

【受命之君】ジユメイノキミ 天命を受けて王業をなす君。史記に「西伯、蓋受命之君」

七畫

【畝】

㊀クワイ、ケ。口溉切。卦。㊁キ。丘媿切。賀。㊂いきづく(喟に同じ)。㊃いきなつく貌。

【叙】

ジョ。敘の俗字。

【叟】

カ、ケ。居馬切。馬。㊀かす(貸)㊁かす(假)㊂きす(瑕に通ず)。

【叛】

ハン、バン。薄半切。翰。㊀そむく(離叛)㊁むほん(謀叛)㊂かがやく(煥)。

【叛臣】ハンシン むほんせる家來。

【叛兵】ヘイ むほんせる兵士。

【叛徒】トウ むほんをなすともがら。

【叛將】シヤウ むほんせる將。

【叛賊】ゾクハン むほんにん。

【叛亂】ラン そむきみだす。むほん。化書に「儉二于環衛一、則可二以無二叛亂一」

八畫

【叛】

井。紆胃切。未。㊀やすし(安に同じ)㊁ひのし(熨に同じ)。

【叟】

㊀ソウ、ス。蘇后切。有。㊁シウ、シュ。疎鳩切。尤。㊂サウ、ソウ。蘇遭切。豪。㊃おきな、老人の稱、尊老の稱㊄米をとぐ聲㊅動く貌(搜に同じ)。

十四畫

【叡】

エイ。餘芮切。霽。㊀あきらか(明)㊁とほる(通)㊂さとる㊃さとし。

【叡才】エイサイ さときはたらき。管輅別傳に「持二姻叡才一、遊二於雲漢之間一」

【叡旨】シエイ 天子のおぼしめし。(聖旨)。

【叡哲】 エイテツ さとくかしこし。東京賦に「叡哲玄覽、都二茲洛宮一」
【叡略】 エイリヤク すぐれたるはかりごと。(英略)。晉書に「世宗以二叡略一創レ基」
【叡智】 エイチ さとくしてちゑあり。又、さときちゑ。呂氏春秋に「心意叡智」
【叡感】 エイカン 天子の御感賞。
【叡聖】 エイセイ さとくして知德すぐれたり。又、その人。(明聖、聰聖)。南史に「欽明叡聖、選二賢與レ能」
【叡聞】 エイブン 天子のおきき。
【叡算】 エイサン 天子の御年。(寶算)。歐陽修「叡算綿長、等二乾坤一而不レ老」
【叡慮】 エイリヨ 天子のみこころ。
【叡覽】 エイラン 天子の御覽。錢起「廣二豎亥之假步一、賞二重華之叡覽一」

十六畫

【叢】 ソウ、ズ。徂紅切。東。㊀あつまる、あつむ(聚)、むらがる㊁くさむら。
【叢生】 ソウセイ むらがりおふ。(簇生)。四都賦に「神木叢生」
【叢竹】 ソウチク たかむら。漢書に「行數百千里、夾以二深林叢竹一」
【叢祠】 ソウシ しげみの中のやしろ。柳宗元「叢祠古木疎」
【叢書】 ソウショ 書籍をあつむ。又、あつめたる書籍。韓愈「門以二兩板一、叢二書其間一」
【叢桂】 ソウケイ むらがり生ぜるかつら。庾信「小山則叢桂留レ人」
【叢脞】 ソウザ 煩細にしてしまりなし。書經に「元首叢脞哉、股肱惰哉」
【叢萃】 ソウスイ むらがりあつまる。中論に「眞僞叢萃而不レ迷」
【叢語】 ソウゴ あつめたるものがたり。
【叢篠】 ソウハク 草むらがりしげる。宋濂「孤莖出二叢篠一」
【叢聚】 ソウシユ むらがりあつまる。
【叢談】 ソウダン あつめたるものがたり。
【叢綴】 ソウテツ あつまりてこまやかなり。埤雅に「竹言二根本叢綴一、松言二枝葉繁衍一」
【叢叢】 ソウソウ むらがる貌。韓愈「淮之水舒舒、楚山直叢叢」
【叢繞】 ソウジヨウ むらがりてめぐる。古岳瀆經に「木魅水靈、奔號叢繞」
【叢穢】 ソウイ 雜草しげりてけがる。元稹「通州之地、叢穢卑褊」
【叢攢】 ソウサン むらがりあつまる。楚辭「匍匐分叢攢」
【叢薄】 ソウハク くさむら。唐書に「有レ虎出二叢薄中一」

口部

口部 首

【口】 ㊀コウ、ク。苦厚切。有。㊁苦動切。蚩。㊂一くち二ほとり三ひとかす、ひと四しなかす五あな(穴)六くちにす七いりくち、こぐち八むなし(空)、空しき所。
【口才】 コウサイ くちまへのはたらき。孔子家語に「巹予有二口才一」
【口占】 コウセン くちずさむ。後漢書に「馮儿口占」
【口舌】 コウゼツ ことば。史記に「今子、驛レ本而事二口舌一、困不二亦宜一乎」
【口吻】 コウフン くちびる。くちさき。又、ことばづき。舊唐書に「禍福出二于胷懷一、榮枯生二于口吻一」
【口角】 コウカク くちのほとり。
【口供】 コウキヨウ 罪人が口づからその罪狀を述べたるを筆記せるもの。未信篇に「有人來首二反叛一、先將二首人一、密禁看二其皇狀是反是叛一、審二其口供是反是叛一」
【口受】 コウジユ くちに說く所を直に受く。史記に「七十子之徒、口二受其傳指一」
【口述】 コウジユツ くちづからのぶ。
【口事】 コウジ ざんげん。戰國策に「臣之行也、固知將有二口事一」
【口案】 コウアン 口頭の調書。開元天寶遺事に「成伏二其罪一、時號二張公口案一」
【口達】 コウタツ ことばにて通ず。後漢書に「口達至誠」
【口授】 コウジユ くちづからさづく。漢書に「口二授弟子一、弟子退而異レ言」
【口敏】 コウビン ことばたくみなり。張彥振「雖二詞給而口敏一、終難二得而屢說一」
【口哦】 コウガ くちずさむ。陸游「口哦七字黃庭篇」
【口給】 コウキフ ことば上手なり。論語に「禦レ人以二口給一、屢憎二於人一」
【口傳】 クデン くちづから傳ふ。齊家寶要に「吾鄉當二嘉靖年間一、里中士大夫相拜者、尙不レ過二口傳一」
【口碑】 コウヒ いひづたへ。五燈會元に「路上行人口是碑」
【口實】 コウジツ 人の話柄となすこと。いひぐさ。書經に「恐二來世以レ台爲二口實一」
【口號】 コウガウ くちずさむ。
【口錢】 コウセン ㊀人口に賦課する稅。漢書に「算二口錢一、起二武帝一」㊁今日、我國にては、賣買の媒に立たゝる手數料の義に用ゐる。
【口薦】 コウセン くちづから譽めすすむ。漢書、黃霸傳に「勝又口薦霸于上一、擢レ霸爲二揚州刺史一」
【口中蠶】 コウチユウ つぶし易きに喩ふ。漢書に「以二新室之威一、而吞二胡虜一、無レ異二口中蠶一」
【口耳學】 コウジノガク 聞きたることを、そのまゝに言說して、己に益する所なき學問。荀子に「小人之學也、入二乎耳一、出二乎口一、口耳間、四寸耳、曷足二以美二七尺之軀一哉」
【口舌勞】 コウゼツノラウ 言語のかけ引にて立てたる功。史記に「相如徒以二口舌一爲レ勞」
【口頭交】 コウトウノマジハリ くちさきのみにて眞實なきまじはり。孟郊「但結二口頭交一、肚裏生二荊棘一」
【口中雌黃】 コウチユウシヨウ 議論を變改するに喩へていふ語。雌黃は今の朱なり。書言故事に「晉王衍善二玄言一、義理有レ所レ未安、隨卽更改、世號二口中雌黃一」
【口無二擇言一】 クチニタクゲンナシ 言ふ所みな善にして、えらびすつべき言なし。孝經に「口無二擇言一、身無二擇行一」
【口講指畫】 コウカウシクワク 口にて說き、指にて畫く。れんごろにをしふる義。韓愈「經二承子厚口講指畫一、爲二文詞一者、悉有二法度可レ觀」
【口有レ蜜腹有レ劍】 クチニミツアリハウニケンアリ 外貌すなほにして、內心陰險なるをいふ。通鑑綱目に「李林甫爲レ相、尤忌二文學之士一、或陽與レ之、善唱以二甘言一、而陰陷レ之、世謂二林甫口有レ蜜腹有レ劍一」

一畫

【叺】 イツ、イチ。億姑切。質。こゑ(聲)。

二畫

【古】 ㊀コ、ク。公戶切。麌。㊁顧暮切。遇。㊂一いにしへ(遠代)。㊃むかし(昔)㊄ふるし㊅ひさし(久)㊆はじめ(始)㊇むかし。
【古木】 コボク ふるき立木。(老樹)。王維「古木無二人逕一、深山何處鐘」
【古色】 コショク ふるめかしきいろ。王安石「掃レ石出二古色一」
【古老】 コロウ 能く故事に通じたる老人。李白「古老向レ余言、言是上留田」
【古先】 コセン いにしへ。晉書に「古先智士」
【古戒】 コカイ 古人のいましめ。漢書に「陛下觀二覽古戒一、反覆參考」
【古往】 コワウ むかし。(往古)。西征賦に「古往今來、遐矣悠哉」
【古來】 コライ むかしより。王翰「醉臥二沙場一、君莫レ笑、古來征戰幾人回」
【古昔】 コセキ いにしへ。むかし。(往昔)。杜甫「溫溫諸侯門、禮亦如二古昔一」
【古格】 コカク いにしへのかた。古の法式。盧仝「忽忽造二古格一、削盡俗綺靡」
【古冢】 コチヨウ ふるきはか。水經、注に「獨頭山南有二古冢一、陵柏蕭然」
【古稀】 コキ 七十歲をいふ。杜甫「酒債尋常行處有、人生七十古來稀」
【古道】 コダウ ふるきみち。又、ふるく行はれたる道。文天祥「古道照二顏色一」
【古雅】 コガ ふるめかしくして趣あり。法書要錄に「可レ謂幽深無レ際、古雅有レ餘」
【古詩】 コシ 漢詩の一體。韻を押すのみにて、平仄にかかはらず、その體に、五言・七言又は長短句のものあり。

【古諺】ふるきことわざ。譚死醜醜に「左傳、脣亡齒寒、蓋古諺也」
【古語】古代に用ゐられしことば。蘇軾「古語多妙字」
【古誼】むかしのよろしきみち。胡銓「禮部侍郎曾開等、引古誼以折之」
【古墓】ふるきはか。白居易「古墓何代人、不知姓與名」
【古墳】前に同じ。盧綸「一樹繁花對古墳」
【古體】㊀むかしのさま。㊁漢詩にて、絶句及び律以外の稱。
【古人之糟魄】古人のかすばかりにて大切の滋味なしとの意。莊子に「桓公讀書於堂上、輪扁斲輪於堂下、釋椎鑿而上、問桓公曰、敢問公之所讀爲何言邪、公曰、聖人之言也、曰、聖人在乎、公曰、已死矣、曰、然則君之所讀者、古人之糟魄已夫」

【句】㊀ク、コ。九遇切。遇。㊁コウ、ク。古候切。宥。㊂古侯切。尤。㊃ク、ゴ。樞俱切。虞。㊄キウ、ク。古有切。有。㊅一くぎり、文章の一小節。㊆まがる、かがまる㊇一あたる(當)㊈かかはる(拘)㊉やごろ(毅)㊊一矩形を對角に折半せしものの稱、直角三角形㊋かがまる、まがる(曲)㊌一けた(矩に同じ、方形)㊍とどむ(拘又は佝に作る)㊎絢に同じ㊏まがる、まゝ(曲)。

【句倨】まがる。說苑に「其卑下句倨、皆循其理」
【句格】語句の法則。蘇軾「改更句格、各霎喫」
【句讀】文中にて文意の切るる處を句といひ、讀むに便せんため、點を句の間に加へたるものを讀といふ。通常、句點には「。」讀點には「、」を用ゐる。開天遺事に「每與人談論、皆成句讀」

【另】㊀わかれをる㊁さきひらく。クワ、ケ。古瓦切。馬。
【叉】尚、剛に同じ。わかつ、さく。タウ、トウ。土刀切。豪。
【叩】㊀むさぼる(貪)㊁むさぼりくらふ(饕)㊂みだりに(濫)。コウ、ク。苦后切。有。
【叩叩】㊀たたく㊁うつ(擊)㊂おこす、ひらく(發)㊃ひかふ㊄ぬかづく。
【叩叩】㊀たたく形容。梅堯臣「閉門誰叩叩」㊁懇にとぶらふ貌。朱熹「別袖不忍分、叩叩陳苦詞」。論語に「以杖叩其脛」
【叩頭】頭を以て地をたたく。(稽類)。魏志に「安有國家長吏、爲賊叩頭」
【只】㊀シ。掌氏切。紙。㊁支移切。支。㊂ただ㊃詞の終に用ゐる助字㊄是れの意をなす助字。

【叫】ケウ。古弔切。嘯。㊀さけぶ、なく(泣)㊁さけぶ聲、遠き聲。六書正譌に「叫を俗に、叫に作るは非なり」
【叫叫】㊀さけぶ聲の形容。柳宗元「叫叫鞫鴻哀」㊁遠き聲の形容。揚雄「大語叫叫、大道低回」
【叫呶】かまびすし。柳宗元「狂奔叫呶、以干天刑」
【叫聒】前に同じ。李白「啓棹依林巒、驚猿相叫聒」
【叫喚】㊀聲をあげてわめく。通典に「擊鼓拒戰、不得叫喚」㊁(佛)八熱地獄の一。
【叫號】さけびよぶ。詩經に「或不知叫號、或慘慘劬勞」
【叫賣】よびうり。陳夫人「小艇擡來叫賣花」
【叫噪】さけびて口あく。高啓「須臾顏熱起叫噪」
【叫罵】大聲にてののしる。宋書に「弘之叫罵見殺」
【叫讙】さけぶ。韓愈「提兵叫讙、欲事故常」

【召】㊀デウ、デウ。直少切。嘯。㊁セウ、セウ。時照切。嘯。㊂よぶ(叫)㊃めす㊄まねく㊅めし㊆人の名、地の名。

【召見】よびよせて對面す。水經、注に「李延年女弟、上召見之」
【召按】召してとりしらぶ。史記に「幸相國召按之」
【召發】兵士又は人夫をつのる。北史に「任其召發」
【召辟】めしよぶ。(徵辟)。宣和書譜に「吳融祖翁有高世志、不應召辟」
【召置】めしよせて側におく。漢書に「聞其秀材、召置門下」

【叭】㊀ハツ、ハチ。普八切。黠。㊁こゑ(聲)㊂くちあく(口開)。

【合】エン。以轉切。霰。㊀ぬかるみ㊁どろち。テイ、チャウ。當經切。青。

【叮】㊀れんころに㊁あつらふ。

【可】㊀うけがふ(肯)㊁ゆるす(許可)㊂べし(決定、想像、命令、可能の意を表はす辭)㊃よし、ややよし㊄かしづき、もり(傅御)㊅ところ(所)㊆一歌の古文字㊇何に通ず㊈人の名。
【可汗】唐代、夷狄の君長の稱號。唐書に「居金山之陽、至吐門、遂彊大、更號可汗」
【可否】よしあし。又、許すべきか許すべからざるか。左傳に「謀可否、而告人」
【可憐】かはゆげなり。杜甫「寒花亦可憐」

【台】㊀イ。延知切。支。㊁ダイ。湯來切。灰。㊂シ、ジ。薛吏切。寘。㊃われ、わが(予、我)㊄よろこぶ(悅)㊅やしなふ(養)㊆うしなふ(失)㊇一ほしの名㊈三公の稱㊉ばらごもり(胎に同じ)㊊さめはだ(鮐に同じ)㊋つぐ(嗣)。
【台台】よろこばしき貌。(怡怡)。越采葛婦歌に「葛不連蔓葵台台」
【台位】宰相のくらゐ。楊巨源「心期玉帳親、台位」
【台學】前に同じ。王維「久踐、中台座、終登上將壇」
【台傅】宰相。北史に「歷事三朝、師訓少主、不出宮省、坐致台傅」
【台鼎】三公。三台星と鼎の三足とに象る。後漢書に「位登三台鼎」
【台弼】宰相。宋史に「建事兩朝、專升台弼」
【台輔】三公のくらゐ。又、三公。後漢書に「詢謀台輔」
【台槐】三公。台は三台星なり、以て三公に比す。又、周代に三槐を朝庭に植ゑ、これに面して三公の座位を定めたるにより三公の義とす。晉書に「或以雅望、處台槐」

【叱】㊀しかる(訶)㊁ののしる(罵)㊂いかる(怒)。シツ、シチ。尺栗切。質。
【叱呵】しかる。しかり。蘇軾「叱呵不去、啖棗梨」
【叱咤】大聲にしかる。又、いきまき、舌打す。史記に「項王、喑啞叱咤、千人皆廢」

【吒】クワ、ケ。奢跨切。禡。口を開く貌。
【史】シ。疎止切。紙。㊀ふびと、記錄を掌る官㊁ふみ、歷史、載籍。
【史臣】歷史を書く家來。杜甫「直筆在史臣」
【史乘】歷史の書物。
【史筆】歷史をかく筆。晉書に「既登東觀、染史筆」
【史談】歷史上のはなし。宋史に「雖乏相如之筆、庶免史談之憤」
【史論】歷史の評論。文心彫龍に「史論序注、則師範于覈要」
【史翰】歷史の文書。齊書、蒙緒傳に「上答曰、公所以道榮緒、吾甚志之、其有史翰」
【史職】歷史編修の役。唐書、蔣乂傳に「乂在朝廷、久居史職」
【史蹟】歷史上にのこれることがら。

許翰「秦生二小篆一、史蹟既亡」

【史籍】歴史の書物。後漢書に「班彪才高、而好二述作一、遂専二心史籍之閒一」

【史二體】編年體と紀傳體と。編年は左傳に始り、紀傳は史記に始る。

【右】

㊀イウ、ウ。尤救切。宥。

㊁云久切。有。

一みぎ(左の對)二たすく(助)三みちびく(導)四たっとぶ(上)五すすむ(侑)六つよし(強)七みぎす。

【右文】文學をたっとぶ義。宋史に「右レ文興レ化、憲二古師一今」

【右族】勢力あるいへすぢ。柳氏家訓に「余見二名門右族一、莫レ不レ由二祖先忠孝勤儉一以成二立之一」

【右券】二分したる右のわりふ。史記に「事成、執二右券一以責」

【右契】前に同じ。戰國策に「操二右契一而爲レ公、責二德於秦魏之王一」

【右戚】勢力あるみうち。王僧孺「德貫二右戚一」

【右職】高官をいふ。漢書に「文翁以爲二右職一」

【右扶風】秦の内史の地。今の西安府以西、鳳翔府に至る地なり。

【右文左武】文武兩道を以て天下を治むる義。(左文右武)。潘炎「或右レ文而左レ武、或先レ吁而後レ唱」

【右手畫レ圓左手畫レ方】二事は一時に成しがたき喩。韓非子に「右手畫レ圓、左手畫レ方、兩不レ能レ成」

【司】

㊀シ。息茲切。支。㊁相吏切。寘。

㊀一つかさどる(主)二つかさ(職務、當局者)三まもる(督察)㊁一うかがふ(伺)二つかさ。

【司空】土地民事を掌る官名。書經に「司空掌二邦土一、居二四民一、時二地利一」

【司直】公直を司る者。裁判官。詩經に「彼其之子、邦之司直」

【司徒】教育を掌る官名。書經に「司徒掌二邦教一、敷二五典一、擾二兆民一」

【司寇】刑罰盜難などの事を掌る官名。書經に「司寇掌二邦禁一」

【司馬】軍事を掌る官名。書經に「司馬掌二邦政一、統二六師一、平二邦國一」

【司敗】古代、刑罪を司りし官名。但し陳・楚の二國に限る。左傳、注に「陳、楚名二司寇一、爲二司敗一」

【司祿】一俸祿の事を擔當する官名。二星の名。史記に「文昌宮六曰二司祿一」

【司勳】功勞の査定を司る役の名。周禮に「夏官司勳、掌二六卿賞地之法一」

【司儲】唐代の米穀の貯を司りし官名。唐書に「龍朔、初改二司庾大夫一爲二司儲一」

【司馬侯】官名。史記に「郡守司馬侯御史各一人」

【司機吏】牧畜の役人。史記に「嘗爲二司機吏一、而畜蕃息」

【吾】

キウ、ゲ。巨鳩切。尤。

一たかぶる(高氣)二みつかどのほこ(三稜形の矛)。

ハ。普火切。哿。

一かたし、なし、べからず(否定の辭)二つひに(遂)三さかづき(酒巵)。ケフ。協に同じ。

國訓かなふ。カウ、號に同じ。ゴウ。號に同じ。

【叺】

〔國字〕かます。

【巨】

一かたし、なし、べからず(否定の辭)二つひに(遂)三さかづき(酒巵)。ケフ。協に同じ。

【叶】

國訓かなふ。カウ、號に同じ。ゴウ。號に同じ。

【号】

【叺】

〔國字〕かます。

三畫

【吁】

コウ、ク。呼公切。東。

一しかる(呵)二かまびすし(哄)三大いなる聲。

㊁ク、チ。況于切。虞。㊂カウ、チ。羽俱切。虞。㊃キョ、コ。休居切。魚。㊄ウ、チ。王遇切。遇。

㊅㊆一あ、ああ(疑ふとき、驚くとき、怪むとき、なげくときに發する聲)二なげく、おどろく㊇㊈ふく(噓に同じ)。

【吁吁】おどろく貌。又、なげく貌。白虎通に「臥之詼詼、起之吁吁」

【吉】

㊀バウ、マウ。莫郎切。陽。㊁莫浪切。漾。

㊂一問ふに答へず二知らず㊃おいぼれ(老廢)。

【吃】

キツ、コチ。居乙切。質。

一どもり、どもる二くらふ(喫)三笑ふ貌四とどまる。

【吃水】船脚の水に入る程度(喫水)。

【吃舌】どもり。

【吃吃】笑ふ貌。文同「吃吃笑レ勞レ生」

【吃驚】おどろく。

【各】

カク。古洛切。藥。おのおの。

【各各】おのおのの。それぞれ。吳志、注に「諸英豪、各各起レ兵」

【各件】各自。

【各自】おのおのの。めいめい。

【各條】おのおのの箇條。

【各款】前に同じ。

【各項】前に同じ。

【各地】ところどころ。

【各般】いろいろ。さまざま。

【各種】前に同じ。

【叩】

㊀ケン、コン。況袁切。元。

㊁セン、ゼン。苟緣切。先。

一さけぶ、驚き呼ぶ二かまびすし(囂)、聲煩し、又、訟の古文字。

カフ、ゴフ。胡臘切。合。

【合】

一おなじ(同)、たぐひ(類)二あふ、あはす、あつまる(聚)三やはらぐ(和)四こたふ(答)五とづ(閉)六はこ(盒に同じ)七物の量をはかる名目、勺の十倍八べし(當に同じ)。

【合作】二人にて一つのものを作る。詩經、箋に「于夏毛公合作」

【合和】互にやはらぐ。後漢書に「四海合和、萬世蒙レ福」

【合計】あはせかぞふ。合せたる數の高。周禮、注に「合二計其士之卒伍一、閱二其兵器一」

【合拱】兩手にてかかへもつ。又、兩手にて合せ持つ程の大いさ。韓詩外傳に「盈把之木、無二合拱之枝一」

【合矩】規則にあてはまる。(中矩)。

【合抱】梁武帝「中レ規合レ矩、分レ閒下レ注」。ひとかかへ。老子に「合抱之木、生二於毫末一」

【合格】一定の格式又は條件に適合す。易林に「合レ格有レ獲」

【合理】道理にかなふ。

【合唱】多人數にて同時にとなふ。韓・魏・趙・燕・楚・齊の六國、同盟して秦に當るをいふ。蘇秦の策なり。史記に「天下方務二於合從連衡一、以攻伐一爲レ賢」

【合從】わりふをあはす。刻漏銘に「入神之製、興二造化一、合レ符」

【合奏】種種の樂器を同時に奏す。張衡「金石合奏、妖冶邀會」

【合掌】兩手のひらを合す。佛などを拜する時に行ふ禮。獨孤及「攀レ雲到二金界一、合レ掌開二禪扃一」

【合意】こころを合す。新語に「夫子周二流天下一、無レ所二合意一」

【合圍】すきまなくかこむ。禮記に「天子不二合圍一」

【合葬】同じ穴にうづむ。禮記に「孔子既得レ合二葬于防一」

【合巹】さかづきを交ふ。婚禮の義。禮記に「婦至壻揖レ婦以入、共牢而食、合レ巹而酳、所下以合レ體同二尊卑一、以親之也」

【合義】正理にかなふ。書經に「垂所二風撓一、動必合レ義」

【合戰】たたかひ。漢書に「于レ是饗士、旦日合戰」

【合離】あふとわかるると。徐儀「枝閒影合離」

【合歡木】〔樹〕ねむの木。

【合歡扇】あはせあふぎ。斑婕妤「裁爲二合歡扇一、團團似二明月一」

【吳】

一わめく二大いなる口、一說に、魚の大いなる口。

キツ、キチ。居質切。質。

【吉】

一よし(善)二さいはひ(幸福)三ついたち(朔日)四つつしむ(謹)。

【吉士】よきさむらひ。(良士)。書經に「其惟吉士、用勳二相我國家一」

【吉凶】さいはひとわざはひと。易經に「定二天下之吉凶一」

【吉行】キツカウ よろこびの旅行。漢書に「古者吉行、日五十里」

【吉兆】キツチウ めでたきまへぶれ。

【吉辰】キツシン よき日。(良辰)。儀禮に「令月吉辰、始加二元服一」

【吉祚】キツソ さいはひ。薛存義「垂二吉祚于當時一、演二昌期于後嗣」

【吉祥】キツシヤウ 前に同じ。史記に「聖人所謂吉祥、善事者與」

【吉瑞】キツズイ めでたきしるし。(祥瑞)。魏志に「武王白魚入レ舟、君臣變レ色、而動得二吉瑞一、猶尙憂懼」

【吉慶】キツケイ めでたきこと。賀すべきこと。北史に「心喪三年、不レ參二吉慶一」

【吉福】キツフク さいはひ。蔡邕「享二茲吉福一、永守二皇極一」

【吊】

テウ。弔の俗字。

【吾】

キ。居理切。紙。

㊀とく(說)㊁いふ(言)㊂たひらかに(平)㊃たひらぐ。

【同】

トウ、ドウ。徒東切。東。

㊀おなじ、ひとし(齊)㊁おなじくす、ともにす(共)㊂ともがら(輩)㊃あつまる、あつむ(聚)㊄やはらぐ(和)㊅たひらぐ(平)㊆とさかづき(爵の名)㊇とほる(通に同じ)。

【同人】ドウジン ㊀易の卦の名。易經に「同レ人于レ野亨、利レ涉二大川一、利二君子貞一」㊁同じこころざしの人。易經に「物不レ可二以レ終否一、故受レ之以二同人一」

【同力】ドウリヨク 力を協せて事をなす。書經に「同レ力度レ德」

【同子】ドウシ おなじ年齡。

【同仁】ドウジン 彼此の差別なく、平等に取扱ふ。素書に「同仁相憂、同惡相黨」

【同文】ドウブン 天下を一統して中央政府より令を出し、用ゐる所の文字を一定す。中庸に「今天下、車同レ軌、書同レ文、行同レ倫」

【同友】ドウイク ともだち。鶡冠子に「少則同レ濟、長則同レ友」

【同心】ドウシン こころを同じくす。おなじこころ。又、その者。易經に「二人同レ心、其利斷レ金、同心之言、其臭如レ蘭」

【同行】ドウカウ 人と共に行く。詩經に「惠而好レ我、携手同行」

【同志】ドウシ 志を同じくす。又、その者。國語に「同レ心則同レ志」

【同庚】ドウカウ おなじ年齡。墨客揮犀に「文彥博、居レ洛日、年七十八、與二和晌、司馬旦、席汝言一爲二同庚會一」

【同門】ドウモン 同じ師に學びたるとも。李頎「在昔同門友、如今出處非」

【同班】ドウハン おなじ位次。宋史に「尙書侍郎、分二治曹事、奏二事則同レ班一」

【同指】ドウシ 主旨を同じくす。淮南子に「殊レ事而同レ指」

【同胞】ドウハウ はらから。兄弟。漢書に「同胞之徒、無レ所二容居一」

【同軌】ドウキ ㊀車の轍の度を同じくす。中庸に「今天下、車同レ軌、書同レ文、行同レ倫」㊁中國諸侯の義。左傳に「天子七月而葬、同軌畢至」

【同寅】ドウイン 同役の者。書經に「同寅協恭」

【同袍】ドウハウ 朋友互に救ふ義。又、朋友。詩經に「豈曰無レ衣、與二子同レ袍一」

【同情】ドウジヤウ おもひやり。史記に「同好相留、同情相成」

【同窗】ドウサウ 同じ師につきて學びたるとも。丹鉛錄に「士子同レ業曰二同窗一」

【同族】ドウゾク 同じやから。又、同じ種族。周禮に「凡王之同族、有レ罪不レ卽レ市」

【同雲】ドウウン 雪ぞら。詩經に「上天同雲、雨雪雰雰」

【同遊】ドウイウ 共にあそぶ。淮南子に「虎鹿之不二同遊一者、力不レ敵也」

【同歲】ドウサイ おなじ年齡。晉書に「侃與レ敏同郡又同歲」

【同盟】ドウメイ ㊀諸侯相共に盟約を結ぶをいふ。公羊傳に「同盟者何、同レ欲也」㊁今日、我國にては、くみを結ぶことにいふ。同盟國、同盟罷工の類。

【同僚】ドウレウ 同役の者。詩經に「我雖二異レ事、及レ爾同僚」

【同寮】ドウレウ 前に同じ。左傳に「同官爲レ寮、吾嘗同寮、敢不レ盡レ心乎」

【同價】ドウカ 同じねだん。孟子に「巨屨小屨同レ價、人豈爲レ之哉」

【同齡】ドウレイ おなじ年齡。

【同學】ドウガク 同じ師につきて學びたるもの。漢書に「望之事二同縣后倉一、以令レ詣二太常一受レ業、復事二同學博士白奇一」

【同儕】ドウサイ おなじなかま。左傳に「晉鄭同レ儕、其遇二子弟一、固將レ禮焉」

【同一轍】ドウイツテツ 車のわだちの一樣なる義にて、形式の一樣なるをいふ。

【同年生】ドウネンセイ 同じ年に進士に及第せしもの。事文類聚に「詢二其履歷一、乃同年生」

【同二硯席一】ドウケンセキニ 人と同學するをいふ。漢書に「宣帝少時、與二彭祖一同二硯席一」

【同工異曲】ドウコウイキヨク 音樂のたくみなる點は同じくして、その曲調を異にす。同等の伎倆ある作家も、體によりて、その文章に異樣の光彩を放つ義。韓愈「子雲相如、同工異曲」

【同功一體】ドウコウイツタイ 功績と體度とを同一にする義。史記、黥布傳に「往年殺二彭越一、前年殺二韓信一、此三人者同功一體之人也」

【同舟相救】ドウシウアヒスクフ 利害を同じくする場合には互に救ふ。孫子に「吳人與二越人一、相惡也、當其同レ舟濟而遇レ風、其相救也如二左右手一」

【同而不レ和】ドウジテワセズ 徒黨を組めど、眞にうち解けて交らず。論語に「子曰、君子和而不レ同、小人同而不レ和」

【同明相照】ドウメイアヒテテラス 物は類を以て相從ふをいふ。史記に「同明相照、同類相求、雲從レ龍、風從レ虎、聖人作而萬物覩」

【同病相憐】ドウビヤウアヒアハレム 境遇を同じくする者は、互に憐み助く。吳越春秋に「子胥述二河上歌一曰、同病相憐、同憂相救」

【同惡相助】ドウアクアヒスクフ 惡人も惡事を成し遂ぐる爲には、互に助け合ひて、自分一己の利を思ふものにあらずとの意。史記に「同惡相助、同好相留、同情相成、同欲相趨、同利相死」

【同業相仇】ドウゲフアヒアダス 同じ業をなす者は、互に相敵視す。素書に「同美相妒、同業相仇」

【同聲異俗】ドウセイイゾク 人は皆性質は同じけれども、教育に由りてその習俗を異にするに至るものなりとの意。荀子の語。

【同歸殊塗】ドウキシユト 歸する所は同じけれども、道は異なり。易經に「天下同レ歸而殊レ塗、一致而百慮」

【同門異戶】ドウモンイコ 道は同一なれども、その見る所を少しく異にする義。揚子法言に「吾於二荀卿一、歟見二同門而異レ戶也一」

【同聲相應同氣相求】ドウセイアヒオウジテドウキアヒモトム 同じ聲は互に相應じ、同じ氣あるものは互に相求む。同じ意見を懷く者は自然に相合ふといふ義。易經に「子曰、同聲相應、同氣相求、水流レ濕、火就レ燥」

【名】

㊀メイ、ミヤウ。武井切。庚。㊁ノ瀾正切。敬。㊂莫經切。青。㊀一なづけ㊁ないふ㊂さこえ㊃まゆもと㊄人數にいふ字㊅なづく㊆なづく(銘に同じ)㊇しるす(詩に同じ)。

【名士】メイシ 名の世間に知られたる人。禮記に「季春勉二諸侯一、聘二名士一、禮二賢者一」

【名分】メイブン 物の名義に應じて守るべき務、主として人倫の分にいふ。莊子に「春秋以道二名分一」

【名手】メイシユ うでまへのすぐれたる人。北史に「銳意研精、遂爲二名手一」

【名王】メイワウ なだかききみ。漢書に「越地及匈奴名王、有二率レ衆來降者一」

【名目】メイモク 事物の稱呼。となへ。晉書に「以二區區之懷一、而整二名目之典一」

【名世】メイセイ 一世に名ある賢者。孟子に「五百年必有二王者興一、其間必有二名世者一」

【名利】メイリ 名譽と財利と。孟賁「世路事二名利一、深山獨結レ茅」

【名狀】メイジヤウ その狀態をいひあらはすこと。王令「勞摹石刻罕二名狀一」

【名言】メイゲン すぐれたることば。書經に「名言茲在レ茲」

【名位】メイイ 名譽ある官位。晉書に「談二名位者一、以二諂媚一附レ勢」

【名門】メイモン なだかき家がら。李商隱「敘漢代之名門、韋平掩レ耀」㊁

【名刺】メイシ なふだ。留青日札に「古者削竹木、以書姓名、故曰レ刺、後以紙書、謂ニ之名紙一」

【名品】メイヒン すぐれたるしな。(妙品、逸品)。隋書に「搢紳之徒、或取ニ官曹名品之書一、撰而錄レ之」

【名相】メイシヤウ なだかき宰相。漢書に「張蒼文學律歷、爲ニ漢名相一」

【名胄】メイチウ たふとき家の子孫。唐書に「綬、既名胄、於ニ吏事一有ニ方略一」

【名教】メイケウ 聖人のなしへ。聖人の道は五倫五常などの如くそれぞれ名を立つ、故に名教といふ。晉書に「名教之內、自有ニ樂地一」

【名流】メイリウ 名望ある家がら。門閥たかきいへ。名匠の家。北史に「恭之、學涉ニ經史一、所レ交皆名流儁士」

【名族】メイゾク 名あるいへ。名望ある家門。漢書に「王公大人、名族之後」

【名貫】メイクワン 姓名と鄕貫と。棠陰比事に「親レ紹ニ名貫一」

【名望】メイバウ ほまれ。南史に「懿、名望功業素重」

【名欲】ミヤウヨク 〔佛〕名を求めんとする欲。大藏法數に「名卽世間之聲也、謂人因ニ聲名一、能顯レ親榮レ己、故至ニ貪求樂著、而不レ知レ止、是爲ニ名欲一」

【名牒】メイテフ なふだ。後漢書に「高第者上ニ名牒一、當ニ以レ次賞進一」

【名勝】メイショウ ㊀景色のすぐれたる地。北齊書に「廢人飲ニ美酒一、對ニ名勝一、安能作ニ刀筆吏一、披ニ反故紙一耶」㊁名望の勝れたる士。晉書に「容名論素輕、吳人初不レ附、王導勸用ニ諸名勝一」

【名稱】メイショウ ㊀となへ。㊁ほまれ。後漢書に「善聽レ訟、甚得ニ名稱一」

【名數】メイスウ ㊀戶籍。漢書に「民前或相聚保ニ山澤一、不レ書ニ名數一」㊁數字のそへる名詞。卽ち、二帝三王、五風十雨の類。

【名節】メイセツ 名譽と節操と。魏文帝「乃祖以來世著ニ名節一」

【名緝】メイシツ なだかき偸侶。朱熹「贈護煩ニ名緝一」

【名實】メイジツ 名聲と功實と。孟子に「夫子在ニ卿之中一、名實未レ如ニ於上下一」

【名論】メイロン すぐれたる議論。

【名儒】メイジユ なだかき儒者。漢書に「名儒有ニ師傅舊恩一、天子任レ之、多レ所ニ貢薦一」

【名勳】メイクン なだかきてがら。(殊勳)。江淹「西京上績、東都名勳」

【名器】メイキ 爵號と車服と。左傳に「唯器與レ名、不レ可ニ以假一人」

【名醫】メイイ なだかきいしゃ。(良醫)。漢書に「昭帝末レ徵ニ天下名醫一」

【名譽】メイヨ ほまれ。漢書に「亦欲ニ以レ行ニ陰德一、附ニ循百姓一、流ニ名譽一」

【名花十友】メイクワジユウイウ 茶蘼(韻友)・茉莉(雅友)・瑞香(殊友)・荷花(淨友)・蘭桂(仙友)・海棠(名友)・菊花(佳友)・芍藥(豔友)・梅花(清友)・梔子(禪友)の稱。宋の曾端伯に始まる。三餘贅筆に見ゆ。

【名過ニ其實】ナクワジツ 名の實際より盛んなるをいふ。韓詩外傳に「祿過ニ其功一者削、名過ニ其實一者損」

【名詮自性】ミヤウセンジシヤウ 名はそのものの性をいひあらはす義。唯識論に「依ニ語聲分位差別一、而假建ニ立名句文身一、名詮ニ自性一、句詮ニ差別一」

【名下無ニ虛士】メイカニキヨシナシ 名聲高き者は、必ずその名に伴ふ實力を有するをいふ。北史、薛道衡傳に「陳作ニ人日詩一、人曰、名下固無ニ虛士一」

【名花十二客】メイクワジフニカク 牡丹(賞客)・梅(清客)・菊(壽客)・瑞香(佳客)・丁香(素客)・蘭(幽客)・蓮(靜客)・茶蘼(雅客)・桂(仙客)・薔薇(野客)・茉莉(遠客)・芍藥(近客)の稱。宋の張景修に始まる。

【名者實之賓】ナシジツ 名譽は實際の德ありて、はじめて添ふといふ意。莊子に「堯讓ニ天下於許由一、許由曰、子治ニ天下一、天下旣已治也、而我猶代レ子、吾將爲レ賓乎、名者實之賓也、吾將爲レ賓乎」

【后】

コウ、ゴ。胡口切。有。

㊀のち ㊁おくる ㊂きみ ㊃きさき。

【后土】コウド 土の神。禮記に「其神后土」

【后王】コウワウ 天子。書經に「樹ニ后王君公一、承以ニ大夫師長一」

【后祇】ゴウギ 地の神。魏明帝「王者布ニ大化一、配レ乾稽ニ后祇一」

【后稷】コウショク 農事を掌る官の名。書經に「汝后稷、播ニ時百穀一」

【吏】

㊀リ。力地切。寘。㊁シ。神至切。寘。

㊀㊀つかさ(司)㊁たさむ(統御)㊂㊀うく(奉)㊁うけたまはる(奉)㊂まつりごと(職)㊃いたはる(勞)。

【吏才】リサイ 役人たるに堪ふるはたらき。後漢書に「明ニ於政體一、吏才有レ餘」

【吏治】リチ 役人のあつかふまつりごと。史記に「繁刑嚴誅、吏治刻深」

【吏員】リヰン 役人の數。又、役人。後漢書に「省ニ減吏員一」

【吏能】リノウ 役人としてのはたらき。北史に「琇之有ニ吏能一、仕レ齊爲ニ吳令一」

【吏幹】リカン 前に同じ。北史、裴蘊傳に「明辨有ニ吏幹一」

【吏道】リトウ 朝鮮に行はるる一種の假名の稱。新羅の薛聰の創作なりといふ、朝鮮語を寫す爲に漢字の音訓を假りたるものにして、萬葉假名の如し。

【吏術】リジユツ 役人の執るわざ。唐書、畢誠傳に「誠於ニ吏術一尤所レ長」

【吏職】リショク 役人の事務。晉書、宣帝紀に「帝勤ニ于吏職一、夜以忘レ寢」

【吐】

ト、ツ。統五切。巽。

㊀はく、口よりいだす、舒ぶ ㊁はきいだせしもの。

【吐哺】トホ 食物をはき出す。又、周公の故事より、賢士を延見するにつとむるをいふ。史記に「一沐三握レ髮、一飯三吐レ哺、起以待レ士」

【吐納】トナウ 出すことといるることと。陸游「三峽束ニ江流一、崖谷互吐納」

【吐煙】トエン 煙をふき出す。梁安寺銘に「鳳樓含ニ日、龍臺吐レ煙」

【吐握】トアク 周公は食するに當りて三たび髮を握りて、賢者に接せし故事より、賢人を求むるに急なるをいふ。漢書に「昔、周公躬ニ吐握之勞一」

【吐呑】トゼン 食物を吐き目をくらます。徐陵「舟中之人、吐呑顏仆」

【吐瀉】トシヤ はきくだし。

【向】

㊀キヤウ、カウ。許亮切。漾。

㊀むかふ、むく、おもむく(趣)㊁むかし、さき(昔)㊂すくふ(救)㊃ちかづく、かたむく㊄むかひむき。

【向者】キヤウシヤ さきころ。列子に「向者、夫子仰レ天而嘆」

【向背】キヤウハイ むかふとそむくと。(背)。

【向上心】キヤウジヤウシン 上位にすすむこころ。

【吒】

タ。陟嫁切。禡。

㊀タク。陟格切。陌。

㊀㊀しかる(叱)㊁いかる(怒)㊂なげく(歎)㊃あざける(嘲)。

【吒食】シヨク したつづみをうちて食ふ。禮記に「毋ニ吒食一」

【吁】

ク。吁の本字。

【吋】

〔國字〕いんち(Inch.)我國の八分・三八一に當る。

四畫

【吁】

ゴウ、ゲ。五荀切。有。

㊀よぶ(呼)㊁やはらぐ(和)。エイ、アイ。烏弟切。齊。よし(可)、しかり(然)。イ。於宜切。支。なげく(歎)、うめく(呻)。クン、コン。舉云切。文。

㊀きみ(天子・元首、又、諸侯・公卿・大夫、封地を有する者)㊁夫人㊂瓦人㊃父母又は祖先の稱㊄總て人の敬稱㊅鬼神の尊稱㊆封號㊇たっとし(貴)。

【君子】クンシ ㊀道德ある人の稱。論語に「聖人吾不ニ得而見一之矣、得レ見ニ君子者一、斯可矣」㊁在位者の稱。論語に「君子之德風、小人之德草、草上ニ之風一、必偃」㊂竹の異名。詩經に「瞻ニ彼淇奧一、綠竹猗猗、有ニ斐君子一」

【君王】クンワウ　きみ。詩經に「朱芾斯皇、室家君王」

【君侯】クンコウ　丞相又は列侯の尊稱。漢書に「君侯長何憂乎」

【君側】クンソク　君主のおそば。禮記に「刑人不レ在二君側一」

【君道】クンダウ　人君の行はるべき道。孟子に「欲レ爲レ君盡二君道一」

【君臨】クンリン　君として、その國土人民をなさむ。國語に「赫赫楚國、而君二臨之一」

【君子花】クンシクワ　蓮の異名。周敦頤「蓮、花之君子者也」

【君子國】クンシコク　德ありて禮儀の正しき國。淮南子に「東方有二君子之國一」

【君子儒】クンシジユ　道を究め、德を修むるを目的とする學者。名利の爲に學ぶ小人儒の對。論語に「女爲二君子儒一、無レ爲二小人儒一」

【君子三樂】クンシノサンラク　君子の特に樂とすることの三ヶ條。孟子に「君子有二三樂一、而王二天下一不二與存一焉、父母俱存、兄弟無レ故一樂也、仰不レ愧二於天一、俯不レ怍二於人一二樂也、得二天下英才一而教育之一三樂也」

【君子不レ器】クンシハウキ　器はそれぞれその用に適して相通ずる能はず、成德の士は體備はらざることなし、ひとり一材一藝を爲すのみに非ざるをいふ。論語に「子曰、君子不レ器」

【君辱臣死】キミハヅカシメラルレバシンシス　臣はその君と生死艱難を共にすといふ意。(主辱臣苦)。國語に「范蠡對曰、臣聞レ之、爲二人臣一者、君憂臣勞、君辱臣死」

【君子避二三端一】クンシサク　君子は人にさからはざるをいふ。韓詩外傳に「鳥之美羽勾喙者鳥畏レ之、魚之侈口垂腴者魚畏レ之、人之利口贍辭者人畏レ之、是以君子避二三端一、避二文士之筆端一、避二武士之鋒端一、避二辯士之舌端一」

【君以レ民爲レ體】キミハタミヲモチテカラダトナス　君たる者はその人民を自己の身體の如くに視るをいふ。禮記に「民以レ君爲レ心、君以レ民爲レ體、心安則體安、君泰則臣泰」

【君射則臣決】キミイレバシンケツス　上の好む所は下必す之にならふをいふ。荀子に「君射則臣決、楚莊王好二細腰一、故朝有二餓人一」

【君子之德風】クンシノトクハカゼ　上たる人の德は風の如し、故に下たる者みなその風化を受く。論語に「子曰、君子之德風、小人之德草、草上之風一、必偃」

【君子之交淡若レ水】クンシノマジハリハアハクシテミヅノゴトシ　君子の交際は淡泊なること水の如くにして永久に變らざる義。莊子に「君子之交淡若レ水、小人之交甘若レ醴」

【君子過如二日月食一】クンシノアヤマチハジツゲツノショクノゴトシ　君子の過は日月の蝕の如し、一時その明を蔽ふことあるも、その本體の德は忽ちにして現はる。論語に「子貢曰、君子之過也、如二日月之食一焉、過也人皆見レ之、更也人皆仰レ之」

【君子先擇而後交】クンシハマヅエラビテノチマジハル　君子は初を慎むを以て後悔なきをいふ。文中子に「君子先擇而後交、故寡レ尤」

【君子勞レ心小人勞レ力】クンシハココロヲロウシ　セウジンハチカラヲロウス　人格の高下によりて、その勞する所を異にする意。左傳に「知武子曰、君子勞レ心、小人勞レ力、先王之制也」

【君者舟也庶人者水也】キミハフネナリ　ショジンハミヅナリ　君と庶人との關係を舟と水とに喩ふ、助くる者も時には害をなすの意。荀子に「君者舟也、庶人者水也、水則載レ舟、水則覆レ舟」

【君子交絕不出二惡聲一】クンシハマジハリタユルモ　アクセイヲイダシテメズ　君子は絕交したる後にも、その人の惡口をいはず。史記、樂毅傳に「臣聞、古之君子、交絕不レ出二惡聲一、忠臣去レ國、不レ潔二其名一」

【君雖レ尊以レ白爲レ黑臣不レ能聽】キミタフトシトイヘドモシロキヲモツテクロトナサバ　シンキクコトアタハズ　非理の言には從ひ難きをいふ。呂氏春秋に出づ。

【吝】リン。一なしむ　二やぶさかなり（鄙嗇）三しわし、いやし四うらむ（恨）。

【吝嗇】リンショク　金錢などにきたなし。宋史、曾亮傳に「性吝嗇、貨殖至二鉅萬一」

【呑】トン。吐根切。元。テン。他年切。先。

一のむ、吐の對）二あはせかぬ（竝包）三ほろぼす（滅）四かろんず（輕）。

【呑咽】エンのみこむ。急就篇、注に「所二以呑二咽物一也」

【呑滅】ドンメツ　ほろぼす。魏書に「遂相呑滅、悔何及哉」

【呑噬】ドンゼイ　のむとかむと。他のものを侵しとる義。唐書に「有レ呑二噬四海一意ヨ」

【呑聲】トンセイ　すすりなきす。鮑照「呑レ聲躑躅二不一敢言一」

【呑舟魚】ドンシウノウヲ　ふねをのむほどの大魚。說苑に「呑舟之魚、蕩而失レ水、制二於螻蟻一者、離二其居一也」

【呑二胡羯一】ドンコカツノム　夷狄をひとのみにする義にて、之を滅さんとする意あるをいふ。正氣歌に「或爲二渡レ江楫一、慷慨呑二胡羯一」

【呑牛之氣】ドンギウノキ　幼にして氣象のすぐれたるをいふ。杜甫、小兒五歲氣呑レ牛、滿堂貴客皆回レ頭一」

【呑花臥レ酒】ハナニフシサケニフス　甚だしく花を賞し酒を愛する義。雲仙雜記に「虞松方レ春以謂、握二月擔一風、且留二後日一、呑レ花臥レ酒、不レ可レ過レ時」

【吟】ギン、ゴン。魚音切。侵。

一うめく（呻）二なげく（歎）三ためいきつく（歎息）四ためいき五なげき（歎）六うたふ七うた（詞章）八なく（鳴）、さけぶ（叫）、うそぶく（嘯）。

【吟月】ギンゲツ　月を眺めて詩歌をうたふ。（詠月）。杜荀鶴「溪頭吟レ月上二漁船一」

【吟社】ギンシヤ　詩歌を作る人の結社。高駢「好與二高陽一結二吟社一」

【吟哦】ギンガ　詩歌をうたふ。白居易「醉臥獨吟哦」

【吟殺】ギンサイ　前に同じ。章莊「夕陽吟殺倚レ樓人」

【吟蛩】ギンキヨウ　（動）こほろぎ。埤雅に「蟋蟀、一名二吟蛩一」

【吟唱】ギンシヤウ　詩歌をうたふ。元好問「遺編隨レ儉迎レ陽」

【吟唱心自足】　前に同じ。詩經、譜に「人民和樂、謳歌吟詠」

【吟嘯】ギンセウ　前に同じ。李白「撫レ劍夜吟嘯」

【吟聲】ギンセイ　詩歌をうたふこゑ。溫庭筠「書迹臨二湯鼎一、吟聲接二舜絃一」

【吠】ハイ、バイ。扶廢切。隊。

一ほゆ二犬のなくこゑ。

【吠日】ヒニホユ　蜀の犬は日を見ること少きが故に、日を見るときはほゆ。韓愈「蜀中山高霧重、見レ日時少、每レ至二日出一、則羣犬疑而吠之也」

【吠堯】ゲフニホユ　その仕ふる所の主に忠を盡すをいふ。史記に「跖之狗吠レ堯、堯非二不仁一、狗固吠レ非二其主一」

【吠嘷】ハイほゆ。柳宗元「虎豹咆嘯、代二狺牢之吠嘷一」

【否】一ヒウ、フ。俯九切。有。二ヒ、ビ。符鄙切。紙。

一いな二いなむ、こばむ（拒）三しからす四よからず五ふさがる（塞）六あし（惡）四あしき事、けがれし物、ふさがる所五易の卦の名。

【否定】ヒテイ　然らずとなす。非とす。

【否泰】ヒタイ　易の二つの卦の名、否は塞、泰は通なり、否塞の運命もその極度に至れば泰平に反るをいふ。吳越春秋に「時過二于期一否終卽泰」

【否運】ヒウン　あしきめぐりあはせ。張九齡「否運爭二三國一」

【否德】ヒトク　うすきとく。又、とくにたがふ。書經に「否德忝二帝德一」

【否臧】ヒザウ　あしきとよきと。白居易「賢愚定二否臧一」

【吧】ハ、ヘ。按巴切。麻。

一日の大いなる貌二小兒の慾爭する貌（吧呀）。

【吨】トン、ドン。徒渾切。元。

一ことば明かならず二意氣合ひ難し。

【呲】一ヒツ、ビチ。毘必切。質。二ヒ。匹婢切。紙。

一とりのこゑ二そしる（訾）。

【吸】一コウ、ク。沽紅切。東。二ショウ、シユ。諸容切。冬。かまびすし。

【吩】フン。噴に同じ。

【吩咐】(ゆ)フン、ゲワ。いひつける。命令す。

【吮】(ゆ)グワ、ゲワ。吾禾切。歌。(ろ)クワ、ゲ。乎瓜切。麻。(ゆ)一うごく(動)二かはる(化)三あやまる(謬)ろ口を開く。

【含】(ゆ)カン、ゴン。胡男切。覃。(ろ)胡紺切。勘。(ゆ)一ふくむ(銜)二つつむ(包)三いる(容)四いだく(懷)五しのぶ(忍)六茂り盛んなる貌ろ古昔、支那にて死者の口にふくましめたる玉(通じて、啥に作る)。

【含玉】(ガンギョク)むかし支那にて、死人の口に含ましめたる玉。周禮に「大宰大喪贊二贈玉含玉一」

【含有】(ガンイウ)ふくみもつ。孫綽「慮以含有、文以飾身」

【含味】(ガンミ)かみわけてあぢはふ。後漢書に「含二味經籍一」

【含咽】(ガンエン)ふくみのむ。轉じて、言を心に藏めて出さぬにいふ。風俗通義に「漢文帝忍二容言者一、含二咽臣子之言一」

【含垢】(ガンコウ)はぢをしのぶ。左傳に「國君含垢、天之道也」

【含胡】(ガンコ)模糊として明かならず。唐書に「祿山斷二其舌一曰、復能罵否、果鄉含胡而絕」

【含怒】(ガンド)いかりをしのぶ。戰國策に「含怒之日久矣」

【含笑】(ガンセウ)一ゑがほす。庾信「阮籍披レ衣起、王戎含レ笑來」二花の開き初めないふ。蘇軾「野桃含レ笑竹籬短、溪柳自搖沙水清」

【含桃】(ガンタウ)〔植〕ゆすらうめ。禮記、注に「含桃、櫻桃也」

【含羞】(ガンシウ)はぢをふくむ。はぢらふ。蒲道源「晨妝初罷尚含レ羞」

【含葩】(ガンハ)はなのつぼみ。獨孤及「含葩向二新陽一」

【含嗽】(ガンソウ)うがひす。

【含蓄】(ガンチク)ふくみもつ。表面に現はれたる意味の外になほ深き意味を有するをいふ。韓琦「毫端古意多二含蓄一」

【含糊】(ガンコ)にえきれず。(糊塗)。舊唐書に「朝廷每爲二含糊一、未二嘗窮二究曲直一」

【含羞草】(ガンシウサウ)〔植〕おじぎさう。

【含英咀華】(ガンエイショクワ)文字の眼目の處を涵泳咀嚼し、書味を胸中にたくはふるをいふ。韓愈「沈浸醲郁、含レ英咀レ華」

【听】(ゆ)ギン、ゴン、ギチ。魚乙切。質。(ろ)ギツ、ギチ。魚衣切。微。(ば)ギ。魚其切。支。(ゆ)笑ふ貌、口の大いなる貌ろ笑ふ貌(ば)媿づる貌(ば)口を開く貌。國訓ぽん(Pond)我國の百二十匁強に當る。

【吭】(ゆ)カウ、ガウ。胡郎切。陽。ろカウ。口朗切。養。(ゆ)のんどろこゑ(聲)。(ゆ)センセン。粗兗切。銑。(ろ)エン。以轉切。銑。(ば)シュン、ジュン。食允切。軫。(ゆろ)すふ(欷)(ば)れぶる(泣)。

【吭癰】(コウヨウ)癰はあしきかさ。唐書に「張士巖母病癰、士巖爲吮血」

【吭疽之仁】(センシノジン)大將が士卒ないたはること、卽ち、吳起が部下の兵士の疽をすすりて、うみをとりしことに始まる。史記、吳起傳に「卒有二病レ疽者一、起爲吮レ之」

【啓】ケイ、カイ。康禮切。薺。本、啓に作る。ひらく(開)。

【眉明】(ケイ)ふあけの明星。爾雅に「明星謂二之眉明一」

【呺】アウ、エウ。於交切。肴。一たはれごゑ二あつまりなくこゑ。

【吹】フ、ホ。匪父切。麌。一かみさく(咀嚼)二あぢはふ(玩味)三はかる。

【吹咀】(シヨ)かみこなす。(咀嚼、含味)。方書に「藥之粗齊爲二吹咀一」

【呈】(ゆ)テイ、ヂャウ。直貞切。庚。(ろ)直正切。敬。(ば)丑鄭切。梗。(ゆ)一とく(解)二しめす(示)、あらはす(見)三あらはろ(露)四ほど(程に通ず)ろてらふ(街)(ば)一たくまし(逞に同じ)

三こころよし(快)。

說文に「口に从ふ、壬の聲」

【呈示】(テイシ)あらはししめす。

【呈露】(テイロ)あらはす。

【吳】(ゆ)ゴ、ゲ。午胡切。虞。(ろ)元俱切。虞。(ゆ)一おほいなり(大)二ほこる(大言)三かまびすし(譁)四たのしむ(娛に通ず)五地名ろおもんばかる(慮)。國訓くる、與ふ、又、受く。

【吳回】(ゴクワイ)火の神。山海經、注に「吳回、祝融弟、亦爲二火正一也」

【吳吟】(ゴギン)故鄉を戀ふる意。戰國策に「陳軫曰、王、獨不レ聞二吳人遊楚者一乎、楚王甚愛レ之、病、故使二人問一之曰、誠病乎、意亦思乎、左右曰、誠思則將二吳吟一」

【吳音】(ゴオン)漢字の音の一種。支那の南方、吳地方の古音にして、夙に我國に傳はりしもの。

【吳干劍】(ゴカン)吳の干將の作れる名劍。戰國策に「吳干之劍、肉試則斷二牛馬一」

【吳下阿蒙】(ゴカアモウ)學識なきつまらぬもの。呂蒙の故事。吳志に「孫權謂二呂蒙及蔣欽一、宜二學問以自開益一、蒙始就レ學、篤志不レ倦、魯肅過レ蒙言議、嘗欲レ屈、拊二蒙背一曰、吾謂弟但有二武略一耳、今者學識英博、非二復吳下阿蒙一」

【吳牛喘月】(ゴギウクワツキニ)長懼の甚だしきをいふ。吳國は暑さ烈しき故、牛は夜月の出づるを見て、太陽なりと思ひ、暑からざるに尙喘ぐといふ故事。世說に「滿奮長レ風、在二晉武帝座一、北窗作二琉璃窗屏一、實密似レ疎、奮有二難色一、帝笑問レ之、奮答曰、臣猶二吳牛見レ月而喘一」

【吳越之思】(ゴエツノオモヒ)戰國の時、吳王夫差と越王勾踐と讐を開き、久しく鬪爭せし故事より、互に敵意を懷くにいふ。

【吳】ゴ。吳の俗字。

【吵】(ゆ)ベウ、メウ。亡沼切。篠。ろサウ、セウ。初爪切。巧。(ば)楚敎切。效。(ゆ)なく(鳴、きじなく(雉鳴)ろこゑ(聲)(ば)かろし(輕)。

【囿】(ゆ)ダツ、ナチ。女刮切。黠。ろゼツ、ネチ。如劣切。屑。(ゆ)一ひくきこゑ二どもる(吶に同じ)。

【吶】(ゆ)ゼツ、ネチ。女劣切。屑。ろトツ、ナチ。奴滑切。月。

【吶吃】(トツキツ)どもる、どもり(訥に同じ)。

【吶】(トツ)口どもる。ろトツ、ナチ。奴滑切。月。にいふ。括地志に「被閒寒戰、形氣吶吃」

【吶吶】(トツトツ)口どもる。(訥訥)。禮記に「其中退然如レ不レ勝レ衣、其言吶吶然、如レ不レ出二諸口一」

【吶喊】(カツカン)大聲にわめく。多く兵事に用ゐる。戚繼光「各兵吶喊」

【吠】(ゆ)ケツ、ケチ。許劣切。屑。ろセツ、ゼチ。昌悅切。屑。(ゆ)一ささやく(小聲)二はやし(疾)三わかつ(決に同じ)四とりのこゑろ一のむ二すする(獸)。

【吸】キフ、コフ。訪及切。緝。一すふ二のむ(飲)三ひく(引)四こゑ(聲)。

【吸收】(キフシウ)すひとる。

【吸吸】(キフキフ)雲の動く貌。楚辭に「雲吸吸」

【吹】(ゆ)スキ。昌垂切。支。ろ昌瑞切。寘。(ば)シ。齒鴛切。寘。(ゆ)一ふく二うそぶく(嘯)三たすく(助)四かぜ(風)ろ(ば)はやし(鼓吹)。

【吹竽】(スイウ)ふえをふく。史記に「其民無レ不二吹レ竽鼓レ瑟」

【吹奏】(スイソウ)前に同じ

【吹雪】(スイセツ)ふぶき。戴昺「晚至如二吹雪一」

【吹笛】(スイテキ)ふえをふく。後漢書、馬融傳に「融善二鼓琴一、好吹レ笛」

【吹煦】(スイク)ふきてあたたむ。白居易「吹煦長未レ已」

【吹管】(スイクワン)ふえをふく。庾信「北閣閒二吹管一」

【吹噓】(スイキヨ)一いきをふきかく二人をすすめあぐ。杜甫「願借二吹噓一逐二上天一」

【吹毛求疵】(ケツモウキウシ)毛の中の疵まで求むるが如く、小過をきびしく吟味す。韓非子に「不二吹レ毛而求二小疵一、不二洗

垢而察ㆍ雖㆑知」

【吺】 ㋕トウ、ツ。丁侯切。尤。㋙ジュ、ニュ。汝朱切。虞。㊀ことばおほし(多言)㊁くちばしる㊂かぶと(兜に同じ)㋙ささやく(密語)。

【吻】 ブン、モン。武粉切。吻。くちさき、くちもと。

【吻合】(ガフ) ぴったりとあふ。

【吼】 コウ、ク。呼后切。有。ほゆ、なく。

【吼號】(ガウ) 聲をあげてさけぶ。後漢書に「卒莫㆑不㆓吼號㆒」

【吽】 ㋕イン、オン。於今切。侵。㋙ゴウ、グ。五侯切。尤。ほゆ(吼)。

【吾】 ㋕ギョ、ゴ。牛居切。魚。㋙ゴ、グ。五乎切。虞。㋕親まざる貌㋙㊀われ、わが㊁ふせぐ(禦)、とどむ(止)㊂ささふ(支)、たがふ(違)㊃吟哦のこゑ(唔に通ず)。

【吾人】(ジン) われら。われわれ。

【吾子】(シ) 同輩相親みて呼ぶ稱。あなた。孟子に「或問㆓乎曾西㆒曰、吾子與㆓子路㆒執賢」

【吾友】(イウ) わがとも。論語に「吾友張也、爲㆑難㆑能也、然而未㆑仁」

【吾兄】(ケイ) ㊀親友の敬稱。韓愈「獲㆓吾兄二十四日之手書㆒」㊁わがあに。

【吾吾】(ゴ) 親まざる貌。國語に「暇豫之吾吾、不㆑如㆓鳥烏㆒」

【吾伊】(イ) 讀書のこゑ。(唔咿)。黃庭堅「南窗讀㆑書聲吾伊」

【吾們】(モン) われら。われわれ。

【吾徒】(ト) 前に同じ。論語に「子曰、非㆓吾徒㆒也、小子鳴㆑鼓、而攻㆑之可也」

【吾曹】(サウ) 前に同じ。蘇軾「山向㆓吾曹㆒分外靑」

【吾儕】(サイ) 前に同じ。左傳に「吾儕小人」

【吾輩】(ハイ) 前に同じ。

【吾黨】(タウ) 前に同じ。論語に「吾黨之直者、異㆓於是㆒」

【吒】 カク、コク。黑角切。覺。㊀患り呼ぶ貌㊁いかるこゑ。

【告】 ㋕カウ、コウ。古到切。號。㋙コク。古沃切。沃。キク、コク。居六切。屋。㋕㋙㊀つぐ㊁かたる(語)㊂しらす(報)㊃をしふ(敎)㊄しめす(示)㊅まをす(啓)㊆とふ(問)㊇おほす(命)㊈こふ(請)㊉やすみ⑪きはむ(鞠に同じ)。說文に「口に从ひ、牛に从ふ」

【告示】(ジ) 一般に告げ知らす。晉書に「人君有㆑暇、必露㆓其懇㆒、以告示焉」

【告老】(ラウ) 年老いたるを告げて致仕を乞ふ義。左傳に「晉韓獻子告㆑老」

【告別】(ベツ) いとまごひ。杜甫「相逢雖㆓衮衮㆒、告別莫㆓怱怱㆒」

【告訐】(ケツ) 人の惡事をあばきて官に告ぐ。漢書に「化行㆓天下㆒、告訐之俗易」

【告喩】(ユ) つげさとす。左傳、注に「共先告㆓喩魏有司㆒」

【告假】(カ) 官職を辭す。蔡航紀談に「有㆓一卒㆒、患㆓背疽㆒、乞㆓告假㆒」

【告天子】(テンシ) (動)ひばり。(雲雀)。

【告朔之餼羊】(コクサクノキヤウ) 告朔に用ゐて祖廟に供ふるいけにへ。實用の益なきものも、事に害なきものは、之を保存すべしとの意に用ゐる。論語に「子貢欲㆑去㆓告朔之餼羊㆒、子曰、賜也爾愛㆓其羊㆒、我愛㆓其禮㆒」

【告㆓諸往㆒而知㆑來】(コレニワウヲツゲテライヲシル) 往は過去にて既に語られたるをいひ、來は未來にて未だ語られざるをいふ。卽ち一を聞いて二を知るといふが如し。孔子の語。論語に見ゆ。

【呞】 サフ、ソフ。子答切。合。㊀すふ(吸)㊁くらふ(喋)。

【呀】 ㋕カ、ケ。許加切。麻。㋙カ。虎何切。歌。㋕㋙㊀口をあく㊁むなし(虚)㊂空洞なる貌㊃大いなるくち㋙くちあく。

【呀呀】(ガ) 口を張る貌。獨孤及「饑虎呀呀立當㆑路」

【呀呷】(カフ) 口をあけてののしる。又、口を開きたる貌。五代史に「劉鋹每㆑視㆓殺人㆒、不㆑覺朶頤垂涎呀呷、人以爲㆓眞蛟蜃㆒也」

【呁】 キン、クン。九峻切。震。㊀はく(吐)㊁とぶらふ(唁)。

【呂】 リヨ、ロ。力擧切。語。㊀せぼね(脊骨)㊁ながし(長)㊂陰の音律㊃つらぬ、つらなる(旅)。

【呂鉅】(リヨキヨ) 矜驕の貌。莊子に「一命而呂鉅、再命而于㆓車上㆒舞」

【呃】 ㋕アイ、エ。烏界切。蟹。㋙呢に同じ。㋕不平のとき發する聲。

【呃喔】(アクアク) 鳥の鳴くこゑの形容。溫庭筠「東家呃喔雞聲早」

【㕸】 ハン、バン。博漫切。寒。㊀相好をくづす㊁剛強なる貌、つよし。

【呅】 ㋕バイ、マイ。莫杯切。灰。㋙ブン、モン。武粉切。吻。㋕㊀くちをつぐむ㊁わらふ(笑)㋙吻に同じ。

【呆】 ㋕ハウ、ホウ。補道切。皓。㋙ボウ、モ。莫厚切。有。㋕保に同じ㋙某の古文字、今俗に、獃と同義に用ゐるは誤。

【味】 クワツ、ゲチ。下刮切。黠。口をふさぐ。

【呴】 コウ、ク。火候切。宥。笑ふ貌。

【呈】 ワウ、キャウ。呈又は狂の古文字。呈と異なり。

【哅】 キョウ、ク。謝拱切。腫。かまびすし(訩に同じ)。

【呎】 〔國字〕ふーと(Foot.)我國の一尺・〇〇五六餘に當る。

五畫

【呢】 ㋕アク、ヤク。於革切。陌。㋙アイ、エ。烏懈切。卦。㋕㋙㊀なく(喔)㊁鳥の聲、又、雞の聲㋙聲平かならず。

【吰】 ワウ。烏宏切。庚。なく(鳴)、ほゆ(吼)。

【呤】 レイ、リヤウ。郎丁切。青。ささやく(小言)、かたる(語)。

【呥】 ゼン、ネン。如占切。鹽。㊀かむ貌㊁自ら安んずる貌。

【呥呥】(ゼン) かむ貌。荀子に「呥呥而噍」

【呦】 ㋕イウ、ユ。於求切。尤。㋙アウ、エウ。於敎切。效。㋕鹿のなくこゑ㋙をしふ(敎)。

【呦呦】(イウイウ) 鹿の鳴くこゑの形容。詩經に「呦呦鹿鳴、食㆓野之苹㆒」

【呦咽】(イウエツ) むせぶ。雍陶「如㆑恨往來人不㆑見、水聲呦咽出㆓花溪㆒」

【呦嚶】(イウアウ) 獸と鳥との鳴きごゑ。張說「淸蹕嚴前樂、呦嚶鳥獸馴」

【呧】 ㋕テイ、タイ。都禮切。薺。㋙テイ、ダイ。田黎切。齊。㊀しかる(呵)㊁そしる(詆)。

【昭】 テウ。癡消切。蕭。㊀のどなる(喉鳴)㊁なる(鳴)。

【周】 シウ、シュ。之由切。尤。㊀あまねし(徧)㊁めぐる、めぐらす(繞)㊂いたる(至)㊃まがる、くま(曲)㊄めぐり㊅きびし(嚴)㊆まこと(忠信)㊇すくふ(賙に同じ)㊈にぎはす(賑)㊉ほとどぎす(鵑に同じ)⑪ひそかに(密)⑫そなふ(備)⑬かへる(復)。

【周行】(カウ) ㊀大道。一說に、周の朝廷の列位。詩經に「嗟我懷㆑人、寘㆓彼周行㆒」㊁めぐりゆく。魯靈光殿賦に「周行數里、仰不㆑見㆑日」

【周回】(クワイ) とりまく。謝靈運「四山周回、雙流逶迤」㊁まはり。漢書に「周回五里有餘」

【周年】(ネン) 滿一年。陳書に「周年成㆑邑」

【周到】(タウ) 注意ゆきとどく。

【周流】(リウ) ひろくゆきわたる。易經に「變動不㆑居、周㆓流六虛㆒」

【周密】(ミツ) 十分にゆきわたる。漢書に「樞機周密、品式備具」

【周章】(シヤウ) うろたへさわぐ。あわつ。魯靈光殿賦に「俯仰顧眄、東西周章」

【周旋】(セン) ㊀めぐる。戴復古「荒池蛙叫噪、破屋燕周旋」㊁とりもつ。世話す。禮記に「進退周旋愼齊」

【周給】(キフ) あまねく給與す。後漢書に「賑㆓給鄉閭故人㆒、莫㆑不㆓周給㆒」

【周圍】(シウヰ) めぐり。范成大「汗萊一稜水周圍、歲歲蝸廬沒ニ半扉一」
【周圓】(シウヱン) 前に同じ。後漢書に「所レ居城邑、周圓百餘里」
【周道】(シウダウ) 大道。詩經に「周道如レ砥」
【周歲】(シウサイ) 滿一年。全唐詩話に「未ニ周歲一、而爲ニ奸人所一レ殺」
【周環】(シウクワン) めぐりまはる。射雉賦に「周環廻復、繚繞盤辟」
【周盡】(シウジン) 十分にゆきわたる。劉無雙傳に「詞理哀切、敍述周盡」
【周親】(シウシン) みよりのもの。書經に「雖レ有ニ周親一、不レ如ニ仁人一」
【周燕】(シウエン) 〔動〕ほととぎすの異名。爾雅に「子規亦曰ニ望帝一、亦曰ニ周燕一」
【呪】 シウ、シュ。職救切。宥。❶のろひ、のろふ❷まじなひ、まじなふ。
【呪詛】(シユソ) のろふ。
【呪罵】(シユバ) のろひののしる。李義山雜纂に「呪ニ罵祖先一」
【呬】 ㋑レイ、リヤウ。郎丁切。庚。㋺キ。虛器切。寘。㋩チ。丑利切。寘。㋑かまびすし㋺いき、いこふ(息)㋩ひそかにしろ(本、詛に作る)。
【呭】 ㋑エイ。餘制切。霽。㋺セツ、セチ。私列切。屑。㋑くどくどし㋺たのしむ(樂)。
【呭呭】(エイエイ) くどくどしき貌。玉篇に「呭呭猶ニ沓沓一也」
【呮】 キ。去致切。寘。足をのばして坐る。
【呰】 ㋑シ。將此切。紙。㋺シ、ジ。才支切。支。㋩セキ、シャク。資昔切。陌。㋥セイ、サイ。思計切。霽。㋭サ。四箇切。箇。㋑❶せむ(苛)❷そしる(訾)❸よわし(弱)❹なまける❺かりそめに(苟)❻これ、この(此に同じ)㋺❶きず(疵に同じ、瑕)❷やまひ(病)㋩これ、この㋥㋭わづかに(些に同じ)。
【呧】 キウ、ク。袪尤切。尤。❶こゑ(聲)❷くち(口)。
【呫】 ㋑テフ。他叶切。葉。㋺セフ。尺涉切。葉。㋩テン。他兼切。鹽。㋥チン。張甚切。寢。❶なむ(嘗)❷小さき貌❸ささやく❹くどくどし。
【呫呫】(テフテフ) 小さき貌。唐書に「呫呫小人」
【呫嚅】(テフジユ) ささやきしゃべる。唐書に「嶠等數附ニ承喜耳一呫嚅、紹之翻然不ニ復顧一」
【呫囁】(テフセフ) くどくどし。又、ささやく。漢書に「今日長者爲レ壽、迺效ニ女曹兒一呫囁耳語一」
【呱】 ㋑コ、ク。攻乎切。虞。㋺ワ、ヱ。烏瓜切。麻。ちのみ兒のなくこゑ。
【呱呱】(ココ) みどりごの啼きごゑの形容。揚子法言に「呱呱之子、各識ニ其親一」
【吡】 ㋑シ、ジ。才支切。支。㋺イ。余支切。支。❶くひものなきらふ❷食ふものなし。
【⿰口末】 バツ、マチ。莫撥切。曷。くろきひかり(黑光)。
【味】 ㋑ビ、ミ。無沸切。未。㋺バツ、マチ。亡曷切。曷。㋑❶あぢ、あぢはひ❷あぢはふ❸うまみ(甘味)、おもむき(趣味)、おもしろみ(興味)❹きもち(氣味)、わけ㋺あらふ(沬に同じ)。
【呴】 ㋑ク、コ。吁句切。遇。㋺句于切。虞。㋩コウ、ク。呼侯切。尤。㋥呼后切。有。㋭居候切。宥。㋬シャク、ジャク。市若切。藥。㋑あたたむ(溫)㋺❶いきふく(噓吹)、ふく(吹)❷よろこぶ(悅)❸しかる(呵)㋩しはがれ聲㋥ほゆ(吼)㋭なく(雊に同じ)㋬鷄鳴く、又、その聲。
【呴呴】(シヤクシヤク) ❶鷄のなくこゑの形容。王逸「孤雛鷲兮鳴呴呴」❷(クク) ことばの順正なる貌。漢書に「愉愉呴呴」
【呴噓】(クキヨ) いきふく。漢書に「呴噓呼吸」
【⿰口犮】 バツ、ボチ。房越切。月。たて(瞂)。
【呵】 ㋑カ。虎何切。歌。㋺ア。烏何切。歌。㋑❶しかる(訶)❷せむ(責)❸いかる(怒)❹いらつ(苛に通ず)❺わらふ(笑)、わらふ聲❻いきふく(噓氣)㋺緩く應ふる聲(阿に通ず)。

【呵止】(カシ) しかりとどむ。史記に「霸陵尉醉呵ニ止廣一」
【呵呵】(カカ) からからと笑ふ貌。傳燈錄に「猶有ニ一人一、呵呵大笑」
【呵硯】(カケン) いきにて硯をあたたむ。洪希文「吟成呵レ硯冰猶堅」
【呵凍】(カトウ) こほれる筆に息を吹く。李白の故事より、冬、文を草し字を寫すにいふ。天寶遺事に「李白撰ニ詔誥一時、大寒硯凍、帝勅ニ宮嬪一、執ニ牙筆一呵レ之」
【呵筆】(カヒツ) 寒中文を草する時、筆にいきをふきかく。楊萬里「呵レ筆更成レ揮」
【呵噓】(カキヨ) 氣をふきかく。韓愈「炎帝持ニ祝融一、呵噓不ニ相炎一」
【呵罵】(カバ) きびしくののしる。魏志に「太祖見ニ檄書一、呵ニ罵之一」
【呶】 ㋑ダウ、ネウ。泥交切。肴。㋺ダ、ネ。女加切。麻。㋩ド。慣用音。かまびすし、言語多し、聲多し。
【呶呶】(ドド) 多言にしてかしましき貌。韓愈「呶呶以害ニ其生一」
【呷】 カフ、ゲフ。呼甲切。洽。❶すふ(吸)❷のむ(飮)❸かまびすし、聲衆し❹はる(張)。
【呷呷】(カフカフ) 鴨のこゑ。爾雅に「鴨鳴呷呷」
【⿰口主】 ㋑チュ、チョ。家庾切。麌。㋺シュ。朱戍切。遇。㋑口正しからず㋺くちばし(喙)。
【呹】 ㋑イツ、イチ。弋質切。質。㋺チツ。勅栗切。質。㋑❶牛羊の草を呞む貌❷はやし(疾)㋺こゑ(聲)。
【呺】 ㋑ケウ。許嬌切。蕭。㋺カウ、ゴウ。乎刀切。豪。㋑虛大なる貌㋺❶怒り叫ぶ聲❷かぜのおと。
【⿰口乏】 サフ、セフ。側洽切。洽。ついばむ(啄)。
【呻】 シン。失人切。眞。❶うたふ(吟)❷よぶ(呼)❸うなる(唸)❹なげく(歎)。
【呻吟】(シンギン) うたふ。うめく。陸游「老葉呻吟未レ殿レ詩」
【呼】 ㋑コ、ク。荒胡切。虞。㋺カウ、ケウ。虛交切。肴。㋩カ、ケ。虛訝切。禡。㋥カ。許箇切。箇。㋑❶よぶ、よばふ、さけぶ❷あ、ああ(通じて、乎、虖に作る)❸なげく(歎)❹はくいき(出息)㋺❶よぶ(詨に同じ)❷ああ㋩さく、さけたる場處(罅に同じ)㋥怒り又は驚きて發する聲。
【呼吸】(コキフ) ❶息をすひ又はく。いき。莊子に「吹呴呼吸」❷極めて短き時間。晉書に「決ニ勝負於一朝一、定ニ成敗于呼吸一」
【呼喝】(コカツ) よびしかる。白居易「報道前騶少ニ呼喝一」
【呼唱】(コシヤウ) よびとなふ。柳宗元「行ニ呼唱于朝廷一而已耶」
【呼嗟】(コサ) ああ。なげく聲。後漢書に「頓踣呼嗟、莫レ不レ叩レ心」
【呼翕】(コキフ) すふとはくと。陸機「爾乃呼ニ翕九陽一、抱レ一含レ元、引レ新吐レ故」
【呼號】(コガウ) よばはりなく。漢書に「晝夜呼號、車騎滿レ門」
【呼噪】(コサウ) さけびさわぐ。茅亭客話に「聞ニ堰上呼噪之聲一」
【呼應】(コオウ) 甲よび乙こたふ。傳燈錄に「呼レ山山應如レ是、六窗俱呼俱應」
【呼韓邪】(コカンヤ) 匈奴の王の名。漢書に「呼韓邪單于來朝」
【呼レ牛呼レ馬】(ウシトヨビウマトヨブ) 是非は人の評するに任せて、己はこれに關せざるをいふ。莊子に「呼ニ我牛一也、而謂ニ之牛一、呼ニ我馬一也、而謂ニ之馬一」
【命】 ㋑メイ、ミヤウ。眉病切。敬。㋺ビン、ミン。眉辛切。眞。❶つかふ(使)❷みことのり、のり、をしへ、をしふ❸しめし、しめす、いましめ、いましむ、おほせ、おほす、まうしつけ、まうしつく❹めぐりあはせ❺いのち❻みち(道)❼な、なづく❽まこと(信)❾まと(的)❿よぶ(呼)、めす(召)⓫はかる(計)⓬官服㋺おほせ、まうしつけ。
【命分】(メイブン) うんめい。蘇軾「窮人命分薄」
【命中】(メイチユウ) めあてのものに正しくあたる。梁昭明太子「楊柳命中、猿啞ニ長空一」
【命世】(メイセイ) 一世に秀でたる人物。漢書に

「聖人不レ出、其間有二命世者一焉」

【命服】メイフク　公に定められたる服。詩經に「服二其命服一、朱芾斯皇」

【命婦】フイ　㊀大夫の妃の稱。禮記に「卿大夫從レ君、命婦從二夫人一」㊁ミョウフ　我國にて、五位敍爵の官女の稱。

【命數】メイスウ　めぐりあはせ。運命。李頻「江山非二久適一、命數未レ終奇」

【命在レ天】メイニアリテ　人の壽命は天に在りて人力を以ていかんともすべからず。史記に「命乃在レ天、雖二扁鵲一何益」

【命緣義輕】イノチハギニヨリテカルシ　生命は至つて大切なれども、義の爲にはすてて惜まざる意。後漢書に「情爲レ恩使、命緣義輕」

【咀】

㊀タツ、タチ。當割切。曷。㊁アツ、エチ。乙鎋切。黠。㊂タツ、テチ。噤軋切。黠。㊃しかる(呵)㊄相呼ぶ聲。㊅語正しからず。

【呿】

㊀カ、ケ。丘加切。麻。㊁キョ、コ。丘於切。魚。㊂エフ、オフ。於業切。葉。㊃ケフ、コフ。乞業切。葉。㊄ろ㊅一くちあくび㊆はる㊇れいき(臥息)。

【咀】

㊀ショ、ソ。慈呂切。語。㊁子與切。御。㊂一かむ、かみわく、くらふ㊃ふくむ(含)㊄藥をあはす。

【咀啖】ソクン　かみくらふ。春渚紀聞に「聽二其咀啖一」

【咀嚥】セツ　かみこなす。轉じて、書を讀みて十分に意味を尋ね究むるにいふ。(嚥咀)。蘇軾「採二剝其華實一、而咀二嚥其膏味一」

【咀嚼】シヤク　前に同じ。文心彫龍に「傲二岸泉石、咀二嚼文義一」

【咄】

㊀トツ、トチ。當沒切。月。㊁一しかる(詞)㊃したうち(吒)㊄やあ(呼び掛くる聲)㊅しかるこゑ㊆おどろきあやしむこゑ㊇しかる。

國訓はなし。

【咄咄】トツトツ　驚き怪むことば。晉書に「但終日書レ空、作二咄咄怪事四字一而已」

【咄嗟】トツサ　しかるこゑ。又、事の急なるをいふ。晉書、石崇傳に「爲レ客作二豆粥一、咄嗟便辦」

【杏】

㊀トウ、ツ。他豆切。宵。㊁ホウ、フ。普后切。有。㊂一わらふ(嗤)㊃つぼき、つばきす(唾)。ハウ、ベウ。薄交切。肴。

【咆】

㊀ほゆ(吼)㊁いかる(怒)㊂の む(魚に通ず、咏嗙)。たけだけしく怒る貌。四征賦に「何猛氣之咆勃」

【咆嗙】ハウボツ

【咆哮】ハウカウ　ほえたける。(哮咆)。常建「日入聞二虎闘一、空山滿二咆哮一」

【咈】

㊀ヘツ、ベチ。蒲結切。屑。㊁ヒツ、ビチ。毘必切。質。㊂ヒ、ビ。毘至切。眞。㊃一かうばし(芳香)㊄かたる(語)㊅一ことば明かならず㊆ことばおほし㊇かなしむこゑ。

【咈】

㊀フツ、ボチ。符勿切。物。㊁ヒツ、ビチ。薄密切。質。㊂ハイ、バイ。步昧切。隊。㊃ろ一もとる(戾)㊄たがふ(違)㊅いな(否)㊆とどむ、馬をひきととむ。

【呿】

㊀アウ。烏郎切。養。㊁ろ烏郎切。陽。㊂一かなしむ(悲)㊃むせぶ(咽)㊄ふさがる(塞)㊅應答のこゑ。

【呿咽】アウエツ　ふさがる。魏都賦に「山阜猥積而崎嶇、泉流迸集而呿咽」

【咏】

クワ、ワ。和の古文字。

【咋】

㊀サク、シヤク。側格切。陌。㊁ろサ、ゼ。助駕切。禡。㊂一おほごゑ、うなる㊃かまびすし、さけぶ㊄かむ(噛)、くらふ(啖)㊅一かたるこゑ㊆しばらく(暫)。

【咋喈】サクシヤク　わめき泣く。又、ひなうた。鹽鐵論に「鄙夫樂二咋喈一、而怪二韶濩一」

【和】

㊀クワ、ワ。戶戈切。歌。㊁胡臥切。箇。㊂一したがふ(順)㊃かなふ(諧)㊄やはらぐ㊅小さきふえ(小笙)㊆ちんやのいりくち(軍門)㊇むつぶ(睦)㊈ととのふ(調)㊉あふ、あはす(會)㊊のどか(長閑)、あたたか(溫)㊋すす(鈴)㊌たひらぐ(平)㊍うらかに(麗)㊎宜しき節度にかなふ行爲㊏やまと(日本の別稱)㊐一こたふ㊑まぜあはす㊒まれす。

【和上】ワジヤウ　〔佛〕和尚と同義。師といふが如し。大集經に「恭二敬父母師長和上一、故得二肉髻相一」

【和比】ヒ　やはらぐ。周禮、注に「比謂二簋與一民和比一也」

【和平】ワイ　やはらぎておだやかなり。禮記に「耳目聰明、血氣和平」

【和同】ドウ　おだやかに一致す。禮記に「天地和同、而萬物蒲動」

【和合】ガフ　㊀むつまじくす。漢書に「今人主和二德于上一、百姓和二合于下一」㊁やはらぐ。韓詩外傳に「天施地化、陰陽和合」㊂結婚せしむる義。易林に「使二媒求レ婦和二合二姓一」

【和沖】チユウ　やはらぐ。劉基「默默全二和沖一」

【和尚】シヤウ　〔佛〕(梵語 Upadhyaya. 鄔波遮迦の轉)教師の義。晉書に「法常與二法佐一、對車夜談、言及二和尚一」

【和悅】エツ　やはらぎよろこぶ。書經、傳に「民大和悅、而集會」

【和風】フウ　のどかなる春風。杜甫「薄衣臨二積水一、吹レ面受二和風一」

【和氣】キワ　やはらげるこころ。禮記に「有二和氣一者、必有二愉色一」

【和集】シフ　やはらぐ。淮南子に「天下寧定、百姓和集」

【和舒】ジヨ　やはらぎてゆるやかなり。卞蘭賦に「匿二天威之嚴厲一、揚二慢悠之和舒一」

【和喜】キウ　やはらぎよろこぶ。史記に「古者太平、萬民和喜」

【和順】ジユン　やわらぎしたがふ。禮記に「和順積レ中、而英華發レ外」

【和愜】ケフ　やはらぎてこころよし。律呂相召賦に「天理不レ奸、物情和愜」

【和景】ケイ　よきけしき。鮑照「歎二息和景一、掩二淚春風一」

【和愉】ユウ　やはらぎたのしむ。淮南子に「和愉虛無、所二以養一德一」

【和壹】イツ　やはらぎあふ。禮記に「人之所二以羣居和壹之理一、盡矣」

【和暖】ダン　あたたかなり。杜甫「亭午頗和暖、石田又足レ收」

【和睦】ボク　やはらぎむつぶ。孝經に「先王有二至德要道一、以順二天下一、民用和睦」

【和敬】ケイ　やはらぎつつしむ。禮記に「樂在二宗廟之中一、君臣上下同聽レ之、則莫レ不二和敬一」

【和暢】チヤウ　やはらぎのぶ。晉書に「天朗氣清、惠風和暢」

【和解】カイ　㊀やはらげとく。春秋、注に「莒魯有レ怨、紀侯既昏二於魯一、使二大夫盟レ莒以和二解之一」㊁やはらぎとく。晉書に「今若和解則忠勳可レ立、富貴可レ保」

【和煦】ワク　あたたかなり。孔平仲「雖二寒亦料峭一、稍霽卽和煦」

【和酬】ワシウ　他人の作りたる詩意に和して答ふること。(賡酬)。王禹偁「白雪驚郢中、調高誰和酬」

【和適】ヤキ　やはらぎかなふ。天竺國記に「中天竺其土和適」

【和穆】ボク　やはらぐ。(緝穆)。曹植「仰二春風之和穆一兮、聽二百鳥之悲鳴一」

【和調】テウ　やはらぎあふ。管子に「夫民必知レ義、然後中正、中正、然後和調」

【和熟】ワジユク　みのる。左傳に「國無道、而年穀和熟、天贊レ之也」

【和親】シン　やわらぎしたしむ。禮記に「父子兄弟同聽レ之、則莫レ不二和親一」

【和諧】カイ　やはらぎととのふ。晉書に「施二之金石一、則音韻和諧」

【和豫】ヨウ　やはらぎよろこぶ。莊子に「使二之和豫一、而不レ失二于兌一」

【和輯】シフ　やはらぐ。漢書に「與二剖符一通レ使、使レ和二輯百蠻一」

【和樂】ラク　やはらぎたのしむ。詩經に「鼓レ瑟鼓レ琴、和樂且湛」

【和璞】ハク　璞はあらたまなり、卞和が楚の懷王に獻じたるあらたま。戰國策に「范雎獻二書昭王一、曰、臣聞周有二砥厲一、宋有二結綠一、梁有二懸黎一、楚有二和璞一、此四寶者工之所レ失也」

【和謙】ケン　やはらぎへりくだる。易經に

「和謙致レ樂、君子攸レ同」

【和謹】やはらぎつつしむ。南史、王諶傳に「貞正和謹、朝廷稱爲二善人一」

【和韻】他人の詩意に和し、同韻にて詩を作る。珊瑚鉤詩話に「前人作レ詩、未二始和韻一、自レ唐白樂天與二元微之一爲中二浙觀察一、往來置二郵筒一、倡和始依レ韻、而多至二千言一、少或百數十言、篇章甚富」

【和議】講和の相談。宋史に「及二秦檜主二和議一、士氣遂沮」

【和鸞】車の軾にかくる鈴。詩經に「和鸞雝雝」

【和合衆】〔佛〕僧家の稱、五人以上を衆といふ。法華經科註に「僧伽此翻二和合衆一」

【和而不レ同】人に贊成はすれどもおもねりて從ふことなし。論語に「子曰、君子和而不レ同、小人同而不レ和」

【和光同塵】我智惠の光を深く隱して顯さざるを和光といひ、世の塵俗に混じ居るを同塵といふ。老子に「和二其光一、同二其塵一」

【和如二瑟琴一】夫婦の仲睦じきをいふ。詩經に「妻子好合、如レ鼓二瑟琴一」

【和衷協同】心の底よりうちとけて共に力をあはす。書經に「同レ寅協レ恭和衷哉」

【和羹鹽梅】あつものは鹽の加減にて味をなす、以て人君が良臣の輔佐によって德を成すに喩ふ。書經に「若作二和羹一爾惟鹽梅」

【呆】クワ、ワ。胡臥切。箇。

【咍】カイ。呼來切。灰。
一わらふ、わらひ(笑)二よろこぶ、よろこび(悅)三たのしみ、たのしむ(樂)四あざける、あざけり(嘲)。

【哈哈】笑ひたのしむ貌。皇甫湜「昔民歗歗、今民哈哈」

【哈笑】わらふ。魏志に「大哈二笑之一」

【咎】キウ、ク。其九切。有。
一わざはひ(災)二とが、あやまち(罪過)三とがむ、とがめ四にくむ、にくみ(惡)。

【咎戒】とがめいましむ。後漢書に「人自抑損以塞二咎戒一、則天道虧レ盈、鬼神福レ謙矣」

【咎戾】とがめ。蜀志に「畏二彼咎戾一」

【咎殃】わざはひ。京房易傳に「萬民喜樂、無二咎殃一」

【咎悔】くいあらたむ。荀悅「言出二于口一、則咎悔及レ身」

【咏】エイ、ヤウ。爲命切。敬。うた、うたふ(詠に同じ、歌)。

【呴】コウ、ク。呼公切。東。おほごゑ。おほごゑ。荀子に「掩レ耳而聽者、聽二漠漠一以爲二呴呴一」

【咐】フ、ボ。奉蒲切。虞。いきをふく、ふく(噓)。アク。影霍切。藥。呼と異なり。一ふせぐ二こばむ(拒絕)。

【哮】ハウ。小兒の啼きごゑ。

六畫

【咢】シフ。七入切。緝。ゑイフ。一入切。緝。三ささやく四そしる(讒言)。

【咀】ジ、ニ。仍吏切。寘。ゑ人之切。支。一くちさき(口吻)二くちもと(口旁)。

【咢】カク。五各切。藥。二おどろく(驚)三つづみうつ二つば(鍔)に同じ)四たかし(高)五あらそふ(諍に同じ、直言)。

【咤】ゆタ、デ。陟嫁切。禡。ゑト、ツ。都故切。遇。ゑタク。達各切。藥。一かなしむ(悲)二はく(嗔)三しかる(叱怒)四したうち(咤に同じ)五ほこる、おごる(詫に通ず)ゑを鬼神に供したる酒爵を地に置く、おく。

【咤叱】しかる。後漢書に「鞭笞咤叱」

【咥】ゆテツ、デチ。徒結切。屑。ゑケ。許既切。未。ゑチツ、チチ。丑栗切。質。ゑシ。職吏切。寘。ゑチ。陟利切。寘。ゑゑを一わらふ(笑)二にこやかに(莞爾)三わらふ貌ゑかむ(齧)ゑとどまる(止)。

【咦】ゆイ。以之切。支。ゑタイ、ディ。直皆切。佳。一よぶ(呼)二わらふ(笑)三笑ふ貌。

【咨】ゆシ。津夷切。支。ゑ資四切。寘。ゆ一はかる(謀)二とふ(問)三あ、ああ(嘆聲)四なげく(嗟)五これ、ここに(茲)ゑあ、ああ。

【咨咨】嘆息の貌。韓愈「父母不二蹙蹙一妻子不二咨咨一」

【咨詢】とひはかる。詩經に「載馳載驅、周爰咨詢」

【咨嗟】なげく。孔叢子に「駑驥同レ轅、伯樂爲レ之咨嗟」

【咨嘆】前に同じ。唐書に「帝咨嘆不已、賜書慰勞」

【咨諏】とひはかる。詩經に「載馳載驅、周爰咨諏」

【咫】シ。諸氏切。紙。一尺度の名目、八寸二轉じて、短き距離にいふ。

【咫尺】シキ。咫は八寸、尺は十寸、たけの短きこと。距離の近きこと。左傳に「天威不レ違レ顏咫尺」

【咬】ゆカウ、ケウ。居肴切。肴。ゑアウ、エウ。於交切。肴。ゆガウ、ゲウ。吉巧切。巧。ゆカイ、ケ。許介切。卦。ゆさへづる ゑなげく、たはれごゑゆ一かむ(齧に同じ)二、ごゑゆ風の吹く聲。

【咬咬】鳥のさへづるごゑの形容。鶴賦に「采采麗容、咬咬好音」

【咬菜】粗食する義。(茹菜、食菜)。小學に「汪信民嘗曰、人常咬二得菜根一則百事可レ做」

【咭】ゆキツ、キチ。巨吉切。質。ゑカツ、カチ。丘八切。黠。
一わらふ(笑)二よろこぶ(喜)ゑ鼠の鳴くごゑ。

【咮】ゆチウ、チュ。陟救切。宥。ゑトウ、ツ。都豆切。宥。ゆシュ、ス。朱戌切。遇。ゆチュ、ツ。中句切。遇。ゆジュ、ニュ。汝朱切。虞。ゑチウ、チュ。張流切。尤。ゑゆくちばし(喙)ゆとりのごゑ。ことばおほし(嚅に同じ、多言)ゑまがれるくちばし(曲喙)。

【咮】キ、ギ。居委切。紙。ゆるす(許)、いつはり(詭)。

【咯】ゆラク。歷各切。藥。ゑカク。剛鵝切。藥。

【咯咯】ゆいひあらそふ(訟言)ゑきじのごゑ。

【咱】ゆタウ、ドウ。徒刀切。豪。

【咱】ゆのむ(飲)ゑとふ(詢に同じ)。ゆシュン、ジュン。須倫切。眞。

【咱】ゆコウ、ク。許后切。有。ゑ呼漏切。宥。ゆいかる、厚く怒れる聲二ゑづくるはぢ(恥)、そしり。

【咲】セウ。笑の古文字。省して、矣に作る。國訓さく。

【咳】ゆカイ、ガイ。戶來切。灰。ゑ苦代切。隊。ゆ一わらふ、ちごわらふ二めづらし(珍)三かぬ(該に同じ)ゑせき、しはぶき(欬に同じ)。

【咳唾】ガイ一せきしつばはく。二上の賜ふ言語を敬ひいふ。漢書に「大王誠賜二咳唾一」

【咳嗽】ガイソウ しはぶく。せき。(欬嗽)。三國志に「便著二咳嗽一、欲レ臥不レ安」

【咳嬰】ガイエイ みどりご。(孩嬰)。史記に「不可ニ以告二咳嬰之兒一」

【咳唾成レ珠】ガイダクナス せきつば皆美玉となる。詩文などのかりそめの作皆稱すべきに喩ふ。晉書に「江淹曰、咳唾成二珠玉一、吐氣作二虹霓一」

【咸】ゆカン、ガン。胡監切。咸。ゑカン、ゴン。戶暗切。勘。ゆ一易の卦の名

㊀みな(皆)、ことごとく(悉)㊁うごく(動)㊂あまねし(徧)㊃おなし(同)㊄すみやかに(速)㊅はやし(疾)㊆やはらぐ(和)㊇はこ(函に同じ)㊈とづ(緘に同じ、閉)㊉ひつぎなし(棺束)㊊へる(減に同じ、損)㊋あきたる、みつ(滿)。

【咸池】㊀日の浴する天池。楚辭に「飲二余馬於咸池一兮、總二余轡乎扶桑一」㊁堯の時代に用ゐし音樂の名。周禮に「舞二咸池一以祭レ地」 ㊂

【咸宜】ことごとくよろし。左傳に「殷受レ命咸宜」

【咸和】ことごとくやはらぐ。

【咸綏】ことごとくやすらかなり。王粲「九域咸綏」

【咴】㊀アツ、アチ。烏葛切。㊁ヨ。

【咍】㊀アン。於盱切。翰。㊁ことも、どもり(吃)㊂ささめく(小語)㊃とどまる(止)㊄聲止む。ロウ、ル。力凍切。送。

【咍】㊀あざける(嘲)㊁なぶる。ケン、クワン。況晚切。阮。㊂㊀かなし む(悲)㊁なく㊂いたむ(痛)㊃かたちただし(容姿端正)㊄おそる(懼)㊅㊀おそる(汙緩)。

【咻】㊀キウ、ク。虛尤切。尤。㊁ク、コ。況羽切。麌。㊂吁 句切。遇。㊃カウ、ケウ。虛交切。肴。

【咻】㊀㊁いたむ(痛)㊂なげく(歎)㊃うなる(呻)㊄かまびすし、かまびすしくす(讙)㊅あたたむ(呴に同じ)㊆恁に同じ。

【咻咻】㊀いたみなく貌。蘇軾「草中咻咻有二寒兎一」㊁氣の物をあたむる貌。揮麈漫抄に「冢中有二大蟾蜍一、如二半輪一、氣咻咻然」

【啗】㊀くちゆがむ㊁もとる(斜戾)㊂和に通ず。

【唷】エツ、エチ。於列切。屑。いかる(怒)。

【唷】センネン。而製切。琰。口の動く貌。

【咽】㊀エン。烏前切。先。㊁イン。於巾切。眞。㊂エン。於甸切。霰。㊃のんどエツ、エチ。烏結切。屑。(喉)、轉じて、要所の義に用ゐる(藥に同じ)㊄つづみのふし㊅のむ㊆ふさがる(塞)㊇むせび、むせぶ(噎)。

【咽咽】鼓の聲の形容。六書故に「淵淵咽咽、其聲不レ同、淵淵狀二鼓聲一多而遠、咽咽聲近而疊、味二其聲一可二以知一其義一」

【咽喉】のんど。又、物の急處。晉書に「夏口東關、賊之咽喉」

【咿】㊀イ。於夷切。支。㊁せせらわらふ(笑)㊂つくりわらひ(强笑)㊃かたる(語)。

【咿軋】車のきしる音の形容。王蒼「煙深咿軋車聲響」

【咿咿】こゑないだす貌。劉禹錫「樹樹樹分蟲咿咿」

【咿唔】書を讀むこゑ。類書纂要に「咿唔讀書聲也、不二聰慧一者、口訥讀レ書故有二此聲一」

【咿嚘】言語の明かならざる貌。柳宗元「咿嚘九譯重」

【咿喔】鳥の聲の形容。又、へつらひ笑ふ。林景熙「天雞咿喔、斗轉二河底一」

【哀】㊀アイ。烏開切。灰。㊁エ。於希切。微。㊂㊀かなし む(憐)㊁かなしなしみ㊃あはれむ(愛)㊄いたむ(痛)㊅かなし、つくしむ(愛)㊆かなし、かなしむ、かなしみ。

【哀心】かなしむこころ。禮記に「其哀心感者、其聲噍以殺」

【哀泣】かなしみなく。(傷泣)。蔡邕「類二離鴈之孤鳴、起二孤婦之哀泣一」

【哀音】かなしき調子。李白「垂羅綺數揚二哀音一」

【哀恨】かなしみうらむ。かなしきうらみ。溫嶠「哀恨自苦、五情摧隕」

【哀咽】かなしみむせぶ。陸雲「重二惟痛恨、言增二哀咽一」

【哀哭】かなしみなく。

【哀矜】かなしみあはれむ。あはれむ。論語に「如得二其情一、則哀矜而勿レ喜」

【哀惜】かなしみをしむ。

【哀情】かなしきこころ。漢武帝「歡樂極兮哀情多」

【哀眷】あはれみてめぐみをかく。杜甫「上天回二哀眷一」

【哀拯】あはれみたすく。吳志に「乞降二春天之潤一、哀二拯其急一」

【哀笛】あはれに聞ゆる笛の音。薛道衡「寒夜哀笛曲、霜天斷雁聲」

【哀悼】かなしみいたむ。(悲悼)。蔡邕「永懷二哀悼一」

【哀痛】前に同じ。孳虞「哀辭之體、以二哀痛一爲レ主」

【哀傷】前に同じ。

【哀愍】かなしみおどろく。魏志、注に「臨レ時哀愍、莫レ不二傷痛一」

【哀訴】なげきうったふ。杜甫「見レ人慘澹若二哀訴一」

【哀嗟】かなしみなげく。唐書に「哀二嗟道路一、涕二纂里隣一」

【哀誄】死者をかなしみて、その生前の功德を稱述せる文詞。晉書、潘岳傳に「岳辭藻絕麗、尤善爲二哀誄之文一」

【哀愍】かなしみあはれむ。

【哀鳴】かなしみなく。(悲鳴)。詩經に「鴻鴈于飛、哀鳴嗸嗸」

【哀憫】かなしみあはれむ。あはれみ。柳宗元「伏乞二哀憫一」

【哀歗】かなしみ泣きさわぐ。于石「鳴多謂二奴妾一、哀歗墮二弓矰一」

【哀慟】かなしみなげく。なげき。梁書に「思墓不二自堪一、晝夜哀慟」

【哀激】はげしくかなしむ。應璩「牙曠高徹、義渠哀激」

【哀憐】あはれむ。いつくしむ。漢書に「餘寡不二屬逮一者、人所二哀憐一也」

【哀慕】かなしみしたふ。南史に「父靈瑜居レ憂以毀卒、元琰時童孺、哀慕盡レ禮、親黨異レ之」

【品】ヒン、ホン。丕欽切。寢。㊀しな㊁もろもろ(衆)㊂のり、のっとる(式、法)㊃たぐひ(類)㊄おなじ、おなじくす(同)㊅ひとし、ひとしくす(齊)㊆はかる(量)。

【品目】となへ。なまへ。宋書に「品目多少、隨レ事俯仰」

【品例】等級のさだめ。書經に「問二九德品例一」

【品位】くらゐ。しながら。唐書に「其品位既崇、不レ欲二輕以授一人」

【品性】〔哲〕Character. 個人の具有せる眞の特質。

【品物】萬類の物。易經に「品物流レ形、雲行雨施」

【品格】しながら。ひとがら。れうち。桂海香志に「橄欖香品格、在二黃連楓香之上一」

【品庶】ヒンショ たみ。後漢書に「品庶以二陛下一爲レ父」

【品第】ヒンダイ しなさだめして順次をたつ。鄭元祐「畫院森森戢二品第一」

【品畫】ヒングワ 畫を評す。倪瓚「品畫レ詩也自佳」

【品評】ヒンピヤウ しなさだめす。

【品藻】ヒンサウ しなによりて類別す。たぐひ。韓愈「非二常麟凡介之品彙匹儔一也」

【品詞】ヒン〔文法〕すべての國語を意義又は形式上より數種に分類したるものの稱。

【品類】ヒンルヰ たぐひ。種類。王羲之「仰觀二宇宙之大一、俯察二品類之盛一」

【品藻】ヒンサウ しなさだめす。吳志、注に「區目品藻、曲有二條貫一」

【品隲】ヒンシツ 前に同じ。

【品字坐】ヒンジザ 品の字の形の如くにならぶ。葛長庚「佳友品字坐」

【哂】トウ、ツ。徒工切。東。いつはる、いつはり(妄語)。シン。式忍切。軫。㊀わらふ、わらひ(笑)㊁あざわらふ(嘲笑)。

【哂笑】わらふ。載表元「童奴哂笑妻子罵、一字不レ給飢寒軀」

【嚇】㊀サツ、セチ。桑割切。曷。㊁サイ、セイ。所邁切。卦。㊂こゑかはる㊃こゑやぶる。

【哄】㋑コウ、ク。胡貢切。送。㋺呼公切。東。㋩キョウ、ク。居容切。冬。㋑かまびすし㋺吽に同じ㋩こゑ(聲)。

【哄堂】コウダウ　衆人の大いに笑ふをいふ。因話錄に「唐制、御史大夫知二雜事一、謂二之雜端一。三院上レ堂絕二言笑一、雜端大笑、則合座皆笑。謂二之哄堂一」

【哄然】コクゼン　聲をあげて笑ふ貌。

【哄笑】コウセウ　たかわらひ。

【哆】㋑シ。尺氏切。紙。㋺シャ、セ。昌者切。馬。㋩タ。典可切。哿。㋥丁佐切。箇。㋑㊀はる、口を張る㊁おほし(衆)㊂おほいなり(大)㋺㊀唇の下に垂るる貌㊁よこしまに(邪)㊂おほいなり(大)㋩㊀語ろこゑ㊁口を張る㋥㊀語を助くる聲㊁緩き唇。

【哇】㋑アイ、エ。於佳切。佳。㋺クワイ、エ。烏媧切。佳。㋩カイ、ケ。希佳切。佳。㋥ケイ、ケ。消畦切。齊。㋭ア、ワ。烏瓜切。麻。㋬クワイ、エ。胡卦切。卦。㋑㊀へつらふこゑ㊁たはれごと㊂はく㋺はふさがる㋩うたふ㋥ちごのこゑ㊁みだりがはしき聲㋬ふさがる、喉ふさがる。

【哇哇】アア　㊀わらふ貌。元包經に「言唯唯、笑哇哇」㊁小兒のこゑの形容。蘇洵「有レ童哇哇、亦旣能言」

【哇俚】ケイリ　いやし。又、いやしき歌。遼史に「哇俚不經、故不二具述一」

【哈】㋑ガフ、ゴフ。五合切。合。㋺サフ、セフ。色洽切。洽。㋩カフ、コフ。曷閤切。合。㋥タフ、トフ。託合切。合。㋑㊀魚の口を動かす貌㊁魚の多き貌㋺㊀のむ(飮)㊁すする(吮)㋩㊀すする(欱に同じ)㊁くらふ(食)、かむこゑ。

【哉】サイ。將來切。灰。㊀かな(感歎、斷定の意を表はす助字)㊁や(疑問、反語の意を表はす助字)㊂はじめ(始)㊃はかる(材に通ず)㊄のす(載に通ず)。

七畫

【員】㋑エン、テン。于權切。先。㋺ウン、チン。于分切。文。㋩キン。慣用音。㋑㊀かず㊁しばしば(屢)㊂まはり、めぐり(隕に通ず、周)㋺㊀ます(益)㊁無意味の助字(云に通ず)。

【員員】エンエン　しばしばなり。素問に「其逆則頭痛員員」

【員外郎】エングワイラウ　定員外の役員。

【哢】ロウ、ル。盧貢切。送。㊀うたふ(歌)㊁さへづる(囀)。

【哢咿】ロウイ　つくり笑ふ。鐔樅「母笑不レ嗔還哢咿」

【哥】カ。居何切。歌。㊀うた、うたふ(歌の古文字)㊁こゑ(聲)㊂あに(兄)。

【哥哥】カカ　兄の義。他人を呼ぶ敬稱。(大哥、阿哥)。

【哦】ガ。牛何切。歌。㊀うたふ(歌)㊁うなる(吟)。

【哨】㋑セウ。相邀切。蕭。㋺サウ、ソウ。蘇遭切。豪。㋩サウ、セウ。所敎切。效。㋑㊀ちひさし(小)、壺の口小にして容るる能はざるにいふ。又、壺の口の歪むにいふ㊁ことばおほし㋺㊀みはり(番兵)、ものみ(斥候)㊁ちひさし、ほそし㋩いぬなつかふ。

【哨兵】セウヘイ　みはりの兵。

【哨哨】セウセウ　ことばおほき貌。揚子法言に「禮義哨哨、聖人不レ取也」

【哤】バウ、マウ。莫江切。江。みだる、言語亂雜なり。

【哩】リ。力忌切。寘。語の餘聲、語尾につけて意味を强むるに用ゐる「わい」といふに同じ、元代には詞曲の助語とせり。

國訓　まいる(Mile)英國の里程、我國の十四町四十三間一尺三寸餘に當る。

【哪】㋑ダ、ナ。囊何切。歌。㋺ナ。乃箇切。箇。㋑儺を行ふ聲㋺那に作る、語の助をなす字。

【哫】ショク、ソク。卽玉切。沃。こぶ(媚)。

【呫】テフ、トフ。丁愜切。葉。ことばおほし(多言)。

【哮】㋑カウ、ケウ。許交切。肴。㋺孝狡切。巧。㋩呼敎切。效。㋥カク。黑角切。覺。㋑㊀ほゆ(吼)㊁さけぶ(叫)㊂いかる(怒)㋺㋩よばはる(喚)㋥豕のこゑ(狗に同じ)。

【哮咆】カウハウ　ほゆ。(咆哮)。劉楨「萋蘙䔾行、俯仰哮咆」

【哮闞】カウカン　いかりさけぶ。李白「喑嗚哮闞、風旋電往」

【哭】コク。空谷切。屋。㊀なく(泣)㊁さけぶ(叫)㊂葬儀の時之を悲みて泣きさけぶ禮。

【哭泣】コクキフ　おほごゑにて泣く。禮記に「父死不レ得レ與二于哭泣之哀一」

【哭歎】コクタン　聲を出して泣きなげく。魏書に「此亦賈誼哭歎、谷永切諫之時」

【哭岐泣練】キニコクシレンニナク　わかれ路に臨んで哭し、しろきいとを見て泣く。その本同じくして末の異なるを悲むなり。淮南子に「楊子見二岐路一而哭レ之、爲下其可二以南一可中以北上、墨子見二練絲一而泣レ之、爲下其可二以黃一可中以黑上」

【哯】ケン、ゲン。乎典切。銑。㊀はく(吐)㊁小兒の乳を吐くにいふ字。

【哰】ラウ、ロウ。魯刀切。豪。ことばわからず。

【哰哰】ラウラウ　言語の解せられざる貌。宋穆修「風簾窣窣燕哰哰」

【哱】㋑ホツ、ホチ。普沒切。月。㋺ハイ、バイ。補妹切。隊。㋑㊀いきふくおと㊁みだる(亂)㋺㊀みだる(亂)㊁もとる(悖に同じ)。

【哲】テツ、テチ。陟列切。屑。㊀しる(知)㊁ものしり㊂あきらかに(明)㊃さとし(敏)。

【哲人】テツジン　道理にさときひと。詩經に「維此哲人、謂二我劬勞一」

【哲王】テツワウ　さかしききみ。詩經に「下武惟周、世有二哲王一」

【哲母】テツボ　さかしきはは。陸機「依依哲母、旣明且慈」

【哲茂】テツボウ　才德すぐれたり。宋書に「藩王哲茂、四維寧謐」

【哲婦】テツプ　さかしきをんな。詩經に「哲夫成レ城、哲婦傾レ城」

【哲學】テツガク　Philosophy. 形而上學。宇宙間の根本原理、原則を硏究する學問。

【哳】タツ、テツ。陟鎋切。黠。さへづる(囀)。

【哵】ハツ、バチ。博拔切。曷。㊀なく(鳴)㊁鳥のこゑ。

【哴】㋑リヤウ、ロウ。力讓切。漾。㋺ラウ、ロウ。盧當切。陽。

【哹】㋑なきいる、啼極って聲なし㋺㊀小兒の啼き止まざるにいふ㊁吹く貌。フウ、フ。披尤切。尤。㊀吹くこゑ㊁喉中のこゑ。

【哺】ホ、ブ。蒲故切。遇。㊀くらふ(食)㊁かむ(咀嚼)㊂あぢはふ(味)㊃ふくむ(含)㊄口中にふくむ食物㊅はぐくむ(育)㊆やしなふ。

【哺乳】ホニウ　ちちをのます。(乳哺)。潛夫論に「哺乳多則生二癇病一」

【哽】㋑カウ、キヤウ。古杏切。梗。㋺アウ、ヤウ。於杏切。梗。㋑㊀むせぶ(咽)㊁のどふさがる(咽塞)㋺むせぶこゑ。

【哽咽】カウエツ　むせぶ。劉琨「揮レ手長相謝、哽咽不レ能レ言」

【哽恨】カウコン　むせびなきてうらむ。南史に「奄然便歇、帝尤哽恨」

【哽哽】カウカウ　聲のつまりてきれぎれなる貌。宋史に「面靑而光、氣哽哽」

【哽結】カウケツ　むせびむすぼる。陸機「喜懼參并、悲憋哽結」

【哽塞】カウソク　氣息をふさぐ。むせぶ。

【吞】㋑トン。通懇切。阮。㋺チン、トン。他禁切。沁。㋑おろか(癡)㋺まく(撒)。

【哾】㋑セイ、ゼイ。式芮切。霽。㋺セツ、セチ。山劣切。屑。なむ(嘗)。

【哿】㋑カ。古我切。哿。㋺居何切。歌。㋑㊀よし(可)㊁めでたし(嘉)㋺婦人の首のかざりもの(珈に借り用ゐる)。

【唻】㊀スキ、シ。祖委切。紙。㊁ソウ、ス。先奏切。宥。㊂ショク、ゾク。輸玉切。沃。㊃サク、ソク。色角切。覺。㊄くちばし(嘴)。㊅ほこ。すふ(吮)。

【唷】㊀イウ、誘の俗字。ユ。

【唁】ゲン、ゴン。牛偃切。阮。とむらふ、おとづる。

【唄】ハイ、バイ。蒲邁切。卦。㊀佛德をほめたる韻文、ほめうた(讃美歌)、のりのこゑ㊁となふ(稱)。

【唅】㊀カン、ゴン。火含切。覃。㊁胡紺切。勘。㊂くちあく㊃ふくむ(含)㊄死者の口にふくます玉㊅玉ふくむ。

【唆】㊀サ。桑歌切。歌。㊁スウ、セ。數化切。調。㊂小兒の相應ふるこゑ㊃そそのかす㊄まぐ、まがる(詖に同じ、枉)。

【唇】㊀シン。之人切。眞。㊁之刃切。震。脣(ヒツチ)の字に通じ用ゐるは誤。㊂おどろく(驚)㊃おどろくこゑ。

【唈】㊀アフ、ホフ。烏答切。合。㊁イフ。乙及切。緝。㊂きみじかし(短氣)㊃なげく(嘆息)㊄むせぶ(嗚咽)㊅しゃくりなく(歔欷)。

【唉】㊀アイ。烏開切。灰。㊁キ。虛其切。支。㊂アイ、エ。倚駭切。蟹。㊃アイ。英皆切。佳。㊄イ。羽已切。紙。㊅ああ㊆こたふる聲㊇とふ、驚き問㊈ああ㊉なげくことば㊊應ふる聲㊋おくびのこゑ㊌應ふる聲。

【唏】㊀ケフ。古協切。葉。㊁ケン。謙切。瑛。㊂たばごと(妄言)㊃ことばおほし(多言)㊄ふくむ(含)、猴の頰に食を藏すにふ。

【唐】タウ、ダウ。徒郎切。陽。㊀おほいなり(大)㊁ひろし㊂むなし(空)㊃れなしことば(妄言)㊄つつみ(塘に同じ)㊅うしなふ(失)㊆れなしかづら。(女蘿)。㊇王朝の名、又、處の名。【唐音】漢字音の一種。行燈を「あんどん」普請を「ふしん」と讀む類。【唐突】クワン。古環切。刪。やはらさなく(關に同じ、和鳴)。㊁ワ。烏和切。歌。㊂キ。鄭毀切。紙。㊃なく(啼)㊄こゑ(聲)。㊅ホウ、フ。逢孔切。董。㊆父勇切。腫。

【唖】㊀ケン、ゲン。夕連切。先。㊁タン、ダン。唐干切。寒。㊂落旱切。㊃なげく(歎)㊄誕言の急しき貌。【唖】㊀ケン、ゲン。胡板切。濟。㊁クワン、ゲン。少しく笑ふ貌。

【唏】㊀キ、ケ。許豈切。尾。㊁許几切。紙。㊂香依切。微。㊃キ。虛器切。寘。㊄わらふ(笑)㊅許介切。卦。㊆こゑ(聲)㊇かなしむ(哀)㊈いたむ(痛)㊉なげく(歎に同じ)、なげく聲㊋おそる(懼)㊌わらふ㊍なく㊎痛む聲㊏ねいびき(臥息)。

【唐】タウ、ダウ。徒郎切。陽。㊀おほいなり(大)㊁ひろし㊂むなし(空)㊃れなしことば(妄言)㊄つつみ(塘に同じ)㊅うしなふ(失)㊆れなしかづら。(女蘿)。㊇王朝の名、又、處の名。【唐音】漢字音の一種。行燈を「あんどん」普請を「ふしん」と讀む類。【唐突】クワン。古環切。刪。やはらさなく(關に同じ、和鳴)。㊁ワ。烏和切。歌。㊂キ。鄭毀切。紙。㊃なく(啼)㊄こゑ(聲)。㊅ホウ、フ。逢孔切。董。㊆父勇切。腫。

【唖】㊀ケフ。古協切。葉。㊁ケン。謙切。瑛。㊂たばごと(妄言)㊃ことばおほし(多言)㊄ふくむ(含)、猴の頰に食を藏すにふ。

【唈】㊀ン、ダン。唐干切。寒。㊁落旱切。㊂なげく(歎)㊃誕言の急しき貌。【唖】㊀ケン、ゲン。夕連切。先。㊁タン、ダン。唐干切。寒。㊂落旱切。㊃なげく(歎)㊄誕言の急しき貌。【唖】㊀ケン、ゲン。胡板切。濟。㊁クワン、ゲン。少しく笑ふ貌。

【唏】㊀キ、ケ。許豈切。尾。㊁許几切。紙。㊂香依切。微。㊃キ。虛器切。寘。㊄わらふ(笑)㊅許介切。卦。㊆こゑ(聲)㊇かなしむ(哀)㊈いたむ(痛)㊉なげく(歎に同じ)、なげく聲㊋おそる(懼)㊌わらふ㊍なく㊎痛む聲㊏ねいびき(臥息)。

【唐】タウ、ダウ。徒郎切。陽。㊀おほいなり(大)㊁ひろし㊂むなし(空)㊃れなしことば(妄言)㊄つつみ(塘に同じ)㊅うしなふ(失)㊆れなしかづら。(女蘿)。㊇王朝の名、又、處の名。【唐音】漢字音の一種。行燈を「あんどん」普請を「ふしん」と讀む類。【唐突】クワン。古環切。刪。やはらさなく(關に同じ、和鳴)。㊁ワ。烏和切。歌。㊂キ。鄭毀切。紙。㊃なく(啼)㊄こゑ(聲)。㊅ホウ、フ。逢孔切。董。㊆父勇切。腫。

【唐唐】唐唐、含冥冥、馳天地、聘陰陽」

【唐堤】つつみ。呂覽に「唐堤以壅水」

【唐肆】みせ。(店舗)。莊子に「是求馬於唐肆也」

【唐棣】〔植〕すももの一種。詩經に「何彼穠矣、唐棣之華」

【唐蓼】〔植〕れなしかづら。(女蘿)。

【唐三絶】唐代にて藝能に卓絶せる三人。卽ち、李白の詩絶、裴旻の劍舞、張旭の草書の稱。

【唐虞化】唐は帝堯陶唐氏、虞は帝舜有虞氏なり、仁德のあまねく行はれたること。晉書に「陛下以聖明之德、方隆唐虞之化」

【唑】セイ、時制切。霽。噬に同じ。

【唔】ゴ。吟哦の聲(書を看よ)。

八畫

【唅】クワン。古環切。刪。やはらさなく(關に同じ、和鳴)。

【唈】㊀ワ。烏和切。歌。㊁キ。鄭毀切。紙。

【唆】㊀なく(啼)㊁こゑ(聲)。

【唈】㊀ホウ、フ。逢孔切。董。㊁父勇切。腫。

㊀大いなるこゑ㊁大いなるわらひ㊂くちたかし㊃大いにわらふ。

【唸】㊀キン、ゴン。巨錦切。寢。㊁魚音切。侵。㊂どもる(吃)、いそがし㊃口をとづる㊄どもる㊅とづ㊆うたふ(吟の古文字)㊇盍に同じ。

【唬】㊀カ、ケ。呼訝切。禡。㊁カウ、ケウ。虛交切。肴。㊂カウ、ゴウ。乎刀切。豪。㊃クワク、カク。郭擭切。陌。㊄虎の聲㊅ほゆ㊆よぶ(呼)㊇鳥なく。

【哄】キ。去吏切。寘。㊀あざむく(紿)㊁おろかなり(愚)㊂しらし(味)。

【唳】聞見する所なくして心くらし。又、聲ありて辭なし。揚子太玄經に「唳嚶唸無辭」

【售】㊀シウ、ジュ。承呪切。宥。㊁時流切。尤。㊂うる(賣)㊃あきなふ(商)㊄かふ(買)㊅もとむ(求)㊆行はる。

【唯】㊀キ。以水切。紙。㊁以追切。支。㊂うけこたへ、いらへ㊃ただ、ひとり(惟、維に通ず)㊄誰に同じ。【唯一】ただひとつ。(惟一)。【唯唯】㊀承知したる返事。戰國策に「范雎曰唯唯」㊁他人の說によく順ふ貌。史記に「諸大夫朝徒聞唯唯、不聞周舍之謂誘」㊂柔順なる貌。詩經に「敝笱在梁、其魚唯唯」

【唯諾】はいはいと承知す。禮記に「必愼唯諾」

【唯心論】〔哲〕Spiritualism. 心を離れて物質なく、物質は唯心の發現なりとの論にして、天地開一切の現象を心を以て說明するもの。唯物論の對。

【唯物論】〔哲〕Materialism. 自然の本質は物質にして、精神的現象も物質的作用に外ならずといふ說。唯心論の對。

【唯我獨尊】〔佛〕天地の間に於て、我に及ぶものなし。(我三界中最尊最勝)。傳燈錄に「釋迦牟尼佛初生、一手指レ地、周行七步、目顧二四方一曰、天上天下、唯我獨尊」

【唧】㊀セツ、サチ。所劣切。屑。㊁サツ、セチ。數滑切。黠。㊂ほねつくろふ㊃すこしなむ(小嘗)。

【啾】㊀セキ、ジャク。前歷切。錫。㊁シュク。子六切。屋。㊂キク、チク。子六切。屋。

【唱】㊀シャウ。尺亮切。漾。㊁となふ、うたふ(歌)㊂みちびく(導)㊃いざなふ(誘)。【唱曲】うたをうたふ。蘇米談史に「蘇軾自言、有三三不レ如人、不レ能二飲酒著棊唱曲一也」

【唱和】甲となへ、乙こたふ。又、他人の詩に和韻す。張籍「醉後齊吟唱和詩」

【唱酬】詩文を作りて互にとりやりす。李中「俗必期二康濟一、詩誰互唱酬」

【唱義】正道をとなふ。後漢書、李通傳に「通布衣唱レ義、助二成大業一」

【唱歌】うたをうたふ。白居易「愛君籐下唱歌人、色如二芙蓉一、聲如レ玉」

【唱道】となへはじむ。さきだちて人をみちびく。

【唄】㊀ツ、ニ。如支切。支。㊁アイ、エ。英佳切。佳。㊂へつらふ(諛)㊃おもねる(阿)㊄かまびすし(多言)㊅つくりわらひ(强笑)㊆かたこと(片言)㊇小兒の言語。【唄囈】小兒の語るさま。荀子に「揜二循之一、唄二嘔之一」

【唳】㊀レイ、ライ。力霽切。霽。㊁レツ、レチ。練結切。屑。㊂なく㊃なく、又、その聲。

【唸】アン、ガン。烏感切。感。㊀ふくむ(含)㊁すすむ。㊂サク、ジャク。助伯切。陌。㊃シャ、セ。子夜切。禡。㊄さけぶ、くちがまし㊅默くこゑ㊆鳥のこゑ㊇なく、又、その聲㊈なく、又、その聲。

【啥啥】鳥の鳴くこゑの形容。爾雅に

「鵠鳴啼啼」

【啼】 イク、ヨク。兪六切。屋。こわづくる。テン。丁練切。霰。うなる(呻)、まよふ(迷)。

【唸】 ㋐オ、ヨ。央居切。魚。㋑歐許切。語。わらふ(笑)。ヤ、ヱ。羊謝切。禡。なく。テン、デン。他典切。銑。はく(吐)。

【唹】 ㋐ライ、レイ。頼諧切。佳。㋑ライ。郎才切。灰。

【唹】 ㋐うたふ(歌)㋑こゑ(聲)。

【唼】 ㋐サフ、ソフ。作答切。合。㋑サフ、セフ。色甲切。洽。㋒セフ。七接切。葉。㋓(啜)㋔くらふ(食)㋕のむ(飲)㋖ついばむ(喙)㋗いつはる(僞)㋘しこづる(讒言)㋙すする(喋に同じ)。

【唼佞】 セイ いつはる。しこづる。揚雄「靈修既信椒蘭之唼佞兮」

【唼喋】 デチフ ついばむ。上林賦に「唼喋菁藻」

【唾】 タ、ダ。湯臥切。箇。㋐つば(口液)㋑つばきす。㋒勇んで著手する義。唐書に「唾手可取」

【唾盂】 つばはきつぼ。

【唾面】 ダメン 人のかほにつばを吐きかく。憎むこと甚だしきにいふ。史記に「唾其面、而大辱之」

【唾壺】 コダ つばはきつぼ。晉書に「以如意擊唾壺爲節」

【唾棄】 キダ つばをはきすつる如くすてて顧みず。李商隱「唾棄如糞丸」

【唾掌】 ダシャウ 勇んで著手する義。後漢書、注に「我謂唾掌而決」

【唿】 コツ、コチ。呼骨切。月。うれふ(憂)。

【哇】 ガイ、ゲ。五佳切。佳。かみあふ、狗齧んとす。

【啁】 ㋐タウ、テウ。陟交切。肴。㋑タウ、トウ。都勞切。豪。㋒チウ、チュ。張流切。尤。㋓テウ。他弔切。嘯。㋔なく、鳥鳴く。㋕あざける、たはむる。㋖かまびすし。㋗鳥鳴く、(嘲)に通ず。㋘わらふ(嘲)。

【啁啾】 シウシウ 虫のしげく鳴く貌。虞集「蛩啁啾」

【啁咋】 シウクサク かまびすし。貢奎「祈賽聲啁咋」

【啄】 キン、ギン。渠隕切。軫。はく(吐)。㋐トク。丁木切。屋。㋑タク、トク。竹角切。覺。㋒チウ、チュ。職救切。宥。㋓ついばむ㋔つつく㋕くらふ(食)㋖こゑ㋗くちばし(嘴)㋘ついばむ。

【啄啄】 クタク ㋐こつこつとついばむ貌。韓愈「啄啄庭中、拾蟲蟻」「哺之」㋑こゑの形容。韓愈「剝剝啄啄、有客至門」

【啄木鳥】 タクボク (動)きつつき。(雷公)。

【啅】 ㋐タク、トク。竹角切。覺。㋑タウ、テウ。陟教切。效。㋒かまびすし(衆聲)㋓つひばむ(啄)㋔鳥のこゑ。

【商】 シャウ。式陽切。陽。㋐あきなひ、あきうど、あきなふ(賣買)㋑あき(秋)、秋の風㋒はかる(度)、あきらかにす(章)㋓つよし(强)㋔つれ(常)㋕はる(張)㋖くだる(降)㋗五音の一、九星の名、十王朝の名、處の名。

【商人】 あきうど。左傳に「鄭商人弦高將市于周」

【商估】 前に同じ。北史に「商估交入」

【商戾】 (動)うぐひすの異名。

【商風】 あきかぜ。(金風)。梁元帝纂要に「秋風曰商風、素風、激風、高風」

【商秋】 あき。(金天、西顥)。

【商旅】 たびに出でて商業を營むもの。范仲淹「商旅不行」

【商祭】 ほしうを。乾魚。禮記に「薬魚曰商祭」

【商舶】 商業に從事するおほぶね。

【商略】 鄭俠「大矛商舶滿江洲」はかりごと。又、商業上のかけひき。蜀志に「楊戲商略、意在不羣」

【商會】 商業の爲に結びたる組合。(動)やすで。(馬陸、馬鐸)。

【商鉅】 キショウ

【商賈】 コショウ あきうど。周禮、注に「行曰商、坐曰賈」

【商量】 はかる。易經、注に「商、商量、制裁之謂也」

【商搉】 はかりさだむ。北史に「商搉古今、開以嘲謔、聽者忘疲」

【商牌】 かんばん。(招牌)。

【商暮】 あきのゆふぐれ。齊書に「商暮百工止」

【商鋪】 あきなひみせ。

【商標】 他店の製品と區別せんがため、特別にさだめて用ゐる目印。

【商量】 はかる。江賦に「綱洛羣流、商榷涓澮」

【商山四皓】 漢の高祖の時、商山に隱れし四人の老人、卽ち、東園公・夏黃公・甪里先生・綺里季の稱。この四人は皆鬚眉白かりしが故に皓といふ。

【商羊鼓舞】 水災のまへぶれ。孔子家語に「子曰、此鳥名曰商羊、水祥也、昔聞童謠、曰、天將大雨、商羊鼓舞」

【商鑑不遠】 覆亡の先例は遠く古代に求めずとも目前にありとの義。胡銓の文に見ゆ。又、詩經に「殷鑑不遠、在夏后之世」

【啅】 ㋐テキ、チャク。丁歷切。錫。㋑セキ、シャク。施隻切。陌。㋒もと(本)㋓やはらぐ(和)。㋔カツ、キャウ。亨孟切。敬。㋕ガツ、ガチ。牙葛切。曷。㋖サツ、ザチ。才達切。曷。㋗あらそふ、賴り語る。㋘呼、嘆に同じ。

【啾】 ラン。盧含切。覃。㋐めぐる、酒巡る㋑飲みなほる(聽)㋒むさぼる(貪)。㋓ケキ、ケ。許饒切。蕭。㋔ケキ、キャク。迄逆切。陌。㋕サイ。倉來切。㋖うごく(動)㋗かまびすし(諠)㋘おほいなり(大)㋙語辭。

【啻】 ㋐コン、ゴン。呼昆切。元。㋑叨の古文字。

【啻】 ㋐目にて見えざるところ、くらし。㋑昏昏 コン 目に見えざるところ。揚子方言に「著古昔之昏昏、傳千里之惚惚、莫如書」

【啍】 ㋐トン。他昆切。元。㋑シュン。朱倫切。眞。㋒タイ。觀猥切。賄。㋓いき(口氣)㋔いつはる(誕)㋕おもしくしていそがざる貌。㋖ふ、すすむ㋗くどくどしくいふ。㋘たはごと(譫言)。

【啍啍】 シュン 夫恬淡無爲、而悅夫啍啍之意」㋙多言なる貌。莊子に「釋

【啣】 ㋐ケン、ケ。許饒切。蕭。㋑ケキ、キャク。迄逆切。陌。㋒サイ。倉來切。㋓うごく(動)㋔かまびすし(諠)㋕おほいなり(大)㋖語辭。

【問】 ブン、モン。亡運切。問。㋐とふ、たづぬ(訊)㋑とひ、たづね㋒おくる(遣)、つかはす㋓いふ(言)㋔つぐ(告)㋕めす(命)㋖ほまれ(聞に通ず)。

【問訊】 とひたづぬ。僧祇律に「禮拜不得如法、痙羊、當相問訊」

【問罪】 つみをとひただす。宋史に「夏人寇大順、琦議停歲賜、絕和市、遣使問罪」

【問鼎輕重】 鼎は天子の寶物、臣下のものその大小輕重を問ふべきにあらず、然るに之を問ふは、王位を奪んとする意あるなり。左傳に「楚子伐陸渾之戎、遂至于洛、觀兵于周疆、定王使王孫滿勞楚子、楚子問鼎之大小輕重、對曰、在德不在鼎、周德雖衰、天命未改、鼎之輕重、未可問也」

【啐】 ㋐サイ、セ。七內切。隊。㋑倉夬切。㋒ガツ、ガチ。五割切。曷。㋓サツ、サチ。才割切。曷。㋔おどろく(驚)㋕よぶ(嘯)㋖なむ(營)㋗くらふ(啗)㋘すふ(吮)㋙かまびすし(衆聲)㋚いましむ(戒)㋛囂に同じ、聲にいふ字。

【喙】ロク。盧谷切。屋。
一わらふ(笑)二鳥の聲。

【噓】ゆサフ、セフ。所甲切。洽。ゐ子答切。合。なセフ。卽涉切。葉。
ゆくらふ、ついばむゐすする(啜)に同じ)なかまびすし、多言なり。

【啓】ケイ、カイ。康禮切。薺。
一ひらく(開)二をしふ(教)三まうす(白)四わかつ(別)五みちびく(導)六ひざまづく(跽)七ささげらひ、おさへ(軍前、選鋒)八事を陳述するもの(上書、手翰)九星の名。

【啓行】たびだちす。詩經に「元戎十乘、以先啓行」

【啓沃】思ふことを開說して、君王の心につぎこむ。書經に「啓乃心、沃朕心」

【啓佑】みちびきたすく。書經に「啓佑我後人、咸以正罔缺」

【啓居】家に安坐す。詩經に「王事多難、不遑啓居」

【啓明】よあけの明星。(大白星)。詩經に「東有啓明」

【啓廸】をしへみちびく。書經に「旁求俊彥、啓廸後人」

【啓發】意を開き辭を達す。智識をひらく。論語に「子曰、不憤不啓、不悱不發」

【啓閉】啓は立春、立夏、閉は立秋、立冬。左傳に「分至啓閉」

【啓處】家に安坐して居る。詩經に「王事靡盬、不遑啓處」

【啓蒙】蒙昧なるものを啓發す。兒童になをしふ。(訓蒙)。

【啓翼】軍のひだりがはのそなへ。

【啓蟄】二十四氣の一、すごもりの蟲のうごきいづるをいふ。三月五日頃。

【啓龕】とびらをひらく。開帳。朕車志に「人輸二百錢、乃爲啓龕」

【啓手足】身體を毀傷して孝を害することなきを示す。轉じて、死ぬることにいふ。論語に「曾子有疾、召門弟子曰、啓予足、啓予手」

【啓寵納侮】人を寵することを度に過ぐれば反つて侮をいるるに至る。書經に「無啓寵納侮」

【啕】タウ、ドウ。徒刀切。豪。
一かまびすし(多言)二ゆきき(往來)三かたこと四いはふ(祝)。ン。徒豔切。感。

【啖】ゆタン、ドン。徒濫切。勘。
一くらふ(食)二くらはす、利を以て誘ふる一くるふ(狂)二かむ(嚙)三あはし、あはきもの(淡に同じ)。

【啖咋】かみくらふ。(齧咋)。韓愈「與汝恣啖咋」

【啖呑】むさぼりのむ。

【啖食】むさぼりくらふ。

【啗】ゆタン、ドン。徒覽切。感。
ゐ徒濫切。勘。
一啖に同じ二のむ、のます(飲)。

【啘】ゆシ、ジ。蔣氏切。紙。
ゐセイ、ザイ。在禮切。薺。
なセキ、シャク。子亦切。陌。
ゆゐ一みじかし(短)二よわし(弱)三かりそめになこれ、この(此)。

【啘】ヒ、ビ。方美切。紙。
俗に、圖の字となすは誤。
一いやし(鄙に同じ)二をしむ(嗇)。

【啜】ゆテツ、テチ。株劣切。屑。ゐセツ、セチ。昌悅切。屑。なテイ。株衛切。霽。なセイ、ゼイ。嘗芮切。霽。
ゆ一なく、泣く貌一かまびすし(譟に同じ)ゐ一すする(吮)二なむ(嘗)三くらふ(茹)四ついばむ(喙)ななむ。

【啜泣】すすりなく。詩經に「有女仳離、啜其泣矣」

【啊】ゆシュ、ス。子予切。虞。
ゐソウ、ス。蘇后切。有。
なむさぼるる喉に同じ。

【啞】ゆアク、ヤク。烏格切。陌。ゐア。烏下切。馬。なア。於加切。麻。なア。衣駕切。禡。
ゆ一わらふ(笑)二わらふ聲三笑ふ貌ゐおし、おふし(瘂、に同じ)なゆ一かたこと、小兒の言二こゑなあ、驚きて發する聲、鳥の聲。

【啞子】シャおし。續雜纂に「啞子做二手勢」

【啞咽】しゃくりなく。元稹「啼兒屢啞咽、勸億時寢興」

【啞啞】一笑ふ聲の形容。易經に「笑言啞啞」二鳥の聲の形容。楊衡「鳥栖不定枝條弱、城頭夜半聲啞啞」三小兒の語る貌。蘇軾「小兒啞啞語二繡帳」

【啞爾】笑ふ貌。揭子方言に「啞爾笑曰、須二以聲一儀定一科」

【啞嘔】小兒のことば。集韻に「啞嘔、小兒學レ言也」

【啊】ゆカク、キャク。忽蔘切。陌。ゐキョク、キキ。忽域切。職。なイク、チク。乙六切。屋。
ゆ一こゑ(聲)二大いに笑ふ貌ゐこゑ(聲)なのんどのこゑ。

九畫

【嚏】エン。喝に同じ。

【啻】ゆシ。施智切。寘。ゐテイ、タイ。丁計切。霽。
ゆ一ただ、ただに二あきらかに、つまびらかに(諦に同じ)ゐたかこゑ(高聲)。

【啼】テイ、ダイ。杜兮切。齊。
噦に同じ。一なく二なげく(哭)。
啼泣なく。魏志、袁紹傳、注に「皆憂怖失レ色、或以啼泣」

【啼血】ほととぎすの切なる啼きこゑをいふ。李山甫「斷腸思二故國一、啼血濺二芳枝一」

【啼哭】なく。(哭啼)。王建原「春來梨棗盡、啼哭小兒飢」

【唄】ゆシ。是支切。支。
ゐテイ、ダイ。田黎切。齊。
ゆなくゐなく、さけぶ(呼に同じ)。
カン、ゴン。吾含切。覃。

【唸】ゆ
れいびき(鼾聲)。
【唸唸】れいびき。列子に「眠中唸唸呻呼」

【啾】シウ、シュ。卽由切。尤。
一ここゑ(小聲)二こどものこゑ三なく(鳴)四なげく(歎)。なくこゑの貌。楚辭に「蟪蛄吟兮啾啾」
【啾嘈】聲さわがし。蕭田賦に「簫管朝暮以啾嘈兮」
【啾啾】なきさけぶ。柳宗元「衆鳥萃而啾啾兮、沸洲渚以連山」

【啿】ゆたかなり(豐)、あつし(厚)。
【啿啿】豐厚の貌。淡書に「羣生啿啿」
【啿啿】カク、キャク。苦格切。陌。
はく(嘔)、はくこゑ。

【喀】ゆギョウ、ゲ。魚容切。冬。
ゐゴウ、ゲ。語口切。有。
なゴ、グ。五矩切。麌。
口の集り浮ぶにいふ二となふ(唱)三よぶ(呼)、又、その聲ゐとなふ、よぶ、又、その聲なを魚の口の聚りつどふ貌。

【喝喝】一魚の口のあつまりあざとふ貌。轉じて、人の仰ぎ向ふ義。史記に「延レ頸舉レ踵喝喝然、皆響レ風慕レ義欲レ爲二臣妾一」二つまらぬことをいふ貌。史記に「公之等喝喝者也、何知二長者之道一乎」

【喃】ゆタン、ナン。那含切。覃。
ゐダン、ナン。乃感切。感。
ゆくどくどし、多言なり、くどくどしく語る、かたる、又、その聲ゐなむ(嘗)。

【喃喃】一くどくどしく語る形容。高啓「家人怨レ別方喃喃」二讀書の聲の形容。寒山「仙書一兩卷、樹下讀喃喃」

【善】センゼン。上演切。銑。
一よし二よくす三よみす(好)四おほし(多)五おほいなり(大)六單に通ず七勝に通ず。
【善人】おこなひのよき人。孔子家語に「與二善人一居、如入二芝蘭之室、久而不聞二其香一、卽與レ之化矣」
【善才】才能ある人。白居易「曲罷長歎二善才服」長は一に、常に作る。
【善レ文】たくみに文章を作る。柳宗元「長翼而廣顙、好學而善文」
【善心】善良なるこころ。詩經、疏に「善心爲レ窮、善容爲レ寃」
【善用】たくみに用ゐる。左傳に「惠二恤其民、而善二用之一」

【善攻】ゼンコウ たくみにせむ。戰國策に「秦雖二善攻一、不レ能レ取二六城一」

【善良】ゼンリヤウ よし。ただし。唐書に「諸王數十百、食和染教、皆爲二善良一」

【善待】ゼンタイ 丁寧にもてなす。(厚待)。史記に「合レ己者善、待之、不レ合レ己者不レ能二忍見一」

【善柔】ゼンジウ 媚說にたくみにして誠實の心なきもの。論語に「友二善柔一」

【善政】ゼンセイ よきまつりごと。孟子に「善政不レ如二善教之得レ民也」

【善喜】ゼンキ よろこばし。易林に「行者危殆、利レ居二善喜一」

【善根】ゼンコン 〔佛〕善果を受くべき所業。舊唐書に「弘二宣聖業一、修二植善根一」

【善祥】ゼンシヤウ よきしるし。漢書に「成帝時、鋌爲レ郡、于二水濱一得二古磬十六枚一、議者以爲二善祥一」

【善教】ゼンケウ よきをしへ。又、たくみにをしふ。禮記に「善教者、使二人繼一其志一」

【善喻】ゼンユ よくさとす。禮記に「和易以思、可レ謂二善喻一矣」

【善遇】ゼングウ てあつくあしらふ。史記に「客無所擇、而善二遇之一」

【善賈】ゼンカ よきあたひ。論語に「求二善賈一而沽諸」

【善鄰】ゼンリン よきとなり。又、鄰國にしたしむ。左傳に「親レ仁善鄰、國之寶也」

【善歲】ゼンサイ ゆたかなるとし。管子に「牧レ民者、厚收二善歲一、以充二倉廩一」

【善意】ゼンイ よきこころ。親切なる心。漢書に「厚賂二單于一、答二其善意一」

【善熟】ゼンジユク よくみのる。唐書に「江淮田一善熟、則旁資二數道一」

【善謀】ゼンボウ よきはかりごと。晉書、武帝紀に「明達善謀、能斷二大事一」

【善種】ゼンシユ よきたね。(嘉種)。漢書に「雖レ有二善種一、不レ能レ生焉」

【善嘲】ゼンテウ うまくあざける。南史、陳新安王伯固傳に「伯固善二嘲謔一」

【善績】ゼンセキ よきいさをし。(嘉績)。後漢書、崔寔傳に「寔之善績、母有二其助一焉」

【善聲】ゼンセイ よきこゑ。鹽鐵論に「善聲而不レ知レ轉、未レ可レ謂二能歌一也」

【善鬟】ゼンイ よきいしゃ(國手)。鶡冠子に「扁鵲兄弟三人並善鬟」

【善藥】ゼンヤク よきくすり。(良藥)。唐書に「善藥不レ可レ離レ手」

【善知識】ゼンチシキ 德高き僧をいふ。遺教經に「求二善知識一、求二善護助一」

【善以爲寶】ゼンモチテタカラトナス 金玉を寶とせずして、善人を寶とす。大學に「楚書曰、楚國無二以爲一寶、惟善以爲一寶」

【善巧方便】ゼンゲウホウベン 〔佛〕たくみに教へみちびくてだて。

【善敗由己】ゼンパイユオノレニヨル 事の成敗は我おこなひの善惡によりて分る。左傳に「善敗由レ己、而由レ人乎」

【善游者溺】ヨクノモノハオボル 技能に秀でたるものは、これに誇りて反って禍を受くるに喩ふ。淮南子に「夫善游者溺、善騎者墮、各以二其所一好、反自爲レ禍」

【善言煖二於布帛一】ゼンゲンハンヲフハクニ 善言の人を益することは、布帛の體を煖むるに勝る。荀子に「與二人善言一、煖二於布帛一」

【善書不レ擇二紙筆一】ゼンショフレシヒツ 妙技の人はその器具を擇ばずして能くその伎倆を見はす義。後山談叢に「善書不レ擇二紙筆一、妙在二心手一」

【善待レ問者如レ撞レ鐘】ヨクトヒラマヅモノハカヲフクガゴトシ 實問を受くるに巧なるものをいふ。撞くものの力に應じて鐘の鳴る音に大小の差あるが如く、よき程に答をなす義。禮記に「善待レ問者如レ撞レ鐘、叩レ之以二小者一、則小鳴、叩レ之以二大者一、則大鳴、待二其從容一、然後盡二其聲一」

【喆】

テツ。詰、哲に同じ。

【喇】

ラツ、ラチ。耶達切。曷。

【喇叭】ラツパ はやくち、ことばはげし。

叭軍中吹器、俗呼二號頭一」

【喇嘛教】ラマケウ 佛教の一派、西藏を中心として蒙古及び滿洲地方に行はる。その首長を達賴喇嘛及び班禪喇嘛といふ。

【喈】

カイ、ケイ。居諧切。佳。

カイ、ケ。許介切。卦。

(一)やはらぐ(和)(二)さへづる(囀)(三)はやし(疾)(四)かれのこゑ。

【喈喈】カイカイ (一)鳥の聲の和げる形容。詩經に「黃鳥于飛、集二于灌木一、其鳴喈喈」(二)鐘の聲の形容。詩經に「鼓レ鐘喈喈、淮水湝湝、憂二心且悲一」

【喉】

コウ、ク。胡鉤切。尤。のんど(咽)、のどぶえ。

【喉衿】コウキン 要害よき土地。晉書に「四塞山河、有二喉衿之勢一」

【喉舌之官】コウゼツノクワン 天子の言を記錄する官。後漢書に「雄有二王臣蹇蹇之節一、宜レ擢二任喉舌之官一、必有二弼正之益一」

【喊】

(一)カン、ゲン。下斬切。豏。(二)カン、コン。呼覽切。感。(三)虛咸切。咸。(四)苦濫切。勘。

(一)いかりごゑ(二)さけぶ(叫)(三)よし(可)(四)あぢはふ(味)(五)こゑ(鹽に同じ)(六)とづ(二)しかる(呵)(七)しかる。

【喊聲】カンセイ ときのこゑ。

【喋】

(一)テフ、デフ。徒叶切。葉。(二)タフ、デフ。直甲切。洽。(三)ケフ、コウ。去涉切。葉。(四)かまびすし(喧)(五)しゃべる(多言)(六)ふむ(蹀に同じ)(七)血の流るる貌。(八)いばむ(啄)、くらふ(食)、ふくむ(含)。(九)どもり、どもる(吃)。

【喋血】テフケツ ちをふむ。戰鬪のはげしきさま。漢書に「新喋二血閼與一」

【喋呷】カフ かまびすし。劉基「眠レ沙臥竹鳴且翹、喋二呷藻苔亂二蓬蒿一」

【喋喋】テフテフ よどみなくしゃべる貌。漢書に「豈教二此醫夫喋喋利口捷給一哉」

【喋】

(一)イン、オン。於金切。侵。(二)アン、オン。烏含切。覃。(三)イン、オン。於禁切。沁。(四)イン、オン。於錦切。寢。

(一)なく(泣)(二)さけぶ(叫)(三)おし(啞)(四)だまる(默)(五)なきむせぶ(六)よぶ(呼)し。

【喧啞】インオし。又、口をつぐむ。蘇軾「撫レ掌笑二先生一、年來教二喧啞一」

【喧喧】インイン ものいふ能はざる貌。風俗通儀に「無二聲響一、徒喧喧而已」

【喧噫叱咤】インシツクシツタ 大いにしかる。史記に「項王、喧噫叱咤、千人皆廢」

【嚶】

エウ。伊消切。蕭。むしのこゑ(蟲聲)。

【喔】

(一)アク、オク。於角切。覺。(二)チク。烏谷切。屋。

(一)なく、又、その聲(二)つくりわらひ(強笑)、へつらひわらふ。

【喔咿】アクイ (一)つくりわらふ。風平「喔咿嚅唲、以事二婦人一乎」(二)かたる。陳陶「仙人龍鳳雲雨吹、朝哀暮愁引二喔咿一」

【喔喔】アクアク にはとりの聲の形容。白居易「喔喔雞下レ樹、輝輝日上レ梁」

【喔嚅】アクジユ かまびすし。易林に「雀行求レ粒、暮歸喔嚅」

【喧】

(一)グン、ゼン。牛殞切。軫。(二)ソン、ゾン。粗本切。阮。(一)大いなるくち、口大いなり(二)口大いにして齒醜き貌。

【喘】

セン、ゼン。昌沇切。銑。(一)いきせく、あへぐ、せく、(疾息)、いきせく病、せき(二)いびき、いびく(鼾聲)(三)ささやく(微言)(四)氣息、又、生存の義。

【喘レ月】クワゼツニアヘダ 人の畏懼の過甚なるを笑ふ語。吳國の牛は月を見ても日かと疑ひて息をせはしくす、吳牛は水牛なり、吳は南方にて暑甚だしきより日を長るること亦甚だしきなり。(吳牛喘月)。世說に「臣(滿奮)猶二吳牛之見レ月喘一」

【喘呀】センガ あへぎて口を開く。韓愈「赤日下照烘二朝霞一、腹鳴肩聳氣喘呀」

【喘息】センソク あへぐ。又、氣管支に痙攣をおこす病。李白「喘息鬢二妙氣一、步虛吟二眞聲一」

【喘氣】センキ いきづかひはげし。劉禎「獸喘二氣于玄景一、鳥戢二翼于高危一」

【喘喘】センセン あへぐ貌。王琢「霞烟灼灼燥二昏曉一、鳥獸喘喘茫二四東一」

【喘噎】センエツ せきむせぶ。李覯「願レ汝僅毀レ齒、何力禁二喘噎一」

【喟】ガク。五各切。藥。はぐき(齦)。
フン。吻に同じ。

【喙】㊀カイ、ケ。許穢切。隊。㊁セイ、セ。充芮切。霽。㊂トウ、ツ。丁候切。宥。㊃ケイ、ケ。呼嘉切。霽。㊄くちさき、くちばし、くち。㊅短氣なる貌。㊆くるしむ(困)。

【喚】クワン。呼貫切。翰。
㊀よぶ(呼)。㊁わめく(叫)。㊂まねく(招)。
【喚叫】クワンケウ さけぶ。(叫喚)。
【喚呼】クワンコ 前に同じ。
【喚起】クワンキ よびおこす。韓愈「喚起廳前曙、催歸日未西」
【喚集】クワンシフ よびあつむ。(嘯集)。

【嗳】㊀クワン。火貫切。翰。㊁クワン、ケン。許元切。元。㊂カイ、ケ。虎猥切。賄。㊃エン、ヲン。于元切。元。㊄カイ、ケ。胡戈切。歌。㊅ケン、コン。火遠切。阮。
㊀いかる(恚)。㊁かなしむ(哀)。㊂こたふ。㊃うれふ(愁)。㊄おそる(恐)。㊅いかる(恚)。㊆かなしむ(哀)。㊇なく(泣)。㊈咺に同じ。

【喉】ヘン、ベン。毗連切。先。
へつらふ(巧言)。
㊀キ。許里切。紙。㊁許記切。寘。

【喜】
㊀よろこぶ、たのしむ(樂)。㊁さいはひ(福)、よろこび。㊂このむ(好)、よろこぶ、たのしむ(悅)。㊃このむ(好)、よろこべるこころ。禮記に「喜心、よろこばしきかほいろ。孔「其喜心感者、其聲發以散」
【喜色】キシヨク よろこばしきかほいろ。孔子家語に「孔子爲魯司寇、攝行相事、有喜色」
【喜劇】キゲキ 觀客に歡笑の情を催さしむる脚色の演劇。悲劇の對。
【喜樂】キラク よろこびたのしむ。詩經、傳に「思在野之君子、而得見其在位、喜樂無度」
【喜聲】キセイ うれしげなるこゑ。楊萬里「一番雨過來幽徑、無數飛禽有喜聲」
【喜躍】キヤク よろこびてをどりたつ。(抃躍)。柳宗元「闢瑞應而稱慶、仰績事而增歡、無任抃蹈喜躍之至」
【喜字齡】キジヒヨウ 七十七歳ないふ。喜の字を草書にて書けば「㐂」となり、七十七と讀まるれば「㐂」となり、七十七コ、ウ。洪孤切。虞。

【嘲】㊀こゑ(聲)。㊁いかる(怒)。㊂アイ、エ。乙芥切。卦。㊃カイ、ガイ。苦蓋切。泰。㊄カツ、カチ。

【喝】ガイ。苦蓋切。曷。
㊀しはがる、しゃがる。㊁むせぶ。㊂こゑ(聲)。㊃しかる。㊄よぶ。㊅いかりごゑ。
【喝采】カツサイ ほめはやす。稱美す。西廂記に「喝采、北人鄉語、稱羨之意」
【喝破】カツハ どなりつく。
【喝道】カツダウ さきばらひ。唐書に「舒元輿曰、元和時、中丞呵止不過半坊、今乃過兩坊、謂之籠街喝道」

【唧】㊀ショク、シキ。節力切。職。㊁シツ。子悉切。質。
㊀なく(鳴)。㊁おほくのこゑ(衆聲)。
【唧唧】シツシツ 蟲のなく聲の形容。歐陽修「四壁蟲聲唧唧、如助余之歎息」

【喟】㊀キ。丘媿切。寘。㊁クワイ、ケ。苦怪切。卦。㊂ためいき(太息)。㊃なげく(歎)。㊄噴に同じ。
【喟然】ゼン なげく貌。論語に「夫子喟然歎曰、吾與點也」
【喟喟】キキ 前に同じ。劉向九歎に「行唫巢歔聲喟喟兮」

【噩】ショウ、シユ。主勇切。腫。
㊀言ふ能はず。㊁むかづく。㊂あへぐ(喘)。

【嘸】ク。況羽切。麌。
㊀ふく(吹)。㊁いき(息)。㊂あたたむ(煦に同じ、溫)。㊃しめす(呈示)。㊄諂ひ笑ふ貌。

【嘻】㊀クワウ、ワウ。胡光切。陽。
㊁クワウ、キヤウ。胡盲切。庚。
㊂ワウ。虎晃切。養。
㊀小兒の泣く聲、なく(泣)。㊁やはらぐ(和)。㊂かまびすし(諠)。㊃いかる(怒)。㊄さきばらひ。㊅なくおほし(衆)。
【嘻呼】キコ かまびすし。奚都賦に「諠譁嘻呼、芬葩蔭映」
【嘻嘻】キキ ㊀かまびすしき聲の形容。詩經に「嘻嘻其聲」。㊁小兒の泣く聲の形容。詩經に「其泣嘻嘻」。㊂和げる音の形容。詩經に「鐘鼓嘻嘻」

【嗶】㊀クワン。火貫切。翰。㊁クワン、ケン。許元切。元。㊂カイ、ケ。虎猥切。賄。㊃エン、ヲン。于元切。元。㊄カイ、ケ。胡戈切。歌。㊅ケン、コン。火遠切。阮。
㊀いかる(恚)。㊁かなしむ(哀)。㊂こたふ。㊃うれふ(愁)。㊄おそる(恐)。㊅いかる(恚)。㊆かなしむ(哀)。㊇なく(泣)。㊈咺に同じ。

【嗶】㊀ケン、クワン。許元切。元。
かまびすし(讙)。
【嗶呶】ケンドウ かまびすし。柳宗元「逍遙屏幽昧、淡泊辭喧呶」
【嗶爭】ケンサウ かまびすしくいひ爭ふ。杜甫「富貴空回首、嗶爭愧著鞭」
【嗶歌】ケンカ かまびすしくわらふ。元稹「滿堂會客齊嗶歌」
【嗶紛】ケンフン かまびすしくみだる。裴度「頃來多諸淚、此夕任嗶紛」
【嗶聒】ケンクワツ かまびすし。王維「嗶聒茅簷下、或坐或復起」
【嗶傳】ケンデン やかましくいひふらす。楊萬里「松竹嗶傳鄰剡聞」
【嗶嘩】ケンクワ かまびすし。
【嗶喋】ケンサウ 前に同じ。
【嗶麈】ケンヂン 前に同じ。梁簡文帝「嗶麈是時息、靜坐對重巒」。
【嗶鬧】ケンダウ かまびすしくさわがし。皮日休「鉤楯跨通衢、嗶鬧當九市」
【嗶繁】ケンハン うるさくかまびすし。白居易「清晨臨江望、水禽正嗶繁」
【嗶撓】ケンゼウ かまびすしくみだる。
【嗶鬻】ケンガウ かまびすし。

【嗡】㊀ユ。徐戍切。遇。㊁容朱切。虞。
㊀いさむ、さとす、なしふしへ、さとし。㊁了解せしむ、善に導く。㊂たとへ、たとふ(譬)。㊃よろこぶ(悅)。㊄やはらぐ(和)。㊅うたふ(歌)。
【嗡教】ユケウ 博雅に「嗡嗡喻教、教へて了解せしむ、さとす、なしふ」
【嗡喻】ユユ よろこぶ貌。

【喫】㊀ケキ、キヤク。苦擊切。錫。㊁カイ、ケイ。口戒切。卦。㊂ハツ、ハチ。普活切。曷。㊃キツ。慣用音。
㊀くらふ(食)。㊁のむ(飲)。㊂あらそふ(力爭)。㊃いさむ(諫)。㊄いつはる、いつはり、いふ(言)。
【喫煙】キツエン たばこをすふ。
【喫飯】キツパン めしをくらふ。(嗽飯)。五代史に「當與汝一喫飯處」
【喫驚】キツキヤウ おどろく。

【嘱】スキ。吹に同じ。
ケウ、ゲウ。巨嬌切。蕭。
㊀たかし(高)。㊁高くしてまがる。㊂おごる、ほしいまま(驕に通ず)。㊃矛の飾の毛羽をかくるかさ、柄の刃に近き處にあり。
【喬木】キヤウボク たかき木。詩經に「出自幽谷、遷于喬木」。
【喬志】キヤウシ おごるこころ。禮記に「齊音敖辟喬志」
【喬竦】キヤウショウ たかくそびゆ。謝靈運「凌岡上而喬竦、臨澗下而扶疏」
【喬詰】キヤウキツ 心不平なり。莊子に「天下始喬詰卓鷙、而後有盜跖曾史之行」
【喬松之壽】キヤウショウノジユ 喬は王子喬、松は赤松子にて、共に不死の仙人なり、よりて長壽の義に用ゐる。戰國策に「蔡澤曰、世世稱孤、而有喬松之壽」。

【嗛】㊀ケン。口銜切。銜。㊁カン。魚變切。霰。㊂カン。魚旰切。翰。㊃ガン、ゲン。語限切。潸。
㊀喑に同じ。㊁いやし、粗俗なり。㊂すこしくわらふ貌。

【單】㊀タン、ダン。部寒切。寒。
㊁セン、ゼン。時連切。先。㊂之膳切。霰。
㊀ひとへ。㊁ことごとく(盡)。㊂ひとり(隻)。㊃ひとつ(一)。㊄めぐる、めぐり(周)。㊅ひとへにする。㊆おほし(多)。㊇ゆたかなり(豐)。㊈あつし(厚)。㊉まこと(信)。㊊廣大なる貌。㊋輕發の貌。
【單一】タンイツ ひとつ。ひとへ。
【單于】ゼンウ 匈奴の酋長の稱。
【單行】タンカウ ひとりにて行く。後漢書に「帝分遣二使者、微服單行」

【單位】タンヰ 物をかぞふる基礎とする數。

【單老】タンラウ 老年にして妻子なきもの。梁武帝詔に「凡民有下單老孤稚不上レ能二自存一主一者、郡縣咸加二收養一」

【單身】タンシン ひとり。ひとりみ。

【單坐】タンザ ひとりすわる。

【單純】タンジユン まじりけなし。ひとすぢなり。（純一）。

【單舸】タンカ はやぶね。（輕舸）。耶律楚材「兩岸淸風單舸穩、滿江明月一鉤沈」

【單調】タンテウ 變化なき調子。

【單騎】タンキ 一人のうまのり。梅堯臣「長堤凍柳不レ堪レ折、窮臘使二君單騎行一」

【單辭】タンジ 證據のなきことば。（偏辭）。後漢書、注に「單辭、謂レ無二證據一也」

【單縱陣】タンジユウヂン 軍隊の一列にならびたる陣立。

【單刀直入】タンタウチヨクニフ 一刀にて直に敵陣に斬り入る。轉じて、文章言論などの直に本題に説き入るにいふ。傳燈錄に「靈祐曰、單刀直入、則凡聖露レ眞」

【單文孤證】タンブンコシヨウ 僅かにひとつの文書にて、證據不十分なり。四庫全書提要に（）「未レ可下以二單文孤證一遽斷中其僞上」

【單絲不レ成レ線】タンシセンヲナサズ かたわれにては用をなさざるに喩ふ。水滸傳に「單絲不レ成レ線、孤掌豈能鳴」

【⿰口乏】ヘン。陂驗切。豔。よぶ（呼）。

【喉】コウ、ク。喉の本字。

【喪】㋑サウ、ソウ。四浪切。漾。㋺蘇郞切。陽。㋑㊀ほろぶ㊁ほろぼす㊂うしなふ（失）㋺㊀も（忌服）㊁ひつぎ（柩）。

【喪心】サウシン 本心をうしなふ。氣ぬけす。左傳に「哀而樂、樂而哀、皆喪レ心也」

【喪志】サウシ こころざしをうしなふ。書經に「玩レ人喪レ德、玩レ物喪レ志」

【喪車】サウシヤ とむらひに用ゐるくるま。

【喪家】サウカ 新に死にたる人のある家。史記に「纍纍若二喪家之狗一」

【喪服】サウフク もにこもるあひだ著る服。周禮に「喪服凶器、不レ入レ宮」

【喪祭】サウサイ もとまつりと。禮記に「喪祭之用、賓客之交義也」

【⿰口喪】サウ、ソウ。喪に同じ。

十畫

【⿰口昏】シン。之人切。眞。おどろく（驚）。

【嗓】㋑サウ、ソウ。蘇到切。號。㋺セウ。千遙切。蕭。

【⿰口虔】㋑なく（鳴）㋺すき。ケン。丘虔切。先。㊀よろこぶ（喜）㊁たのしむ（樂）。

【嗀】カク、コク。許角切。覺。はく（吐）。

【⿰口逆】ゲキ、ギャク。宜戟切。陌。はく（吐）。

【嗁】テイ、ダイ。杜兮切。齊。㊀なく（啼）㊁さけぶ（號）、（喜）。

【嗂】エウ。餘昭切。蕭。㊀たのしむ（樂）㊁よろこぶ

【⿰口亞】ア。烏化切。禡。小兒の啼くにいふ。

【嗃】㋑カク。黑各切。藥。㋺コク。呼酷切。沃。㋩カウ、ケウ。許交切。肴。㋥孝狡切。巧。㋭呼敎切。效。㋑㊀おごそかなる貌㊁おごそかにして大いなる聲、こゑ（聲）㊂たのしむ（樂）㊃熱に苦しむ意㋺㊀こゑ、おごそかにして大いなる聲㊁悅びたのしむ㋩㊀さけぶ、又、その聲㊁はやきこゑ、一說に、笛の音㋥ほゆ、さけぶ（哮に同じ）㋭よぶ、さけぶ（詨に同じ）。

【嗃嗃】カクカク 嚴厲なる貌。易經に「家人嗃嗃、悔レ厲、吉」

【嗄】㋑サ、セ。所嫁切。禡。㋺アイ、エ。於邁切。卦。㋑㊀しはがれごゑ、だみごゑ（濁聲）㊁しはがる、聲がはる㋺㊀のぼす、氣逆上す㊁泣きつくして聲たす㊂聲敗る、しはがる。

【嗅】㋑キウ、ク。許救切。宥。㋺キウ、キユ。香仲切。送。かぐ（齅に同じ）。

【嗅感】キウカン 鼻にてかぐかんじ。

【嗅覺】キウカク 前に同じ。

【嘗】シヤウ。嘗の俗字。

【嗆】㋑シヤウ、サウ。千羊切。陽。㋺サウ。鋤庚切。庚。㋑㊀ついばむ、あさる㊁おろかなる貌㋺おろか（愚怯）。

【⿰口冓】㋑コウ、ク。古候切。宥。㋺古侯切。尤。㋑㊀なく、さけぶ（喝）㊁雉鳴く（雊に同じ）㋺㊀となふ（唱）㊁聲の亂るるにいふ、又、大いなる聲を發するにいふ。

【嗇】ショク、シキ。所力切。職。㊀をしむ（愛）㊁むさぼる（貪）㊂やぶさかなり、しはし㊃禾穀を收むること（穡に通ず）。

【⿰口草】サウ、ソウ。采老切。皓。㊀さびし（寂）㊁しづかなり（靜）。

【嗾】シツ、ジチ。秦悉切。質。こゑ（聲）。

【嗉】ソ、ス。桑故切。遇。ゑぶくろ。

【嗊】コウ、ク。呼孔切。董。うた、うたふ（歌）。

【嗋】ケフ、コフ。許劫切。葉。㊀あふ（合）㊁すふ（吸）㊂おどす（恐迫）。

【嗋呷】ケフカフ すふいき。梅堯臣「嗋呷氣甚危」

【嗌】㋑エキ、ヤク。伊昔切。陌。㋺エイ、アイ。壹計切。霽。㋩アク、ヤク。乙革切。陌。㋥アイ、エ。烏懈切。卦。㋑㋺のど、のんど㋩のんど（咽）㋥㊀笑ふ貌㊁のどの痛むにいふ。

【嗌嗌】エキエキ 笑ふ貌。韓詩外傳に「疾笑嗌嗌、威儀固陋」

【嗌喔】エキアク 强ひて笑ひへつらふ。王逸「哀世兮睩睩、諓諓兮嗌喔」

【嗌嘔】エキオウ はく。新語に「絕二恬美之味一、疏二嗌嘔之情一」

【嗐】㋑カツ、ガチ。下瞎切。曷。㋺カイ、ガイ。下蓋切。泰。㊀こゑ（聲）㊁口を開く。

【嗑】カフ、ゴフ。谷盍切。合。㊀こゑ（聲）㊁かまびすし㊂かたる（語）㊃あふ（合）㊄すふ（吸）㊄わらふこゑ。

【嗒】タフ、トフ。託合切。合。㊀わするる㊁ねぶる（舐）。

【嗒然】タフゼン 懷ふことを忘るる貌。莊子に「嗒然似レ喪二其偶一」

【⿰口烋】キウ。烋の俗字。

【嗔】㋑テン、デン。徒年切。先。㋺シン、ジン。昌眞切。眞。㋑氣の盛んなる貌㋺いかり、いかる（瞋）。

【嗔色】シンシヨク いかれるかほいろ。北史、劉庫仁傳に「乞歸性寬和、與レ物無レ競、中略亦無二嗔色一」

【嗕】ジョク、ニク。而蜀切。沃。あはれむ（憐）。

【嗧】コウ、グ。胡貢切。送。㊀いちびと（市人）㊁おほくのこゑ（衆聲）。

【嗗】アツ、エチ。烏八切。黠。飮む聲、又、のむ。

【嗙】㋑ハウ、バウ。補盲切。庚。㋺補曠切。漾。

【嗚】㋑ヲ、ウ。哀都切。虞。㋺ヲ。烏故切。遇。㋑㊀うたふ（歌）㊁しがる（喝）、又、その聲㋺こゑ（聲）。㊂烏に通ず㋩なげく（歎）、いたむ（傷）。㋩㊀ああ（歎辭）ああ。なげくこゑ。書經に「嗚呼西土有衆」

【嗚呼】アア

【嗚咽】ヲエツ なきむせぶ。蔡琰「觀者皆歔欷行路亦嗚咽」

【嗚呼史】アアシ 歐陽修の撰せし五代史記をいふ。每篇論贊の初に嗚呼の二字を揭ぐるを以てなり。

【嗚呼有呉延陵季子之墓】アアゴエンリヨウキシノハカ 江

蘇省丹陽縣の吳の季札のはか。南畿志に「季札墓在ニ申港一、孔子表ニ其墓一、曰ニ嗚呼有吳延陵季子之墓一、謂ニ之十字碑一、唐殷仲容摹本、宋郡守朱彥刻石」

【嗛】㋩ケフ。詰叶切。葉。㋺ケン。苦簟切。琰。㋺苦兼切。鹽。㋩カン、ゲン。戸監切。咸。㋩㊀ふくみ、頰の裏に食を貯ふる處。㊁足らず、無し、腹に滿たず(歉に通ず)㊂小さき貌㋺へりくだる(謙に同じ)㋩㊀ふくむ㊁つく㋩㊀たる(足)㊁かなふ(愜)㊂こころよし(快)。

【嗛退】ケンタイ へりくだる。漢書、尹翁歸傳に「溫良嗛退」

【嗛嗛】ケンケン ㊀小さき貌。國語に「嗛嗛之德、不レ足レ就也」㊁へりくだりたる貌。漢書に「易之嗛嗛」

【嗜】シ、ジ。時利切。寘。㊀たしなむ、たしむ㊁このむ(好)㊂むさぼる(貪)㊃たしなみ(情慾)。

【嗜好】シカウ たしなむ。たしなみ。宣和畫譜に「平居無レ所ニ嗜好一」

【嗜玩】シグワン このみもてあそぶ。漢書に「恭德少ニ嗜玩一」

【嗜愛】シアイ たしなみこのむ。拾遺記に「能去ニ滑慾一、而離ニ嗜愛一」

【嗜義】シギ 正道な行ふことをこのむ。中說に「我未レ見ニ嗜レ義如レ嗜レ利者一也」

【嗜慾】シヨク たしなみこのむこころ。淮南子に「神淸者、嗜慾未レ能レ亂」

【嗜僻】シヘキ 最もすきこのむ。劉基「才疎乏ニ世用一、嗜僻惟書史」

【[口+豈]】カイ、ガイ。何開切。灰。わらふ、ちごわらふ。

【嗞】シ。子之切。支。㊀なげく(歎)㊁うれふ(憂)㊂なく(泣)㊃わらふ(笑)。

【嘌】リツ、リチ。力質切。質。もつる(拏)。

【嗟】㋩シヤ、セ。子邪切。麻。㋺サ、セ。子夜切。禡。㋥遭哥切。歌。㋩㊀ああ(歎辭)㊁なげき、なげく(歎)㊂となふ、たたふ(稱)㋺嗟に同じ㋥なげく。

【嗟吁】サウ ああ。咨嗟咏歎の辭。薩都剌「我題ニ此畫一三嗟吁、百年好醜皆虛無」

【嗟服】サフク 感心してしたがふ。後漢書、符融傳に「一見嗟服」

【嗟咨】サシ なげく(咨嗟)。蘇軾「至レ今三十年、父老猶嗟咨」

【嗟悼】サタウ なげきいたむ(傷悼)。潘岳「聖王嗟悼、寵ニ贈衾襚一」

【嗟惜】サセキ なげきをしむ。宋史に「若ニ此諫官一、亦不レ可レ得、嗟惜久レ之」

【嗟嗟】ササ ああ。なげくこゑ。何遜「撫レ絃乏ニ歡娛一、臨レ觴獨嗟嗟」

【嗟愍】サビン なげきあはれむ。魏書、高帝紀に「詔曰、百姓嗷然、朕用嗟愍」

【嗟稱】サシヨウ なげきほむ。李白「千金答ニ漂母一、萬古共ニ嗟稱一」

【嗟賞】サシヤウ 前に同じ。宋史、王質傳に「質力ニ學問一、中略伯父旦見ニ其所レ爲文一嗟ニ賞之一」

【嗟歎】サタン なげく。又、なげきほむ。漢書に「武帝親見ニ視其創一、嗟ニ歎之一」

【嗟懼】サク なげきおそる。後漢書、梁冀傳に「海內嗟懼」

【嗟來之食】サライノシヨク 禮を以て與へざる飲食物。禮記に「予唯不レ食ニ嗟來之食一」

【嗡】㋩ヲウ、ウ。烏紅切。東。㋺鄔孔切。董。㋥ヲウ。慣用音。㋩なく(鳴)、又、その聲㋺かちどき。

【嗢】㋩ヲツ、ヲチ。乙骨切。月。㋺アツ、アチ。烏八切。黠。むせぶ(咽)。

【嗢咽】ヲツエツ むせぶ。陸龜蒙「低レ頭增ニ歎詫一、到レ口復嗢咽」

【嗣】シ、ジ。祥吏切。寘。㊀つぐ、うく、つづく㊁よつぎ(後繼者)㊂ならふ(習)。

【嗣人】シジン あとつぎ。韓愈「是惟子厚之室、旣固旣安、以利ニ其嗣人一」

【嗣子】シシ 前に同じ。禮記に「大夫士之子、不三敢自稱曰ニ嗣子一」

【嗣事】シジ あとなつぐ。左傳に「所レ不レ嗣ニ事於齊一者、有レ如レ河」

【嗤】シ。赤之切。支。㊀わらひ、わらふ(笑)㊁あざけりわらふ(冷笑)。

【嗤笑】シセウ あざけりわらふ。南史、王琨傳に「莫レ不ニ撫レ掌嗤笑一」

【嗤侮】シブ わらひあなどる。

【嗤斬】シキン はづかしめあざわらふ。唐書に「縉紳共嗤ニ斬之一、號曰ニ勳格一」

【嗤輕】シケイ あなどる。

十一畫

【[口+恚]】イ。於避切。寘。いかるこゑ(恚聲)。

【嗷】ガウ、ゴウ。牛刀切。豪。㊀かまびすし(囂)㊁なく。

【嗷訴】ガウソ 强ひてうったふ。徒黨をなして訴へ出づ。

【嗷嗷】ガウガウ ㊀かまびすしき貌。楚辭に「聲嗷嗷以寂寥兮」㊁衆人の愁ふる貌。漢書に「下至ニ衆庶一、嗷嗷苦レ之」

【嗷嘈】ガウサウ かまびすし。(嘈嗷)。周邦彥「歌管嗷嘈」

【嗸】ガウ、ゴウ。嗷に同じ。

【[口+動]】㋩コウ、ク。戸冬切。冬。㋺トウ、ヅ。徒弄切。送。㋥コウ、グ。呼公切。東。㋩コウ、ク。平宋切。宋。㋩㊀かまびすし、多言なり㊁うたふ㋺㊀うたふこゑ、又、うたふ㋥㊀おほいなろこゑ㊁うたふ。

【嗺】㋩スヰ、サイ。子雖切。支。㋺サイ、セ。素回切。灰。㋩祖猥切。賄。㋩つぼくち㋺㊀なげく(嗟)㊁うながす(促)㊂口のうごく貌、人を見送る歌㋩くちみにくし。

【嗻】㋩シヤ、セ。之夜切。禡。㋺シヨ、ソ。章恕切。御。㋩㊀さへぎる(遮)㊁ことばおほし㋺語の要ならざるにいふ。

【嗼】㋩バク、マク。莫各切。藥。㋺莫白切。陌。㋩㊀やすらかなり、やすし(安)㊁しづか(靜)㊂くさめ㋺やすし、しづか。

【嗽】㋩ソウ、シユ。先奏切。宥。㋺シウ、シユ。所救切。宥。㋩ソク、スク。桑谷切。屋。㋥サク、タク。所角切。覺。㋩㊀せき、しはぶき(本、瘶、欶に作る)㊁せく、しはぶく㋺くちすすぐ、くちあらふ(本、漱に作る)㋩㋥すふ(本、欶に作る、嗍に同じ、吮)。

【嗽咳】ソウガイ せき。(咳嗽)。

【嗽藥】ソウヤク うがひぐすり。

【嗾】㋩ソウ、シユ。蘇后切。有。㋺サ。蘇臥切。箇。㋩ソク、ゾク。作木切。屋。本、嗾に作る、嗾に同じ。㊀けしかく(犬を使ふ聲)㊁轉じて、煽動教唆するにいふ。

【嗿】タン、トン。他感切。感。㊀こゑ(聲)㊁おほし、衆き貌。

【[口+率]】㋩リツ、リチ。呂卹切。質。㋺セツ、セチ。所劣切。屑。㋩サイ、セ。楚快切。卦。㋥シユツ、ソツ。朔律切。質。㋭セイ。山芮切。霽。㋩さへづる、なく㋺㋩少しく飲む㋥こゑ(聲)㋭なむ(嘗)。

【[欶+口]】シユク、ソク。子六切。屋。はづ(忸怩)。

【嘁】シユク、ソク。[欶+口]に同じ。

【嘂】ケウ。古弔切。嘯。さけぶ。

【嘄】ケウ。古堯切。蕭。さけぶ(叫に同じ)。

【嘄謼】ケウコ さけぶ。漢書に「如レ使ニ狂夫嘄ニ謼於東涯一」

【嘅】カイ。苦溉切。隊。なげき、なげく(嘆)。

【嘆】㋩タン。他晏切。翰。㋺他干切。寒。なげき、なげく(歎に同じ、太息)。

【嘇】㋩サン、セン。師咸切。咸。㋺サン、ソン。桑感切。感。㋩七紺切。勘。㋥㋺ふくみくらふ㋩こゑ(聲)。

【嘈】 ㊥サウ、ゾウ。昨勞切。豪。㊁セウ、ゼウ。慈雋切。蕭。㊂サウ、ザウ。在到切。號。 一さわがし(騷) 二かまびすし(喧) 三さわがしきこゑ。

【嘈嗷】 かまびすし。(嗷嘈)。王鑒「雲韶何嘈嗷、靈鼓鳴相和」

【嘈嘈】 聲さわがしき貌。白居易「大絃嘈嘈如二急雨一」

【嘈囋】 つづみのおと。張衡「奏二鼗鼓之嘈囋一」

【嘉】 カ、ケ。古牙切。麻。 一よし、よみす(善) 二たのしむ(樂) 三よろこぶ(喜) 四このむ(好) 五うつくし(美)、うまし(旨) 六さいはひ七よきもの、うまきもの。

【嘉木】 めづらしき木。(珍木)。四京賦に「嘉木樹レ庭」

【嘉月】 三月の異名。(喜月、桃月)。

【嘉禾】 穗のおほくつきたるよき苗。又、いね。宋書に「帝堯在レ位、朱草生、嘉禾秀、甘露潤、醴泉出」

【嘉玉】 宗廟の祭にそなふるたま。禮記に「凡祭二宗廟一之禮、玉曰二嘉玉一」

【嘉平】 十二月の異名。史記に「更名レ臘、曰二嘉平一」

【嘉辰】 よき日。又、よき時。(佳辰)。王筠「長絲表二良節一、命縷應二嘉辰一」

【嘉言】 よきことば。(好言、善言)。書經に「聖謨洋洋、嘉言孔彰」

【嘉良】 よし。蔡邕「元正令午、時惟嘉良」

【嘉味】 よきあぢ。うまきもの。(美味)。申鑒に「酸鹹甘苦不レ同、嘉味以濟、調二之和羹一」

【嘉例】 よきためし。

【嘉招】 人よりまねかるること。潘岳「微身輕二蟬翼一、翦冠忝二嘉招一」

【嘉祉】 よきしあはせ。柳宗元「奉二其吉玉一、以對二嘉祉一」

【嘉服】 吉事に著するきもの。左傳に「以二嘉服一、見、則喪禮未レ舉」

【嘉納】 よみして物を受けをさむ。後漢書に「暉上レ便宜、陳二密事一、深見二嘉納一」

【嘉祚】 よきさいはひ。(休祚)。陳書に「天命雖レ稽、遂享二嘉祚一」

【嘉羞】 よき食物。韓愈「濟酌嘉羞、侑以二音聲一」

【嘉宴】 めでたきさかもり。水經、注に「賓亭嘉宴、是豆是觴」

【嘉淑】 よし。陳琳「有二逸姿之令鳥一、含二嘉淑之哀聲一」

【嘉盛】 よき黍稷のもりもの。李華賦に「王燭內融、則嘉盛豐備、太陽臨照、而天下文明」

【嘉祥】 めでたきしるし。後漢書に「示レ之以災異一、訓レ之以二嘉祥一」

【嘉喜】 ほめよろこぶ。又、さいはひ。易林に「遺二吾福子一、嘉二我嘉喜一」

【嘉聞】 よきうはさ。(令聞)。左傳に「生有二嘉聞一」

【嘉穀】 よきさかな。詩經に「彼有二旨酒一、又有二嘉穀一」

【嘉歲】 よきとし。章應物「山川降二嘉歲一、草木蒙二潤滋一」

【嘉會】 めでたき會合。風流の會合。(佳遊)。晉書に「嘉會置レ酒」

【嘉禽】 よきとり。魏文帝「大酋奉二甘醪一、狩人獻二嘉禽一」

【嘉禎】 よきさいはひ。(休禎)。魏收「嘉禎幽祕、一朝紛委」

【嘉瑞】 めでたきしるし。(吉瑞)。春秋に「麟者仁獸、聖王之嘉瑞也」

【嘉愛】 よみしあいす。後漢書、鄧皇后紀に「動有二法度一、帝深嘉愛焉」

【嘉遯】 世をのがる。隱遁す。易經に「嘉遯貞吉」

【嘉猷】 よきはかりごと。書經に「爾有二嘉謀嘉猷一、則入告二爾后于內一」

【嘉福】 よきさいはひ。陸機「行矣保二嘉福一、景絕繼以レ音」

【嘉獎】 よみしほむ。晉璽「嘉獎士倫一、助二成世教一」

【嘉蔭】 よき木かげ。蘇軾「幽人得二嘉蔭一、露坐方獨酌」

【嘉儀】 めでたき儀式。

【嘉賓】 よききゃく。(佳賓)。詩經に「我有二旨酒一、以燕二樂嘉賓之心一」

【嘉慶】 よろこび。(休慶)。魏志に「兆民欣戴、咸樂二嘉慶一」

【嘉稱】 よきな。張載「垂二嘉稱于百代一、信二神人之所悅一」

【嘉禮】 めでたき禮式。周禮に「大宗伯之職、以二嘉禮一親二萬民一」

【嘉憲】 よきおきて。宋書に「魏國方安、嘉憲啓策」

【嘉澤】 よきめぐみ。李華「人心上感、天降二嘉澤一」

【嘉績】 よきいさを。書經に「嘉績多二于先王一」

【嘉賴】 よみしたよる。左傳に「其先君鬼神、實嘉賴之」

【嘉謨】 よきはかりごと。(良謨)。柳宗元「九天開二祕祉一、百辟贊二嘉謨一」

【嘉薰】 よきかをり。王融「燈祇開二遠照一、香宇薦二嘉薰一」

【嘉釀】 よきさけ。范成大「想得村田來歲好、瓦盆嘉釀灌二愁城一」

【嘉慶子】 (植) すももの異名。

【嘈】 ㊥チツ、チチ。陟栗切。質。㊁テツ、テチ。丁結切。屑。

【嘈】 ㊥コ、ク。荒烏切。虞。㊁荒故切。遇。

【嘈】 ㊥一よぶ(呼)、さけぶ(叫) 二潭に同じ ㊁一しかる、咄啐す 二よぶ、さけぶ。

【嘈】 ケイ、ケ。呼惠切。霽。 一いそがし、きびし、こゑ(小聲)、聲やはらぐ 二かすかなる貌。

【嘔】 ㊥オウ、ウ。烏侯切。尤。㊁烏后切。有。㊂ク、グ。匈于切。虞。㊃ウ、チ。威遂切。遇。㊄シュ、ス。春朱切。虞。 一かたる 二よろこぶ(喜) 三うたふ、うた(謠に通ず) 四こゑ(聲) 五一ふづく、もどす 二はく(吐) ㊂㊃よろこぶ ㊄いかるこゑ。

【嘔吐】 はく。もどす。

【嘔啞】 小兒のかたる言。又、聲の形容。杜牧「管絃嘔啞、多二於市人之言語一」

【嘔軋】 きしるおと。(咿軋)。陸游「櫓聲嘔軋秋空曉」

【嘔嘔】 一小兒のかたる形容。荀子に「拊二循之一嘔嘔」 二よろこぶ貌。博雅に「嘔嘔喻喻、喜也」 三こゑの形容。陸游「嘔嘔啞啞車轉急」 四ク、グ。悅ぶこゑの形容。史記に「項羽言語嘔嘔」

【嘔戛】 かまびすしくなくこゑ。蘇軾「野鳥嘔戛巖花春」

【嘔嘔】 一大いなる貌。孟子に「其志嘔嘔然」 二雞のなく聲の形容。元稹「犬驚狂浩浩、鷄亂響嘔嘔」

【嘔】 ㊥一よぶ(呼)、さけぶ(叫)、あら

〔口部〕 嘉 嘲 嘷 嘸 嘭 嘯 嘷 嘷 嘷

そふ(爭)㊁かまびすし、多言なり㊂なく(鳴)㊃いたる(至)㊄はじめ(初)。

【嘖嘖】サク ㊀口やかましき貌。韻會に「嘖嘖、爭言貌」㊁鳥の聲の形容。爾雅に「宵駕嘖嘖」

【嘗】シャウ、ジャウ。市羊切。陽。

㊀なむ㊁こころみる(試)㊂かつて(或時)㊃まつり(秋祭)。

【嘗禾】シャウクワ 新穀をそなへて神をまつろること。史記に「四大冢鴻岐吳岳、皆有嘗禾」注に「以新穀祭之」

【嘗試】シャウシ こころみに。ためしに。孟子に「我雖不敏、請嘗試之」

【嘗新】シャウシン 天子の新穀をきこしめすこと。呂氏春秋に「孟秋之月、農乃升穀、天子嘗新」

【嘗膽】シャウタン きもをなむ。艱苦を忘れざる義。史記に「越王勾踐反國、乃苦身焦思、置膽於座、坐臥卽仰膽、飲食亦嘗膽也」

【嘗糞】シャウフン へつらひ深き人をいふ。書言故事に「唐の郭弘霸、侍御史となる、時に大夫魏元忠病む、僚屬省候す、弘霸獨り後る、請うて便液を嘗め以て病の輕重を驗す、賀して曰く、甘き者は病癒えず、今味苦し、當に癒ゆべし患なけんと、元忠その媚を惡み、朝に暴語す」

【嘗試說】シャウシノセツ 他事を假借して試に之を爲す說をいふ。荀子に「姦言並至、嘗試之說鋒起」

【嘗二臠知二一鑊之味】クワンアトルチイチクワクノアジヲチ 一臠は一片の肉、一鑊はひとなべ、一斑を推して全斑を知る義。淮南子に「嘗一臠、知二一鑊之味、黰三羽興レ炭、而知二爆濕之氣」

【噓】キヨ、コ。休居切。魚。

ふく(吹)、はく(吐)、ああ(歎辭)。

嘘唏 キヨキ 図訓うそ(虛言)。

なげく。又、おそる。阮籍「嘘唏傷氣」

【嘘嘘】キヨキヨ ㊀呼吸のこゑする貌。蘇轍「日高鼾睡聲嘘嘘」㊁雲などのいづる貌。蘇轍「嘘嘘雲霧出、奕奕龍蛇結」

【噁】シツ、シチ。思栗切。質。

ひびき(響)。

十二畫

【嘩】クワ。譁に同じ。

【嘸】ダン、ネン。女閑切。刪。

㊀かたる(語)㊁こたふ(應)。

サイ、セ。楚快切。卦。

㊀くらふ㊁

(齧)。

【嘮】タウ、テウ。丑交切。肴。

丑加切。麻。カウ、ケウ。虛交切。肴。ラウ、ロウ。郎刀切。豪。

ろかまびすし(讙)はよぶ(呼)、さけぶ(該に同じ、叫)㊁かがやく(謝に同じ、灼)㊂かまびすし。

【嘯】シフ。子入切。緝。

かむ(噍)、すふ、すする(歃)。

セウ。蘇弔切。嘯。シュク、ソク。息六切。屋。シツ、シチ。尺栗切。質。

㊀ふく(吹)㊁うそぶく、又、詩歌などを歌ふにいふ。

しかる(叱に同じ)。

【嘯兇】セウキウ あつまれるわるもの。王遲「築壘防二嘯兇一」

【嘯吒】セウタ いきを吐く。又、意中を陳ぶ。李白「一遭二龍顏君一、嘯吒從レ此興」

【嘯集】セウシフ うそぶきうたふ。馬祖堂「嘯詠氣頗雄、攀躋力或弱」

【嘯詠】セウエイ

【嘯歌】セウカ 詩歌をうたふ。詩經に「嘯歌傷レ懷、念二彼碩人一」

【嘯聚】セウシュ よびあつむ。唐書、北狄室韋傳に「逐二水草一而處、每二弋獵一、卽相嘯聚、事畢去」

【嘰】キ、ケ。渠希切。微。キ、ケ。巨至切。寘。

㊀くらふ㊁なげく(唏)㊂みにくし、口醜し。

【嘱】ショク、ソク。囑に同じ。

【嘱】クワク、カク。胡麥切。陌。

【嘸】タウ、テウ。陟交切。肴。

あざける、あざけり。

【嘲弄】チウロウ あざけりもてあそぶ。

【嘲哂】チウシン あざけりわらふ。夏侯湛「陵二蘂卿相一、嘲二哂豪傑一」

【嘲笑】チウセウ 前に同じ。曾鞏「雖レ無二酒醴一、發二嘲笑一、亦有二詩謠一、恣搜抉」

【嘲嗤】チウシ 前に同じ。劉禹錫「時時一大笑、此必相嘲嗤」

【嘲詈】チウリ あざけりののしる。韓維「乃昏落二其間一、衆口沸二嘲詈一」

【嘲訝】チウクワイ あざけりたはむる。蘇軾「願君發二豪句一、嘲訝破二天慳一」

【嘲誚】チウセウ あざけりそしる。樂善錄に「純事レ嘲二誚士大夫一」

【嘲嘈】チウサウ あざけりかまびすし。歐陽修「下レ筆點竄皆嘲嘈」

【嘲詬】チウコウ あざけりそしる。陸游「風波起二平地一、兩耳厭二嘲詬一」

【嘲罵】チウバ あざけりののしる。僧惠洪「野僧蒼不レ懼、痴坐相嘲罵」

【嘲譏】チウキ あざけりたはむる。南史に「文辭鄙野、多被二嘲譏一」

【嘲戲】チウギ からかひあそぶ。(調嘲)。南史に「凡所二奏劾一、頗雜二嘲戲一」

【嘲噱】チウキヤク あざける。陸游「祇自取二嘲噱一」

【嘖】ゆクワイ、ケ。苦怪切。卦。ろキ。

丘媿切。寘。

㊀いき、いきづかひ㊁なげく、太息す㊂そしる(譏)㊃あはれむ(憐)ろ喟に同じ。

【嘖息】ソクワイ ためいきをつく。舞賦に「明詩表指、嘖息激昂」

【嘖然】ソクワイゼン 太息する貌。晏子に「嘖然而歎」

【嘴】シ。祖委切。紙。本、觜に作る。

くちばし。

ケウ。馨幺切。蕭。

【嘵】ケウ おそる(懼)。

【嘵嘵】ケウカウ おそれなく。杜甫「嘵嘵其音、屢爽其慮」

【嘵嘵】ケウケウ 懼るる聲の形容。詩經に「風雨所二漂搖一、予維音嘵嘵」

【嘶】セイ、サイ。先稽切。齊。

㊀いななく、いばゆ㊁むせぶ(噎)㊂こゑやぶる。

【嘻】カウ、ゴウ。乎刀切。豪。

ほゆ(咆)、さけぶ(號)。

【嘻叫】カウケウ さけぶ。北史に「嘻叫泣涕」

【嘻】テイ、タイ。都黎切。齊。

ささめごと、ささやく(耳語)。

【嘸】ゆブ、フ。斐父切。麌。ろア、ム。

罔甫切。麌。

答の精明ならざる貌。

【嘸然】ゼン 心の進まざる貌。漢書に「諸將皆嘸然、陽應曰、諾」

【嘺】ゆケウ、ゲウ。ろ丘召切。嘯。

ゆクワイ、ケ。巢稍切。蕭。

㊀はっきりせざること、おぼろか㊁おぼつかなしろ口のゆがめるにいふ、まがる。

【嘻】ゆキ。許其切。支。ろキ、ギ。許記切。寘。ねイ。於其切。支。

ゆ㊀やはらぐ(和)㊁たのしむ(樂)㊂あ(歎辭)㊃ほむ(贊美)㊄なげく(歎息)㊅かなしむ(悲)㊆いたむ(痛)㊇うらむ(恨)㊈おそる(懼)㊉おどろく(驚)㊊わらふ(笑)㊋自得の貌ろわらふ(笑)ねうに同じ。

【嘻嘻】キキ ㊀自得せる貌。河東賦、注に「嘻嘻旭旭、自得貌」㊁和らぎ樂む貌。易經に「嬉子嘻嘻、終吝」

【嚬】カン、ゲン。五閑切。刪。

㊀あらそふ(爭)㊁うったふ、うったへ(訟)㊂犬の嚙み合ふにいふ。

【嚴】キウ、ク。嗇の古文字。

【嚴】ゆダン、ナン。他干切。寒。

ろセン。稱延切。先。ねタ。湯何切。歌。ねタン。鱈旱切。旱。ねセン。昌善切。銑。ヘダン、ゲン。徒案切。翰。ゆ

ゆ㊀あへぐ(喘息)㊁よろこぶ(喜)㊂たのしむ(樂)㊃おほし、衆多なり㊄餘力ある貌、盛んなる貌ろ㊀迂緩なる貌㊁むせぶ(噎)ねー㊀なく(泣)㊁おほし(衆)ねー㊀ふるふ、なのめく、おそる(慄)㊁ゆるしはひろし(寬)へよろこばし。

【嚬嚬】センケン ㊀迂緩なる貌。列子に「墨尿

〔口部〕 嘲嘖嘴嘺嘶嘺嘸嘺嘺嘺

〔口部〕 嘽嘽嘿嘆嘑嘑嘑

自「噫嘘戯危乎高哉」

【噬】セイ、ゼイ。時制切。霽。
㊀かむ(嚙)㊁くらふ(食)㊂ついばむ(啄)㊃およぶ(逮)。

【噬呑】かみのむ。物を爭ひ奪ふ。柳宗元「狐鼠蜂蟻爭噬呑」

【噬嗑】易の卦の名。易經に「噬嗑亨、利レ用レ獄」

【噬臍】ほぞをかむ。甚だしく後悔する義。左傳に「若不ニ早圖、後君噬レ臍」

【噬齧】かむ。(噛齧、齕齧)。埤雅に「食相噬齧、行無レ列、飲無レ順」

【噭】㊀ケウ。古弔切。嘯。
㊁ケキ、キャク。吉歷切。錫。
㊀一よぶ(呼)㊁さけぶ(叫)㊂ほゆ(吼)㊃なく(哭泣)㊄くちく(口)㊅一くらふ(喫に同じ)㊆はげし(激)。

【噭咷】泣きさけぶ。漢書に「望ニ見延壽車一、噭咷楚歌」

【噭然】なく貌。左傳に「噭然而哭」

【噭應】さけびこたふ。禮記に「毋ニ側聽一、毋ニ噭應一」

【噩】ガク。五各切。藥。
㊀おどろく、おどろき(愕に同じ)㊁おごそかなり。

【噩噩】嚴肅なる貌。揚子法言に「周書噩噩爾」

【噪】かまびすし。劉基「沸渭泊靜寂、噪聒亂語談」

【噪聒】サウ、セウ。蘇到切。號。
さわぐ、さわがし(譟に同じ)。

【噮】エン。烏縣切。先。
あまし(甘)。

【噯】アイ。烏蓋切。泰。
いき(氣息)。

【噫】㊀ヨウ、ユウ。於容切。冬。
㊁委勇切。腫。
㊀一なく㊁さへづる(囀に同じ)㊂やはらぐ㊃樂しきこゑ㊄一ふさがる(塞)㊅一むせぶ(咽)。

【噱】キャク、ガク。其虐切。藥。
㊀一わらふ、大いに笑ふ、笑ふこゑ㊁あご、くちあく。

【噲】㊀クワイ、ケ。苦夬切。卦。
㊁ワイ、エ。烏快切。卦。
㊀一クワツ、クワチ。古活切。曷。
㊁一のんど(咽)㊂こころよし(快)㊃する、のむ(飲)㊄むせぶ(咽)㊅やつる(憔悴)。

【噲噲】クワイ。快き貌。又、寬明なる貌。詩經に「噲噲其正、噦噦其冥」

【噓】ゲ、ゴ。五炬切。饜。
㊀多く集る㊁笑ふ貌、わらふ。

【噓噓】ゲ。笑ふ貌。又、多くあつまる貌。詩經に「魴鱮甫甫、麀鹿噓噓」

【噴】㊀ホン。普悶切。願。
㊁フン、ホン。芳問切。問。
㊀一鼻を鼓す㊁しかる(叱)㊂氣を吐く㊃一吹く聲㊄しかる(叱)。

【噴火】火をふき出す。

【噴水】水をはく。又、ふき出づる水。拾遺記に「此魚噴レ水爲レ雷」

【噴雪】涙のとびちる貌。李白「潮似ニ連山一噴レ雪來」

【噴飯】ふきだす。失笑す。魂言に「東坡云、文與可見ニ予詩云ニ料得清貧饞太守、渭川千畝在ニ胸中一、不レ覺失笑、噴レ飯滿レ案」

【噴嚏】しかる貌。韓詩外傳に「瞋レ目扼レ腕、疾言噴嚏」

【噴激】はげしく吹きあぐ。孟郊「谷號相噴激、石怒爭旋迴」

【噴嚏】くさめ。野客叢書に「隨筆曰、今人噴嚏不レ止者、必云ニ有レ人說レ我、按詩邶風、寤言不レ寐、願言則嚏、注、女思ニ我心一則嚏也、今俗人嚏云人道レ我、此古之遺語、余觀ニ類要編鳳篇一、正有ニ此說一」

【噸】〔國字〕はなし。
〔國字〕とん(Ton.)我國の二百七十一貫目に當る。

十四畫

【噬】㊀アイ、エ。乙芥切。卦。
㊁カツ、カチ。許葛切。曷。
㊀アイ。於蓋切。泰。
㊁喝に同じ㊂むせぶ(噎)。

【噩】ヒ。本、語に作る。

【噂】デイ、ネイ。奴丁切。青。
れんごろ(寧に通ず、懇)。
テキ、ヂャク。亨歷切。錫。
こゑ(聲)。

【噌】㊀ラン、ロン。盧啟切。勘。㊁盧甘切。覃。㊂カン、コン。苦濫切。
㊃むさぼりくらふ、食ふ貌㊄一しかる(呵)㊅喊に同じ、こゑ(聲)、こゑを出だす、いふ。

【噇】㊀タイ、テイ。坦亥切。賄。
㊁タイ、ダイ。堂來切。灰。
㊂一やまず㊃いつはり、いつはる(僞)。

【噇】㊀タフ、トフ。託合切。合。
㊁タイ、ダイ。吐內切。霽。
のむ、すする(歠)。

【噳】㊀クワク、ワク。胡伯切。陌。
㊁ワク。屋郭切。藥。
㊀一よぶ(喚)㊁かまびすし、多言なり㊂あ、ああ(痛惜の聲、驚愕の聲)㊃味なし(饐に同じ)。

【噳噴】多言なる貌。史記に「晉鄙噳噴宿將」

【噣】ジュ、ニュ。人朱切。虞。
㊀かまびすし㊁つぐむ。
カウ、ケウ。虛交切。肴。
さけぶ、よぶ、喋に同じ。

【噤】ヒ。匹備切。寘。㊁キ。虛器切。
㊀はないき㊁いき、(圓訓かか)。
㊂タフ、トフ。託合切。合。
㊃タイ、ダイ。吐內切。霽。

【噦】㊀クワク、ワク。胡伯切。陌。
㊁ワク。屋郭切。藥。
㊀一しかる(呵)㊁しかりごゑ。

【噦矢】かぶらや。又、古代の軍陣には、かぶらやを發して、戰爭を始むるを例とせり、故に事の始めをいふ。莊子に「焉知ニ曾史之不爲ニ桀跖嚆矢一也」

【嚇】㊀カク、キャク。許白切。陌。
㊁カ、ケ。呼訝切。禡。
㊀一いかる(怒)㊁しかる(呵)㊂いかりごゑ。㊃わらひごゑ。

【嚇怒】あらあらしくいかる。(赫怒)。

【嚇嚇】笑ふこゑの形容。雪古古診に「正月三日、田公笑嚇嚇」

【噫】チン。烏本切。阮。
㊀ちひさきくち(小口)。

【嚊】㊀ヒ。匹備切。寘。㊁キ。虛器切。
㊂はないき㊃いき、(圓訓かか)。
又、いきす(咽に同じ)。

【嚔】㊀ギョク、ゲキ。魚力切。職。
㊁ギ、キ。偶起切。紙。
㊂さとし(敏)㊃あざむく(紿)㊄くらし㊅笑ふ貌。

【嚏】㊀チウ、ヂュ。除留切。尤。
㊁チウ、チュ。張流切。尤。
㊀たれ(誰)㊁たぶらかす(誑)。

【嚏】㊀セイ、ザイ。才詣切。霽。
㊁カイ、ケイ。居諧切。佳。
㊂セイ。莊皆切。佳。
㊀一なむ(嘗)㊁まつり、まつる(祭)㊂おほくのこゑ㊃笑ふ貌。
衆くのこゑの形容。北征賦に「鵠雞鳴以嚏齊」

【嚏齊】カイ。

【嚏】シン。卽忍切。軫。
いきどほる、いきどほり(憤)。
サフ、ゾフ。從納切。合。
はかる。

十五畫

【嚶】レフ、ロフ。良涉切。葉。
齧むこゑ、又、骨を齧むこゑ。
シツ、シチ。阻瑟切。質。
一聲出づる貌㊁かまびすし。

【嚀】㊀テイ、タイ。丁計切。霽。
㊁チ。陟利切。寘。本、寧に作る。

【嚏】㊀くさめ、くさめす(噴鼻)㊁ささはる。
ロ。篤五切。饜。
一かたる(語)㊂へつらふ(諂)㊃なし(惜)。

【嚕】㊀キフ、コフ。迄及切。緝。
㊁イフ。域及切。緝。

【嚕】㊀衆くの聲㊁嚏に同じ。
ゲキ、ギャク。奇逆切。陌。
一たはむる、たはむれ(戲)㊂わらふ(笑)。

【嚢】㊀ハク、ホク。北角切。覺。
㊁カイ、ケイ。莊皆切。佳。
㊀一いかりごゑ、いかる㊁こゑ(聲)㊂杖を投げおくこゑ㊃かまびすし、さわがし(喧)。

【嚢然】杖を投げおくこゑの形容。莊

【口部】囂嚀嚔嚂嚃嚏嚊嚅嚆嚇嚇嚏嚏嚏

〔口部〕噯噲嚣嚣嚶嚥嚥嚥

【嚨呼】クワン かまびすしくよぶ。皇甫沖「縱横叱咤約嚨呼」

【嚨嚨】クワン かまびすしき貌。荀子に「世俗之溝猶脅儒、嚨嚨然不レ知ニ其所レ非也」

【囀】テン。知戀切。霰。一さへずる、なく(鳥鳴)二ひびき(韻)。

【囁】ゆセフ、ソフ。之涉切。葉。るゼフ、ネフ。而涉切。葉。一ささやく(耳語)二口うごく貌三かまびすし(喧)四ひそかにのののしる。

【囁嚅】セフ ジユ 言ひかけて口をつぐむ。韓愈「口將レ言、而囁嚅」

【囂】ゆケウ。許嬌切。蕭。るガウ、ゴウ。牛刀切。豪。一かまびすし(喧嘩)二さわがし(騷)三わづらはし四おほし(衆)五自得して慾なき貌六一かまびすし二おほし三山の凹みたる處四鳥の名五獸の名。

【囂詛】ケン ガク かまびすし。謝靈運「王子愛ニ清淨一、區中實囂詛」

【囂囂】ガク ガク 一聲かまびすしき貌。詩經に「聽ニ我囂囂」二自得して慾なき貌。孟子に「人知レ之亦囂囂、人不レ知亦囂囂」三うれふる貌。莊子に「自ニ三代一以下者、天下何其囂囂也」

【囃】サフ、ソフ。倉雜切。合。はやし。

十九畫

【囈】ゆテン。丑展切。銑。るテツ、テチ。敕列切。屑。

【囈然】ゼン わらふ、笑ふ貌。わらふ貌。集韻に「囈然笑貌」

【囈】ゲイ、ガイ。倪制切。霽。一たはごと(戲言)二うはごと(譫言)三ねごと(睡語)。

【囈語】ゲイ コイ ねごと。たはごと。拾遺記に「呂蒙囈語通ニ周易一」

【囉】ゆラ。魯何切。歌。る利遮切。麻。ゆ一歌の調を助くるこゑ二ゆるやかにして單純ならざる調のこゑ三小兒の語るかまびすし、多言なり(ゆこゑ(聲)ゆうたい、うたふ(歌)。

【囊】ゲウ、ナウ。奴當切。陽。一ふくろ二ふくろにす三つつむ(括)四ばらふ(攘に同じ)。

【囊中之錐】ナウチユウノ キリヨウ 賢才は隱れ居るも、忽ちに見はるる意。史記に「平原君曰、夫賢士之處レ世、譬若ニ錐之處ニ囊中一、其末立見」

【囊沙之計】ナウシヤノ ハカリゴト 韓信が土囊を以て川の上流を塞ぎ、敵の川を渡らんとするを待ちて、之を決し、一時に水を流して、大に敵兵を破りし計略。史記、淮陰侯傳に見ゆ。

二十畫

【囋】ゆサツ、ザチ。才達切。曷。るサン、ザン。才贊切。翰。ゆサン。千安切。寒。ゆ在坦切。旱。ゆ一つづみのおと二こゑおほしるそしる(譏)ゆ一たすく(贊、讚に同じ)二くらふ(餐に同じ)ゆあさげる、あさけり(嘲)。

【囓】ゆサン、ザン。士咸切。咸。る初銜切。咸。ゆセン、ゾン。慈染切。琰。ゆサン、セン。楚鑒切。陷。ゆ一くちばし(喙)二すする(啜)る人に代りて說くゆ一なむ(嘗)二くらふ(食)ゆ一あぢはふ(味)二なむ。

【囑】ゆガン、ゲン。五銜切。咸。るゲン、ゴン。牛廉切。鹽。ゆゲキ、ギャク。宜戟切。陌。うなる、うめく(呻)。

【囍】カン、ケン。艱の古文字。

二十一畫

【囑】ショク、ゾク。之欲切。沃。一たのむ二いひつく。字彙に「俗に、囑に作る」

【囑付】フショク いひつけ。朱熹「更得ニ南湖新囑付、歸來端的有ニ餘師一」

【囑託】ショクタク たのみまかす。(屬託)。

口部

部首

【口】ゆ圍の古文字。る國の古文字。

二畫

【囘】クワイ、回の本字。エ。

【囗】イン。因の俗字。

【囚】シウ、ジュ。似由切。尤。一とらはれ、とりこ二とらふ、とらはる三めしうど、つみびと四罪を裁判したる辭。

說文に「人、口中に在るに从ふ」

【囚人】シウジン めしうど。とらはれびと。

【囚俘】シウフ とりこ。とらはれ。左傳に「費人執レ之、以爲ニ囚俘一」

【囚徒】シウト めしうど。とらはれびと。

【囚紲】シウセツ とらはれて牢につながる。鄭俠「重負遭ニ囚紲一」

【囚虜】シウリヨ とりこ。とらはれ。

【囚獄】シウゴク ひとや。(牢獄)。

【囚縛】シウバク とらへしばる。李綱「更遇ニ韓彭辱ニ囚縛一」

【囚繫】シウケイ とらはれて牢につながる。易林に「身加ニ檻纜一、囚繫束縛」

【囚】チフ、トフ。得立切。緝。一うごく(動)二図の譌字。

【囚】ゆダフ、ネフ。女洽切。洽。るダフ、ニフ。呢立切。緝。

【四】一とる(奪)二ぬすむ(竊)三かくす(藏)。シ。息利切。寘。一に、肆に作る。一よつ二よたび(四回)三よつて陰の數。(四方)四易にて陰の數。

【四大】シダイ 〔佛〕四大種の略。佛說にいふ四大元素、卽ち、地・水・火・風の稱。釋氏六帖に「四大地水火風、亦名ニ大種一」

【四凶】キヨウ 堯代の四人の惡人、卽ち、共工・驩兜・三苗・鯀の稱。左傳に「舜臣レ堯、流ニ四凶族一」注に「渾敦、窮奇、檮杌、饕餮」

【四天】テン 四時の天。爾雅に「春爲ニ蒼天一、夏爲ニ昊天一、秋爲ニ旻天一、冬爲ニ上天一」

【四支】シ 兩手と兩足と。易經に「君子黃中通レ理、正ニ位居レ體、美在ニ其中一而暢ニ於四支一、發ニ於事業一、美之至也」

【四勿】シフツ 孔子が顏回に敎へたる「非レ禮勿レ視、非レ禮勿レ聽、非レ禮勿レ言、非レ禮勿レ動」といふ戒。朱熹「顏生躬ニ四勿一、曾子日三省」

【四友】シイウ 一雪中に咲く四種の植物、卽ち、玉梅・臘梅・水仙・山茶花の稱。二四種の文房具、卽ち、筆・墨・紙・硯の稱。

【四井】セイ 井田を四つ合せたるもの、卽ち、邑の稱。周禮に「四井爲レ邑」

【四方】シハウ 東西南北。よすみ。漢高帝「安得ニ猛士一兮、守ニ四方一」

【四令】レイ 坐・作・進・退の四つの稱、古代の兵法の語。

【四代】ダイ 虞舜と三代の世とを併せたる稱。禮記に「記曰、三王四代唯其師、其此之謂乎」

【四生】シヤウ 〔佛〕胎生・卵生・濕生・化生の稱。法苑珠林に「此方他方、四生慈父」

【四民】ミン 士・農・工・商の稱。書經に「司空掌ニ邦土一、居ニ四民一、時ニ地利一」

【四夷】イ 四種のえびす。禮記には、東夷・西戎・南蠻・北狄とし、爾雅には、九夷・八狄・七戎・六蠻とせり。孟子に「蒞ニ中國一而撫ニ四夷一也」

【四仲】チユウ 仲春・仲夏・仲秋・仲冬の稱。

【四行】カウ 一女のたしなむべき四つのおこなひ、卽ち、婦德・婦言・婦容・婦功の稱。曹大家の女誡に見ゆ。二人の行ふべき四つの道、卽ち、孝・悌・忠・信の稱。

【四向】カウ 東・西・南・北の稱。

【四更】カウ 午前二時。(丁夜)。伏知道「四更星渓低」

【四序】ジヨ 春夏秋冬の順序。王勃「春秋冬夏、雜ニ四序之炎涼一」

【四牡】ボク 四頭のをうま、卽ち、普通の馬車に駕する馬。詩經に「四牡騤騤」

【四戒】カイ 儆は長すべからず、欲は縱にすべからず、志は滿たすべからず、樂は

極むべからずといふ四つのいましめ。禮記に見ゆ。

【四阿】あづまや。周禮に「殷人四阿重屋」注に「若ニ今四柱屋一」

【四表】四方のそと。書經に「光ニ被四表一、格ニ于上下一」

【四孟】孟春・孟夏・孟秋・孟冬の稱。

【四肢】兩手と兩足と。轉じて、身體の總稱。荀子に「如ニ四肢之從一心」

【四空】おほぞら。〔太空〕。徐孝克「上宰明ニ四空一」

【四易】易の四つの種類。小學紺珠に「四易、有ニ天地自然之易一、有ニ伏羲之易一、有ニ文王周公之易一、有ニ孔子之易一」

【四知】後漢の楊震、東萊の太守となりて郡に之く途中、昌邑を經しが、故舉げし荊州の茂才王密謁見し、夜に至りて金十斤を震に遺る、震曰く、故人君を知る、君故人を知らざるは何ぞやと、密曰く、暮夜知る者なしと、震曰く、天知る、神知る、我知る、子知る、何ぞ知るものなしと謂はんと、密愧ぢて出づ云云。王融「幽墻雖ニ兩密一、幽夜有ニ四知一」

【四岳】堯代の官名。書經に「帝曰、咨ニ四岳一」

【四計】人の一生における四つの計畫。月令廣義に「一日之計在レ晨、一年之計在レ春、一生之計在レ勤、一家之計在レ和、一身之計在レ勤」顏子・曾子・子思・孟子の稱。

【四侑】

【四始】正月元日をいふ。史記、注に「四始謂ニ正月旦一、歲之始、時之始、日之始、月之始」

【四季】春・夏・秋・冬の稱。張蠙「四季多ニ花木一、窮冬亦不レ凋」

【四郊】都城外の四方の野。禮記に「四郊多レ壘」

【四則】〔敵〕加・減・乘・除の四法。

【四音】喉音・脣音・頭音・舌音の稱。

【四苦】〔佛〕生・老・病・死の四つのくるしみ。法華經科註に「生老病死、四苦也」

【四神】天の四方の星の象、即ち、青龍(東)・朱雀(南)・玄武(北)・白虎(西)の稱。

【四荒】四方の國のはて。漢書に「四荒鄉レ風、百姓素朴」

【四姦】聲・昧・頑・嚚の稱。左傳に「耳不レ聽ニ五聲之和一、爲レ聾、目不レ別ニ五色之章一、爲レ昧、心不レ則ニ德義之經一、爲レ頑、口不レ道ニ忠信之言一、爲レ嚚、狄皆則レ之、四姦具矣」

【四美】良辰・美景・賞心・樂事の稱。王勃「四美具、二難并」

【四書】大學・中庸・論語・孟子の四種の書籍の稱。

【四恩】〔佛〕天地の恩・國王の恩・父母の恩・衆生の恩の稱。又、國王の恩・父母の恩・師友の恩・檀越の恩の稱。自誓三昧經に「宿習六度四等四恩、四禪行五神通善權隨等」

【四旁】前後左右の稱。又、東西南北の稱。黃溍「青山環ニ四旁一」

【四時】春夏秋冬の稱。易經に「與ニ四時一合ニ其序一」

【四庫】玄宗、兩都に各、書四部を聚め、皆甲乙丙丁を以て號となさしめ、經史子集の四庫を次列す云云。唐書に見ゆ。清の乾隆三十七年、宗室永瑢等敕を奉じて、四庫全書總目を撰定せり。

【四配】孔廟に配する四人、即ち、顏子(右)・子思(右)・曾子(左)・孟子(左)の稱。

【四海】㊀四方のうみ。禮記に「溥レ之而橫ニ乎四海一」㊁天下。世界。書經に「聲敎訖ニ于四海一」㊂四方のえびす。博物志に「七戎六蠻九夷八狄、形類不同、總而言レ之、謂ニ之四海一、言ニ皆近ニ于海一也」

【四隆】國の四方のはて。

【四野】四方ののはら。阮籍「登レ高臨ニ四野一」

【四隅】よすみ。淮南子に「經ニ營四隅一、還反ニ於樞一」

【四書】㊀詩・書・禮・樂の四つのをしへ。禮記に「樂正崇ニ四術一、立ニ四敎一」㊁文・行・忠・信の四つのをしへ。論語に「子以レ四敎、文行忠信」

【四象】易の語、老陽・少陽・老陰・少陰の稱。易經に「兩儀生ニ四象一」

【四皓】漢の高祖の時、商山に隱れし四人の老人、即ち、東園公・綺里季・夏黃公・甪里先生の稱、この四人は皆鬚眉白かりしが故に皓といふ。

【四達】四方にとどく。禮記に「四達而不レ悖」

【四裔】四方の遠きはて。左傳に「投ニ諸四裔一、以禦ニ螭魅一」

【四園】よもかたむ。又、まはり。程子「春入ニ遙山一、碧四園」

【四傑】唐初に文章に秀でたる王勃・楊炯・盧昭隣・駱賓王の稱。

【四境】四方のさかひ。孟子に「四境之內不レ治、則如レ之何」

【四輔】左輔・右弼・前疑・後丞の稱。漢書に「入稱ニ四輔一、出備ニ三公一」

【四極】四方のはて。史記に「皇帝之德、存定ニ四極一」

【四鄙】四方のゐなか。張華「囂聲振ニ四鄙一」

【四維】㊀四つのおほづな、即ち、禮・義・廉・恥の稱。管子に「四維不レ張、國乃滅亡」㊁四すみ、即ち、乾(西北)・坤(西南)・艮(東北)・巽(東南)の稱。

【四端】仁・義・禮・智のこゝろ。孟子に「惻隱之心、仁之端也、羞惡之心、義之端也、恭敬之心、禮之端也、是非之心、智之端也、人之有ニ是四端一也、猶ニ其有ニ四體一也」

【四德】㊀元・亨・利・貞の稱。易經、傳に「元亨利貞、謂ニ之四德一」㊁婦人の四つの德、即ち、言(辭令)・容(婉娩)・德(貞順)・功(絲麻)の稱。禮記に見ゆ。

【四畿】四方のくにざかひ。周禮に「野掌ニ達ニ國道路一、至ニ于四畿一」

【四廟】高祖・曾祖・祖・父のたまや。禮記に「以ニ其祖配レ之、而立ニ四廟一」

【四籩】四種のいましめ、即ち、視・聽・言・動の稱。

【四監】山・澤・林・川の事を掌る官名。禮記に「季夏之月、命ニ四監一、大合ニ百縣之秩一」

【四鄰】四方のとなり。又、四方相鄰りせる國。左傳に「諸侯守在ニ四鄰一」

【四器】規(圓を作る器)・矩(方を作る器)・繩(直を作る器)・準(平を作る器)の稱。

【四諦】〔佛〕苦(生老病の數)・集(骨肉財物を聚集す)・滅(寂滅止息)・道(道を懷ひて修行す)の稱。大藏法數に「四諦者、諦即審實之義、謂聲聞之人用ニ析空觀一、諦ニ審苦集滅道之法一、一一不レ虛、是名ニ藏敎生滅四諦一」

【四聲】漢字の音による四種の別、即ち、平聲・上聲・去聲・入聲の稱。

【四邊】あたり。又、四方のさかひ。張詠「官舍四邊多種レ竹」

【四瀆】四つの大河、即ち、江水・河水・淮水・濟水の稱。郭璞に「江淮河濟爲ニ四瀆一」

【四禮】冠・婚・喪・祭の稱。文中子に見ゆ。

【四鎭】㊀四ヶ所の藩鎭。杜甫「四鎭宮ニ精銳一」㊁四方の大山、即ち、會稽・沂山・醫無閭・霍山の稱。舊唐書に「五嶽、四鎭、四瀆、四海、皆從祀」

【四藝】琴・碁・書・畫のわざの稱。

【四寶】筆・墨・紙・硯の稱。

【四獸】四方の星宿の形を動物に擬して名づけたるもの、即ち、朱鳥・玄武・青龍・白虎の稱。禮記に見ゆ。

【四顧】㊀よもを見まはす。韓愈「夫鳥俛而啄、仰而四顧」㊁四方。あちらこちら。古詩に「四顧何茫茫」

【四體】兩手と兩足と。からだ。論語に「四體不レ勤、五穀不レ分、孰爲ニ夫子一」

【四靈】四つの神靈なるけもの。禮記に「麟鳳龜龍、謂ニ之四靈一」

【四天王】〔佛〕帝釋の外臣、東西南北を守るもの。法華文句に「四天王者、帝釋外臣如ニ武將一也」

【四六文】四字六字の句より成れる文章、即ち、四六駢儷の文。十駕齋養新錄に「駢儷之文、宋人或謂ニ之四六一」

【四方竹】〔植〕幹の四角なるたけ。

【四方志】諸國を征伐して功名を立てんとする志。魏志、荀攸傳に「天下方有レ事、而劉表坐保二江漢之間一、其無二四方之志一可レ知」

【四君子】蘭・菊・梅・竹の稱。

【四杖制】五十は家に杖つく、六十は鄉に杖つく、七十は國に杖つく、八十は朝に杖つく。禮記に見ゆ。

【四門學】天子の宮門に設けたる學校。周代には四方の郊に設けしが、通學の不便なるを以て四門に設くるに至れり。唐書に「有二文辭史學一考、入二四門學一、爲二後士一」

【四威儀】〔佛〕行・住・坐・臥の四つの稱。釋氏要覽に「經律中皆以二行住坐臥一、名二四威儀一、其他動止皆四所攝」

【四鳥別】四羽の鳥がその母に別るるといふ故事にて、母子相別るるにいふ。孔子家語に「桓山之鳥、生二四子一焉、羽翼既成、將レ分二于四海一、其母悲鳴而送レ之」

【四海主】天子をいふ。宋史に「陛下爲二四海之主一、當二以レ致レ治爲レ念」

【四等親】第四等にあたる親族、即ち、高祖父・高祖母・從祖父姑（祖父の兄弟）・從祖伯叔父姑（祖父の兄弟の子）・夫の兄弟姉妹・兄弟の妻妾・再從兄弟姉妹・外祖父・外祖母・舅（母の兄弟）・姨（母の姉妹）・兄弟姉妹の孫・從父兄弟の子・外甥・外姪・曾孫・孫妻をいふ。

【四方みな山河に塞がれて要害のよきくに】戰國策に「齊南有二太山一、東有二瑯琊一、西有二清河一、北有二渤海一、此所レ謂四塞之國也」

【四窮民】鰥寡孤獨のあはれむべき民。孟子に「老而無レ妻曰レ鰥、老而無夫曰レ寡、幼而無父曰レ孤、老而無子曰レ獨、此四者天下之窮民、而無二告者一」

【四韻詩】律詩をいふ。律詩は韻を押すところ四所あればなり。韓愈「留守相公、首爲二四韻之詩一、歌二其事一」

【四大奇書】明代小說の最もすぐれたるもの四種。即ち、水滸傳・三國演義・西遊記・金瓶梅の稱。

【四分五裂】ちりぢりにさけばなる。秩序なく亂る。戰國策に「張儀曰、魏南與レ楚而不レ與レ齊、則齊攻二其東一、東與レ齊而不レ與レ趙、則趙攻二其北一、不レ合二於韓一、則韓攻二其西一、不レ親二于楚一、則楚攻二其南一、此所レ謂四分五裂之道也」

【四百四病】四百四種のやまひ。千金方に「凡四氣合レ德、四神安和、一氣不レ調、百病一生、四神動作、四百四病、同時俱發」

【四百餘州】支那全國の稱。圖書編に「裁二省天下四百餘州縣官一」

【四門博士】唐代に國子學、即ち、大學校の學生に業を授けし官名。唐六典に「四門官、博士三人、掌レ教二武官文七品以上、及侯伯子男之子爲二學生一者、若庶人之子爲二後士生一者」

【四面楚歌】四方みな敵に圍まれたるをいふ。史記に「項王軍壁二垓下一、兵少食盡、漢軍及諸侯兵、圍レ之數重、夜聞二漢軍四面皆楚歌一、項王乃大驚曰、漢皆已得レ楚乎、是何楚人多也」

【四海兄弟】互に道を以て交れば、天下の人は、皆兄弟の如しといふ義。論語に「四海之內、皆兄弟也」

【四通八達】道の諸方に通ずる便利の土地。子華子に「齊之爲レ國也、其塗所レ出、四通八達、遊士之所レ湊也」

【四種三密】四種は、摩訶・三昧耶・達磨・羯磨、三密は、身・口・意の三つに祕密神妙の悟あるをいふ。

【四七之際火爲レ主】四七は二十八なり、前漢の高祖より後漢の光武に至るまで二百二十八年なり、即ち、四七之際なり、漢は火德、故に火を主とす。後漢書、光武紀に「同舍生彊華自關中一奉二赤伏符一曰、劉秀發レ兵捕二不道一、四夷雲集、龍鬬レ野、四七之際火爲レ主」

【四時之序成レ功者去】人の功成り名遂ぐれば、退くべきに喩ふ。史記に「蔡澤曰、吁、君何見之晚也、夫四時之序、成レ功者去」

三畫

【囝】ケン。九件切。銑。一ちご。二月に同じ、唐の則天武后の作。

【回】㊀クワイ、エ。戶恢切。灰。㊁胡隊切。隊。

り、めぐり（周圍）二めぐる、めぐらす三かへす、かへる四よこしま（邪曲）五ひがむ（僻）六かがむ（屈）七たがふ（違）八たび（度數）九一めぐり二さく（避）。

【回天】君主の心を挽き回す。國勢を挽回す。事類全書に「張玄素諫二太宗修二洛陽宮一、魏徵歎曰、張公論レ事、有二回天之力一、可レ謂二仁人之言一、其利博一哉」

【回毛】つむじ。爾雅に「回毛在レ膺」

【回生】よみがへる。（蘇生）。

【回回】一光明ある貌。張衡「叅回回其揚靈」二聲の形容。關尹子に「人之善レ琴者有二怨心一、則聲回回然」

【回向】〔佛〕己が功德を他にめぐらし向はしむ。即ち、讀經、念佛によりて亡者の冥福を祈る。止觀に「回二衆善一向二菩提一」

【回收】とりもどす。

【回顧】かへりみていむ。（還忌、顧忌）。唐書に「上言無二回忌一、公議浩然歸レ重」

【回紇】めぐりまはる。沈約「桂舟既容與、綠浦復回紇」

【回看】ふりかへりてみる。王維「回看射レ鵰處、千里暮雲平」

【回航】諸方をへめぐる航海。

【回移】めぐりうつる。張衡「精魂回移」

【回廊】ながくめぐれる廊下。沈與求「回廊迤邐穿二危嶠一」

【回復】とりかへす。陶潛「回復遂無レ窮」

【回翔】とびまはる。傳休奕「雙魚自踴躍、兩鳥時回翔」

【回想】昔のことをおもひまはす。

【回祿】火の神。轉じて、火災にいふ。左傳に「子產禳二火于玄冥回祿一」

【回漕】貨物を舟にて運びおくる。

【回撓】まげ屈す。曾肇「直筆正繩、無附二回撓一」

【回曆】こよみのひとめぐりする義、新年になるをいふ。

【回避】よけさく。（避回）。漢書に「或隱居以求二其志一、或回避以全二其道一」

【回轉】まはる。まはす。

【回蹕】天子の御かへり。行營雜錄に「急回レ蹕見レ之」

【回欄】なりまがれるてすり。揭傒斯「蓬萊宮闕赤回欄」

【回繚】めぐりまとふ。魏都賦に「山林幽映、川澤回繚」

【回鶻】四域の部落の名。唐書に「建中元年、請易二回紇一、曰二回鶻一」

【回顧】ふりかへり見る。追想す。

【回回蒜】〔植〕きつねのぼたんの異名。

【囮】㊀シン。息晉切。震。㊁シ。息利切。寘。㊂なぞり、ひよめき。頭會の腦蓋、頂門。

【因】一イン。伊眞切。眞。二よる（仍、襲）三ちなむ、ちなみに（因緣）四ゆかり、つて（緣）五たより（便宜）六よりて、もと（理由）七姻に通ず。

【因子】〔數〕二つ或は多くの數を順序に乘じて得たる積の、その各數を因子といふ。又、因數ともいふ。

【因明】印度に起りし論理學。大論に「因明者二定正邪一、研二覈眞僞一」

【因果】一〔佛〕因緣と果報と。又、前の因緣より生ずる今の果報、今の因緣より生ずる後の果報をいふ。華嚴經に「擧レ果知レ因、譬如二蓮花方一、其吐レ花、而果具中レ蓮」二〔哲〕Causality. 原因と結果と。

【因依】互にたよりあふ愧。王昌齡「寒猿相因依」

【因循】舊習を守りて遷らず。ぐづぐづす。漢書に「漢因循、而不レ革」

【因業】〔佛〕因緣となる惡事。劉禹錫

〔口部〕 囚圄困囷囤囹圉囿圃圄圉圃圄圉圃圄圉

【圂】㊀コン、コン。胡困切。願。㊁クワン、ゲン。胡慣切。諫。㊂かはや(厠)㊃ゐのこ(豢に同じ)。

【圄】ギョ、ゴ。魚呂切。語。㊀とどむ(止)㊁ふせぐ(禦)㊂さとらしむ(悟)㊃ひとや(獄)。

【圇倒】レイ ひとや。(圇圇)。北齊書に「階庭簡靜、圇倒空虛」

【圇】カン、コン。戶感切。感。㊀おとがひ(口下)㊁函の本字。

八畫

【圈】㊀ケン、クヮン。逵眷切。霰。㊁ケン、コン。去遠切。阮。㊀ケン。なり(檻)㊁ひとや(牢)㊂さかづき(巻に同じ)㊃なり、ひとや㊄めぐる(轉)。

【圈牢】ケン ラウ 獸をいれおくなり。曹植「此徒圈牢之養物、非臣之志也」

【圈套】ケン タウ 鳥けものを捕るわな。

【圈發】ケン パツ 漢字の四聲を示す爲め、その字の一隅に附する點をいふ。平聲は左下隅、上聲は左上隅、去聲は右上隅、入聲は右下隅。(點發)。

【圈點】ケン チン 詩文などの妙所、要所をしめすために、その傍にうつ圓き點。

【圈檻】ケン カン なり。ひとや。淮南子に「養虎豹犀象者、爲之圈檻」

【圇】㊀ウ、ナウ。烏宏切。庚。むなし(空)。㊁ギョ、ゴ。魚巨切。語。㊂魚據切。御。㊃㊄うまかひ㊅うまや(廐)、まき(牧)㊆ほとどむ(止)、ふせぐ(捍)㊇困みて舒びざる貌㊈樂器の名(敔に同じ)㊉とどむ。

【圇人】ジン 馬をかふことを掌る官。周禮に「圇人掌養馬芻牧之事」

【圇師】シヨ うまかひ。周禮に「掌養馬芻牧之事、以役圇師」

【圇圇】ギヨギヨ かがみて舒びざる貌。孟子に「姑舍之圇圇焉、少則洋洋焉」

【圇絆】ハンヨ とちこめらる。蘇軾「剖胎殺無罪、親族遭圇絆」

【圇】カウ、ゴウ。曷閤切。合。あふ、あはす(部に同じ、會合)。

【圇廁】セイ シヤウ。七情切。庚。㊀かはや(廁)㊁まじる(雜)。

【圇溷】コン 前に同じ。蜀志、注に「營壘井竈圇溷」

【國】コク、カク。古或切。職。くに(邦)。

【國力】リヨク くにの勢。くにの富。唐書に「度支多遷延、以困國力」

【國子】シク 公卿大夫の子弟。周禮に「以三德教國子」

【國士】コク シ 國中にて勝れたる士。左傳に「不足以害吳、而多殺國士、不如已也」

【國土】コク ド くに。阮籍「國土嘉祥、魏魏如此」

【國手】コク シユ 名高き醫者。國語に「晉平公有疾、秦景公使醫和視之、趙文子曰、醫及國家乎、對曰、上醫醫國、其次救人、固醫官也」

【國用】コク ヨウ くにのつひえ。禮記に「冢宰制國用、必于歲之杪」

【國民】コク ミン たみ。人民。

【國光】コク クワウ くにの威光。易經に「四六觀國之光、利用賓于王」

【國成】コク セイ くにののり。詩經に「誰秉國成、不自爲政」

【國良】コク リヤウ 國中にて善良なる士。(邦良)。張九齡「偃擇軍佐、敷求國良」

【國志】コク シ くにのれきし。晉書に「常覽國志、考其君臣」

【國老】コク ラウ 卿太夫の致仕せるもの。禮記に「有虞氏養國老于上庠」

【國色】コク ショク ㊀國中の美貌。左傳に「驪姬者國色也」㊁(植)牡丹の異名。王建「國色朝酣酒、天香夜染衣」

【國交】コク カウ 國と國とのまじはり。史記に「重幣輕使、秦楚之間將爲國交也」

【國均】コク キン 事の輕重なはかりて平かにす。國政又は國權の義にいふ。詩經に「尹氏大師、秉國之均」

【國君】コク クン 一國のきみ。禮記に「士見于國君」

【國利】リコク 國家の利益。孫子に「夫兵久而國利者、未之有也」

【國帑】コク ド 帑は貨幣を藏する處にて、一國の財寶を納めおく府庫。轉じて、國の財寶をいふ。

【國狀】コク ジヤウ くにのありさま。

【國命】コク メイ くにのまつりごと。論語に「陪臣執國命」

【國步】コク ホ 國家の運命。隋書に「神明降祺、國步維寧」

【國事】コク ジ くにのまつりごと。史記に「入則與王圖議國事」

【國法】コク ハフ 國家を統治する根本の法則。周禮に「凡民同貢財者、以國法行之」

【國風】コク フウ くにのならはし。又、國國に生じたる固有の歌謠。くにぶり。張九齡「陳詩問國風」

【國紀】コク キ 國家のきまり。のり。後漢書に「善人、國之紀也」

【國威】コク イ くにの威光。後漢書に「宣明國威、而兵隨其後」

【國庠】コク シヤウ 國都にある學校。唐會要に「豈有國庠、遂無圖繪」

【國柄】コク ヘイ 國土人民を支配する權力。後漢書に「王莽專操國柄、以偷天下」

【國是】コク ゼ 輿論の是とする國政の方針。新序に「君臣不合、國是無逗定矣」

【國俗】コク ゾク くにのならはし。孟子に「華周杞梁之妻、善哭其夫、而變國俗」

【國相】コク シヤウ 政治を輔佐する人。岑參「攝政朝章重、持衡國相崇」

【國皇】コク クワウ 星の名。史記に「國皇星、大而赤、狀類南極」

【國香】コク カウ すぐれたる香氣。轉じて、蘭の異名。左傳に「以蘭有國香、人服媚之如是」

【國界】コク カイ くにざかひ。漢書に「廼定國界、上計簿、更定圖」

【國恩】コク オン 國家のめぐみ。郭鈺「短策猶期報國恩」

【國庫】コク コ 國家の收入支出をなす本源、卽ち、國家の財產を集めて統一する所。

【國學】コク ガク くにのはち。

【國叟】コク ソウ 一國中の德高き老人。東京賦に「執鸞刀、以祖割、奉觴豆于國叟」

【國家】コク カ 一定の土地に於て統治組織を有せる人類の社會。又、統治權の主體。書經に「其惟吉士、用勸相我國家」

【國脈】コク ミヤク 國家の繼續するすぢみち。潛夫論に「是以身常安、而國脈永」

【國基】コク キ 國家を維持するもとゐ。左傳に「仲尼謂子產、於是行也、是以爲國基矣」

【國務】コク ム 國家に關するつとめ。政治。梁武帝「獄訟稽簡、國務少閑」

【國教】コク キヤウ その國にて國民の信奉すべきものと定めたるをしへ。孟郊「海澤國教異、天聲冬冷冷」

【國鈞】コク キン 國家の樞機。白居易「爲問三丞相、如何秉國鈞」

【國朝】コク チヤウ 當代の朝廷。(聖朝、昌朝)。舊唐書に「高祖神堯皇帝、國朝首祚」

【國華】コク クワ くにのひかり。國語に「季文子曰、吾聞以德榮爲國華」

【國卿】コク ケイ 國政をとる高官。左傳に「國卿、君之貳也」

【國壻】コク セイ 天子の公主を娶りたる者。宣和畫譜に「家世貴顯、又身爲國壻」

【國甥】コク サウ 前に同じ。魏書に「庫仁以國甥、恃寵、悪而逆擊章」

【國賊】コク ゾク 國家にあだをなすもの。尉繚子に「將自千人以上、有戰而北、守而降、離地逃衆、命曰國賊」

【國號】コク ガウ 國の名稱。詩經、譜に「自契至湯、雖則八遷、而國號不改」

【國嗣】コク シ 君主のよつぎ。後漢書に「哀平短祚、國嗣三絕」

【國瑞】コク ズイ くにのめでたきしるし。舒元輿鄂政記に「公德如麟雲、景星所出、必爲國瑞」

【國語】コク ゴ 國國の固有のことば。

【國綱】コク カウ 國家を治むるおほづな。晉書

に「覽二其大一當ヨ以總二國綱一」

【國境】コクキヤウ くにざかひ。蜀志に「折二衝外禦一、鎮二保國境一」

【國際】コクサイ 國と國とのつきあひ。

【國維】コクヰ 國家を成立するおほづな。論衡に「司空殷肱、國維轉毀」

【國瘍】コクヤウ 國事に殉死せしもの。原九歌、注に「孟郊有レ弔二國瘍一詩ェ」

【國器】コクキ 治國の才あるもの。漢書に「惟天子以爲二國器一」

【國憲】コクケン 國のおきて。國家の根本の法規。隋書に「朝章國憲、多レ所二參定一」

【國儲】コクチヨ 君主のよつぎ。(皇儲)。漢書に「太子國儲副君」

【國難】コクナン くにのわざはひ。魏志に「昔者董卓、初興二國難一」

【國寶】コクハウ くにのたからもの。左傳に「仁レ親善レ隣、國之寶也」

【國鎭】コクチン 國家のしづめ。徐彦伯「大信天下寶、維賢國之鎭」

【國璽】コクジ 國家を表章する印章。

【國體】コクタイ くにの成りたち。くにがら。漢書に「儒林之官、四海淵源、宜レ皆明二於古今一、溫レ故知レ新、通ル達國體ェ故謂二之博士一」

【國權】コクケン 國政の威力。漢書に「襄公時、天下諸侯之大夫皆執二國權一」

【國蠹】コクト 國家に害毒を流すもの。白居易「誓レ心除二國蠹一」

【國士分】コクシノブン 國家の立派なる人としての分際。江淹「竊感二孫讓國士之分一」

【國士恩】コクシオン 國家の立派なる人として受けし恩。魏徵「深懷二國士恩一」

【國子學】コクシガク 天子の都城内に置き、貴族及び俊秀の子弟を教育する所。唐代に始めて置く。唐書に「願二入學一者、附二國子學一讀レ書」

【國之爪牙】クニノサウガ 驍勇なる武臣をいふ。班固「爪牙信布、腹心良平」

【國家柱石】コクカノチユウセキ 國家の重任を負ふ相將をいふ。漢書に「內行爲有二威重一、位歷二將相一、國家柱石臣也」

【國粹保存】コクスヰホゾン その國固有の美點長所を保存するをいふ。

【國破山河在】クニヤブレテサンカアリ 國は亡びたるに自然の山河のみは依然あり。杜甫「國破山河在、城春草木深」

【國亂則思二良相一】クニミダルレバサクシニリヤウシヤウヲオモフ 國家亂れては良相ありたしと思ふ。史記に「家貧則思二良妻一、國亂則思二良相一」

【國家有二忠臣一】コクカニチユウシンアリ 國家のみだれたる時に、忠臣の眞價始めてあらはるる義。老子に「六親不レ和有二孝慈一、國家昏亂有二忠臣一」

九畫

【圄】アツ、エチ。乙轄切。點。駝駝の鳴きごゑ。

【圍】ヰ。羽非切。徽。

(一)かこむ、かこふ、かこまる (二)かこひ (三)かこみ (四)めぐる(繞) (五)まもる、まもり(衛に同じ) (六)五寸のまるさ、一說に、ひとかかへ。

【圍木】ヰボク 兩手にてかかふるほどの大木。陶潛「園木空自凋」

【圍碁】ゴ ごをうつ。又、その技。韓愈「圍碁鬬二白黑一」

【圍擁】ヰヨウ めぐりかこむ。(屏擁)。劉克莊「浴罷六宮競圍擁」

【圍環】ヰクワン かこみめぐる。

【圍繞】ヰゼウ 前に同じ。張說「衆山皆圍繞」

十畫

【團】フ、ボ。符遇切。遇。圃の俗字。

エン、チン。羽元切。元。

(一)その (二)そののかき(樊) (三)みささぎ(帝陵)。

【園丁】エンテイ にはつくり。(槃駝)。陸游「園丁刈二霜稻一、村女賣二秋菜一」

【園池】エンチ そのといけと。又、そのの中のいけ。陸游「山家隨レ分有二園池一」

【園苑】エンエン その。庾信「園苑足二芳菲一」

【園圃】エンホ 前に同じ。洛陽名園記に「洛人云、園圃之勝不レ能二相兼一者六」

【園寢】エンシン おたまや。後漢書に「漢諸陵皆有二園寢一、承二秦所レ爲也」

【圍奏】ヰソウ 植木・果實等を栽培する技。

【員】

(一)エン、チン。王權切。先。(二)ウン。王問切。問。(三)圓に同じ。(一)まろし、まろし、まどか(圓)(二)まろくす、まろむ (三)めぐる、めぐり(員に同じ、周)(四)たまご(卵に同じ)。

【員月】ゲツ まどかなるつき。李洞「一年十二度圓月、十一回圓不レ在レ家」

【圓心】シン (數)圓形の中心。圓周の各點より同一距離に在る一つの點をいふ。

【圓丘】キエウ まろきをか。祭天の壇をいふ。禮記に「祀二天圓丘一、祀二地方丘一」

【圓坐】ザ まどゐ。くるまざにすわる。晉書に「大盆盛レ酒、圓坐相向」

【圓周】シウ (數)圓形の周圍。或一點より同一距離にある點の續きをいふ。

【圓活】クワツ なだらかに滯なし。類書纂要に「圓活不二拘執一也」

【圓盾】ジユン まろきかたちのたて。唐書に「又以二圓盾一傅レ肩、可レ捍二矢刃一」

【圓缺】ケツ まろきとかけたると。蘇軾「人有二悲歡離合一、月有二陰晴圓缺一」

【圓寂】ジヤク (佛)(一)德の缺くる所なく、少しも障礙なきをいふ。李白「焚二蕩淫怒癡一、圓寂了見レ佛」(二)僧侶の死をいふ。

【圓夢】ムン ゆめの吉凶を判ず。正字通に「占レ夢以決二吉凶一、曰二圓夢一」

【圓笠】リフ まろきかさ。儲光羲「圓笠覆二我首一」

【圓罔】ヰン まろがたの魚あみ。

【圓頂】チヤウ まろきあたま。又、薙髮せる僧にもいふ。蘇廼「圓頂圓二松石一」

【圓滑】クワツ 物事おだやかにしてかどだたず。蘇軾「鴟夷讓二圓滑一」

【圓圓】エン まろき貌。徐陵「明月圓圓似二班姬之扇一」

【圓滿】マン みちわたる。又、缺けたる所なし。隋煬帝入朝遺使參書に「功德圓滿、便致二荊巫一」

【圓熟】ジユク おだやかにして角だたず。上手にして慣る。圓繪寶鑑に「古人筆法圓熟、用意精到」

【圓影】エイ 月の異名。曹植「圓影光未レ滿、衆星燦以繁」

【圓融】ユウ (一)ひろくほどこす。長編に「公家之費、敷二於民間一者、謂二之圓融一」(二)なだらかにして滯なし。符載「靈以レ靜生、境因レ圓融」

【圓頭】トウ まろくめぐる。滯なし。晉書、王述傳に「述性急爲レ累、嘗食二雞子一、以筯刺レ之、不レ得、便大怒擲レ地、雞子圓轉不レ止、便下レ床以二屐齒一踏レ之」

【圓轉】チエン まろきあたま。南史に「方趾圓顱萬不レ遺レ一」

【圓顱】ロン まろきあたま。

【圓夢】ムン 苦學して寢を忘るる「占レ夢以決二吉凶一、曰二圓夢一」

【圓木警枕】ケイボクエンチン にいふ。宋の司馬光、まろき木にて枕を作り、まどろんとすれば、忽ち枕まろびて覺め、又、起きて書を讀むを常としきといふ。書言故事に見ゆ。

【圓孔方木】エンコウハウボク 相合はざる貌。又、無益なることにいふ。傳燈錄に「若將二有限心識一作二無限中用一、如レ將二方木一逗二圓孔一」

【圓頭方足】エントウホウソク まろきあたま、四角なるあし。人間をいふ。(方趾圓顱)。淮南子に「頭之圓也象レ天、足之方也象レ地」

【圓鑿方枘】エンサクホウゼイ まろき穴に入るるに四角なる栓を以てす、相いはざるにいふ。史記に「持二方枘一欲レ內二圓鑿一、其能入乎」

十一畫

【圖】(一)アフ、エフ。烏洽切。洽。(二)アフ、オフ。烏合切。合。聲下き貌。

十二畫

【圖】ト、ヅ。同都切。虞。

(一)はかる(謀、度、計) (二)はかりごと(謀策) (三)土地の形狀を描きたるもの (四)ゑ(繪)(五)ゑがく(畫) (六)國土。

【圖工】トコウ ゑかき。(畫工)。淮南子に「夫圖工好レ畫二鬼魅一、而憎二圖一狗馬一」

【圖民】トミン 民を統治せんことをはかる。國語に「夫苟中心圖レ民、智雖レ不レ及、必將レ至焉」

【圖書】トショ (一)繪圖と書物と。王維「松菊荒三徑、圖書共二五車一」(二)河圖洛書の

略。易經に「河出レ圖、洛出レ書、聖人則レ之」

【圖章】トシャウ 印章をいふ。行厨集に「印章曰ニ圖章一」

【圖畫】グワ ゑがく。又、圖と畫と。漢書に「詔圖ニ畫于甘泉宮一」

【圖解】カイ 繪圖をそへて説明す。

【圖樣】ヤウ ゑづのかた。北史に「爲ニ明堂圖樣一、奏レ之」

【圖繪】エ ゑがく。又、圖と繪と。宣和畫譜に「周昉生平圖繪甚多」

【圖籍】セキ 土地の圖面と人民金穀の籍と。史記に「據ニ九鼎一、按ニ圖籍一、挾ニ天子一以令ニ于天下一」

【圖讖】シン 未來の豫言を記したる書。後漢書に「宣ニ布圖讖於天下一」

【圖南鵬翼】トナンノホウヨク 偉業を成さんとするくはだて。莊子に「有レ鳥焉、其名爲レ鵬、背若ニ泰山一、翼若ニ垂天之雲一、摶ニ扶搖一、羊角而上者九萬里、絶ニ雲氣一、負ニ青天一、然後圖南、且適ニ南冥一也」

【圖】 ツ。圖の俗字。

【團】

㊀タン、ダン。度官切。寒。
㊁セン、ゼン。豎兗切。銑。

㊀一まどか、まるし、まろし㊁まろむ、まろがる㊂あつまる、聚合す㊃あつまり(聚合體)㊄軍隊の組織、又、その名稱㊅柩を載す車(轉に同じ)。

【團坐】ダンザ まろく集ひすわる。まどゐ。文獻經籍考に「團坐飲レ酒以爲レ樂」

【團扇】セン うちは。王昌齡「旦將ニ團扇一斬徘徊」

【團結】ケツ 同志の者あつまりて組をむすぶ。金史に「團ニ結兵士一爲レ彌」

【團圓】エン 一まろし。元稹「團圓青玉疊」二轉じて、なさまりよし。又、なほりのまとまり。多く小説物語の結尾にいふ。

【團圓】ダン 一露の玉おほき貌。班婕妤「裁爲ニ合歡扇一、團團似ニ明月一」

【團體】ダンタイ 團結したる組。

【團欒】ダンラン 一親しきものの集合。樂しきまどゐ。陸游「堪レ笑此翁幽獨慣、卻嫌兒女話ニ團欒一」二たんご。范成大「撚レ粉團欒意」

【團圞】ダン 前の一に同じ。

【圓】

クワイ、エ。胡隊切。隊。かど(門闕)。

十二畫

【圜】

エキ、ヤク。羊益切。陌。めぐりゆく。

【圍】

㊀クワン、ゲン。戶關切。刪。
㊁エン、ウン。王權切。先。

㊀めぐる(繞)、かこむ(圍)㊁圓に同じ。

【圜土】クワンド ひとや。周禮に「以ニ圜土一聚ニ教罷民一」

【圜周】クワンシウ めぐり。爾雅、疏に「周天百十萬一千里者、是天圜周之里數也」

【圜流】クワンリウ めぐりてながる。列子に「圜流九十里」

【圜視】クワンシ とりかこみてみる。柳宗元「左右圜視、胭脂拱レ手」

【圜繞】クワンゼウ めぐる。めぐらす。爾雅に「其角多節、慼慼圜繞者爲ニ齧羊一」

十六畫

【圞】

㊀キン、クン。俱倫切。眞。
㊁コン。苦本切。阮。

㊀つかね(束)㊁なる(成就)。

十九畫

【圝】

ラン。落官切。寒。
まどか(圓に同じ)。

土部

部首

【土】

㊀ト、ツ。達戶切。暮。
㊁タ、テ。丑下切。馬。

㊀一つち(地球の外殼を構成する岩石、土壤の總稱、支那古昔の學説にて、原素(五行となしし)ものの一)二ふるさと(故郷)三ところ(場所)四ゐどころ(居處)五くに(邦國、領地)六わざ(業)七はかる(度)八つちのかみ(地祇)九ほしのな(鎮星)十土を燒きて作りたる樂器十一をる(居)十二きのれ、かは(桑根の白皮)十三かす(査滓、糞草、糟粕の類)。

【土工】ドコウ やきものし。禮記、注に「土工、陶旋也」

【土木】ボク 家屋・隄防・道路・橋梁などの工事。ふしん。淮南子に「築レ土構レ木」

【土毛】ドマウ 土地に生ずる穀菜類。魏書に「土毛無レ失ニ常貢一」

【土化】クワ 農作す。周禮に「草人掌ニ土化之法一」

【土功】コウ 土木の工事。書經に「惟荒度ニ土功一、弼ニ成五服一」

【土色】ショク あをざめたる顏色。(允白)。

【土作】サク 土木の事業。後漢書に「造ニ起九廟一、窮ニ極土作一」

【土沙】サ 土と沙と。揚雄「匪ニ惟幼稚嬉ニ戲土沙一」

【土宜】ギ その土地に適する作物。左傳に「無レ使レ失ニ其土宜一」

【土空】コウ つちあな。方輿記に「秦人呼ニ土窟一爲ニ土空一」

【土芥】カイ つちとあくたと。孟子に「君之視レ臣如ニ土芥一」

【土星】セイ 太陽系中の第六位にある遊星、直徑約三萬里にして、八個の衛星を有し、二十九年と百六十七日にて太陽を一周す。

【土匪】ヒド 寇をなす土著の民。

【土寇】コウ 前に同じ。

【土偶】グウ つちにんぎゃう。でく。史記に「木偶人謂ニ土偶人一」

【土豚】トン どへう。土俵。魏志に「豫作ニ土豚一、遏ニ絶湖水一」

【土梗】カウ つちにんぎゃう。戰國策に「夜半土梗與ニ木梗一鬬」

【土崩】ホウ 土のくづるる如くくづる。史記、主父偃傳に「天下之患、在ニ于土崩一、不レ在ニ于瓦解一」

【土域】ヰキ くにのうち。史記に「賞及ニ牛馬一、恩肥ニ土域一」

【土階】カイ つちのきだはし。史記に「堯堂高三尺、土階三等」

【土堠】コウ 一里づか。周書に「路側一里置ニ一土堠一」

【土著】チヤク その土地に永住するもの。史記に「其俗土著耕レ田」

【土葬】サウ 屍體を土中にはうむる。南史に「土葬則瘞ニ埋之一」

【土蜂】ハウチ 〔動〕あなばちの異名。爾雅、注に「今江東大蠭在ニ地中一作レ房者、爲ニ土蜂一、卽馬蜂」

【土窟】クツ つちあな。神仙傳に「李意期於ニ城都角中一、作ニ土窟一居レ之」

【土簋】キ 土にて造り、黍稷を盛る器。韓非子に「昔者堯有ニ天下一、飯ニ於土簋一、飲ニ於土鉶一」

【土龍】リヨウ 〔動〕みみず。(蚯蚓)。

【土牆】シヤウ どべい。齊書に「氏楊氏漢世居ニ仇池一、無ニ貴賤一、皆爲ニ板屋土牆一」

【土蟲】チユウ 〔動〕むかで。(蜈蚣)。

【土疆】キヤウ 土地のさかひ。曹植「威振ニ百蠻一、恢ニ拓土疆一」

【土壤】ジヤウ つちくれ。史記に「泰山不レ讓ニ土壤一、故能成ニ其大一」

【土囊】ナウ 一どへう。唐書に「載ニ土囊一過レ水而後度」二大いなる穴。風賦に「盛怒ニ於土囊之口一」

【土饅頭】ヂユウ 土をまるく盛れる墓。范成大「縱有ニ千年鐵門限一、終須ニ一箇土饅頭一」

【土ニ木形骸】ケイガイ 晉書に「嵇康字叔夜、有ニ風儀一、而土ニ木形骸一、不ニ自藻飾一」

【土積成レ山】ツチツモリテヤマヲナス 俚諺の「塵もつもれば山となる」といふに同じ。大戴禮に「積レ土成レ山、則風雨興焉」又、説苑に「土積成レ山、則雨樟生焉」

一畫

【圠】

アツ、エチ。乙黠切。黠。

㊀つちかたまる㊁はかられず

㊀かぎりなし。

【壬】

㊀テイ、チャウ。丑鄧切。梗。
㊁デイ、タイ。展禮切。薺。

㊀テイ、ヂャウ。唐丁切。青。
㊁㊀よし(善)㊁はゆ(生)㊂すむ(澄)㊃
一くき(莖)二うつばり(屋梁)三徵の古文字。

二畫

【圢】㊀テイ、チャウ。他頂切。迥。
㊁テン。他腆切。銑。
一たひらか二たのあぜ(田畔)。

【圣】㊀コツ、コチ。苦骨切。月。
㊁クワイ、ケ。古壞切。卦。
一たつぐる(耕作)二つとむ(勤)。

【圤】ハグ、ボク。匹角切。覺。
つちくれ(塊)。

三畫

【在】㊀サイ、ザイ。盡亥切。賄。
㊁シ。雌氏切。紙。
㊀一あり(居、存)、います二あきらかにす(明)三みる(察)四よし(善)。
【在位】くらゐにゐる。書經に「朕在位七十載」
【在昔】いにしへ。むかし。(往昔)。陶潛「郯曲時時來、抗言談二在昔一」
【在家】ケ 一(佛)在俗のひと。出家の對。二ゐなかのいへ。
【在野】官に仕へざるもの。孟子に「在野曰二草莽之臣一」
【在職】その職務に從事してゐること。晉書に「在職多所二獻替一」 學問の道は之を已の身に本づくべし、故に近し、然るに人反つて之を外に求む、故に遠し。孟子に「道在レ邇、而求二諸遠一」
【在邇】氷レ遠

【圩】ウ、チ。雲俱切。虞。
一きし(岸)二つつみ(堤)。
【坊】ヲ、ウ。汪胡切。虞。
一こて(鏝)二かべぬる(塗)。

【圭】ケイ、涓畦切。齊。珪の古文字。
一たま(瑞玉、上圓く下方なるもの、主に諸侯た封ずるしるしに用ゐる)二いさぎよし(潔)三量の名、黍を六十四あつめたるもの四くぐり(閨に同じ)五かど(廉)。
【圭勺】圭にて作りたる盃にて有爵者に錫ふもの。轉じて、榮達の義とす。王禹偁「功業無二圭勺一」
【圭田】圭は潔なり、その收穫を以て祭に奉ずる田。孟子に「卿以下必有二圭田一、圭田五十畝」
【圭角】物のかどだてること。言語又は擧動の他と融和せざること。孟子、序說に「程子曰、孟子有二些英氣一、才有二些氣一、便有二圭角一」
【圭璋】たまの名。禮記、疏に「圭璋、玉之貴也」
【圭組】門旁の小戶。くぐり。禮記に「幕門圭窬、蓬戶甕牖」
【圭窬】圭の形の門旁のくぐり。梁昭明太子「幕門鳥宿、圭窬狐潛」
【圭瓚】宗廟に用ゐる器。皮日休「王有二虎臣一、錫二之圭瓚一」

【圮】ヒ、ビ。部鄙切。紙。
【圮毀】やぶる(毀)、くつがへす(覆)。やぶれかく。蘇軾「支二其敝紬一、補二其圮毀一」
【圮毀】キ くづれやぶる。(頹毀)。王禹偁「雉堞圮毀、蓁莽荒穢」

【圯】イ。延知切。支。
つちばし(土橋)。

【地】チ、ヂ。徒利切。寘。
一つち(支那古昔の學說にては元氣の重くして濁れるもの地より成るとせり)二くが(陸)三なか(岡)四ところ(所)五くに(邦國、領土)六ゐどころ(居處)七たちば(立脚地)八した(底、下位)九ただ(但)十語に添へ用ゐる無意味の字。
【地久】地は永久かぎることなし。老子に「天長地久」
【地文】一地のあや。新論に「日月者天之文也、山川者地之文也、言語者人之文也」二(槓)半夏の異名。
【地方】一帝都以外の地。ゐなか。晉書に「蒲子地方馬生レ人」二地は方形なり。淮南子に「天圓地方、道在二中央一」

【地分】からだ。列子に「精神者天之分、骨骸者地之分」
【地利】一戰陣に於ける地形の便。孟子に「天時不レ如二地利一」二土地より生産するもの。管子に「地利不レ可レ竭、民力不レ可レ殫」
【地角】地のひとすみ。徐陵「天涯藐藐、地角悠悠」
【地位】ゐどころ。たちば。くらゐ。
【地券】官府より下附せる土地所有の證書。宋史に「或持二地券一自言、有下僞增二步數一者上、皆審驗劾二奏之一」
【地官】土地人事に關する諸政を掌る官。周禮に「地官司徒、曰二敎官之屬一」
【地郊】王者の地をまつる稱。晉書に「地郊所レ祭、曰二皇地之祇一」
【地祇】くにつかみ。地神。
【地租】地價に賦課して徵收する租稅。唐書に「修二洛陽宮一勞レ人也、收二地租一厚レ斂也」
【地脈】地層のつづけるすぢ。史記に「不レ能レ無レ絕二地脈一」
【地動】地うごき。漢書に「邪國被二地動災一、甚者、無出二租稅一」
【地望】よきいへがら。北夢瑣言に「耶君籍二如レ是地望一、作二如レ是行止一」
【地理】山川海陸のすぢみち。易經に「仰以觀二于天文一、俯以察二于地理一」
【地球】吾人の棲息する遊星。この世界。
【地異】地上の異變。地震・海嘯の類。
【地軸】地の中心。(坤軸)。庾信「德動二天關一、威移二地軸一」
【地楡】(槓)われもかう。本草に「其葉似レ楡而長、初生布レ地、故名」
【地勢】土地の生産力。又、ありさま。漢書に「秦形勝之國也、地勢便利」
【地著】一定の地に在りて、他に移らざるもの。(土著)。漢書に「理二民之道一、地著爲レ本」
【地維】地の成立する綱維。史記に「天柱折、地維缺」
【地獄】(佛)亡者の苛責を受くる處。等活・黑繩・合會・叫喚・大叫喚・焦熱・大焦熱・阿鼻の八大地獄ありといふ。法華經に「受二地獄畜生餓鬼之苦一」
【地獄】一土地のあたひ。北夢瑣言に「以二此地一奉レ之、殊不レ言二地價一」二土地の法定價。
【地震】大地のふるふ地文的現象。なゐ。左傳に「春秋書二地震一、五」
【地輿】地球。(坤輿)。淮南子に「以レ天爲レ蓋、以レ地爲レ輿」
【地燭】かがりび。(炬燭)。周禮、注に「燎、地燭也」
【地蟬】(動)みみず。(蚯蚓、歌女)。
【地臘】道家にて行ふ五月五日の祭の名。雲笈七籤に「五月五日名二地臘一」
【地籟】地上の音響。人籟、天籟の對。莊子に「子游曰、地籟、則衆竅是已」
【地變】地上の異變。地震・海嘯の類。漢書に「天變見二于上一、地變動二于下一」
【地鼈】(動)すくもむし。本草に「蟑螂一名二地鼈一」
【地行仙】人の長壽を祝していふ語。蘇軾「先生眞是地行仙、住レ世因循五百年」
【地動儀】古代の地球儀。文中子、注に「張衡行二渾天及地動儀一」

【圳】シウ、ツュ。市流切。尤。
みぞ、田畔の溝。

【均】シャク、サク。職略切。藥。
つちのあと(土跡)。

四畫

【圻】キ、ゲ。渠希切。微。
一王畿千里の地二さかひ、かぎり(堺に通ず)。
ポツ、ヅ。沒に同じ。

【坳】モチ。
【圾】㊀キフ、ゴフ。忌立切。緝。
㊁ガフ、ゴフ。五盍切。合。
あやふし(岌に同じ、危)。

【坍】カツ、ゲチ。訖黠切。黠。
ちり、あくた、あか。

【址】シ。渚市切。紙。
もとゐ(趾に同し、基)。

【坂】ハン、ボン。甫遠切。阪。岅、阪に同じ。㊀さか(山の脅)㊁つつみ(澤の障)。

【埡】㊀エキ、ヤク。營隻切。陌。㊁トウ、ヅ。度侯切。尤。けむりだし(陶竈窗)。

【坅】㊀キン、コン。丘甚切。寢。㊁ギン、ゴン。牛錦切。寢。㊂サン、ソン。子感切。感。あな(坎)。

【均】㊀キン、クン。規倫切。眞。㊁ウン、チン。王問切。問。㊂エン。興專切。先。

【坅】㊀ひとし、ひとしくす(等)㊁たひらかなり(平)㊂ととのふ(調)㊃あまねし(徧)㊄はかる(度)㊅ろくろ(瓦を造る具)㊆漢代の酒の量の名、酒二千五百石をいふ㊇樂器の名㊈音樂上にて音律の變化するこゝろ、ひびき(韻の古文字、響)㊉そふ(沿に同じ)。

【均一】キンイツ ひとし。ひとしくす。唐書に「兵鎧完礪、衆誠均一」

【均水】キンスイ 水を平等に配る。漢書に「作均水約束、以防分爭」

【均平】キンヘイ ひとしくして正し。徐寅「日月無情、朝昇夕沒照均平」

【均服】キンフク 軍服。左傳に「均服振振」

【均淡】キンセン あまねし。後漢書、和帝紀に「詔曰、荊州比歲不節、今茲淫水爲害、餘雖頗登、而多不均淡」

【均等】キントウ ひとし。北史に「禮數均等」

【均照】キンセウ 同じやうに照りかがやく。駱賓王「璧輪均照、或流景于萊城」

【均霑】キンテン ひとしくうるほふ。

【均衡】キンカウ つりあひ。(平衡)。

【埀】㊀トン、ドン。徒混切。阮。㊁たまる(溜)㊂ふさぐ、ふさがる(塡塞)、草土をもてこれを塞ぐ㊃うれ(田隴)。

【坊】㊀ハウ、バウ。府良切。陽。㊁甫妄切。漾。㊂㊀まち(町)、ちまた(巷)㊁いへ(家)㊂てら(僧寺)㊃いがた(型)㊄ふせぐ(防)、ささふ(障)㊅つつみ(堤)㊆どて。

【坊市】バウシ まち。杜陽雜編に「坊市豪家」

【坊欲】ボウヨク 慾心をふせぐ。禮記に「君子刑以坊淫、命以坊欲」

【坊間】バウカン まち。

【坋】㊀フン、ホン。父吻切。吻。㊁方問切。問。㊂㊀ちり(塵)㊁つつみ(大いなる隄)㊂かく(拚)㊃はらふ(拚に同じ、去)。フン、ボン。步悶切。願。

【坌】㊀ちり(塵)㊁けがる㊂あつまる(聚)、ならぶ(竝)。

【坌涌】ヨウ 盛んにわき出づ。後漢書に「飛詞騁辯、溢氣坌涌」

【坌集】フンシフ むらがりあつまる。唐書に「坌集京師」

【圯】ヒ、ビ。毘至切。寘。ならぶ(比)。

【坎】㊀カン、コン。苦感切。感。㊁㊀あな(穴)㊁さがし、けはし(險)、又、その事、その處㊂おちいる(陷)㊃なやむ(困)㊄おとしいる(陷)㊅はかる(詮)㊆物を擊つ聲㊇力を用ゐる聲㊈ちひさきさかづき(小爵)㊉十星の名㊊祭の名㊋方位の名、正北㊌易の卦の名㊍けはしき岸。

【坎坎】カンカン 力を用ゐるこゑの形容。詩經に「坎坎伐檀兮」

【坎坷】カンカ 行きなやむ。不遇の義にいふ。(陷軻、轗軻)。韓愈「幽蹊下坎坷」

【坎穽】カンセイ おとしあな。(陷穽)。鹽鐵論に「若陷坎穽、食予懸門之下」

【坎壈】カンラン 志を得ざる貌。楚辭に「坎壈兮、貧士失職、而志不平」

【坏】ハイ、ヘ。鋪枚切。灰。㊀なか(阜)㊁瓦のしたぢ㊂ふさぐ、とづ㊃かべがき(屋後の牆壁)。

【坐】サ、ザ。徂臥切。箇。㊀すわる㊁すわりどころ(座に通ず)㊂ひざまづく(跪)㊃まもる(守)㊄ゐながら、容易に㊅そぞろに㊆まきぞへ(連累)。

【坐甲】カフニ 戰士が甲を著したるまま坐して敵を待つ。左傳に「裏糧坐甲」

【坐作】ザサ からだのこなし。たちゐ。周禮に「教坐作進退、疾徐疏數之節」

【坐忘】ザボウ 全く雜念なくなりて我を忘る。莊子に「顏回曰、回坐忘矣」

【坐食】ザショク つとめずして只すわりくらふ。むだぐひす。吳志に「後宮之中、坐食者萬有餘人」

【坐致】ザチ ゐながらにして物を來たす。周書に「六轡既調、坐致千里」

【坐側】ザソク そば。後漢書に「願置章坐側、以當瞽人夜誦之音」

【坐視】ザシ ゐながらにみる。

【坐隱】ザイン 碁をうつをいふ。世說に「王中郎、以圍棋爲坐隱」

【坐禪】ザゼン 〔佛〕趺坐して悟道を求むること。佛國記に「耆闍窟山、有石窟、南向、佛本於此坐禪」

【坐繫】ザケイ 連坐せられて獄屋につながる。宋史、岳飛傳に「飛、坐繫兩月、無可證者」

【坐針氈】ザシンセン 針のさしてある毛氈の上にすわる。危險の地位に居るに喩ふ。蘇軾「劍米有危炊、針氈無穩坐」

【坐井而觀天】ザセイシテテンヲミル 識見狹くして、徒に聖人の道を小なりとするに喩へていふ。韓愈「老子之小仁義、非毀之也、其見者小也、坐井而觀天曰天小」

【坑】カウ、キャウ。丘庚切。庚。阬に同じ。㊀あな(穴)㊁おとしいる(陷)㊂ほり㊃むなし(空)㊄あなにす。

【坑殺】カウサツ 穴にうづめてころす。史記に「武安君挾詐、而盡坑殺之」

【坑戮】カウリク 前に同じ。趙岐「坑戮儒生」

【坌】㊀ヒ、ビ。毘至切。寘。㊁陛に同じ。㊂㊀ならぶ(比)㊁あふ(配合)。

五畫

【坡】㊀ハ。匹波切。歌。㊁ヒ。彼義切。寘。㊀さか(阪)㊁つつみ(堤)。

【坡陀】ハタ けはし。爾雅に「坡陀不平」

【坪】㊀ハン、バン。普伴切。旱。㊁薄(平坦)㊂おこす、地を發す㊃㊀たひらかく(坋)㊁かきまはす(坋)。

【坤】㊀つち(土)㊁くが(陸)㊂なか(岡)㊃ひつじさる(西南間)㊄したがふ(乾に順ふ義)㊅すなほ、やはらか(柔)㊆易の卦の名。

【坤元】コンゲン つち。又、土地。易經に「至哉坤元、萬物資生」

【坤軸】コンジク 地の中心。(地軸)。杜甫「殺氣南行動坤軸」

【坤極】コンキョク 皇后のくらゐ。後漢書、皇后紀に「宜配天祚、正中位坤極」

【坤維】コンイ 地の成立する綱維。姚合「賦成傳寫徧坤維」

【坤德】コントク 女の德。皇后の御德。易經に「坤厚載物、德合無疆」

【坦】タン。ダン。儒學切。旱。㊀たひらかなり(平)㊁ひろし(寬)。

【坦平】タンヘイ たひらかなり。劉蕡「蜀路新修盡坦平」

【坦坦】タンタン ひろき貌。又、平かなる貌。易經に「履道坦坦、幽人貞吉」

【坦途】タントウ 平かなるみち。韓愈「近來自說尋坦途」

【坦路】タンロ 前に同じ。

【坦腹】タンプク 女のむこをいふ。太尉郗鑒、門生をして女婿を王導の家に求めしむ、王氏の子弟みな自ら矜持す、唯一人坦腹して臥し、旁に人無きが若し、郗太尉曰く、東牀坦腹の者、佳壻なりと、訪問すれば乃ち羲之なり、遂に女を以てこれに妻はす。晉書、王羲之傳に見ゆ。

【坦蕩】タンタウ 心ひろく平かなり。晉書に「其外坦蕩、而內淳至」

【垣】 ひろきこころ。

【垢】 セキ、シャク。之石切。陌。もとゐ(旅に同じ、基址)。カン、コン。苦甘切。覃。るつぼ(土器)。

【坩】 金銀を熔かすに用ゐるつぼ。

【坪】 ヘイ、ビャウ。符兵切。庚。たひらか(平)。

【垳】 つぼ(一間四方の地)。テン、デン。都念切。豔。

【坫】 ㊀さかづきだい(杯奉)㊁かざり(際限)。

【坭】 ヂ、ニ。乃里切。紙。㊀どろ㊁ひぢりこ(泥に同じ)。ケイ、キャウ。古螢切。青。

【堌】 まき(林外の地、又、郊野)。アウ。倚朗切。蓋。

【堀】 ㊀ちり、ほこり(塵埃)㊁くらし分明ならず㊂際限なき貌㊃高下ありて平かならざる貌。

【堪】 ㊀フツ、ブチ。符勿切。物。るへツ、ベチ。蒲結切。屑。塵の起る貌、むらがる。

【坳】 アウ、エウ。於交切。肴。くぼみ、窪下の地。

【坳堂】 堂のくぼみたる處。莊子に「覆杯水于坳堂之上、則芥爲之舟」。

【坳窪】 ふかくくぼむ。柳宗元「凡坳窪坻岸之狀、無廢其故」。

【垈】 リク、ロク。力竹切。屋。陸に通ず。

【垰】 ㊀くが、をか(高壇)㊁つくれ(土塊)。キウ。丘の俗字。

【垢】 ㊀カ。口我切。智。るロ箇切。箇。

【垷】 ㊀ゆきなやむ㊁平かならざる貌。フン。於問切。問。はらふ、のぞく(掃除)。ケツ、ケチ。胡決切。屑。

【奎】 一むなし(空)、ふかし(深)㊁あな(穴)㊂ふさぐ、ふさがる(塞)。

【坑】 ㊀ハツ、ボチ。蒲撥切。月。るハチ、バチ。北末切。曷。

【坡】 なさむ(治)、土を鋪く、土を發す。㊀チ、ヂ。直尼切。支。るシ。掌氏切。紙。㊁テイ、タイ。都禮切。

【坻】 ㊀しま(小洲、又、水中の高地)㊁なさ、みぎは㊂とどまる(止)㊃つか、小高き場所、小高き地㊄には(場)㊅さか(坂)。タク、チャク。恥格切。陌。

【坼】 ㊀さく(裂)㊁ひらく(開)。

【坼剖】 ㊀さけひらく。雜產をいふ。史記に「陸終生子六人、坼剖而產焉」。

【坼副】 雜產をいふ。詩經に「先生如達、不坼不副」。達は小羊なり、これは姜嫄が后稷を生むの易かりしをいへるなり。

【坪繟】 すきまなさきわく。柳貫「青天坪繟拔飛流」。チョ、ド。丈呂切。語。

【坊】 つもれるちり(積塵)。㊀フ、ホ。防無切。虞。㊁谷過切。遇。

【坩】 ㊀いかだ(筏)㊁ます(附に通ず、益)。㊂せきえい(石英)。

【坪】 コ、ク。荒胡切。虞。㊁らち(埒)㊂わづらはし(煩)。チ、ヂ。直凡切。紙。

【坎】 かき(雜に同じ、障屏)。ス井、ズキ。是爲切。支。

【垂】 ㊀たる㊁さがる㊂しく(布)㊃ほとり(陲に同じ、堂上の階に近き處、又、邊境)㊄ほとんど(殆)㊅なんなんとす。

【垂仁】 めぐみなたる。韓愈「察二其辭一而垂仁採納焉」。

【垂示】 なしへをたる。後漢書に「逃二遺先世一、垂示後世一也」。

【垂老】 七十近き年齢。宋史に「王欝濤、垂老之年、殞二身鋒鏑一」。

【垂死】 しにかかる。元稹「垂死病中驚坐起」。

【垂冰】 つらら。(冰柱)。庾肩吾「垂冰溜二玉手一、含刺冒二春腰一」。

【垂芳】 ほまれを後世にのこす。晉書に「垂二芳竹帛一」。

〔土部〕 垂型垌垉埆垈垓垠垣垪垜垤垰垳垷垸垵垶垻垼垽垾垿埀埃埇埈埉埊埋埍埏埐埒埔埖埗埘埙埜埠埡埢埣埤埦埧埨埩埪埫埬埭埮埰埲埳埴埵埶埸培埼埽埾埿堀堂堅堆

〔土部〕 垝垤垰垠垡垢垣垧垤垠垰垤垠垰垤垠垰

〔土部〕埒堅埜垈埌域埠埖埆埃埒埖埆埃埒埖埆埃埒

是猶執熱而不二以濯一也」

【場】一くろ、あぜ(田畔)二くにざかひ(邊境)。エキ、ヤク。夷益切。陌。

【培】㊀ハイ、ベ。蒲枚切。灰。㊁ハイ、バイ。薄亥切。賄。㊂ホウ、ブ。薄口切。有。㊀一ます(益)、やしなふ(養)、つちかふ二かはらした三つか(封塚)㊁一かさなる(重)四そむく(陪)㊂つつみ(隄)、ちひさきなか(小阜)。

【培根】孟類「培根利二秋實一仰レ天望二年豐一」

【培植】つちかひ植う。金史に「專以培二植奬一勵後進一爲二己責任一」

【培養】つちかひやしなふ。朱熹「新知培養轉深沈」

【基】キ。居之切。支。一もとゐ(根據、事業、下址)二はかりごと三はじめ、はじむ(始)四まうく(設)五すき(田器)。

【基本】事物のよりて起るべき基礎。もとゐ。漢書に「是以明王愛二養基本一不二敢窮極一」

【基源】はじまり。もと。後漢書に「川河領障之基源」

【基緒】もとゐとなるべき事業。書經に「嗣王丕丕承二基緒一」

【埻】㊀シュン。之尹切。軫。㊁シュン、ジュン。朱潤切。震。㊂タ、ダ。徒臥切。箇。㊃タイ、テ。都回切。灰。㊄まと(射的)㊅かさねたるつち(壘土)㊆あづち土を塗りて覆ふ所のもの。

【埼】キ、ギ。渠宜切。支。或は、碕、崎、隘に作る。きしのくま、さき(岸頭)。

【埽】サウ、ソウ。蘇老切。皓。一はらふ二すつ(棄)三つつみ(隄)四きし(岸)。シュ、ズ。才遇切。遇。

【堅】一土をつむ、又、そのもの二きづく(築)。

【泥】㊀デイ、ナイ。奴低切。齊。㊁ハン、ベン。蒲鑑切。陷。㊂どろ、ひぢりこ(泥)㊃ゆるきどころ。

【堀】㊀コツ、コチ。苦骨切。月。㊁クツ、コチ。其物切。物。㊂あな(窟に同じ、孔穴)㊃ほる、地をうがつ。

【堁】㊀クワ。苦臥切。箇。㊁クワイ、ケ。窺待切。隊。㊂一ちり、ほこり(塵)、又、塵の起る貌二ひ(火)㊃一あじか(草器)二ちり。

【堂】タウ、ダウ。得郎切。陽。一おもてざしき(正寢)二たかし(高)三ただし(正)、さかんなり(盛)、威儀整然たる貌四山の寛くして平かなる處五住家、屋室。

【堂老】宰相のたがひに相呼ぶ稱。國史補に「宰相相呼爲二堂老一」

【堂房】ざしきとゐまと。儀禮、疏に「堂房無事」

【堂宰】表ざしきと奥ざしきと。

【堂堂】威儀盛んなる貌。孫子に「勿レ擊二堂堂之陣一勿レ邀二正正之旗一」

【堂廡】ざしき。列子に「堂廡之上、不レ絕二聲樂一」

【堂兄弟】父方のいとこ。北史、公孫表傳に「祖季眞云、二公孫同堂兄弟耳、吉凶會集、便有二士庶之異一」

【堂構之樂】子が父の業を繼承する樂。李攀龍「家庭之美、堂構之樂、快何如也」

【堊】ゲイ、ガイ。研計切。霽。

【堅】一かたし(固)二つよし(勁)三たけし(悍)四かたまる、かたむ(固)五ひさし(久)六ながし(長)七かたき所、かたきもの。

【堅刃】折れ又はかけぬはもの。又、つよき兵力。史記に「亞父之用レ兵、持二威重一執二堅刃一」

【堅心】かたきこころ。孟郊「若是做二眞人一堅心如二鐵石一」

【堅甲】かたきよろひ。孟子に「可レ使二制レ挺以撻一秦楚之堅甲利兵一矣」

【堅冰】かたきこほり。易經に「履レ霜堅冰至」

【堅決】かたくさだむ。史記に「未レ能レ得二堅決一者也」

【堅忍】がまんづよし。漢書に「御史大夫昌、其人堅忍伉直」

【堅固】たしかにして動かず。かたくして破壞せず。元稹「道性尤堅固」

【堅勁】かたくしてつよし。素問に「其氣急疾堅勁」

【堅直】かたくしてただし。史記に「石奢者楚昭王相也、堅直廉正、無レ所二阿避一」

【堅城】堅固なるしろ。蜀志に「二門悉開、堅城皆下」

【堅陣】かたき陣立。晉書に「前後屢陷二堅陣一」

【堅剛】かたくしてつよし。杜牧「指二揮羣兒躍一意氣何堅剛」

【堅牢】てがたし。蘇軾「也知不レ作二堅牢玉一、無レ奈能開二頃刻花一」

【堅圍】かたきかこみ。袁淑「振レ辨則堅圍可レ解」

【堅橋】つよきだて。獨孤及「鉤車雲梯、强弩堅楯」

【堅窮】しつかりときはむ。呂覽に「堅窮廉直」

【堅營】陣營をかたくす。又、かたき陣營。後漢書に「强弩乘レ城、堅營固守」

【堅確】かたくたしかなり。李東陽「其臣拜誦俱堅確」

【堅緻】かたくして密なり。釋名に「磬磬也、其聲磬磬然、堅緻可レ愛」

【堅凝】かたくしてただし。又、こる。荀子に「惟堅凝之難」

【堅壘】一手がたきとりで。杜牧「名城堅壘」二とりでをかたくして守る。魏志に「宣王堅レ壘不レ應」

【堅白同異】堅白同異辯。非とし、非を是とす、卽ち、堅石は石にあらず、堅と石となり、白馬は馬にあらず、白と馬となりと說く、公孫龍の學說。史記に「趙有二公孫龍一爲二堅白同異之辯一」

【堆】タイ、テ。都回切。灰。俗に、碓に作る。一うづたかし二をか(阜)三おく(舍)。うづたかし。前に同じ。

【堆埋】

【堆積】

【堇】㊀キン、ゴン。渠斤切。文。㊁一ねばつち(黏土)二とき(時)㊂一ぬる(塗)二わづかに(僅、纔に通す)。

【堇堇】物のわづかなる貌。漢書に「篆章出二黃金一、然堇堇物之所レ有」

【堇塊】然堇堇物之所レ有」

【堇園】滄州六城中雜二食堇塊一」

【堇】カウ。居郎切。陽。かめ(甕)、みづがめ。

【埴】イク。余六切。屋。こえつち(肥土)。

【埜】㊀アク。遏各切。藥。㊁チ、ヤ。烏故切。遇。一いろつち(色土)二しらかべ(粉壁)三しらつち(白埜)四どろ(塵泥)五ぬる(塗)六つぐ(次)七ぬり飾りたる壁、又、墻八ぬらざる壁、又、墻。

【埘】㊀ホウ。逋鄧切。徑。㊁ヒョウ。披冰切。蒸。㊂ホウ、ボウ。蒲登切。蒸。㊀一ばうむる(葬)二うづむ(埋)三振ひ動く貌㊃一あづち(射埻)二ねせき(堰)三牆を創りてその土の隕つる聲。

【堌】コ、ク。公悟切。遇。ふるづか(古冢)。ヤ。以者切。馬。どろ(泥淖)。

【埜】

九畫

【埃】トツ、ドチ。陀沒切。月。けむりだし(竈窗)。

【埵】ショウ、ジョウ。神陵切。蒸。

【堞】

【堙】サイ、ゼ。仕懈切。卦。

【堙】

【堙】

塞(㊁)つちやま、土を積みて築きたる山。

【堙条】(イン)ほろびみだる。牛弘「江左之初、典章堙紊、賀循爲ニ大常卿一、始有ニ登歌之樂」

【堙窒】(イツ)ふさがりて通ぜず。宋史に「杭經巨寇後、河渠堙窒」

【堙滅】(メツ)うづもれきゆ。(湮滅)。史記に「若レ此類、名堙滅不レ稱、悲夫」

【堙陵】(リヨウ)おとろふ。唐書に「大曆政刑、日以堙陵」

【堙鬱】(イウツ)氣むすぼれふさぐ。韓愈「爲ニ之樂一、以宣ニ其堙鬱一」

【墮】(ダ)一うづむ、うづまる(塡)二ふさぐ、ふさがる(塞)。

【堝】(カ)クワ。古禾切。歌。るつぼ(坩堝)。

【堞】(デフ)テフ、デフ。達協切。葉。ひめがき(女牆)、又、ひめがきを設く、きづく。

【堵】(シフ)シフ。測入切。緝。重りたる土(累土)。

【堲】(シキ)ショク、シキ。察色切。職。さへぎる(遮)、ふさぐ(塞)。

【塚】(テン)テン、デン。柱兗切。銑。たがやす(耕)。

【堠】(コウ)コウ、ク。胡遘切。宥。一いちりづか(里程標)二ものみ(土堡)三つか(封土)。

【堠槐】(コクワイ)一里塚に植うるゑんじゅ。北史に「當ニ堠處一植ニ槐樹一」

【堡】(ハウ)ホウ、ホウ。摶抱切。皓。一つつみ(隄)二とりで(砦)、こじろ(小城)。

【堡柵】(ハウサク)とりで。元史に「方ニ舟數百、結爲ニ堡柵一」

【堡營】(ハウエイ)前に同じ。

【堡壘】(ハウルイ)前に同じ。

【堡聚】(ハウシユウ)衆をあつめて保守す。左傳に「我敝邑用不ニ敢保聚一」

【塀】(ハウ)ハウ、ホウ。堡に同じ。

【塀】(ハウ)フク、ホウ、ホク。方六切。屋。つちむろ(窟)。

【堤】(テイ)タイ。都黎切。齊。㊀典禮切。齊。るつつみ、どて、うねるそこ、器物の下底㊀ふせぎ(防)、つつみ(隄に通ず)。

【堅】(ケン)ケン、ム。薇夫切。虞。るつぼ(瓦合)るかはらけ。

【堅】(ホウ)ホウ、ム。莫浮切。尤。一なか(小隴)二かはらけ(瓦器)三すやきのつぼ(瓦合)るかはらけ。

【堦】(カイ)カイ。階に同じ。

【堦】(カイ)タ。都果切。哿。うごく(動)、一說に、垂るる貌。

【堰】(ゼン)ゼン、ネン。而宣切。先。るダ、ナ。乃臥切。箇。㊀ダン、ナン。奴亂切。翰。

【堰】(ヤン)一かはばた(壩に同じ)二河の邊の地三城の旁の地、一說に城下の田四には、廟の外と垣の內にある遊地るいさご(沙土)㊀みづのほとり(水濱)。

【堨】(アツ)アツ、アチ。阿葛切。葛。るケツ、ゲチ。巨列切。屑。

【堨】(アイ)アイ。於蓋切。泰。

【堪】(カン)一かべあな、壁間の隙二ゐせき(甕)るつつみ、ゐせき㊀あなつち(青土)。るカン、ゴン。枯含切。覃。

【堪】(シン)るシン、ソン。楚錦切。軫。

【塊】(カイ)一たふ、しのぶ、こらふ二山形の奇怪なる貌三地中の穴るつち(土)。

【塊忍】(カイ)たへしのぶ。魏書、李洪之傳に「洪之、志性慷慨、多レ所ニ堪忍一」

【堪能】(カノウ)文武堪能、隨レ才銓用」

【堪輿】(ヨ)天地の總名。范晔「茫茫堪輿、俯仰無レ垠」

【塏】(ソウ)ソウ、スウ。租叢切。東。るサウ、ソウ。初江切。江。うう(種)、一說に、耕さずしてうう、又、その中に內る。

【塏】(ユ)ユ。容朱切。虞。つか(冢)。

【塏】(クワウ)クワウ、アウ。胡光切。陽。一あひどの(合殿)二ほり(隍に通ず)。

【堯】(ガク)ガク。逖各切。藥。きし(岸)、がけ(厓)。

【堯】(ゲウ)ゲウ。倪幺切。蕭。たかし(高)、とほし(遠)。

【堯堯】(ゲウ)山などのたかき貌。釋名に「每石堯堯、獨處而出見也」

【堯桀】(ゲウ)堯といふ聖君と桀といふ暴君と、以て善人と惡人とに喩ふ。漢書に「堯桀之分、在ニ於義利一而已」

【堯舜化】(ゲウシユン)堯舜二帝の德治よりしかいふ。晉書に「弘ニ堯舜之化一、開ニ正直之路一」

【堯鼓舜木】(ゲウコシユンボク)堯は鼓を置きて、諫めんとする者に之をうたしめ、舜は木を立てて、これに戒の語を書かしめたり。舊唐書に「堯鼓納レ諫、舜木求レ箴」

【堰】(エン)ゐせき。於扇切。霰。

【堰壞】(エイ)舟の通行稅を取るゐせき。宋史に「坡塘堰壞、可ニ以取レ水灌溉一」

【報】(ハウ)ホウ。博號切。號。

一むくい(返禮、復讎、果報)二こたふ(答)三かへす(復)四むくゆ(酬)五つぐ(告)六しらす(知)七あほす(合)八四人の罪を論ずること九いそぐ(赴に同じ、急疾)るすすむ(進)。つげしらす。

【報告】(コク)

【報祀】(シ)禮祭りす。張九齡「燭龍煌煌、明宗報祀」

【報施】(シ)むくいほどこす。史記に「天之報ニ施善人一、其何如哉」

【報效】(ハウ)恩にむくい力をいたす。杜甫「報效神如レ在」

【報恩】(オン)恩にむくゆ。(謝恩)。說苑に「唯賢者爲ニ能報レ恩」

【報章】(シヤウ)へんじ。杜甫「相憶無ニ南雁一、何時有ニ報章一」

【報祭】(サイ)禮祭りす。禮記に「報ニ祭四方之神一」

【報國】(コク)力を盡して國の恩にむくゆ。曹植「思下一效ニ筋力一、糜軀以報上國」

【報答】(タフ)へんじ。返報。曹唐「招携每感雙魚遠、報答空思一劍存」

【報道】(ダウ)しらす。李涉「若逢ニ城邑一、人相問、報道花時也不レ閑」

【報酬】(シウ)むくゆ。又、謝禮の金品。

【報聘】(ヘイ)訪問をうけたる返禮。左傳に「劉康公來報聘」

【報賽】(サイ)御禮まゐりす。周禮、疏に「求レ福謂ニ之禱一、報賽謂ニ之祠一」

【報謝】(シヤ)恩にむくゆ。史記に「趙禹爲レ人廉倨、公卿相造請、禹、禹終不ニ報謝一」

【報瓊】(ケイ)贈物を受くれば、重寶を報ゆべしとの意。詩經に「投ニ我以ニ木瓜一、報之以ニ瓊琚一」

【報本反始】(ハンシ)根本にかへり報ゆる義。禮記に「社供ニ粢盛一、所ニ以報レ本反レ始也」

【堲】(シツ)ショク、セキ。在力切。職。るシツ、シチ。于悉切。質。㊀シ。疾之切。支。㊀にくむ(疾)㊀至の古文字。るにくむ(疾)㊀至の古文字。

【場】(チヤウ)チャウ、ヂャウ。直良切。陽。るジャウ、ジャウ。尸羊切。陽。一ば、には(神を祭る爲に壇を設け、掃ひ淨めたる地)二はた(圃)三たちば、なりばしょ、ところ(總て物の存在し、或は事の行はるる區域)四時期るつか(塚)、うきづか(浮墳)。

正字通に「場は場の字と別なり、通じて、喝又は堰に作り、俗に、塲に作る」

【場屋】(チヤウヤク)試驗場。文章軌範に「場屋中日暮有レ限」

【場圃】(ホ)はたけ。詩經に「九月築ニ場圃一、十月納ニ禾稼一」

【堵】(ト)ト、ツ。董五切。麌。るジャ、ヂャ。時遮切。麻。㊀ト、ツ。東徒切。虞。一かき(垣)二鐘磬を懸くる物の名三へ積む貌るはうてな、城門の臺。

【堵牆】(シヤウ)かき。禮記に「孔子射ニ於矍相之圃一、蓋觀者如ニ堵牆一」

【堵】(タ)タ、ダ。徒禾切。歌。いんぢうち(飛鬥戲)。

【培】(バイ)アン、オン。烏感切。感。つかあな(壙)。

【堺】カイ。界に同じ。

【野】ヤ。野に同じ。

十畫

【堵】セキ、ジャク。秦昔切。陌。やせつち(薄土)、山の脊の岡。

【堵薄】ハキク　やせつち(瘠薄、磽薄)。

【塊】クワイ、ケ。苦潰切。隊。一つちくれ、土のかたまり(塊)二かたまり三われ(我)四ひとり(孑)。

【塊然】クワイゼン　ひとり處る貌。漢書に「使二湯塊然一」

【塋】エイ、ヤウ。于平切。庚。はか(墓)。

【塋域】エイキ　はかば。(墓地、兆域)。齊書に「塗金鑄石、以窮二塋域之麗一」

【垰】セイ、シャウ。思營切。庚。あかつち(赤剛土)。

【塌】タフ、トフ。託盍切。合。一くだる(下)二ひくし(低)三おつ、おとす(墮)四たがやす(耕)、はじめて耕すたいふ。

【塍】ショウ、ジョウ。埏に同じ。

【塀】ほこり(細塵)。

【塔】ヨウ、ユウ。尹竦切。膓。安からざる貌。

【塏】カイ、ケイ。苦亥切。賄。高燥の地。

【塐】ソ、ス。蘇故切。遇。土なこれて物に象り作る二でく(土偶)。

【塑】ソ。蘇故切。遇。塐に同じ。

【塑人】ソジン　土人形。でく。程子全書に「明道終日端坐如二泥塑人一」

【塑像】ソゾウ　土にてつくりたる像。元史に「從祀諸賢無二塑像一」

【塒】シ、ジ。辰之切。支。とや、ねぐら。

【塓】ベキ、ミャク。莫狄切。錫。ぬる(塗)。

【塔】タフ、トフ。託合切。合。一そとば(浮屠)二てら(佛堂)三物の墮つる聲。

【塔婆】タフバ　(佛)卒堵婆の略、方墳又は廟と譯す。元亨釋書に「檀信造二塔婆一、至二落成日一、雷電擊破」

【塔影】タフエイ　たふのかげ。楊萬里「人家臨岸邊、塔影落二湖深一」

【塢】チウ、ウ。烏孔切。董。一風の聲二塵の起る貌。

【塗】ト、ヅ。同都切。虞。ぢ徒故切。過。ぢタ、ダ。除駕切。禡。ぢト、ド。動五切。麌。ぢ一どろ、ひぢりこ(泥)二みち(路)三ぬる、まみる四ふさぐ(杜塞)五けがす(汙)六あつき貌ろみち(途)ぢかざる、かざり(飾)ぢ一どろみち(泥路)二水びたりの地。

【塗地】トチ　地にぬりつく。轉じて、敗滅するたいふ。漢書に「肝腦塗地」

【塗改】トカイ　文字をぬりけして書き改む。李商隱「點二竄堯典舜典字一、塗二改清廟生民詩一」

【塗抹】トマツ　ぬりけす。瑯嬛記に「信レ筆塗抹、自有二天然之致一」

【塗炭】トタン　塗は泥、炭は火なり、水火のくるしみたいふ。書經に「有夏昏德、民墜二塗炭一」

【塗塗】トト　厚き貌。劉向「白露紛以塗塗兮、秋風瀏以蕭蕭」

【塗說】トセツ　聞く所あれば直に途上にて說く。善言を聞くも心に留めて己の有とせざるたいふ。論語に「道聽而塗說、德之棄也」

【塗澤】トタク　つやをつく。則天后傳に「后雖二春秋高一、善自塗澤、雖二左右一、不レ悟二其衰一」

【塗鴉】トア　文字のつたなきたいふ。鐙炳「病目塗鴉不レ作レ字、紛牋香墨惜二烏絲一」

【塗竄】トザン　ぬりけす。唐書に「塗竄而奏還、謂二之塗歸一」

【塗抹詩書】小兒たいふ。書言故事に「言二人兒幼一、曰二塗抹詩書一、盧仝示二添丁一詩句、忽來二案上一、翻二墨汁一、塗二抹詩書一、如二老鴉一、父憐母惜擱不レ得、卻生二凝笑一、令二人嗟一、下略」

【塘】タウ、ダウ。徒郎切。陽。唐に通す。つつみ(隄)。

【塙】ぢカク。克角切。覺。ろカウ、コウ。丘交切。肴。一かたきつち(堅土)二土たかし三ほなはろいしぢ(墩、墝、墾に同じ)。

【塚】チョウ、チュ。冢の俗字。

【塚】ホウ、ホ。蒲紅切。東。蓬に同じ。

【塀】リツ、リチ。力質切。質。ふさぐ、ふさがる(塞)。

【塝】ハウ、バウ。蒲浪切。漾。一あぜ(畦畔)二なか(阜)。

【塩】サイ。砦の俗字。

【塞】ぢソク。悉則切。職。ろサイ。先代切。隊。一ふさぐ(塡)二みつ(滿)三へだつ(隔)四かため(要害)五運悪しきこと六安んぜざる貌ろ一さかひ(邊界)二とりで(邊障、轉じて、小城)三さい(骰子)四神佛の恩に報い奉ること(賽に同じ)。

【塞口】ソクコウ　くちをふさぐ。ものいはせず。漢書に「猶レ止二兒啼一、塞二其口一也」

【塞責】ソクセキ　せめをふさぐ。己の務をつくす。漢書、公孫弘傳に「弘上書、恐レ先二狗馬一、塡二溝壑一、無中以報二德塞責一」

【塞淵】ソクエン　誠實にして深淵なり。詩經「仲氏只任、其心塞淵」

【塞翁馬】サイオウガマ　人生禍福の定まりなきに喩へたる語。熙晦機「人間萬事塞翁馬、推枕軒中聽レ雨眠」

【塞】サウ。葬の俗字。

【墜】エイ。瘞に同じ。

【堙】ぢタイ、テ。都回切。灰。ろサイ、セ。倉回切。灰。一おつ、おとす(落)ろつつみ、せらる、せむ二堆に同じ。

【塡】ぢテン、デン。徒年切。先。ろ徒典切。銑。ぢチン。知鄰切。眞。ぢテン、デン。徒偃切。阮。ぢ堂練切。霰。一ふさぐ、ふさがる(塞)二したがふ(順)三鼓の聲ろ一力盡く二やむ(病)ぢ一さだむ、さだまる二しづむ、しづまる(鎭に同じ)三ひさし(久)ぢ重厚の貌ぢ一おく(寘に同じ)二ただし(正に同じ)三しづむ、しづまる。

【塡如】テンジョ　とぢふさがる貌。

【塡充】テンジュウ　うづめみたす。

【塡星】テンセイ　五星中の一、つちのほし。晉書に「攝提愼星皆東行」

【塡然】テンゼン　鼓のこゑの形容。孟子に「塡然鼓レ之、兵刃既接」

【塡補】テンポ　うめおぎなふ。元史に「挨次塡補」

【塡塞】テンソク　ふさぐ。又、ふさがる。宋史に「營二築長堤一、塡二塞隘路一」

【塡塡】テンテン　一厚重の貌。莊子に「至德之世、其行塡塡」二軍旗の嚴重に立てる貌。淮南子に「不レ襲二堂堂之寇一、不レ擊二塡塡之旗一」三鳴りひびく聲の形容。楚辭に「雷塡塡兮、雨冥冥」

【塡寞】テンクワ　非常におとろへたる貌。詩經に「哀我塡寞、宜レ岸宜レ獄」

【塡二溝壑】コウガクニ　命をうしなふ義。史記、扁鵲傳に「無二先生一、則藥捐塡二溝壑一、長終而不レ得レ反」

【塢】ウ。於五切。麌。鴟に同じ。一ちひさきとて(小障)二こじろ(庫城)三とりで(營居)四むら(村落)。

【塡】ケン、ゴン。堅に同じ。

【塡】カク、キャク。各額切。陌。つちかさなる、土附著してかさなる。

十一畫

【塲】ヂャウ。場に同じ。

【土部】塗塘塙塚塝塩塑塞塡塡塡

【墿】ホウ、ボ。蒲紅切。東。ほこりたつ（塵、風に隨ひて起る）、一説に、墿の俗字。

【塴】ホウ。堋に同じ。

【塵】㊀チン、ヂン。直珍切。眞。㊁テン、デン。徒年切。先。㊂㊀ちり、ほこり、ごみ、あくた㊁けがる、けがす（汚）㊂けがれ㊃ひさし（久）㊄ちり。

【塵坊】ちり。梅堯臣「耳目飽ニ塵坊一」

【塵汙】けがれ。高啓「玄關拒閉誰復到、似レ怪衣土腥塵汙」

【塵劫】〔佛〕物と時と。轉じて、世間の義。頭陀寺碑に「功濟ニ塵劫一」

【塵事】世俗のことがら。陶潛「閑居三十載、遂與ニ塵事一冥」

【塵泥】ちりとどろと。孟郊「應レ憐泣ニ楚玉一、棄置如ニ塵泥一」

【塵表】世俗のほか。（世表）。南史に「挂ニ冠人世一、棲ニ心塵表一」

【塵氛】けがれたる氣。劉因「坤靈終亦化ニ塵氛一」

【塵界】ちりにけがれたる世界。龍舒心經に「色聲香味觸法爲ニ六塵界一」

【塵俗】ちりの世の中。任昉「司徒袁粲有ニ高世之度一、脫ニ落塵俗一」

【塵品】もろもろのしな。張文成「爲ニ塵品之醫王一、作ニ羣生之慈父一」

【塵垢】㊀ちりあか。淮南子に「崑山之玉瑩、而塵垢不レ能レ汚也」㊁世の中のけがれ。莊子に「彷ニ徨乎塵垢之外一、逍遙乎無爲之業一」

【塵埃】ちりほこり。（埃塵）。漢書に「今罪至レ罔加、在ニ塵埃之中一」

【塵痂】ちりとかさぶたと。沈遼「湖水洗レ面去ニ塵痂一」

【塵累】世の中の關係。耿湋「惆悵多ニ塵累一、無レ由訪ニ釣翁一」

【塵務】世の中のつとめ。世說に「爲ニ塵務一經レ心、天分有レ限」

【塵喧】世の中のやかましきこと。張蠶「烟霞咫尺少ニ塵喧一」

【塵勞】〔佛〕煩惱の異稱。圓覺經疏鈔に「塵是六塵、勞謂勞倦、由レ塵成レ勞、故名ニ塵勞一」

【塵滓】けがれ。許彥周「東坡詩不可指摘輕議、無ニ一點塵滓一」

【塵網】けがれたる世の中。陶潛「誤落ニ塵網中一、一去三十年」

【塵境】世の中。陳光「定擬レ辭ニ塵境一、依レ師過ニ晚年一」

【塵埃】ちりとほこり。（埃）。

【塵寰】ちりのよ。人間の世界。（人寰）。蘇軾「不レ知門外有ニ塵寰一」

【塵緣】世の中のゆかり。范成大「暗綠千章新活計、軟紅三尺舊塵緣」

【塵穢】ちりにてけがる。後漢書に「盥ニ洗塵穢一、服飾鮮潔、沐浴以レ時、身不ニ垢辱一、是謂ニ婦容一」

【塵穆】世の中のうるさき心。韓愈「哀狖醒ニ俗耳一、清泉潔ニ塵襟一」

【壊】ロ、ル。籠五切。襲。鹵に同じ。西方の鹹地。

【堅】エイ、アイ。煙奚切。齊。ちり、ほこり（塵埃）。

【堰】㊀オウ、ウ。於口切。有。㊁ヰウ、ヰ。烏侯切。尤。㊂あつまりたるすな（聚沙）㊃ばか（墓）㊄あつまりたるすな（聚沙）。

【塹】セン。七豔切。豔。塹、壍に作る。

【塹濠】ほり。（濠）㊁あな（坑）㊂ほる（堀）。

【塹壘】ほり。ほりととりでと。魏志に「塹壘未レ成、蜀兵大至」

【墅】ショウ、シュウ。舂容切。冬。くさびら（土菌）。

【塵】㊀バイ、マイ。謨杯切。灰。㊁バ、マ。莫臥切。箇。一に、垢に作る。ちり（塵）、ほこり（埃）。

【埃】パク、マク。模各切。藥。ちり、ほこり（塵）。パン、マン。謨官切。寒。墁に作る。

【墹】㊀て（鐵杵）㊁おほふ、土にて覆ふ。

【塼】㊀セン。朱過切。先。㊁タン。徒官切。寒。㊂㊀かはら（甎に同じ）㊁いとまき（紡塼）㊃まどかなり（團に同じ）。

【塼壁】かはら。晉書、吳逵傳に「晝則傭賃、夜燒ニ塼壁一」

【塽】シャウ、サウ。楚兩切。養。地の高明なる處。シュク、ジュク。神六切。屋。

【塾】へや、いへ、寄宿舍、學舍、門側の堂。

【塾生】學舍に居る生徒。

【塾頭】塾生のかしら。

【墜】ロウ、ル。耶口切。有。通じて、婁に作る。

【墀】㊀ありづか㊁ちひさきなか（小阜）。チ、ヂ。陳知切。支。には、石を敷けり庭。

【墁】バン、マン。莫半切。翰。墁に同じ。㊀かべぬる（牆壁を塗る）㊁かべかざり（牆壁の飾）。ケイ、キャウ。擧影切。梗。竟に通ず。さかひ（疆）、かぎり。

【境】境内。ケイ。

【境界】さかひ。くゐき。列子に「西極之南隅有レ國焉、不レ知ニ境界之所レ接」

【境涯】さかひ。かぎり。轉じて、身のおきどころ。めぐりあはせ。

【境域】さかひ。

【境遇】キャウグウ。めぐりあはせ。身のなりゆき。

【城】ショク、シキ。七則切。職。きだ、きれめ（隈）。

【墅】㊀ショ、ソ。承與切。語。㊁ヤ、エ。以者切。馬。

【墻】㊀テイ、タイ。特計切。霽。㊁テツ、デチ。徒結切。屑。

【墻】㊀かいほ（田廬、圃廬）㊁しもやしき（別館）㊂ほら（郊外）。

【墫】㊀陰翳をなす貌㊁高き貌㊂たくはふ（貯）㊃とどむ（止）。

【墫】カ、ケ。縛、障に同じ。

【墫】シャウ。諸良切。陽。

【墫】㊀ふさぐ、ふさがる（塞）㊁へだつ（隔）。

【墫】ラ。盧戈切。歌。もっこ、土を盛る器。

【墫】カン、コン。苦紺切。勘。

【墫】ヨウ、ユウ。餘封切。冬。庸に通ず。一に、墉、牖に作る。

【墫】㊀しろのかき（城垣）㊁かべ（壘壁）㊂こじろ（小城）㊃かき（牆）㊄みぞ（溝）㊅仙人の居處。

【墫】㊀テン。都念切。豔。㊁テフ、デフ。徒協切。葉。㊂㊀おぼる（溺）㊁くだる（下）㊃うるほふ（濕）㊄ほる（掘）㊅けがる（穢）㊆した（下）㊇けがる。

【墫隘】つかれくるしむ。左傳に「民愁則墫隘」

【墫溺】おぼる。吳志に「人馬墫溺」

【墫】シン、ソン。楚錦切。寢。㊀すなぢ、いさご（沙土）㊁にごる、混沌として清澄ならず。

【墫】㊀セキ、シャク。之石切。陌。㊁ジャク、サク。之若切。藥。もとゐ（拓に同じ、基址）。

【墫】㊀キ、ギ。奇寄切。寘。㊁キ、ゲ。許既切。未。㊂ぬる、仰き塗る㊃とる（取）㊄いこふ（息）。キ、ギ。壓に同じ。

【墫】クワク。光獲切。藥。

【墫】はかる（度）。シャウ、サウ。此兩切。養。もとゐ（基）。

【墫】㊀キン、ゴン。巨斤切。文。㊁キン、ギン。渠吝切。震。

【墫】㊀堇に同じ㊁ぬる（塗）㊂ふさぐ（塞）㊃うづむ（瘞、埋）㊄みぞのほとりの道。テキ、チャク。丁歷切。錫。

【墫】㊀きだはし（階段）㊁まと（的に通ず、射的）。シャウ。尸羊切。陽。一説に、墫の譌字。

かへしつち、新に耕す土。

【墓】ボ、ム。莫故切。遇。
はか(塋域)、つか(塚)。

【墓田】ボデン はかしょとする地。(塋田)。晉書に「賜二墓田一頃」

【墓地】ボチ 死者を葬るところ。周禮に「凡爭二墓地一者、聽二其獄訟一」

【墓表】ボヘウ 文體の名、死者の經歷などを記したるもの。東漢の安帝、元初元年に謁者最君墓表を立てしに始るといふ。

【墓碑】ボヒ はかじるし、形の方なるもの。

【墓碣】ボケツ 前に同じ、形の圓なるもの。

【墓隧】ボスヰ はかみち。(埏隧)。水經、注に「刊レ石樹レ碑、列二於墓隧一」

【墓誌銘】ボシノイ 文體の名、德善功烈の世に名づくべきものを、銘して後に傳へしむる文辭。

【墓木已拱】ボボクスデニキヨウナリ 拱は兩手にて合せ持つ程の大いさ、墓木の拱に至るは、死にて久しきを經たるをいふ。左傳に「爾何知、中壽爾墓之木拱矣」これは秦の穆公が人をして孟明にいはしめたる語、その過老にして死せざるを嘲るなり。

【墶】サイ、ゼ。俎同切。灰。なか(丘)、たかし(高)。

十二畫

【墻】リウ、ル。力敕切。宥。かはらけ(瓦器)。

【墜】(俗)ツキ。直類切。寘。
(正)シュツ、シュチ。直律切。質。
一おつ(落)二おとす(落)三うしなふ(失)。

【墜陷】カヰ おちいる。(隕陷)。易林に「去レ安就レ危、墜二陷井池一」

【墜葉】ヱフヨ おちば。(落葉)。張彥勝「聞二墜葉一而歎息、對二浮雲一而愁起」

【墜緒】シヨヰ おとろへたる事業。韓愈「尋二墜緒之茫茫一」

【墽】(俗)カウ、ケウ。丘交切。肴。
(正)カウ、コウ。口敎切。效。
やせち(瘠土)、やせだ(沸田)なる土地平かならず。

【墽埆】カウカク やせち。淮南子に「舜耕二歷山一、田者爭處二墽埆一、以二肪饒一相讓」

【墽瘠】カウセキ 前に同じ。曾鞏「自駕二疲牛一理二墽瘠一」

【墿】キ、ケ。圻に同じ、一に、墟に作る。

【增】(俗)ソウ。杏騰切。蒸。
(正)一ます(益)二かさなる(重)三おほし(衆)四ますます五層に通ずる會に通ずる。
【增注】ゾウチユウ 書物の注(アトカキ)を增し加へて、一層精しくす。

【增秩】ゾウチツ 俸給を增す。漢書、蕭咸傳に「所レ居有レ跡、數增レ秩賜レ金」

【增益】ゾウエキ ましくはふ。高唐賦に「交加二累積一、重疊增益」

【增註】ゾウチユウ 增注に同じ。

【增減】ゾウゲン 增すと減ずると。唐書に「百官俸錢、會昌後不二復增減一」

【增損】ゾウソン 前に同じ。史記に「有レ能增二損一字一者、予二千金一」

【增補】ゾウホ

【增增】ゾウゾウ おぼき貌。詩經に「烝徒增增」

【增築】ゾウチク これまでの建築物に建てまします。宋史に「增二築長隄一、民賴以安」

【增耀】ゾウエウ ひかりなます。後漢書に「增二日月之耀一」

【增羅】ゾウラ 平常より多く米を買ひ入る。宋史に「三路歲豐、仍令增羅廣蓄」

【墽】(俗)カウ、ケウ。丘交切。肴。
(正)カウ、コウ。口敎切。效。
やせち(瘠土)、やせだ(沸田)なる土地平かならず。

【墽埆】カウカク やせち。淮南子に「舜耕二歷山一、田者爭處二墽埆一、以二肪饒一相讓」

【墽瘠】カウセキ 前に同じ。曾鞏「自駕二疲牛一理二墽瘠一」

【墟】キヨ、コ。去魚切。魚。
一ふるあと(古跡)二なか(大いなる丘)三たに(大いなる壑)四いち(市、貨物輻湊の處)。

【墠】(俗)セン、ゼン。常演切。銑。一に、壇に作る。
(正)タン。他干切。寒。
ゆまつりのには(靈時)一ひろし(寬)二ゆるやかなり(寬)。

【壇】(俗)エイ。壹計切。霽。
(正)イ。乙冀切。寘。
ゆつちふる、つちけぶりくもりてくらし(陰晦)。

【墻】セン、ゼン。常演切。銑。しらつち(白埴土)。ハク。匹角切。覺。つちくれ(圿に同じ、塊)。クワイ、塊に同じ。ケ。

【墳】(俗)ヘン、ホン。蒲袁切。元。
(正)ハン、ヘン。符艱切。刪。つか(冢)、はか(墓)。

【墻】カク。墻に同じ。

【墨】(俗)ボク、モク。莫北切。職。
(正)ビ、ミ。晏悲切。支。
一すみ(墨、筆跡、黑色、墨繩)二くろむ(黑)三くろし(黑)四くらし(闇昧)五いれずみ(五刑の一)六ものさしの名、五尺の長さ七けがれ(汚)八おとろへたる貌九へりぐたる十聲なし(默に通ず)
【墨丈】ボクヂヤウ 墨は五尺なり、僅かの長さ。
【墨斗】ボクト 國語に「墨丈尋常之間」
【墨汁】ボクジフ やたて。すみつぼ。
すみしる。林下偶談に「唐王勃屬レ文、初不二精思一、先磨二墨汁數升一」
【墨竹】ボクチク すみゑのたけ。圖繪寶鑑に「徽宗作二墨竹一」
【墨池】ボクチ すみつぼ。李白「墨池飛出北溟魚」これは草書の妙處を褒めたる句。
【墨守】ボクシユ 墨翟のよく城を守りし故事により、固く自說を執りて變ぜざるにいふ。後漢書に「時任城何休好二公羊學一、遂著二公羊墨守一」
【墨客】ボクカク 書畫の上手なる人。李白「雪山掃二粉壁一、墨客多二新文一」
【墨家】ボクカ 墨翟の學說を奉ずる人。宋史に「子類十七、五曰二墨家類一」
【墨涅】ボクデツ いれずみ。
【墨衰】ボクスヰ 書きたる墨のあと。圖繪寶鑑に「姜濟寫二山水一、無二墨衰一、有二雲烟出沒之奇一」
【墨莊】ボクサウ 多く書物を藏するをいふ。書言故事に「劉幾死、妻娶二書千餘卷一、指二示諸子一曰、汝父謂レ此爲二墨莊一、今貽二汝輩一、爲二學殖之具一」
【墨罪】ボクザイ 五刑の一、いれずみの刑。額に刻みて之に涅す。周禮に「墨罪五百」
【墨辟】ボクヘキ 前に同じ。書經に「墨辟疑赦、其罰百鍰」
【墨場】ボクヂヤウ 文墨のなかま。(翰墨場)。宋之問「書乃墨場絕、文稱詞伯雄」
【墨墨】ボクボク 聲なき貌。史記に「武王誘誘以興、段紂墨墨以亡」
【墨闌】ボクラン すみゑのらん。輟耕錄に「鄭所南先生、工畫二墨蘭一」
【墨水紙】ボクスヰし すひとりがみ。
【墨池】ボクチ すみつぼ。李白「墨池飛出北溟魚」これは草書の妙處を褒めたる句。
【墨突】ボクトツ 墨翟のよく城を守りし故事天下に傳へんが爲、四方に奔走し、爲に己の宅にて飲食すること少なく、そのけむりたしは黑くなる暇なかりき。班固「聖哲之法、棲棲遑遑、孔席不レ暖、墨突不レ黔」又、新論に「仲尼栖栖、突不レ暇レ黔、墨翟遑遑、席不レ及レ煖」
【墩】トン。都昆切。元。
なか(丘)。
(俗)トン。墩に同じ。

【墅】セイ、シヤウ。市政切。敬。盛に通ず。

【墟】
一もる(盛)二もるつは。
(俗)シフ。卽入切。緝。
(正)悉盡切。合。
ゆみづわ〳〵(湧)水のわき出づる聲。

【墮】
(俗)タ、ダ。吐火切。哿。
(正)キ。許規切。支。
一やぶる二くづす(頹)三こぼつ(毀)四つぶす(潰)五おつ(落)六おとす(落)七おこたる(惰に通ず)。
【墮落】ダラク 一(佛)道心を失ひて、惡道におちいる。法華經に「或當二墮落一爲レ火所レ燒」二下におつ。荀子に「毀壞墮落」
【墮淚碑】ダルヰ 晉の羊祜嘗て襄陽に守たり、遠近を綏懷し、甚だ民の心を得たり、卒するに及び哭聲相接す。襄陽の百姓、峴山の祜が平生遊憩せし所に碑を建て廟を立て、歲時饗祭す、その碑を望

む者、流涕せざるはなし、杜預よって名づけて墮淚碑といふ。晉書に見ゆ。

【墮ㇾ甑不ㇾ顧】カヘリトシテ　あさらめのよき。ことにいふ。後漢の孟敏の故事。後漢書に「孟敏荷ㇾ甑墮ㇾ地、不ㇾ顧而去、郭林宗問ニ其意一、曰、甑已破矣、視ㇾ之何益、林宗異ㇾ之」

【惰】タ。ダ。墮に同じ。

【墮】タン、ドン。徒南切。覃。さかがめ(壜)。

【墱】㊀トウ。丁鄧切。徑。㊁都騰切。蕩。

【墱】㊀ちひさきさか(小阪)㊁たかきはし(閣道)㊂ちひさきあな(小坎)㊃みなまた(水派)㊄牆を築くこゝろ。

【撫】㊀ボ、モ。莫胡切。虞。㊁ブ、ム。微夫切。虞。はか(墓)、つか(冢)。

【墳】㊀フン、ボン。符分切。文。㊁フン、ブン。父吻切。吻。㊂フン、ボン。部本切。阮。㊃一はか(墓)二なか(丘)三つつみ(塘)四おほいなり(大)五わかつ(分)㊄こえつち(肥土)㊅うごもつ(土の沸起す)。

【墳羊】ヤウ　魯の季桓子の井を穿ちて、中より得たりといふばけもの。國語に「土之怪曰ニ墳羊一」

【墳典】テン　三墳・五典の略、三皇・五帝の書の稱。徐陵「大成之德、自通ニ墳典一」

【墳衍】フン　岡陵と平澤の地と。潘岳「畫ニ墳衍一而分畿」

【墳墓】ボン　はか。おくつき。禮記に「奈何去ニ墳墓一也」又、白居易「墳墓多繞ㇾ村」

【墳樹】ジユ　墓に生へたる木。杜牧「故人墳樹五秋風」

【樫】ヤ。野の古文字。

【壙】クワウ。ワウ。胡光切。陽。埈に同じ。

十三畫

【㙍】㊀アウ、オウ。於到切。號。㊁キク、チク。乙六切。屋。一四方の土の居るべき處、ゐどころ㊂陾に作る。みづのほとり(水厓)㊃シヤウ。牆の俗字。

【墻】ケキ、キャク。吉歷切。錫。しきがはら(瓴)、一說に、未だ燒かざる瓦、かはらしたぢ。

【㙍】スキ。隧に同じ。

【墩】カウ、ケウ。墝に同じ。

【墾】コン。口很切。阮。一ひらく(開)二つとむ(力)、なさむ(治)三やぶる(傷)。

【墾田】コンデン　田地をひらく。國語に「道無ニ列樹一、墾田若ㇾ藝」

【墾耕】コウ　土地をひらきたがやす。

【墾壤】コウジヤウ　土地をひらく。列子に「扣ㇾ石墾ㇾ壤」

【墝】クワ。高に同じ。

【墺】㊀エキ、ヤク。夷益切。陌。㊁ト、ツ。同都切。虞。㊂わだち(軌道)㊃みち(道、塗)。ヒ、埤に同じ。

【墻】カウ、ゴウ。後到切。號。土かま。

【壁】ヘキ、ヒャク。必歷切。錫。一かべ、かき二とりで(軍壘)三がけ(厓)四なまめ(二十八宿の一)。

【壁立】ヘキリフ　一かべの如くにつったつ。張載「劍閣壁立千仞」二かべの立てるのみにて他の家財なし。貧家の形容。北史、崔挺傳に「家徒壁立、兄弟怡然」

【壁光】ヘキクワウ　苦學することにいふ。漢の匡衡の故事。漢書に「衡勤ㇾ學、家貧無ㇾ燭、隣舍有ㇾ燭而不ㇾ逮、乃鑿ニ壁引ニ其光一而讀ㇾ之」

【壁地】ヘキチ　ついぢ。戰國策に「營ニ壁地一植ㇾ表」

【壁書】ヘキショ　かべに書きたる文字。又、我國にて、戰國時代の大小名などの家法。

〔土部〕壁墱壇壅壞壜壇壘壙壞壞壜壜壜

〔土部〕 壓壓壔壕壘墻墓壇壘壙壟壟壟

士部

部首

【士】シ、ジ。鉏里切。紙。㊀さむらひ、四民の首たりしもの㊁官吏の總名㊂裁判官㊃もののふ（武夫、兵士）㊄をとこ（男子の通稱）㊅ことゝ、わざ（事に通ず）㊆ことゝす（事）。

【士氣】キ さむらひかたぎ。周伯琦「天淨文星麗、寒收士氣叢」

【士風】フウ 前に同じ。

【士師】シ 獄をつかさどる官。論語に「柳下惠爲二士師一、三黜」

【士族】ゾク さむらひ。晉書に「家世士族」

【士操】サウ 士の守るべきみさを。晉書、王國寶傳に「少無二士操一、不レ修二廉隅一」

【士農工商】シノウコウショウ 人民の四種の別。穀梁傳に「古者四民、有二士民一、有二商民一、有二農民一、有二工民一」

【士爲二知レ己者一死】シハオノレヲシルモノノタメニシス 士はよく己の心を知れる人の爲には身命をなげうつ。晉の豫讓の語。史記に出づ。

一畫

【壬】ジン、ニン。如林切。侵。㊀みづのえ（十干の一、方位には北）㊁はらむ（任に同じ）㊂おふ（負）㊃おもれる（佞）㊄おほいなり（大）。

【壬公】ジンコウ みづのえのきみ、卽ち、水の異名。蘇軾「壬公飛レ空丁女藏」

四畫

【壯】サウ、シャウ。側亮切。漾。㊀さかんなり（盛）㊁おほひなり（大）㊂つよし（彊）㊃わかざかり（三十歳及びその前後）㊄すみやかなり（速）㊅はやし（疾）㊆やぶる（傷）㊇ひとひ（灸一灼）。

【壯士】シサウ 意氣さかんなるさむらひ。史記に「項王曰、壯士、賜二之巵酒一、則與二斗巵酒一」

【壯夫】フサウ ㊀前に同じ。李白「僕本壯夫、慷慨不レ歇」㊁わかざかりのをとこ。韓愈「君爲二壯夫一、我少年」

【壯月】ゲツサウ 八月の異名。爾雅に「八月爲レ壯」

【壯志】シサウ さかんなるこころざし。又、志をさかんにす。隋書、李子雄傳に「少有二壯志一」

【壯勇】ユウサウ 年わかくして勇氣あり。陸贄「選二四方壯勇一、實二之邊城一」

【壯茂】ボウサウ さかんにしげる。（繊茂）。易林に「明庶長養、花葉壯茂」

【壯者】シサウシヤ 血氣盛りのもの。孟子に「壯者散往二四方一、者、幾千人矣」

【壯倍】バイサウ 勇氣ますます加はる。韓愈「雄哮乍咽絶、每レ發壯益倍」

【壯烈】レツサウ 勢さかんなり。志氣いさましし。魏書、刁冲傳に「冲雖二儒生一、而執レ心壯烈、不レ畏二强禦一」

【壯悍】カンサウ さかんにして勇ましし。魏書に「北人壯悍、上レ馬持二三仗一、驅馳若レ飛」

【壯意】イサウ さかんなる意氣込。後漢書、馬援傳に「賊每レ升レ險、鼓譟、援輒曳レ足以觀レ之、左右哀二其壯意一、莫レ不二爲レ之流涕一」

【壯語】ゴサウ 雄壯なることば。又、いさましげに語る。文心雕龍に「高二談公館一、壯二語畋獵一」

【壯厲】レイサウ さかんにはげむ。晉書に「人情挫辱、則壯厲之心生」

【壯齒】シサウ わかざかり。梁簡文帝「禮者二幼年一、業明二壯齒一」

【壯圖】トサウ さかんなるくはだて。杜甫「曹公風二壯圖一」

【壯膽】タンサウ いさましき氣力。員半千「蹀レ血多二壯膽一、襄レ革無二怯魂一」

【壯麗】レイサウ さかんにしてうるはし。後漢書、魯海恭王彊傳に「魯恭王好二宮室一、起二靈光殿一、甚壯麗」

【壯懷】クワイサウ さかんなるおもひ。韓愈「風雲入二壯懷一、泉石別二幽耳一」

【壯觀】クワンサウ さかんなるみもの。陸游「積雪樓臺增二壯觀一」

【声】セイ、シャウ。聲の俗字。

六畫

【壴】チュ。冢庚切。奚。㊀樂を陳ぬ（豈の譌字）㊁豎の字に借り用ゐる。

説文に「屮に从ひ、豆に从ふ、士部に附するは非なり」

八畫

【壺】コ。洪孤切。虞。㊀つぼ（酒器）㊁ふくべ、ゆふがほ（葫蘆）。

【壺蜂】ホウコ 〔動〕一種の蜂の名。方言に「蜂大而蜜、謂二之壺蜂一、今人亦呼爲二胡蜂一」

【壺漿】シヤウコ 壺に入れたる飲物。孟子に「簞食壺漿、以迎二王師一」

【壺罌】アウコ かめ。鮑照「何時傾レ杯竭二壺罌一」

【壺中天】ノチヂウコ 小さきそらの義。又、小さくとも自家の安身地ある義に用ゐる。李白「蹉跎人間世、寥落壺中天」

九畫

【壹】ヰツ、イチ。益悉切。質。㊀一。ひとつ㊁ひとたび（一回）㊂はじめ（始）㊃もっぱら（專）㊄あはす（合）㊅あつし（醇）㊆まこと（誠）㊇とづ（閉）㊈ふさぐ（塞）㊉おなじ（同）㊊すべて（凡）㊋みな（皆）㊌ろ（組、氣に通ず）。

【壹是】シヤウ 一樣に。すべて。大學に「自二天子一、以至二於庶人一、壹是皆以レ修レ身爲レ本」

【壹意】イチイ 一事にのみ心をそそぐ。史記に「專レ心并レ力壹レ意」

【壹倡三歎】イツシヤウサンタン 一人唱へて、三人これに和す。三たび歎息するとするは誤用なり。禮記に「清廟之瑟、朱絃而疏越、壹倡而三歎、有二遺音一者矣」

【壹發五豝】イツパツゴハ 一矢を發して五豝を獲。獲物の多きを示す語なり。詩經に「彼茁者葭、壹發五豝、豝は牝豕なり。一解に、二歲の豕、又、大猪なりと。

【壺】コ。壺に同じ。

【壹】ウン、ヲン。於云切。文。

縕に通じ用ゐる。

【壹】セイ、サイ。思計切。霽。

むすぼる（鬱）。

【壻】セイ、サイ。思計切。霽。㊀むこ（女夫）㊁なっと（妻の夫を呼ぶ稱）㊂同門相呼ぶ稱。

説文に「士に从ふ、胥の聲、或は、女に从ひ、婿に作る、義通ず」

【壻蜴】サイヨウ むこ。王惲「自云漢壻蜴、赫怒開寶沈」

十畫

【壺】コン。苦本切。阮。宮中を往來する道、閫道。

十一畫

【壽】ジュ、ジュ。承呪切。宥。㊀ひさし（久）㊁いのちながし㊂とし（年齒）㊃ことぶき㊄星の名。

【壽木】ジュボク ながいきする木。拾遺記に「祈淪之國、有二壽木之林一、一樹千尋」

【壽考】ジュカウ ながいき。又、いのちながし。詩經に「周王壽考、遐不レ作レ人」

【壽命】ジュミヤウ いのち。東方朔「養二壽命一之士、莫二肯進一也」

【壽冢】ジュチヨウ 生前に建て置くはか。南史、王僧虔傳に「令家人豫作二壽冢一」

【壽豈】ジュガイ いのちながくしてたのしむ。詩經に「宜レ兄宜レ弟、令德壽豈」

【壽康】ジュカウ いのちながくして安かなり。詩經に「俾二爾壽而康一」

【壽福】ジュフク ながいきとさいはひと。易林に「振二除災害一、更與二壽福一」

【壽藏】ジュザウ 生前に建て置くはか。後漢書、趙岐傳に「年九十餘、先自爲二壽藏一」

【壽山石】ジュサンセキ 〔鑛〕らふせき。

【壽仙魚】ジュセンギヨ 〔動〕かがみだひ。

【壽星桃】ジュセイタウ 〔植〕からもも。

【壽則多レ辱】イノチナガケレバハヂオホシ 長命なれば恥たうくること多し。莊子に「堯曰、多二男子一則多レ懼、富則多レ事、壽則多レ辱、是三者、非レ所二以養レ德也」

〔士部〕壻〔夂部〕夂夆夂夆夂夆

【外侮】外より受くるあなどり。左傳に「其懷二柔天下一也、猶懼レ有二外侮一、善禦レ侮者、莫レ如レ親レ親」

【外祖】母方の祖父母。晉書に「當レ爲二外祖一成二此宅相一」

【外孫】むすめの子。史記、劉敬傳に「陛下誠能以二適長公主一妻レ之、冒頓在、固爲二子婿一、死則外孫爲二單于一、豈嘗聞下外孫敢與二大人一抗禮者上哉」

【外敎】外より來るたすけ。戰國策に「外敎必至」

【外貫】外國よりのみつぎ。文同「外貫入二中原一、萬里隨二大舸一」

【外戚】母方のみうち。後漢書に「昔馮野王以二外戚一居レ位、稱爲二賢臣一」

【外患】外國より亂さるるわづらひ。孟子に「無二敵國外患者一、國恆亡」

【外寇】外國より攻めくるあだ。國語に「留二外寇一、而不レ害」

【外務】世の中に對するつとめ。又、外國に關する政務。常袞「混冥元和、放二絕外務一」

【外敎】佛敎以外のをしへ。梁武帝「既乖二內典慈悲之儀一、又傷二外敎好生之德一」

【外部】そとがは。

【外道】〔佛〕佛敎以外のみち。傳燈錄に「心外求レ法、名爲二外道一」

【外援】外より來るたすけ。韓非子に「內黨外援、以爭二事勢一者、可レ亡也」

【外甥】妻の姉妹のむすめ。爾雅に「妻之昆弟曰二外甥一、其姊妹女也」

【外舅】妻の父。爾雅に「妻父爲二外舅一、妻之母爲二外姑一」

【外殿】天子諸侯には內殿外殿あり、內殿にては內地產の馬を畜ひ、外殿にては外國產の馬を畜ふ。李斯「駿良駃騠、不レ實二外殿一」

【外聞】世間へのきこえ。太史に「惟懼レ玷二缺外聞一」

【外賓】外國より來れる賓客。元稹「古者諸侯饗二外賓一、鹿鳴三奏陳二圭瓚一」

【外禦】外部に向つてあなどりをふせぎ止む。詩經に「兄弟鬩二于墻一、外禦二其務一」

【外壕】そとぼり。五代史に「出レ兵收二外壕一、從周掩擊之」

【外藩】諸侯王のくに。晉書に「哀帝以二外藩一援立」

【外議】外にてのうはさ。五代史、唐太祖子傳に「陰察二外議一」

【外王父】母の亡父、爾雅に「母之考爲二外王父一」

【外王母】母の亡母。爾雅に「母之妣爲二外王母一」

【外兄弟】妻の兄弟。儀禮、疏に「外兄弟者、姑是內人、以出レ外、而生故也」

【外姊妹】妻の姉妹。

【外曾王父】母の亡祖父。爾雅に「母之王考、曰二外曾王父一」

【外曾王母】母の亡祖母。爾雅に「母之王妣、爲二外曾王母一」

【外强中乾】外貌は才子の如きも、その實才なきをいふ。書言故事に「外强中乾、曰二徒有二外貌一」

【外言不レ入二於梱一】男子は內のことをいはざる義。禮記に「外言不レ入二於梱一、內言不レ出二於梱一」

【夗】㊀エン、ヲン。於阮切。阮。㊁烏勉切。銑。㊂臥しまろぶ貌。すごろくの采。

夙

シュク、ソク。息六切。屋。

㊀はやし(早)㊁あした(早朝)㊂つつしむ(敬)㊃つとに。

【夙心】もとのこころ。高啓「不レ負二滄洲約一、重來論二夙心一」

【夙成】をさなくして成熟す。後漢書に「幼主明智聰敏、有二夙成之德一」

【夙志】かねてのこころざし。韓愈「吾聞九疑好、夙志今欲レ伸」

【夙昔】つねに。平生。古樂府に「夙昔夢見レ之」

【夙夜】朝はやく起き、夜おそく寢ぬ。禮記に「夙夜强學以待レ問」

【夙起】朝はやくおく。

【夙莫】あさとひぐれと。陸雲「感二秋林之夙莫一、悲二芳草之中霜一」

【夙悟】はやくさとる。をさなくしてさとし。謝靈運「愧二班生之夙悟一、慙二尙子之晚妍一」

【夙敏】をさなくしてさとし。(幼敏)。南史に「夙敏方成二佳器一」

【夙就】はやくおとなぶ。蔡邕「早智夙就、參美顯宗」

【夙意】かねての意見。(宿意)。宋書、謝述傳に「述知二景仁夙意一」

【夙興】朝はやく起く。詩經に「夙興夜寐、無忝二爾所生一」

【多】

タ。當何切。歌。

㊀おほし(衆)㊁まさる(勝)㊂おほくす(衆)㊃刻求の意㊄いさを(戰功)㊅稱美す㊆まさに(適)。

【多力】力つよし。韓非子に「其多力者樹二其黨一、寡力者借二外權一」

【多士】おほくの秀才。詩經に「濟濟多士、文王以寧」

【多方】あちこち。いろいろのむき。左傳に「多方以誤レ之」

【多少】㊀多きと少きと。史記に「以二多少一爲レ異」㊁おほし。杜牧「南朝四百八十寺、多少樓臺煙雨中」

【多言】おほくものいふ。しゃべる。(饒舌)。詩經に「人之多言、亦可レ畏也」

【多事】ことしげし。いそがはし。莊子に「堯曰、多レ男則多レ懼、富則多レ事」

【多幸】おほくのさいはひ。

【多故】心配ごとおほし。國語に「王室多レ故、余懼及焉」

【多能】才能おほし。論語に「子曰、吾少也賤、故多二能鄙事一、君子多乎哉、不レ多也」

【多時】久しきあひだ。王安石「留二連山水一、立多時」

【多容】ひろく人をいる。荀子に「寬裕而多容」

【多病】病氣がちなり。晉書、衞玠傳に「衞玠、多病體羸」

【多般】たのしみおほし。宋史に「求二淑女一兮、豈樂多般」

【多祜】おほくのさいはひ。潘岳「熙神委命、已求二多祜一」

【多疵】あやまちおほし。戰國策に「齊兒辨之爲レ人也、多レ疵」

【多欲】欲ぶかし。韓詩外傳に「福生二于無爲一、而患生二于多欲一」

【多情】こころ多し。又、うつりぎ。杜牧「多情卻似二總無情一」

【多望】多情卻似二總無情一」

【多聞】仲憑し。左傳に「君臣多レ聞」

【多辟】諸侯をいふ。詩經に「天命二多辟一、設二都于禹之績一」

【多寡】多きとすくなきと。孟子に「五穀多寡同、則價相若」

【多端】事おほし。いそがはし。景福殿賦に「惟工匠之多端」

【多福】おほくのさいはひ。書經に「嚮二受多福一」

【多聞】㊀廣く諸說を聞き知る。荀子に「多聞曰レ博」㊁聞識多き人。論語に「友二多聞一」

【多謝】深く禮をいふ。漢書に「界上亭長曰、至レ府爲レ我、多謝問二趙君一」

【多穫】おほく穀物をとりいる。歐陽修「多穫由二力耘一」

【多錢翁】かねもちおやぢ。貴耳集に「有二一多錢翁一、每自誇侈」

【多多益善】多ければ、多い程、ますますよく之を處置す。史記に「上問曰、如レ我能將二幾何一、信曰、陛下不レ過二能將二十萬一、上曰、於二君何如一、曰、臣多多而益善耳」漢書には「多多益辨」に作る。

【多岐亡羊】學問の道の多方にして、眞理を得ることの難きに喩へていふ。列子に「都子曰、大道以多岐亡レ羊、學者以多方喪レ生、學非二本不レ同、非二本不レ一、而末異若レ是、唯歸レ同反レ一、爲レ亡二得喪一」

【多材多藝】藝能おほし。書經に「予仁若考、能多材多藝、能事二鬼神一」

【多歷年所】おほくの年月をへ

たり。西京賦に「多歴二年所一二百餘期」【多錢善賈】財おほきものは、事を成し易きをいふ。韓非子に「鄙諺曰、長袖善舞、多錢善賈、此言二多資之易一レ爲レ工也」

五畫

【夜】 ㊀ヤ、エ。寅謝切。禡。 ㊁テキ、チャク。他歴切。錫。 ㊂一よ、よる、よべ（晝の對）㊃よは（夜半）、よふけ（深更）㊄ふしど（臥處）㊅よるの時刻 ㊆よ、よる。

【夜叉】〔佛〕惡鬼。譬喩品に「夜叉惡鬼、食二噉人肉一、共相殘害、飲レ血噉レ肉」

【夜火】よるたくひ。越絶書に「爲二詐兵一、爲二兩翼一、夜火相應」

【夜分】よなか。李白「匡坐至二夜分一」

【夜市】よるのまち。東京夢華錄に「中秋節夜市駢闐、至二于通曉一」

【夜半】よなか。（牛夜）。張繼「夜半鐘聲到二客船一」

【夜汐】よるのひきしほ。葛長庚「晝潮夜汐大江東」

【夜合】〔植〕ねぶのき。合歡木。韋應物「夜合花開香滿レ庭」

【夜行】よあるき。禮記に「夜行以レ燭、無レ燭則止」

【夜作】よなべ。漢書、陳湯傳に「然二脂火一、夜作」

【夜色】よるのけしき。杜牧「天街夜色涼如レ水、臥看牽牛織女星」

【夜雨】よるのあめ。杜甫「夜雨剪二春韭一、新炊間二黃粱一」

【夜泊】夜ふなどまりす。張繼「楓橋夜泊」

【夜呼】〔植〕やまごばう。たうごばう。（蒲陸、馬尾）。

【夜來】ゆふべから。孟浩然「夜來風雨聲、花落知多少」

【夜臥】よふかし。說苑に「喜二夜臥一者、不レ能二蚤起一」

【夜直】禁中に宿直す。玉海に「眞宗嘗令二邢昺說レ經、夜直禁閣一」

【夜柝】夜を警しむる爲に擊つひゃうしき。駱賓王「邊城夜柝聞」

【夜郎】西南夷の國名。夜郎はその夷の中にて勢強く尊大なりしにより、愚者がその仲間にて尊大にかまふることに借りていふ。漢書に「賈夷君長以十數、夜郎最大」

【夜客】ぬすびと。李涉井欄砂宿遇二夜客一詩に「暮雨蕭蕭江上村、綠林豪客夜知聞、他時不レ用逃二名姓一、世上如今半是君」

【夜氣】よの沈まりたる氣。劉孝儀「夜氣清二簫管一、曉陣爍二郊原一」

【夜哭】よるなく。禮記に「寡婦不二夜哭一」

【夜涼】よるのすゞしき氣。孟浩然「松月生二夜涼一」

【夜船】よふね。許渾「山風寒殿磬、溪雨夜船燈」

【夜笛】よる吹くふえのね。陳後主「谷暗宵鉦響、風高夜笛喧」

【夜絃】よるひく琴のね。鮑照「紛紛鬱思盆、慊慊夜絃迫」

【夜梵】よるの勤行。江總「夜梵聞二三界一、朝香徹二九天一」

【夜深】よふけ。陸彥章「明月偏憐汝、幽人獨夜深」

【夜窗】よるのまど。柳宗元「夜窗讀二芳氣一」

【夜遊】よるあそぶ。李白「古人秉レ燭夜遊、良有レ以也」

【夜景】よるのけしき。宋史に「廟楹邃嚴、夜景蕭清」

【夜話】よるのはなし。白居易「夜話坐及二東方明一」

【夜臺】はかあな。李白「夜臺無二李白一、沽酒與二何人一」

【夜漏】よるの時間。李中「長笛起二誰家一、秋涼夜漏賒」

【夜學】よるまなぶ。又、よるの學問。孟郊「夜學曉未レ休」

【夜歸】よるかへる。晉書、夏統傳に「星行夜歸」

【夜闌】よふけ。蔡琰「更深夜闌」

【夜警】よるのいましめ。吳融「鴉鵲夜警地塘冷」

【夜鵲】鵲は子を擁護して夜いねず。以て愛情の深きに喩ふ。白居易「夜鵲憶レ子籠中鳴」

【夜襲】ようち。魏志に「太祖夜襲、比レ明破レ之」

【夜邏】よまはり。棄適「夜邏無二騷音一」

【夜光珠】寶珠の名。（連城珠）。述異記に「南海有レ珠、卽鯨目、夜可二以鑒一、謂二之夜光一」

【夜合樹】〔植〕ねむのき。（合歡木）。

【夜以繼日】日夜業務を務むるをいふ。莊子に「貴者夜以繼レ日、思二慮善否一」又、韓愈、焚二膏油一以繼レ晷」

【夜行被繡】夜あるくにぬひとりの衣を著る。功名を懷きて世に知られざるにいふ。史記、項羽紀に「富貴不レ歸、如二被レ繡夜行一、誰知レ之者」

【姓】 ㊀セイ、シャウ。疾盈切。庚。 ㊁サウ、シャウ。留莖切。庚。はる（晴に同じ、雨晴れて星の見ゆるにいふ字）。

七畫

【豹】 井ヘン、ウン。羊倫切。眞。あまねし（周）。タン、トン。丁含切。覃。おほし（多）。

【貌】 ㊀ボウ、ム。莫鳳切。送。 ㊁莫忠切。東。 ㊂ボウ、モウ。彌登切。 ㊃一ゆめ（睡眠中に現の如く感ぜらるる現象）㊄ゆめむ、夢を見るㄅくらし（叢）㊅くさむら（叢）㊆明かならざる貌 ㊇ゆめ。

【夢兆】ゆめじらせ。摯虞「豈或有レ懷レ道釣レ築、而不レ感二于夢兆一者乎」

【夢死】何事をもなさずして死す。程子語錄に「雖高才明智、膠二于見聞一、醉生夢死、不二自覺一也」

【夢裏】ゆめみるあひだ。張九齡「所思如二夢裏一」

【夢寐】いねて夢をみる。後漢書、郎顗傳に「此誠臣顗區區之意、夙夜夢寐、盡心所レ計」

【夢想】夢の中におもふ。古詩に「獨宿累二長夜一、夢想見二容輝一」

【夢魂】ゆめ。林逋「芳草閒迷蝶夢魂」

【夢徵】ゆめじらせ。老學菴筆記に「夢徵止レ此」

【夢魘】ゆめにおそはる。韓愈「猶疑在二波濤一、怵惕夢成レ魘」

【夢中占レ夢】夢中に夢の吉凶を判斷す。次條の莊子の語に本づきていふ。王績「夢中占レ夢罷、還向二酒家一來」

【夢中夢レ夢】人世のはかなきに喩ふ。莊子に「方二其夢一也、不レ知二其夢一也、夢中又夢二其夢一焉、覺而後知二其夢一也」又、冷齋夜話に「夢中說レ夢、可二掩レ卷笑一」

【夢幻泡影】〔佛〕事の捉ふべき所なきに喩ふ。金剛般若經に「一切有爲法、如二夢幻泡影一」

【夢】 【冥】 ㊀ボウ、ム。夢の俗字。 ㊁イン。夷眞切。眞。 ㊂イ。延知切。支。 ㊃一つつしむ（敬）。

㊁おそる(惕)㊂ひく(牽引)㊃すすむ(進)㊄すがる(縁連)㊅おほいなり㊆とほし、とほき處㊇又、殯に作る、腰に絡ひたるもの㊈つつしむ㊉とほし。

【貧縁】 つきまとふ。韓愈「青壁無レ路雖二貧縁一」

【綱】 テウ。丁聊切。蕭。おほし(多)、おほいなり(大)。㊀クワ、ワ。胡果切。哿。㊁カイ、ゲ。懐枴切。蟹。おびただし、おほし。

【夥】 クワ。あまた。(衆多)。顔眞卿「凡斯夥多、庸可二悉數一」

【縲】 クワ、ワ。カイ、ゲ。夥に同じ。

大部

部首

【大】 ㊀ダイ、ダイ。徒蓋切。泰。㊁タ。唐佐切。箇。㊂タ、ダ。吐臥切。箇。㊃一おほいなり(小の對)㊄おほきし㊅すぐれたり(過)㊆ながし(長)㊇ふとし(太)㊈あまねし(徧)㊉こえたり(肥)㊊はじめ(初)㊋ふとさ(太)、おほきさ㊌おほきに㊍おほいなり㊎たけし(猛)、はなはだし(甚)。

【大一】 イチ。至りて大いなり。小一の對。莊子に「至大無レ外、謂二之大一一」

【大人】 ㊀父の稱。漢書、霍去病傳に「跪曰、去病不レ早知レ爲二大人遺體一」㊁母の稱。漢書、范滂傳に「滂將レ就レ誅、與レ母訣曰、大人割二不レ忍之愛一」㊂大德の人の稱。小人の對。易經に「飛龍在レ天、利レ見二大人一」

【大力】 ㊀大いなるちから。南史に「儉笑曰、所謂大力者負レ之而趨」㊁造化をいふ。李白「大力運二天地一、羲和無二停輪一」

【大才】 大いなるちから。唐書に「大才當二大用一」

【大小】 おほいなるとちひさきと。左傳に「問二鼎之大小輕重一焉」

【大士】 ㊀德行の勝れたる士。管子に「務レ物之人、無二大士一焉」㊁周代の官名。左傳、注に「大士、治獄官也」

【大工】 コウ。長きたくみ。六韜に「大農、大工、大商」

【大凡】 オホソ。たいていい。韓愈「大凡物不レ得二其平一則鳴」

【大父】 フ。ちち。祖父。漢書、鄭當時傳に「其知友皆大父行、天下有名之士也」

【大丈】 ジョウ。大いなるのり。書經に「臨二君周邦一、率二循大丈一」注に「大法也」

【大水】 ㊀おほみづ。(洪水)。春秋に「桓公元年秋大水」㊁大いなる海・河・湖などの稱。釋名に「天下大水四、謂二之四瀆一」

【大斗】 ㊀大いなるひしゃく。詩經に「酌以二大斗一、以祈二黃耇一」㊁大いなるます。史記に「田常以二大斗一出貸、以二小斗一收之」

【大内】 ㊀天子の府庫をつかさどる官。史記に「以二大内一爲二千石一」㊁我國にて、内裏(ダイリ)の稱。

【大方】 ㊀世の中のかしこき人。莊子に「吾長見笑二於大方之家一」㊁おほかた。あらまし。陸機「見二紱世之長御一識二人情之大方一」

【大火】 ㊀大火の心星。左傳に「味爲二鶉火一、心爲二大火一」㊁夏のあつさ。陸龜蒙「人間方大火、此境無二朱夏一」

【大夫】 フ。㊀周代の官名、卿の下に位す。禮記に「三公九卿、二十七大夫、八十一元士」㊁松の異名。泰山記に「小天門有二秦時五大夫松一」㊂我國にて、五位の通稱。㊃ダイブ。我國にて、職の長官。

【大氏】 テイ。おほよそ。漢書に「天下大氏、無慮皆鑄二金錢一」

【大白】 ハク。罰爵の名。後世はすべて酒杯をいふ。說苑に「魏文侯與二大夫一飲レ酒、使二公乘不仁爲一觴政一、曰、飲不レ盡浮二觴大白一」

【大丙】 ヘイ。おほぞら。又、神の名。淮南子に「昔者馮夷大丙之御也、乘二雲車一、入二雲蜺一、排二閶闔一、論二天門一、雖レ有二輕車良馬一、不レ能二與レ之爭レ先」

【大牙】 ガイ。天子又は將軍のたつる旗。東京賦、注に「古者天子出、建二大牙旗一、竿上以二象牙一飾レ之」

【大用】 ヨウ。㊀重大なるつひえ。周禮に「以待二邦之大用一」㊁重任を負はす。史記に「康子使レ召二冉求一、孔子曰、魯人召レ求將大用之也」

【大北】 ホク。大いに敗る。國語に「不レ鼓不レ譟、以襲二攻之一、吳師大北」

【大母】 ボ。ばば、祖母。漢書に「李太后、親平王之大母也」

【大旨】 シ。おもなるむね。

【大行】 カウ。㊀天子の崩御をいふ。その未だ諡を奉らざる間を大行皇帝と稱す。史記に「大行未レ發、喪禮未レ終」又、通典に「帝初登遐、朝臣稱曰二大行皇帝一」㊁賓客の禮を掌る官。史記に「大行設二九賓臚句傳一」

【大同】 ドウ。混同して細分せず。辛德源「關山復無阻、車書方大同」

【大考】 カウ。大いに官吏の能否勤惰を考査す。周禮に「三年大比、則大二考州里一、以贊二鄉大夫廢興一」

【大半】 ハン。半分以上。又、おほかた。史記に「龍且軍大半不レ得レ渡」

【大全】 ゼン。さらに缺けたるところなし。(完全)。莊子に「徵二夫子之發一、吾覆也、吾不レ知二天地之大全一」

【大汎】 ハン。大いにひろし。沈約「陞二此大汎庭一、方知二九垓局一」

【大任】 ニン。重大なる任務。呂氏春秋に「淳于髡曰、臣不肖、不レ足二以當一大任一」

【大有】 イウ。易の卦の名。易經に「大有元亨」

【大匠】 シヤウ。すぐれたるたくみ。老子に「代二大匠一斲、希レ有レ不レ傷二其手一」

【大戎】 ジユウ。大いなる兵車。(元戎)。詩經、疏に「先啓行之車、謂二之大戎一」

【大志】 シ。大いなるこころざし。唐書に「太宗爲レ人、聰明英武有二大志一、而能屈レ節下レ士」

【大妙】 メウ。道の至極せる處。又、いたく神妙なり。莊子に「顏成子游謂二東郭子蒉一曰、吾聞二子之言一、七年而天成、八年而不レ知レ生、九年而大妙」

【大旱】 カン。おほひでり。孟子に「若二大旱之望一雲霓一也」

【大位】 キイ。ふきくらぬ。たふとき官。後漢書に「不レ有二忠言奇謀一、而取二大位一」

【大車】 シヤ。㊀大いなるくるま。易經に「大車以載」㊁大夫ののるくるま。詩經、傳に「大車、大夫之車」

【大壯】 サウ。㊀大いにさかんなり。㊁易の卦の名。易經に「大壯利レ貞」又「上古穴居而野處、後世聖人、易レ之以二宮室一、上棟下宇、以待二風雨一、蓋取二諸大壯一」

【大言】 ゲン。たかぶることば。おほげさのことば。禮記に「君子不レ以二小言一受レ大祿、不レ以二大言一受レ小祿」

【大呂】 リヨ。㊀周廟の大鐘の名、九鼎と共に周の寶器なり。㊁音律の名、十二月に配す。禮記に「季冬之月、律中二大呂一」

【大庇】 ヒ。大いにかばふ。杜甫「安得二廣廈千萬間一、大庇二天下寒士一俱歡顏」

【大我】 ガ。〔哲〕宇宙の各我の根本たる絶對的の我。小我の對。

【大姓】 セイ。いきほひ強きやから。漢書に「豪猾吏及大姓犯レ法、輒論輸二府一」

【大東】 トウ。ひがしのはて。詩經に「雨二有龜蒙一、遂荒二大東一」

【大使】 シ。國家又は君主を代表せる最上の使者。北史に「詔二大使一巡二行天下一、求二政善惡一」

【大易】 エキ。易經をいふ。魏都賦に「覽二大易與二春秋一」

【大味】 ビ。すぐれたるあぢはひ。揚雄「大味必淡、大音必希」

【大兒】 ジ。あに。轉じて、賢者の優れたるを指す。後漢書に「大兒孔文舉、小兒揚德祖、餘子碌碌、不レ足レ數也」

【大抵】 テイ。おほかた。たほよそ。史記に「大抵盡詆以二不道一」

【大明】 メイ。太陽。禮記に「大明生二於東一」

【大昕】 キン。よあけ。早晨。禮記に「天子親學、大昕鼓徵、所二以警一衆也」

【大命】 メイ。㊀天よりの命。書經に「集二大命于厥躬一」㊁君主よりの命。後漢書、王

常傳に「常謝二光武一曰、臣蒙二大命一」

【大典】チン 大いなる儀式。後漢書に「括二囊大典一、網二羅衆家一」

【大洋】ヤウ おほうみ。耶律楚材「北漠絶二窮域一、西隅抵二大洋一」

【大郊】カウ 王者の天を祀る名。孔子家語に「魯無二冬至大郊之事一」

【大柄】ヘイ 大いなる權力。禮記に「禮者君之大柄也」又、宋史に「公正之道莫レ先二於賞罰一、斯爲二政之大柄一也」

【大指】シ おもなるむね。史記、汲黯傳に「治官理民好二清淨一、擇二丞史一、而任レ之其治責二大指一而已」

【大洽】カフ 大いに和合す。儀禮、集傳に「以勤二文王之宣光一、以揚二武王之大訓一、而天下大洽」

【大俠】ケフ 大いなるをとこだて。史記に「滕公心知二朱家大俠一」

【大侵】シン 大饑饉をいふ。韓詩外傳に「一穀不レ升曰レ歉、二穀不レ升曰レ饑、三穀不レ升曰レ饉、四穀不レ升曰レ荒、五穀不レ升曰二大侵一」

【大悟】ゴ 大いに悟をひらく。迷妄を打破して眞理を洞見す。

【大逆】ギヤク いたく道にそむきたるおこなひ、卽ち、君・父などを弑するをいふ。

【大烈】レツ 大いなるいさを。書經に「揚二武王之大烈一」

【大施】シ 日月とのぼり龍とくだり龍とを畫けるおほはた。儀禮に「天子乘レ龍載二大施一」

【大故】コ ㊀惡逆をいふ。論語に「故舊無二大故一則不レ棄也」㊁大喪をいふ。孟子に「不幸至二於大故一」㊂大事をいふ。禮記に「君子非レ有二大故一不レ宿二于外一」

【大知】チ 大いなるものしり。史記に「舜其大知也與」

【大勇】ユウ 大いなる勇氣。まことの勇氣。孟子に「吾嘗聞二大勇於夫子一矣」

【大乘】ジヨウ 〔佛〕佛教中の深理の部分を說きたる學問。慈悲博愛の主義により て一切の衆生を救ふ敎。小乘の對。法華經に「必以二大乘一而得二度脫一」

【大度】ド 大いなるはたらき。漢書、揚雄傳に「自有二大度一、非聖之書不レ好也、非二其意一、雖二富貴一不レ事也」

【大風】フウ ㊀おほかぜ。轉じて、大いなる動亂。漢高祖「大風起兮雲飛揚」㊁惡疾の名、かったい。素問に「病二大風一、骨節重、鬚眉落」

【大要】エウ あらまし。おもなるむね。(槩要)。阮籍「大要不易方」

【大笑】セウ 大いにわらふ。老子に「下士聞レ道大笑レ之」

【大家】カ ㊀富貴の家。左傳に「箕襄形帶叔禽叔椒子羽皆大家也」㊁學藝にすぐれたる人。㊂しうとめ。類書纂要に「婦稱レ姑爲二大家一」㊃近侍の官より天子を稱する語。獨斷に「親近侍從官、稱二天子一曰二大家一」

【大員】ヰン 高位の者のあたまかず。又、高位の人。晉書に「不可レ徒充二大員一、以塞中聰儁之路上」

【大差】サ おほちがひ。

【大哭】コク 甚だしくなく。史記に「漢王聞レ之、袒而大哭」

【大族】ゾク 勢力あるいへがら。北史に「高門大族、意所レ不レ便者、弁因毀之」

【大哥】カ あに。兄。酉陽雜俎に「帝呼二寧王一爲二大哥一」

【大理】リ ㊀刑獄を司る官。春秋天命篇に「堯爲二天子一、得二皐陶一、聽爲二大理一」㊁我國にて、檢非違使別當の異稱。

【大畜】チク 易の卦の名。易經に「大畜利レ貞、不二家食一、吉、利レ涉二大川一」

【大耋】テツ 八十歲以上の老人の稱。王績「寄言悠悠者、無爲嗟二大耋一」

【大倫】リン 人の大いなる道すぢ。孟子に「內則父子、外則君臣、人之大倫也」

【大息】ソク ためいき。戰國策に「春申君曰、僕已知二先生一、先生大息矣」

【大赦】シヤ 天下の罪囚を悉くゆるす。漢書に「地節二年、鳳凰集二魯郡一、羣鳥從レ之、大二赦天下一」

【大過】クワ ㊀易の卦の名。易經に「大過棟橈、利レ有レ攸レ往亨」㊁大いなるあやまち。左傳に「不穀不レ有二大過一」

【大常】ジヤウ 日月を畫きたる天子の旗。周禮、注に「大常、九旗之畫二日月一者」

【大絃】ゲン 樂器のふときいと。後漢書に「爲レ政猶レ張二琴瑟一、大絃急者小絃絶」

【大雪】セツ 小雪の次に來る氣節、十二月七日頃。

【大造】サウ 大いなる功をなす義。左傳に「是我有レ大二造于西一也」

【大婚】コン 天子の婚禮の稱。春秋胡氏傳に「不レ重二大婚之禮一、失二其節一矣」

【大陸】リク ㊀大いなる陸地。爾雅に「大陸曰レ阜」㊁澤の名。書經に見ゆ。

【大率】オホムネ あらまし。白居易「愚愚類相交、人情之大率」

【大略】リヤク ㊀おほよそ。あらまし。孟子に「此其大略也」㊁大いなるほかりごと。史記に「安國爲レ人多二大略一」

【大液】エキ 漢の武帝の作りし池。白居易「大液芙蓉未央柳」

【大區】ク 天ないふ。淮南子に「縱レ志舒レ節、以馳二大區一」

【大將】シヤウ 軍の總指揮官。抱朴子に「大將民之司命、社稷之存亡、於レ是乎在」

【大逵】キイ 大いなるみち。左傳に「子都拔レ棘以逐レ之、及二大逵一弗レ及」

【大統】トウ 天子のちすぢ。後漢書に「皇后之子、宜レ承二大統一」

【大勞】ラウ 大いなるいさを。又、大いなるほねをり。左傳に「大勞未レ艾、君子勞レ心、小人勞レ力、先王之制也」

【大戛】カツ 大いなるのり。爵至「合二德樞之幽鍵、率二至人之大戛一」

【大意】イ ㊀おほよその意味。㊁大いなるこころざし。後漢書に「光武笑曰、小兒曹乃有二大意一哉」

【大鈞】キン 天。又、造化。鵩鳥賦に「大鈞播レ物兮、坱北無レ垠」

【大道】ダウ 大いなる道。人の行ふべき道。揚子法言に「小辯破二大道一、而惑レ衆」

【大暑】シヨ 小暑の次に來る氣節、七月二十三日頃。

【大黃】クワウ ㊀いしゆみの名。漢書、李廣傳に「廣身自以二大黃一射二其裨將一」㊁ダイオウ。(植)藥草の名。名醫別錄に「大黃生二河西山谷及隴西一、八月中采レ根火乾」

【大較】カク おほむね。書經、疏に「但舉二其大較一、定爲二品法則一」

【大愷】ガイ 凱旋式に用ゐる音樂。漢書に「國雖レ大、好戰必亡、天下雖レ平、忘レ戰必危、天下既平、天子大愷、春蒐秋獮、諸侯春振旅、秋治兵、所二以不レ忘レ戰也一」注

【大業】ゲフ 大いなるしごと。(洪業)。魏文帝「文章者經國之大業、不朽之盛事」

【大廉】レン 大いにいさぎよし。莊子に「大仁不レ仁、大廉不レ嗛」

【大夢】ムイ 長きあひだのゆめ。轉じて、人生に喩ふ。莊子に「且有二大覺一而後知二其大夢一也」

【大圓】エン 天をいふ。管子に「能戴二大圓一者、體二乎大方一」

【大節】セツ 大いなるみさを。論語に「臨二大節一而不レ可レ奪也」

【大禁】キン 大いなるいましめ。孟子に「問二國之大禁一、然後敢入」

【大盟】メイ 天子親臨してちかひをなす。周禮に「軍旅大盟、則帥二其牲一」

【大廈】カ 大いなる建物。淮南子に「湯沐具而蟻虱相弔、大廈成而燕雀相賀」

【大琴】キン 二十七絃の琴。爾雅に「大琴謂二之離一」注に「琴大者、二十七絃」

【大瑟】シツ 二十七絃にして、長さ八尺一寸、廣さ一尺八寸のもの。爾雅に「大瑟謂二之灑一」注に「長八尺一寸、廣一尺八寸、二十七弦」

【大輅】ロ 天子のみくるま。(鸞輅)。書經に「大輅在二賓階一」

【大辟】ヘキ おもきつみ。死刑。書經に「大辟之罰、其屬二百」

【大路】ロ ひろきみち。孟子に「夫道如二大路一然」

【大塊】クワイ ㊀天地をいふ。莊子に「大塊噫氣其名爲レ風」㊁造化をいふ。莊子に「大塊載レ我以レ形、勞二我以一生」

【大猷】イウ 大いなる道。大いなるはかりごと。詩經に「秩秩大猷、君子莫之」

【大經】ケイ ㊀禮記・春秋・左氏傳の稱。唐

書に見ゆ。㊁大いなるのり。左傳に「禮、王之大經也」

【大勢】㊀大局面のなりゆき。大體の形勢。魏志に「大勢以見」㊁多人數たいふ。鐵函心史に「元虜大勢、合圍月餘」

【大漠】ひろきすなはら。李賀「大漠沙如雪、燕山月似鉤」

【大義】大いなるすぢみち。後漢書、班固傳に「所學無二常師一、不爲二章句一、舉二大義一而已」

【大綱】おほづな。おほぐくり。揚子法言に「堯有二天下一、舉二大綱一命禹」

【大禘】先祖のおほまつり。詩說に「大武康王、大禘報祀」

【大廓】おほきくしてむなし。淮南子に「處二大廓之宇一、游二無極之野一」

【大僞】自然のままならぬ人爲の義。老子に「大道廢有二仁義一、智慧出有二大僞一」

【大漸】やまひ危篤なり。書經に「疾大漸惟幾、病日臻、既彌留」

【大福】大いなるさいはひ。易林に「平康正直、以綏二大福一」

【大蜡】十二月に行ふ祭の名。禮記に「大蜡、天子之祭也」

【大蔟】音律の名、正月に配す。禮記に「孟春之月、律中二大蔟一」

【大戮】罪に應じて刑罰にあつ。又、死刑。史記に「計畫始行、卒受二大戮一」

【大熟】大いにみのる。書經に「秋大熟未穫」

【大適】㊀大いにたのしむ。宋書、陶楷傳に「每醉則大適」㊁「植」いぬなづな、一名、はまがらしの異名。爾雅、疏に「葶一名亭歷、一名大適」

【大憂】大いなるうれひ。國語に「近二其小喜一而遠二其大憂一」

【大麾】旗の名、おほばた。大將のはた。周禮に「本路建二大麾一」

【大賢】すぐれてかしこき人。晉書に「英偉大賢、多出二於山澤一」

【大寰】あめのした。天下。吳萊「大寰幸混一、四海際二幅員一」

【大器】㊀偉大なる人がら。管子に「施伯謂二魯侯一曰、管仲者天下之賢人也、大器也」㊁政權。左傳に「重之以二大器一」

【大瘠】ひろきすなはら。北史に「追破二之於大瘠一」

【大廟】天子のおたまや。論語に「子入二大廟一、每事問」

【大噱】大いにわらふ。漢書に「皆引二滿擧一曰、談笑大噱」

【大醜】天子より人民に酒食を大いに賜はること。魏志に「賜二渤海郡百戶牛酒一、大醜三日」

【大機】天下のまつりごと。唐書に「帝又自用、李絳參贊大機」

【大德】㊀大いなる行爲、節操。論語に「大德不レ踰レ閑、小德出入可也」㊁天地造化の仕事のもと。中庸に「小德川流、大德敦化」㊂高僧の尊稱。僧輝記に「行滿德高曰二大德一」

【大憖】大いなるわるもの。書經に「元惡大憖、矧惟不孝不友」

【大學】國都にある最高の學校。漢書に「大學者賢士所レ闕也、敎化之本原也」

【大儒】學殖ふかき儒者。後漢書に「宿德大儒、從レ政有レ迹」

【大統】すべてを統ぶ。(統統、總統)。書經、傳に「納二舜使一レ大二統萬機之政一」

【大篆】書體の名。周の宣王の時に史籀の作りしもの。漢書、注に「周宣王太史作二大篆十五篇一」

【大翹】〔植〕れんげう。爾雅、疏に「大翹葉狹長如二水蘇一、花黃可レ愛」

【大檄】大いなるきぬがさ。唐書に「天子出二大檄一」

【大餲】海をいふ。莊子に「大餲爲レ物也、注レ爲而不レ滿、酌レ焉而不レ竭」

【大覺】〔佛〕佛の異稱。又、佛果の義。翻譯名義集に「憘夢愓、茹大覺常明、狂性歇、而本頭自現」

【大願】大いなるねがひ。又、大いにねがふ。史記に「此臣之所二大願一也」

【大難】㊀大いなる困難。莊子に「臨二大難一而不レ懼者聖人之勇也」㊁はなはだ難しとす。埤雅に「管子曰、墜岸千仞、

人之所二大難一也」

【大樹】將軍の異稱。後漢の馮異(字は公孫)の故事。後漢書に「公孫爲レ人謙退不レ伐、諸將論レ功、孫常獨屏二樹下一、軍中號爲二大樹將軍一」

【大寰】天子のくらゐ。易經に「聖人之大寶、曰レ位」

【大蟲】〔動〕虎の異名。傳燈錄に「百丈問二希運一、見二大蟲一麼、運便作二虎聲一」

【大醜】わるものの。かしら。易經に「獲二其大醜一」

【大癡】甚だしくおろかなり。韓愈「凡我所レ爲、驅レ我令レ去二小黠大癡一」

【大瀛】おほうみ。史記に「有二大瀛海、環二其外一」

【大儺】おにやらひ。禮記に「季冬之月、命二有司一大儺」

【大權】天皇の權柄。(主權)。唐書に「京邑如レ身、王畿如レ臂、而四海如レ指、此天子大權也」

【大體】㊀おほよそ。あらまし。漢書に「三年而通二藝一、存二其大體一、玩二經文一而已」㊁大いなるかたち。淮南子に「小形不レ足二以包一大體一也」

【大刀頭】刀劍の頭に環あり、環は還と音相通ず、因て故鄕に還るといふ隱語とす。高適「贈レ君從レ此去、何日大刀頭」

【大口魚】〔動〕たらの異名。

【大丈夫】意思强剛にしてその信ずる所を行ふ人。(偉丈夫)。孟子に「富貴不レ能レ淫、貧賤不レ能レ移、威武不レ能レ屈、此之謂二大丈夫一」

【大手筆】立派なる文章を書くこと。又、その人。晉書、徐陵傳に「文宣時國家有二大手筆一、必命レ陵草レ之」

【大元帥】㊀國家の兵權を總攬する元首、卽ち、天子を申す稱。㊁〔佛〕明王部の總司の稱。

【大本營】戰時に大元帥の軍務をみたまふぢんや。

【大前天】一昨昨日。

【大後天】明後後日。

【大衍曆】唐の開元中に、僧の一行詔を受けて作りたる曆。唐書に「及二一行作二大衍曆一、詔二太史一測二天下之晷一」

【大衆小】大なるものは小なるものの代用をもなす。春秋に「夫已有二大者一、衆二小者一」

【大統領】共和政體國の首長。

【大人虎變】王者が天下を變革するは條理炳然として、虎の毛の文采あるが如きをいふ。易經に「大人虎變、未レ占有レ孚」

【大上立德】人の最上の行は德を立てて以て世を理め、人を濟ふをいふ。左傳に「豹聞レ之、大上有レ立德、其次有レ立功、其次有レ立言、雖レ久不レ廢、此之謂二不朽一」

【大千世界】〔佛〕須彌世界の一世界を一千世界といひ、一千世界を千合せて中千世界、中千世界を千合せて大千世界といふ。數術記遺に「四天下共二日月一爲二一世界一、有二千世界一、有二一鐵圍山一、遶之、名曰二大千世界一」

【大巧若レ拙】眞の巧者は卻つてその巧をあらはさず、故に拙なるが如く見ゆ。老子に「大直若レ屈、大巧若レ拙、大辯若レ訥」

【大同小異】殆ど同じくして少しく異なり。莊子に「萬事畢同、畢異、此之謂二大同小異一」

【大長公主】天子のをば。文獻通考に「唐制、皇姑爲二大長公主一、後亦謂二之長長公主一」

【大姦似レ忠】甚だしき姦人は、卻つて忠臣なるが如くに見ゆ。呂誨「大姦似レ忠、大詐似レ信」

【大寒索レ裘】大寒に至りて、かはごろもを求む。不用意の喩。揚子法言に「大寒而後索レ裘、不亦晚乎」

【大椿之壽】長壽の稱。莊子に「上古有二大椿者一、以二八千歲一爲レ春、八千歲爲レ秋」

【大羹不レ和】大羹は肉の汁なり、大羹には滋味を調和せず。禮記に「大羹不レ和、有二遺味一者矣」

【大義滅レ親】 君臣の大義を全うせん爲には、父子の私親を滅す。左傳に「君子曰、石碏純臣也、惡二州吁一、而厚與焉、大義滅レ親、其是之謂乎」厚は碏の子、州吁の亂に與りしを以て、碏これを殺せり。

【大器小用】 大才ある者を小吏に用ゐるに喩ふ。後漢書に「大器之於二小用一、固有レ所レ不レ宜也」

【大器晚成】 大いなる器物は、早くは成就せず、以て大才は速に成就せざるに喩ふ。老子に「大方無隅、大器晚成」又、歐陽詹「嘉穀不レ憂レ熟、大器當二晚成一」

【大智不レ異レ愚】 大いなる智者は、卻って愚者の如しとの義。諸公和尚頌に「衆生與レ佛無殊、大智不レ異二於愚一」又、蘇軾「大勇若レ怯、大智若レ愚」

【大隱隱二朝市一】 眞の隱者は都會に隱る。王康瑤「小隱隱二林藪一、大隱隱二朝市一」又、白居易「大隱在二朝市一、小隱在二丘樊一」

【大德滅二小怨一】 大いなる恩德は、小なる怨恨を滅す。左傳に「王曰、大德滅二小怨一、道也」又、詩經に「忘二我大德一、思二我小怨一」

【大行不レ顧二細謹一】 大事を行はんとする者は、少しの謹を顧みず。史記に「樊噲曰、大行不レ顧二細謹一、大禮不レ辭二小讓一、何辭爲」

【大樹下無二美草一】 賢路のふさがれる所には、はたらきある士の出でざるに喩ふ。說苑に「大樹之下無二美草一、傷二於多陰一也」

【大聲不レ入二於里耳一】 正しき音樂は俗には分らず、以て高尙なる言は、俗人に解せられざるに喩ふ。莊子に「大聲不レ入二於里耳一、折楊皇荂、則嘘然而笑」

【大廈之材非二一丘之木一】 太平を致すは衆人の力によるといふ喩。四子講德論に「大廈之材、非二一丘之木一、太平之功、非二一人之力一也」

【大樹將レ顚非二一繩所レ維一】 國家の將に覆らんとする危急の場合には、獨力にては支持し難きをいふ。後漢書に「穆謂二茅容一曰、爲我謝二郭林宗一、大樹將レ顚非二一繩所レ維一、何爲接接、不遑二寧處一」

【大廈將レ顚非二一木所レ支也】 前と同義。文中子に出づ。

【天】

テン。他前切。先。

一あめ、そら二萬物の主宰者、造化三時節、氣候四眞理、正義五君主に かかはることの敬稱六いただき(顚)、うへ(上)七うまれつき(性質)八めぐりあはせ(運命)九髡刑(五刑の一)。

【天子】 君主の敬稱。書經に「天子作二民父母一、以爲二天下主一」

【天士】 天道を知れる者。史記に「拔二擢天士一、授以大職」

【天女】 女性の天人。又、女神。

【天工】 自然になりたるたくみ。(神造)。趙孟頫「人間巧藝奪二天工一」

【天弓】 にじ。虹。白虎通に「天弓、虹也、亦名二帝弓一、亦名二掣貳一」

【天下】 天のおほへる下。世界。書經に「奄二有四海一、爲二天下君一」

【天才】 うまれつき才智のすぐれたるをいふ。又、その人。北史、李德林傳に「少孤未レ有レ字、魏收謂レ之曰、識度天才必至二公輔一、吾輒以二天才一字レ卿」

【天牛】 〔動〕かみきり。酉陽雜俎に「天牛、黑角蟲也」

【天文】 天のあや。卽ち、天體の現象。易經に「觀二乎天文一、以察二時變一」

【天心】 一天の中央。邵雍「月到二天心一處、風來二水面一時」二天帝のこころ。書經に「克享二天心一、受二天明命一」

【天分】 天より與へられたる性質。又、運命。魏志に「自當出二吾天分一」

【天井】 屋根うらのはりいた。

【天火】 自然に起りし火災。左傳に「凡火、人火曰レ火、天火曰レ災」

【天王】 てんし。獨斷に「天王諸夏之所レ稱、天下所二歸往一、故稱二天王一」

【天民】 天の法則に從ふ民。孟子に「有二天民者一、道可レ行二于天下一、而後行レ之者也」

【天半】 そらのまなか。(中天)。儲光羲「初日照二龍閣一、峩峩在二天半一」

【天巧】 自然のたくみ。王炎「玉花萬點出二天巧一」

【天末】 そらのはて。謝莊「氣霧二地表一、雲斂二天末一」

【天付】 一うまれつき。舊唐書に「神傳將略、天付忠貞」二天よりさづかる。文同「中間列二亭榭一、佳景實天付」

【天功】 自然のはたらき。書經に「欽哉惟時、亮二天功一」

【天瓜】 〔植〕きからすうり。(括樓)。本草に「括蔞、齊人謂二天瓜一」

【天刑】 自然に定れる法。又、天より降したまふ罰。周禮に「上非二天刑一、下非二地德一」

【天匠】 天然力にて成りし工事。張羽「十手可二對飮、斧鑿自天匠」

【天后】 一天子をいふ。宋史に「諸侯執レ帛、天后當レ陽」二皇后をいふ。唐書、高宗紀に「皇后稱二天后一」

【天年】 生れ得たるよはひ。天然の壽命。漢書に「專二精神一、以輔二天年一」

【天地】 あめつち。易經に「天地定レ位、山澤通レ氣」

【天池】 海。初學記に「海、一名天池」

【天均】 是も非も通じて等しきものと觀ずること。莊子に「聖人和レ之以二是非一、而休二乎天均一」

【天成】 自然に成る。南史に「放言落レ紙、氣韻天成」

【天角】 天の一隅。庾信「奔河絕二地維一、折二柱傾一天角」

【天助】 天のたすけ。王安石「天下無事過二于百年一、雖レ曰二人事一、亦天助也」

【天庇】 天の加護。又、君主の加護。齊映出官後自敍表に「臣有二微功一、實由二天庇一」

【天序】 一時候の順序。二帝王の世つぎ。漢書に「可レ以承二天序一、繼中祭祀上」

【天災】 天然のわざはひ。

【天戒】 天のいましめ。書經に「先王克謹二天戒一」

【天然】 天然につくられるもの。韓愈「天作、而地藏之」

【天物】 前に同じ。禮記に「田不レ以レ禮、曰レ暴二天物一」

【天幸】 自然のさいはひ。王維「衞青不レ敗由二天幸一」

【天使】 一日月をいふ。淮南子に「日月者天之使也」二天よりの使。張籍「生爲二大賢姿一、天使光二我唐一」三天子の使。通鑑に「大尉待二天使一、不敬」

【天狗】 一怪物の名。深山に棲み、鼻高く、羽翮を有すといふ。山海經に「陰山有レ獸焉、其狀如レ狸而白首、名曰二天狗一、其音如二榴榴一、可二以禦レ凶」二星の名。史記に「天狗狀如二大奔星一」

【天門】 一こころ。一說に曰く、大道なりと。老子に「天門開闔、能無レ雌」二天上の門戶。晉書に「夢生二八翼一、飛而上レ天、見二天門九重一」

【天礫】 天より降さるるとがめ。孟子に「不レ取必有二天礫一」

【天杵】 ははきぼし。彗星。漢書に「彗星曰二天杵一」

【天命】 人事を支配する天の定め。又、天より受けし大命。書經に「誕膺二天命一、以撫二方夏一」

【天則】 自然の法則。易經に「乾元用九、乃見二天則一」

【天官】 一周代の宰相。周禮に「天官冢宰、曰二治官之屬一」二つかさの敬稱。獨斷に「百官小吏曰二天官一」三星の異名。史記、注に「星有二尊卑一、若二人之官曹列位一、故曰二天官一」

【天性】 うまれつき。禮記に「人生而靜、天之性也、感二於物一動、性之欲也」

【天河】 あまのかは。(銀河)。詩經、箋に「雲漢謂二天河一也」

【天郊】 王者の天をまつる名。(大郊)。晉書に「天郊所レ祭曰二皇天之神一」

【天府】 一豐かに物を產する地の稱。

戰國策に「沃野千里、蓄積饒多、地勢形便、此所謂天府也」㊁天然に要害よき地。漢書に「據二天府地一、以レ義征伐」㊂學問の深きこと。荀子に「學問不レ厭、好レ士不レ倦、是天府也」㊃祖先の祭祀に供する物品を藏めおく庫。周禮に「天府掌二祖廟之守藏一」

【天竺】テンチク 印度の古名。西域記に「天竺之稱、異議糾紛、舊云二身毒一、或云二賢豆一、今從二正音一、宜レ云二印度一」

【天眚】テンセイ 地震・風・雷・洪水などのわざはひ。後漢書、安帝紀論に「推二咎台衡一、以答二天眚一」

【天界】テンカイ おほそら。陶潛「清氣澄二餘滓一、杳然天界高」

【天皇】テンワウ 至尊の稱。唐書、高宗紀に「上元二年八月壬辰、皇帝稱二天皇一」

【天毒】テンドク 天帝より降したまふわざはひ。書經に「天毒降レ災」

【天柱】テンチュウ 星の名。晉書に「三台六星、一曰二天柱一、三公之位也」

【天帝】テンテイ 萬物造化の神。雲笈七籤に「四司者天帝之禁官也」

【天祉】テンシ 天より降したまふさいはひ。韓詩外傳に「惟鳳爲レ能通二天祉一、應レ地靈一、律二五音一、覽二九德一」

【天紀】テンキ 日・月・星辰・曆數の稱。儲光羲「天紀啓二眞命一」

【天威】テンヰ 天子の御威光。左傳に「天威不遠レ顏咫尺」

【天格】テンカク 自然の法則。姚合「疎散無二世用一、爲レ文乏二天格一」

【天胤】テンイン 天子のちすぢ。書經に「王司敬レ民、罔レ非二天胤一」

【天救】テンキウ 天のたすけ。左傳に「季氏之復天救レ之也」

【天宰】テンサイ 百官の長。(冢宰)。唐書、李吉甫傳贊に「吉甫踐二天宰一」

【天恩】テンオン 天子のめぐみ。又、上帝のめぐみ。漢書に「上全二天恩一、下完二性命一」

【天造】テンザウ 天然につくられたるもの。艮嶽記に「功奪二天造一」

【天神】テンジン 天にまします神。周禮に「掌二建邦天神人鬼地示之禮一」

【天祜】テンコ 天より降したまふさいはひ。詩經に「曾孫壽考、受二天之祜一」

【天酒】テンシユ 甘露の異名。

【天祚】テンソ 天より降したまふさいはひ。左傳に「天祚明德、有レ所二底至一」

【天祐】テンイウ 天のたすけ。易經に「自レ天祐レ之、吉、無レ不レ利」

【天疾】テンシツ 生れつきてのやまひ。公羊傳に「有二天疾一者、不レ得入乎宗廟一」

【天棗】テンソウ うまれつき。諸葛亮與二劉巴一書に「足下雖二天素高亮一、宜二少降一レ意也」

【天倫】テンリン 兄弟をいふ。李白「會二桃李之芳園一、序二天倫之樂事一」

【天産】テンサン 天然の産出物。張餘慶「青瑩自二乎天産一、追琢資二于匠人一」

【天啓】テンケイ 天よりひらく運。李白「明斷自天啓、大略駕二羣才一」

【天忠】テンチウ 天然のわざはひ。周禮に「歲時有二天忠民病一」

【天符】テンフ ㊀天より降したまふ祥瑞。宋書に「永世合二天符一」㊁〔植〕草の名。

【天堂】テンダウ 〔佛〕極樂世界。摺藪新語に「坐禪苦行、得レ升二天堂一」

【天章】テンシヤウ 天のあや。天文。

【天常】テンジヤウ 五常の道をいふ。揚子方言に「吾見二天常一、爲二帝王之筆舌一也」

【天麻】テンマ 〔植〕藥草の名。本草に「天麻卽赤箭、生二鄆州利州泰山勞山諸處一」

【天授】テンジユ 天よりさづかる。史記に「陸下所レ謂天授、非二人力一也」

【天魚】テンギヨ 星の名。甘石星經に「天魚一星在二尾河中一、主二雲雨一、理二陰陽一」

【天眷】テンケン 天のめぐみ。晉書に「非二天眷之隆一、將何以至レ此」

【天眞】テンシン 天然のままにてかざりなし。蘇軾「天眞爛漫是我師」

【天統】テントウ 天子のちすぢ。史記に「使二入不レ倦レ得二天統一矣」

【天然】テンネン 天よりうけたるままの狀態。後漢書に「章章躬二天然之德一」

【天爲】テンヰ 天のしわざ。人爲の對。

【天朝】テンチウ 朝廷の敬稱。(皇朝)。宋史に「唯堅二臣節一、上奉二天朝一」

【天鼓】テンコ ㊀かみなり。(雷鳴)。雲仙雜記に「雷曰二天鼓一」㊁星の名。晉書に「在二牽牛北一、天鼓也」

【天資】テンシ うまれつき。(資性)。史記に「商君者、其天資刻薄人也」

【天稟】テンピン 天より受けたる性質。(賦性)。王安石「予生少而戇、好レ古乃天稟」

【天瑞】テンスイ 天より示したまふしるし。漢書に「天瑞應レ誠而至」

【天業】テンゲフ 帝王の事業。杜牧「天業一張」

【天意】テンイ 天のこころ。韓非子に「天意無レ所、佛忤、辭言無レ所二擊摩一」

【天道】テンダウ ㊀自然のみち。易經に「天道下濟而光明、地道卑而上行」㊁〔佛〕欲界・色界・无色界の總稱。六道の一なり。

【天經】テンケイ ㊀孝道をいふ。孝經に「蹉跌一之經也」㊁ひろく禮をいふ。左傳に「夫禮、天之經也」

【天鼠】テンソ 〔動〕一種のねづみ。王羲之「天鼠膏可レ治二耳聾一」

【天賜】テンシ 天のたまもの。蘇軾「一勺亦天賜、曲レ肱有二餘歡一」

【天漏】テンロウ 雨の多きをいふ。杜甫「安得レ誅二雨師一、疇能補二天漏一」

【天壽】テンジユ 自然にさだまりたる壽命。

【天祿】テンロク 天より降したまふさいはひ。論語に「四海困窮、天祿永終」

【天誅】テンチユ 天罰によりて殺さる。漢書に「將二義兵一、行二天誅一」

【天賦】テンプ 天よりさづかる。唐書に「河中節度使王重榮、神資壯烈、天賦機謀」

【天罰】テンバツ 天より降したまふ罰。列子に「可二以生一而不レ生、天罰也」

【天構】テンコウ 天然にできてあること。任昉「天構匠者何工」

【天駟】テンシ 星の名。星經に「房四星一名二天駟一、三名二天龍一、四名二天馬一」

【天質】テンシツ うまれつき。後漢書に「因二天質之自然一、誦二上哲之高訓一」

【天慶】テンケイ 天より賜はるよろこび。

【天塹】テンセン 天然のほり。南史に「長江天塹、古來限二隔南北一」

【天福】テンフク 天より降したまふさいはひ。列子に「可二以生一而生、天福也」

【天粹】テンスイ 天然の儘にて雜りなし。

【天堅】テンケン 天の成立する綱維。「天維建元、常以寅始」

【天器】テンキ うまれつきのはたらき。子に「此全二其天器一者」

【天機】テンキ ㊀造化のはたらき。淮南子に「內有二以通一レ于二造化一者」㊁天然の要害。

【天險】テンケン 天然の要害。重阻、看二天險之襟帶一」

【天關】テンコン ㊀天門。闔決兮地堺開」㊁轉じて、九重又は雲上の義にいふ。

【天顏】テンガン 天子の御かほ。(聖顏、龍顏)。朱放「咫尺謁二天顏一」

【天錫】テンシヤク 天よりたまはる。書經に「天乃錫二王勇智一、表二正萬邦一」

【天變】テンペン 天上の變動。卽ち、風・雷・日蝕の類。漢書に「天變見二于上一」

【天懸】テンケン 天より[illegible]天懸、騰波迅[illegible]

【天爵】テンシヤク [illegible]て自[illegible]

【天臘】テンラフ　道家の説にて、正月一日の祭の名。雲笈七籤に「正月一日名二天臘一」

【天籟】テンライ　風などの稱。地籟、人籟の對。莊子に「女聞二人籟一而未レ聞二地籟一女聞二地籟一而未レ聞二天籟一夫」

【天寵】テンマン　人を惑に誘惑する天の狂鬼。蘇軾「外道天魔猶奏レ樂」

【天體】テンタイ　天上にあらはるる物體、卽ち日・月・星辰等の稱。

【天颯】テンヘツ　あまつ風。陳孚「手捫二星漢一如可レ近、但見天颯吹レ髮寒鬖鬖」

【天蠔】テンリウ　〔動〕ひばりの異名。

【天鼈】テンベツ　星の名。星經に「天鼈十五星在二斗南一」

【天下主】テンカノシユ　帝王の稱。後漢書、鄧后紀に「陛下爲二天下主一」

【天下無】テンカニナシ　天下にたぐひなし。蘇軾「八月十八潮、壯觀天下無」

【天王星】テンワウセイ　七遊星の一、太陽より平均距離七億二千萬里にして、直徑は一萬三千里なり、八十四年にて太陽を一周す。

【天不レ言】テンハモノイフ　天は言葉を出さず。荀子に「天不レ言、而人推レ高焉、地不レ言、而人推レ厚」

【天中節】テンチユウセツ　五月五日の午時をいふ。提要錄に見ゆ。

【天地壽】テンチノジユ　天地の如く長く盡きざるいのち。王維「願將二天地壽一同以獻二君王一」

【天竺花】テンヂククワ　〔植〕「百菊集譜云、觀音天竺」

【天桂折】テンケイセツ　天下いふ。史記に「天桂折」

【天眼通】テンゲンツウ　〔佛〕能く死の苦樂の相、及び一切世形色を見て障礙なき神通力を

【天假手】テンカルテ　天は人力を假りないふ。書經に「皇天降レ災、假有命」造攻自二鳴條一」

【天假年】テンカトシ　いのちを延ばす左傳に「晉侯在レ外十九年矣、而國險阻艱難備嘗之矣、民之情僞盡之矣、天假二之年一、而除二其害一、天之置レ之矣、天假二之年一、而除二其害一、天之置、其可レ廢乎」

【天蠶絲】テンシ　〔動〕酒をいふ。漢書に「酒天之美絲、頤二養天下一」

【天之美絲】テンシビロク

【天下太平】テンカタイヘイ　天下ふく治まりて穩かなり。禮記に「言而履レ之禮也、行而樂レ之樂也、君子力二此二者一、夫是以天下太平也」

【天之曆數】テンシレキスウ　帝王相繼ぐ次第をいふ。論語に「堯曰、舜、爾舜、天之曆數、在二爾躬一」

【天竺五山】テンヂクノゴザン　祇園精舍・竹林精舍、大林精舍・精多林精舍・那闍陀寺の稱。

【天長地久】テンチヤウチキウ　天地は長久にして盡

【天造草昧】テンゾウサウマイ　未だ明かなる造草昧、宜レ建レ侯、而不レ寧

【天涯地角】テンガイチカク　天のかぎり、地のはて。徐陵「天涯藐藐、地角悠悠」

【天無二二日】テンニフタツナシ　天に二つの日なきが如く、國を治むるは一君なるべきをいふ。禮記に「天無二二日一、土無二二王一、家無二二主一、尊無二二上一、示二民有二君臣之別一也」

【天淵之差】テンエンノサ　甚だしくへだたる。詩經に「鳶飛戾レ天、魚躍二于淵一」

【天潢】テンクワウ　皇族の稱。書言故事に「宗室曰二天潢之派一」

【天上石麒麟】テンジヤウセキキリン　小兒のすぐれたるを譽むる語。南史に「陳徐陵字孝穆、年數歲、沙門寶誌、摩二其頂一、曰、夫上石麒麟也」

【天地無二全功一】テンチゼンコウナシ　天は覆へども載する能はず、地は載すれども覆ふ能はず、故に全功なし。荀子に出づ。

【天涯如二比隣一】テンガイヒリンノゴトシ　遠隔の地に居るも、軒並びの所に居るが如き思ひをなすといふ。王勃「海內存二知己一、天涯如二比隣一」

【天道是耶非耶】テンダウゼカヒカ　天道の是非を疑ふなり。史記に「太史公曰、非二公正一、不レ發レ憤、而遇二禍災一者、不レ可二勝數一也、余甚惑焉、儒所レ謂天道是耶非耶」

【天道虧レ盈而益レ謙】テンダウハミツルヲカキテヱキニエキス　盈つる者は之を虧き、謙する者は之を益す、日中すれば則ち昃き、月盈つるときは則ち虧くるが如し、人情の盈滿を惡んで謙巽に與するをいふ。易經に出づ。

【天上天下唯我獨尊】テンジヤウテンゲユヰガドクソン　〔佛〕天地の間に於て、我に及ぶものなし。（天上天下、唯我最勝）。傳燈錄に「釋迦牟尼佛初生、一手指レ天、一手指レ地、周行七步、目顧二四方一、曰、天上天下、唯我獨尊」

【天地爲レ鑪造化爲レ工】テンチヲロトナシゾウクワコウトナス　天地の萬物を育成するは、猶ほ工人の細工するが如きに喩ふ。賈誼「天地爲レ鑪、造化爲レ工、陰陽爲レ炭、萬物爲レ銅」

【天罔恢恢疎而不レ失】テンマウクワイクワイハズシテウシナハズ　天の網は目あらきが如きも、善惡の報一ももらすことなし。老子の語。

【天道無レ親常與二善人一】テンダウハシンナシツネニゼンジンニクミス　天道は公平にして、特に親しむといふことはなく、常に善人を助く。老子の語。

【天與弗レ取反受二其咎一】テンノアタフルトリテカヘツテソノタヲウクレバ　天の授け與ふるを取らざれば、卻つて天より咎を受く。逸周書に「天與弗レ取、反受二其咎一、當レ斷弗レ斷、反招二其亂一」

【太】

タイ。他盖切。泰。大、泰に同じ。

❶おほいなり、ふとし（大）❷はなはだし（甚）❸とほる（通）❹おこり、はじまり。

【太一】タイイツ　❶初事のはじめ。莊子に「主之以二太一一分玉璧一」❷天帝のいます所。楚辭に「登二太一一兮玉璧一」❸星の名。

【太子】タイシ　君位を嗣ぐ方と定められてある皇子又は王子。禮記に「王太子、王子、翠后之太子」

【太上】タイジヤウ　極めてすぐれたる德。禮記に「太上貴レ德」

【太公】タイコウ　❶祖父。史記に「西伯獵、得二呂尚一、曰、吾太公望レ子久矣」❷父。史記、高祖記に「高祖五日、一朝二太公一、如二家人父子禮一」

【太父】タイフ　祖父。漢書、張長傳に「太父開地」注に「太父、祖父也」

【太平】タイヘイ　世治まりて穩かなり。（泰平）。唐書に「太平無レ象」

【太白】タイハク　明星の異稱。史記、注に「韓詩云、太白晨出二東方一、爲二啓明一、昏見二西方一、爲二長庚一」

【太半】タイハン　半分以上。おほかた。東方朔「年既已過二太半一、今、然輜軺而留滯」

【太史】タイシ　禮儀神祇の事を掌る官名。一に、宗伯ともいふ。周禮に「太史掌レ建二邦之六典一、以逆二邦國之始一」

【太后】タイコウ　天子の母后。漢書、外戚傳、序に「帝母稱二皇太后一、祖母稱二太皇太后一」

【太守】タイシユ　❶一州の事を掌る長官。漢書に「郡守秦官、掌二治其郡一、秩二千石、景帝更二名太守一」❷我國にて、古昔、上總・常陸・上野の三國の守の稱。親王これに任ず。後世は國主大名の稱。

【太牢】タイラウ　牛・羊・豕の牲を合せ具へたる饗食。王褒「蓋レ聚二會レ糗者、不レ足二與論一太牢之滋味一」

【太初】タイショ　萬物の由りて生ずるおほもと。列子に「太初者、氣之始也」

【太空】タイクウ　おほぞら。蘇軾「歸二之太空一、太空冥冥、不レ可二得而名一」

【太和】タイワ　萬物の精氣。又、至正太中の

道。易經に「各正二性命一、保二合太和一」

【太保】タイホウ 官名。三公の一。書經に「立二太師太傅太保一、茲惟三公」

【太甚】タイジン 過度に。はげし。戰國策に「嘗亦太甚矣、先生之言也」

【太素】タイソ 天地の未だ分れざる時をいふ。列子に「太素者、質之始也」

【太師】タイシ 官名。三公の一。文官の最上位。詩經に「尹氏太師、惟周之氏」

【太息】タイソク ためいきをつく。史記に「韓侯勃然作レ色、擴レ臂瞋目仰レ天太息」

【太宰】タイサイ 百官の長。宰相。禮記に「吳侵レ陳、太宰嚭使二於師一」

【太祖】タイソ その朝の初代の帝王。(初祖、始祖)。詩經に「太祖太師皇父」

【太陽】タイヤウ 一日輪。太陰の對。詩經、疏に「日者太陽之精」二夏。甚だしく陽氣なる義。獨斷に「冬爲二太陰一、夏爲二太陽一」

【太陰】タイイン 一月。太陽の對。春秋元明苞に「太陰水精爲レ月」二冬。甚だしく陰氣なる義。獨斷に見ゆ。

【太清】タイセイ 一元氣の清きものの稱。淮南子に「太清問二于無窮一曰、子知レ道乎、無窮曰、弗レ知也」二天をいふ。鶡冠子に「太清、下及二太寧一、中及萬物一、見レ躍而求二時雨一」

【太祥】タイシヤウ 死後二十五ケ月目のまつり。三月忌。儀禮に「期而小祥、又期而大祥」

【太傅】タイフ 官名。三公の一。

【太煩】タイハン はなはだしく繁雜なり。白虎通に「所二以五歲巡狩一、何爲太煩也」

【太極】タイキヨク 天地未だ分れざる以前をいふ。易經に「易有二太極一、是生二兩儀一」

【太歲】タイサイ 木星の異名。爾雅に「太歲在レ甲曰二閼逢一」

【太僕】タイボク 一周代の司馬政官の屬官。周禮に「太僕掌レ正二王之服位一、出入王之大命」二輿馬を掌る官の名。齊職儀に「衆僕之長曰二太僕一、掌二輿馬一」

【太寧】タイネイ 一地をいふ。鶡冠子に「聖人之德、上及二太清一、下及二太寧一、中及萬靈」二極めてやすらかなり。忠經に「天地太寧、君之德也」

【太儀】タイギ 萬物のみなもと。張華「太儀幹運、天週地游」

【太簡】タイカン 甚だ疎略にして禮なし。論語に「居レ簡而行レ簡、無二乃太簡一乎」

【太上皇】ダイジヤウクワウ 天子のちち。漢書、高帝紀に「上尊二太公一曰二太上皇一」

【太夫人】タイフジン 諸侯のはは。漢書、注に「列侯妻稱二夫人一、列侯死、子復爲二列侯一、乃得レ稱二太夫人一」

【太早計】タイサウケイ はやりすぐ。性急に過ぐ。莊子に「汝亦太早計、見レ卵而求二時夜一、見レ彈而求二鴞炙一」

【太初曆】タイショレキ 漢の射姓等の作りた曆。漢書に「各自增減以造二漢太初曆一」

【太常寺】タイジヤウジ 唐代に、禮樂郊廟社稷の事をつかさどれる役所。唐書に「太常寺、卿一人、少卿二人」

【太僕寺】タイボクジ 唐代に、殿牧輪輿の政をつかさどれる役所。唐書に「大僕寺、卿一人、少卿二人」

【太阿龍泉】タイアリヨウセン 共に古の名劍の名。楚王、風湖子を召して、吳越に之き歐冶子干將に見えて、鐵劍三枚を爲らしむ、一を龍泉といひ、二を太阿といひ、三を上市といふ云云。越絕書に見ゆ。

【太宗呑レ蝗】タイソウヒンムシ 太宗の故事より、天子が人民を思ひたまふことの深きをいふ。貞觀政要に「貞觀二年京師旱、蝗蟲大起、太宗入レ苑視レ禾、見二蝗蟲一掇二數枚一、而呪曰、人以レ穀爲レ命、而汝食レ之、是害二于百姓一、百姓有レ過、在二予一人一、爾其有レ靈、但當蝕二我心一、無レ害二百姓一、將レ呑レ之、左右遽諫曰、恐成レ疾不可、太宗曰、所レ冀移二災朕躬一、何疾之避、遂呑レ之、自レ是蝗不二復爲レ災」

【太皇太后】タイクワウタイコウ 天子の嫡祖母。

【太倉稊米】タイサウノテイマイ 太倉は官府の米ぐら、稊は小米なり、稗の類、以て廣き中にただ僅かのもののあるをいふ。(滄海一滴)。莊子に「計二中國之在二海內一、不レ似二稊米之在二太倉一乎」

【夫】

フ、ホ。風無切。虞。

一なのこ、なとこ(一人前の男子の通稱)二なっと(良人)三それ(發語

辭)四かの(指辭)五かな(語已辭)六また(復)。

【夫人】フジン 一天子の后。[illegible]夫人以[illegible]二又、一般に貴[illegible]曰二夫人一、三古は人の母にいふ。史記に「進二百金一者、將レ爲用二夫人麤觸之費一、得以交二足下之歡一」四古は己の母にもいふ。後漢書、注に「汝南記云、元義謂レ人曰、此我故婦非レ有二他過一、家夫人遇レ之實酷」五人人の義に用ゐる。左傳に「夫人愁痛、不レ知レ所レ庇」注に「夫人猶二人人一」六我國にて、古昔は女官の稱。後世は貴人の妻の稱。

【夫子】フシ 長者、賢者、先生等の尊稱。論語に「夫子溫良恭儉讓」

【夫布】フフ 周の法にて職業なき浮浪の徒より取りたつる稅布。周禮に「凡無レ職者出二夫布一」

【夫君】フクン たっとの敬稱。朱昇「懷勞猶未レ弭、獨有レ望二夫君一」

【夫稅】フゼイ 田百畝の稅。周禮、注に見ゆ。

【夫婦別】フフウベツ 夫と妻と、各職分を守りて相犯さざる道。五倫の一。禮記に「夫婦別、父子親、君臣嚴」

【夫里之布】フリノフ 夫布と里布とをいふ。夫布は一夫力役の征、里布は居宅に桑麻を植ゑざる者を罰するなり。孟子に「廛無二夫里之布一、則天下之民皆悅、而願レ爲二之氓一矣」

【夫妻反目】フサイハンモク 夫婦のなかあしきをいふ。易經に「九三輿說輻、夫妻反レ目」

【夫須獨速】フスドクソク 夫須は、すげ(草の名)なり、笠につくるを以て、轉じて、笠の義とす、獨速は蓑を形容する語、因って直に蓑の義とす。楊萬里「俞書親餉老農夫、塞レ道夫須與二獨速一」

【夫倡婦隨】フシヤクフヅイ 夫婦の道をいふ。關尹子に「天下之理、夫者倡、婦者隨」

【夬】

一わかつ(分)二さだむ(決)三易の卦の名。

【夬】

一エウ。伊堯切。蕭。

二クワイ、ケ。古邁切。卦。

三ケツ、ケチ。古穴切。屑。

【夭】

一エウ。於兆切。篠。

二のびやか、顏色和ざてある貌三少好の貌四わかし、草の盛んなる貌五物の未だ壯んならざる貌

【夭折】エウセツ 前に同じ。吳志、孫登傳に「孫登臨レ終、疏云、顏回有二上智之才一、而尙夭折、況臣愚陋、年過二其壽一」

【夭矯】エウケウ うつくし。又、その者。張羽「靈夭矯兮好服」

【夭昏】エウコン 人生れて未だ命名せざる內に死ぬるをいふ。左傳に「札瘥夭昏」

【夭傷】エウシヤウ わかじに。戰國策に「生命壽長終二其年一、而不二夭傷一」

【夭殤】エウシヤウ 前に同じ。韓愈「誰云徑隙雖、百日無二夭殤一」

【夭闕】エウケツ ふさぎとどむ。白居易「寒燠荀反レ常、物生皆夭闕」

【夭矯】エウケウ 飛びあがる貌。江賦に「撫二凌波一而奮躍、吸二翠霞一而夭矯」

【太】

リフ。立の本字。

二 畫

【央】

一ヤウ、アウ。於良切。陽。

二エイ、ヤウ。於京切。庚。

一なかば(中、半)二つく(盡)三ひろし(廣)四ひさし(久)五とほし(遠)六あざやか、鮮明なる貌七やはらぐ(和)。

【央央】エイエイ 一聲の和げる貌。詩經に「龍旂陽陽、和鈴央央」二鮮明なる貌。詩經に「白旆央央」三ひろき貌。長門賦に「覽二曲臺之央央一」

【夯】

カウ、コウ。呼講切。講。

一あぐ(擧)二になふ(擔)。カウ、コウ。古老切。皓。

【夭】

一はなつ(放)二昊に同じ。

【失】㊀シツ、シチ。式質切。質。㊁イツ、イチ。弋質切。質。㊂一うしなふ㊃はなつ(縱)㊄うす㊅わする(遺)㊆あやまち、あやまつ(過)㊇にぐ(逸に同じ、佚、軼に通ず)。

【失火】過って起したる火災。穀梁傳に「伯姬之舍失火」

【失名】名がわからぬ。名を忘る。

【失念】わすれる。思念より失する義。遺教經に「常當攝念在心、若失念者、則失諸功德」

【失言】いひそこなひ。戰國策に「困於思慮、失言於君、再拜釋罪」

【失明】めくらになる。史記に「左丘失明、厥有國語」

【失政】政事の方法をあやまる。

【失計】しそこなひ。宋史に「謂周之失計、未有如東遷之甚者」

【失敗】前に同じ。

【失神】きぬけ。(喪神)。

【失笑】ふきだす。をかしさにたへずして笑ふ。蘇軾「諸生聞語定失笑、冬暖號寒夜無帳」

【失理】道理にはづる。(背理、乖理)。詩經、序に「政教言失者非無政教、但施之失理耳」

【失脚】あしをふみはづす。陸游「失脚墮世網」

【失望】のぞみのかなはぬこと。あてなはづす。漢書に「羽屠咸陽、殺秦降王子嬰、燒宮室、收寶貨婦女、而東、秦民失望」

【失眞】まことをうしなふ。李白「樸散不尚古、時訛皆失眞」

【失隕】うしなふ。左傳に「奉承以來、弗敢失隕、而致諸宗祧」

【失貴】つひえ。いりめ。

【失策】しそこなひ。陸機辨亡論に「謀無遺謂、舉不失策」

【失意】あてをはづす。又、志を遂げ得ずして不平なり。得意の對。劉策「秋霜滿領難消釋、莫讀離騷失意書」

【失跡】あとかたをなくす。韓愈「中間不得意、失跡成遲延」

【失義】正しき道を失ふ。老子に「失仁而後義、失義而後禮」

【失墜】うしなふ。おとす。後漢書に「臣下奉憲、無所失墜」

【失錯】しくじる。周禮、疏に「恐事有失錯」

【失疇】ともを失ふ。洞簫賦に「亡失疇失疇」

【失體】事體をわきまへざること。又、體裁わろき事をなす。又、面目を失ふ。北史に「吏書失體、便加鞭撻」

【本】タウ、トウ。他刀切。豪。㊀すすむ(進)、おもむく(趨)㊁おほふ(奄)㊂往來しつつ見る貌。

三畫

【夷】イ。延知切。支。㊀たひらぐ(平)㊁たひらか(平)㊂やすし(易)㊃おほいなり(大)㊄つれ(彝に同じ)㊅つらぬ(陳)㊆えびす㊇きづつく(傷)㊈すき、鋤の類㊉かる(芟)㊊たぐひ(等)、ともがら(儕)。

【夷矛】ほこの一種。考工記に「酋矛常有四尺、夷矛三尋」

【夷由】(動)むささび。爾雅、疏に「鼯鼠一名夷由」

【夷考】たひらかに考ふ。孟子に「夷考其行而不掩者也」

【夷羊】靈獸の名。汲冢周書に「夷羊在牧、飛鴻過野」

【夷坦】たひらかなり。南史に「胸襟夷坦有士君子之操焉」

【夷庚】㊀吳と晉との往來に切要なる道。左傳に「披其地、以塞夷庚」㊁車を繫めおく處。王謐「夷庚未入、乘輿旅館」㊂萬物の由りて生ずる常の道。東晉「蕩蕩夷庚、物則由之」

【夷俇】とりこ。左傳に「謂之夷俇」

【夷則】音律の名、七月に配す。史記に「七月律中夷則、言陰氣之成萬物也」

六書正譌に「俗に、夲を以て根本の字と爲すは非なり、本は木に从ふ」

【夷界】えびすの土地。杜甫「夷界荒山頂、蕃州積雪邊」

【夷俟】兩足をのべすわりてまつ。論語に「原壤夷俟」

【夷悅】よろこぶ。孔子家語に「四海之舟與所及、莫不夷悅」

【夷跖】伯夷と盜跖と。沈烱「彭殤無異、葬夷跖可同朝」

【夷滅】たひらぎほろぶ。又、たひらげほろぼす。水經、注に「城隍夷滅、略存故跡」

【夷道】たひらかなるみち。(坦途)。

【淮南子】「馳騁夷道」

【夷隆】低きと高きと。又、衰ふると盛んなると。兩都賦に「道有夷隆」

【夷傷】傷をうけたるもの。顏延之「勉慰夷傷、拊巡饑渴」

【夷猶】ためらふ。(猶豫)。楚辭に「君不行兮夷猶、蹇誰留兮中洲」

【夷愉】やすらかによろこぶ。宋史に「閨門內外、夷愉肅穆」

【夷蕩】たひらかなり。晉書に「八表夷蕩、區內輯寧」

【夷翦】三族をきりたひらぐ。隋書に「恣興夷翦、取快情靈」

【夷懌】よろこぶ。詩經に「我有嘉客、亦不夷懌」

【夷蹲】うづくまる。王褒「入市不得夷蹲、旁臥、惡言、醜詈」

【夷蠻戎狄】西方のえびす。禮記に「東方曰夷、南方曰蠻、西方曰戎、北方曰狄」

夸

【夸】クワ、ケ。枯瓜切。麻。㊁苦瓦切。馬。㊂ク、コ。匈于切。虞。㊃過。

【夸切】區過切。過。(大)㊀おほいなり㊁やはらか(柔)㊂ほこる(誇)㊃おほきたがる(跨)㊄おごる(奢)㊅たかし(高)。

【夸者】うつくし、美しき貌。㊆己の權勢にほこりたかぶる人。史記に「夸者死權」

【夸矜】ほこる。史記に「兩國相擊、此宜夸矜見所長」

【夸淫】おごりてほしいままなり。史記に「夸淫自恣、以財驕人」

夲

【夲】クワ、ケ。夸に同じ。ク、コ。

四畫

【奈】ダン、ゴン。魚吻切。吻。おほいなり(大)、たかし(高)。シュン。常倫切。眞。おほいなり(大)。㊁カフ、ケフ。訖洽切。洽。㊂ケフ。吉協切。葉。

【奄】さむ、たすく㊀ちかし(近)㊁かぬ(兼)㊂㊀かたはら(傍)㊁つか(把)㊃せまし(狹に同じ)㊄をとこだて。

【夾】はさみうつ。左傳に「背巴師、而夾攻之」

【夾攻】はさみうつ。左傳に「背巴師、而夾攻之」

【夾榜】門闕の兩旁にかかぐるふだ。神異經に「西南銅闕夾榜、題曰入往門、東北銅闕夾榜、題曰入來門」

【夾輔】かたはらよりたすく。國語に「殷肱周室、夾輔平王」㊁

【夾繞】はさみめぐる。呂氏春秋に「有兩蛟、夾繞其船」

【夾擊】はさみうつ。史記に「漢兵夾擊、大破之」

【夾鐘】音律の名、二月に配す。禮記、注に「仲春氣至、則夾鐘之律應」

【夾七夾八】いろいろさまざま。

【夾】㊀セン、ソン。失冉切。琰。㊁セキ、シャク。施隻切。陌。ぬすみとる(盜取)。

奄

【奄】ハ、ヘ。披巴切。麻。おほいなり(大)。

五畫

【奈】ワ、ヱ。烏瓜切。麻。おほいなり(大)。サ、セ。仕下切。馬。

【奉】奏に通ず。ほこる(誇)。㊁ヨウ。

【奄】㊀エン。衣檢切。琰。㊁衣炎切。鹽。㊂於豔切。豔。㊃㊀おほふ(覆)㊁にはかに(遽)㊂たちまちに(忽)㊃ひさし、久しく留る㊄ふさがる、精氣閉藏す。

【奄尹】イン 宦者の長。禮記に「命ニ奄尹ニ申ニ宮命ニ」

【奄有】イウ おほびたもつ。詩經に「自ニ彼成康ニ、奄ニ有四方ニ、斤斤其明」

【奄奄】エン いきのふさがる貌。李密「日薄ニ西山ニ、氣息奄奄」

【奔】ハウ、ヘウ。披教切。效。

【奔】(一)おほいなり(大)(二)はじきいし(礫石)、又、その石の崩るる聲。

(伊)ヒツ、ビチ。房密切。質。(ろ)フツ、ボチ。分物切。物。

拂、弼に通ず。 おほいなり(大)。

【獃】ヒツ、ビチ。奔に同じ。フツ、ボチ。

【奩】ケン、コン。求阮切。阮。おほいなり(甚大)。

【奎】シャ、ゼ。才邪切。麻。(一)おほくち(大口)(二)大いなる貌、ふとし。

【扶】ハン、バン。簿旱切。旱。ならびゆく(竝行)、又、その者、とも(侶)。

【奇】(い)キ、ギ。渠羈切。支。(ろ)イ。隱綺切。紙。(は)アイ、エ。倚懈切。蟹。(一)くすし(異)(二)くすしきもの(異物)(三)めづらし(異)(四)あやし(怪)(五)ひそかに(祕)(六)よこしま(邪)(七)いつはる(詭)(八)ひとつ(隻)(九)二にて除し盡されざる數(十)未だ丁年に達せざる十六歳以上の男子、餘夫(十一)ふしあはせ(不遇)(十二)よろ(倚に通ず)(十三)たけひくきひと(矮に同じ、短人)。

【奇才】サイ 世にめづらしきはたらき。史記に「公孫鞅、年雖レ少、而有ニ奇才ニ」

【奇文】ブン すぐれたる文章。巧妙なる文章。陶潛「奇文共欣賞、疑義相與析」

【奇日】ジツ はんの日。偶日の對。

【奇句】ク 人のいひ及ばざるめづらしき句。宋史に「林逋、喜爲レ詩、其詩澄淡峭特多ニ奇句ニ」

【奇巧】カウ めづらしきたくみ。後漢書、和帝紀に「商賈小民、或忘ニ法禁ニ、奇巧靡貨、流積公行」

【奇功】コウ めづらしきてがら。漢書、陳湯傳に「湯、爲レ人多ニ策謀ニ、喜ニ奇功ニ」

【奇妙】メウ (一)不可思議なり。(二)めづらしくしてすぐれたり。法華經に「散ニ衆妙華ニ、種種奇妙、以爲ニ莊嚴ニ」

【奇言】ゲン 面白きことば。傅休奕「空厄讓ニ霸王ニ、臨レ急吐ニ奇言ニ」

【奇兵】ヘイ 敵の不意に乘ずるいくさ。史記に「趙括、既代ニ廉頗ニ、秦將白起聞レ之、縱ニ奇兵ニ、佯敗走」

【奇利】リ めづらしきまうけ。管子に「奇利未レ在ニ其中ニ也」

【奇男】ダン すぐれぬきんでたる男。韓愈「天下奇男子王適、願下見ニ將軍ニ自ら事」

【奇怪】クワイ あやし。ふしぎなり。(靈怪、譎怪)。荀悅「除ニ小忌ニ、去ニ淫祀ニ、絕ニ奇怪ニ、正ニ人事ニ」

【奇花】クワ めづらしき花。宋史に「延福宮景龍江、夾レ岸皆奇花珍木」

【奇芬】フン めづらしき香氣。韓愈「東野勤警レ俗、天葩吐ニ奇芬ニ」

【奇拔】バツ すぐれぬきんづ。(超拔)。世說に「才藻奇拔」

【奇物】ブツ めづらしきもの。歐陽修「劉原父博學好レ古、多藏ニ古器奇物ニ」

【奇服】フク あやしき服をつけたるもの。周禮に「奇服怪民、不レ入レ宮」

【奇相】サウ めづらしき相貌。金史に「吾兒有ニ奇相ニ、貴不レ可レ言」

【奇拜】ハイ 一たび拜す。周禮に「七曰、奇拜」注に「奇不レ偶也、謂ニ禮簡不ニ再拜ニ也」

【奇品】ヒン めづらしきしな。司馬光「一城奇品推ニ安國ニ」

【奇計】ケイ めづらしきはかりごと。巧なるはかりごと。漢書に「范增年七十、素好ニ奇計ニ」

【奇狀】ジヤウ めづらしきかたち。孟浩然「四山多ニ奇狀ニ」

【奇骨】コツ 人に異なるこつがら。晉書に「此兒有ニ奇骨ニ、可ニ試使レ啼」

【奇致】チ めづらしきおもむき。南史、蕭範傳に「招ニ集文才ニ、率意題レ章、亦時有ニ奇致ニ」

【奇才】サイ めづらしきあたまの。(妙才)。蘇軾「折ニ得ニ奇才ニ」

【奇說】セツ めづらしきはなし。蘇軾「折ニ得ニ奇說ニ」

【奇趣】シユ めづらしきおもむき。(妙趣)。白居易「逸韻諧ニ奇趣ニ」

【奇節】セツ すぐれたるみさを。虞世南「韓魏多ニ奇節ニ、偶儻遺ニ名利ニ」

【奇勳】クン めづらしきてがら。すぐれたるいさを。李白「麟閣著ニ奇勳ニ」

【奇璞】ハク めづらしきあらたま。僧皎然「卞山幽石產ニ奇璞ニ、荊人至レ死採不レ著」

【奇謀】ボウ すぐれたるはかりごと。北史、獨孤信傳に「信、美風度雅、有ニ奇謀大略ニ」

【奇贏】エイ 數のあまり。漢書に「商賈大者積貯倍息、小者坐列販賣操ニ其奇贏ニ」注に「一說奇謂ニ殘餘物ニ也」

【奇戲】ギ めづらしき遊戲。晉書に「恭帝爲ニ琅邪王ニ、好ニ奇戲ニ」

【奇矯】キヤウ (一)強ひて常人に異なりたる言行をなす。(二)めづらしくつよし。敖陶孫「奇矯無レ前」

【奇藥】ヤク めづらしきくすり。(妙藥、珍藥)。蘇軾「千金得ニ奇藥ニ」

【奇獸】ジウ めづらしきけもの。(異獸)。書經に「珍禽奇獸」

【奇麗】レイ うるはし。(妙麗)。漢書に「雖レ見ニ奇麗紛華ニ、非ニ其所ニ習辟ニ」

【奇譬】ヒ すぐれてさとし。宋史、王珪傳に「弱歳奇譬、出レ語驚レ人」

【奇驗】ケン ふしぎなるしるし。劇談錄に「望レ巖懷ニ逸許ニ、臨レ流想ニ奇莊ニ」

【奇智】チ めづらしきちゑ。賈誼新書に「梁王曰、陶之朱叟以ニ布衣ニ而富侔レ國、是必有ニ奇智ニ」

【奇雲】ウン めづらしき形せるくも。李白「奇峯出ニ奇雲ニ、秀木含ニ秀氣ニ」

【奇想】サウ めづらしきかんがへ。

【奇零】レイ 單位以下。はした。

【奇禍】クワ 思ひがけなきわざはひ。

【奇數】スウ (一)ほんのかず。二にて整除し能はざる數。偶數の對。(二)ふしぎなる技術。後漢書に「趙繆王好ニ奇數ニ」

【奇意】イ めづらしきこころ。又、その趣。

【奇遇】グウ 思ひがけなく出會ふ。

【奇術】ジユツ ふしぎなる技術。(妖術)。韓愈「悲哉無ニ奇術ニ」

【奇葩】ハ めづらしきはな。蘇軾「折ニ得ニ奇葩ニ」

【奇葩】ハ 晩更奇」

【奇端】ズイ ふしぎなるしるし。(異瑞)。論衡に「萬物育則奇端出」

【奇煤】バイ めづらしき墨。張耒「平生筆墨萬金直、奇煤利硯盈篋收」

【奇綵】サイ めづらしきいろどり。北史に「所レ珍在レ素、不レ務ニ奇綵ニ」

【奇態】タイ かはりたるかたち。沈約「瓌姿信茵蜷、奇態實玲瓏」

【奇說】セツ かはりたる言論。人を驚かすべき言說。廼賢「伏謁ニ中書堂、揚レ眉吐ニ奇說ニ」

【奇臭】シウ あやしきにほひ。(異臭)。荀子に「奇臭以レ鼻異」

【奇峰】ホウ めづらしき形せる山。顧愷之「春水滿ニ四澤ニ、夏雲多ニ奇峰ニ」

【奇畜】キク めづらしき家畜。史記に「其奇畜則橐駝驢」

【奇氣】キ めづらしき氣。王蒙「金精發ニ奇氣ニ」

【奇草】サウ めづらしきくさ。李德林「神禽異獸、珍木奇草」

【奇特】トク めづらしく勝れたり。(神妙)。宋書、武帝紀に「身長七尺六寸、風骨奇特」

【奇彩】サイ めづらしきつや。陳興義「月輪墜ニ東峯ニ、奇彩在ニ南嶺ニ」

【奇異】イ 常のものにかはりてめづらし。書經、疏に「奇技謂ニ奇異技能ニ」

【奇偶】グウ 奇數と偶數と。楊基「五齡塚句對ニ虛實ニ、驪青儷黃配ニ奇偶ニ」

【奇挺】テイ めづらしくぬきんづ。遊天台山賦に「嗟台嶽之所ニ奇挺ニ、實神明之所ニ扶持ニ」

【奇畫】クワク すぐれたるはかりごと。(妙謀)。晉書に「奇畫指授、制ニ勝千里ニ」

【奇偉】イ すぐれて大いなり。吳志、吳主傳に「形貌奇偉」

【奇童】ドウ すぐれたるこども。(神童)。唐書に「賀レ得ニ奇童ニ」

【奇莊】サウ めづらしきゐなかや。孫嗣

「吉凶屢有二奇驗一」

【奇觀】かはりたるみもの。(偉觀)。楊萬里「奇觀初逢慰二道塗一」

【奇貨可レ居】めづらしき品は大いに利益あれば、之を買ひ貯藏し置きて時を待つべしといふ義。史記に「呂不韋賈二邯鄲一、見而憐レ之曰、此奇貨可レ居、乃往見二子楚一」

【奈】

タイ、ナイ。柰に同じ。

【奉】

ホウ、ブ。父勇切。腫。

一ささげ、たてまつる(獻)二うく、うけたまはる(承)三あたふ(與)四おくる(送)五やしなひ(養)六まかなひ(費用)七みつぎ(貢物)八あてがひ(秩祿)九つかまつる、はべる(侍)十たすく(助)十一かす(藉)。

【奉公】君のために盡す。後漢書に「憂レ國奉レ公」

【奉行】一先例又は上意を奉じて施し行ふ。漢書に「方今務在二奉一行故事一而已」二ブギヤウ 昔時、我國の武家にて、種種の職の長の稱。

【奉使】使となりて行く。後漢書、馮衍傳に「懷レ金垂レ紫、揭レ節奉使」

【奉送】君主を送りたてまつる義。白虎通に「諸侯奔二王者一喪二分爲二三部一、有二始死先奔者一、有二中來盡二其哀一者一、有二會葬奉二送君一者一」

【奉朔】天子の政令に服從する義。蘇瑣「日月所レ臨而奉レ朔」

【奉祖】先祖によく仕へまつる。後漢書に「臣聞、子孫以レ奉レ祖、爲レ孝」

【奉候】上の人の機嫌を伺ふ。宋書、武帝紀に「奉二候于新亭一」

【奉將天罰】上意をうけて行ふ。書經に「奉二將天罰一」

【奉給】ささげそなふ。北史、穆崇傳に「崇、往來奉給、時人無二及者一」

【奉幣】神に幣帛をたてまつる。

【奉嘗】まつる。又、まつり。後漢書に「後世子孫奉二嘗我一」

【奉養】長上につかへやしなふ。

【奉還】かへしたてまつる。

【奉戴】あがめいただく。左傳に「奉二戴厲公一、至于莊宣」

【奉職】その職務にあたる。史記に「奉レ職循レ理、亦可二以爲レ治」

【奉獻】たてまつる。獻上す。後漢書に「莎車國、鄯善國遣レ使奉獻」

【奉體】上意を承けて、心にとどめ身に行ふ。書經、傳に「率レ義奉體」

六畫

【奎】

一カン、ガン。河干切。寒。二クワン、グワン。胡官切。寒。三ケン、コン。火遠切。阮。四エン、チン。雨阮切。阮。

【奎】

一ケイ、ケ。傾畦切。齊。二おごり(奢)三おほいなり(大)四大いなる口の貌。

【奎分】奎星の天の分野にあたる地の區分。奎星は文明の星なり。名山記に「闕里當二奎分一、斯文在レ茲」

【奎文】文章をいふ。奎は星の名、奎星はまがりて文章の畫に似たるが故にいふ。孝經援神契に「奎主二文昌一」

【奎運】世の中の文藝の趨勢。

【奏】

ソウ、ス。喝候切。宥。

一すすむ(進)二まうす(白)三君王に上る書四かなづ、音樂をなす五すぢ(縢に通ず、膚理)六あつまる(輳、湊に通ず)七ふだ(簡の類)。

【奏上】天子に申し上ぐ。漢書に「置二奏上一」

【奏決】奏上してさだむ。長編に「韓晉卿擢二刑部郎中一、讞者欲二天下獄悉欲二奏決一」

【奏按】奏聞して案驗す。後漢書、辛陵傳に「再遷二冀州刺史一、奏二按貪濁一、所在肅然」

【奏笛】ふえをふく。(吹笛)。晉書に「敕二御伎一奏レ笛」

【奏裁】天子へ上奏して決裁す。唐書に「大事奏裁」

【奏疏】上にたてまつる文書。又、條陳の書をたてまつる。(上疏)。宋史に「奏疏凡數十」

【奏琴】ことをひく。郭祥正「空江雲盡月涵壁、絕壑風生松奏レ琴」

【奏愬】前に同じ。史記に「趙王好レ音、請奏レ愬」

【奏樂】音樂をかなづ。

【奏請】奏聞して御裁可を乞ふ。漢書に「有司奏請、減二什三一」

【奏議】評論を奏聞す。漢書に「公卿稱レ職、奏議可レ述」

【奐】

クワン。呼玩切。翰。

一おほいなり(大)二さかんなり(盛)三あきらか、文采鮮明なる貌四ゆたかなり、暇ありて豫む貌。

【奐焉】文采ありて鬱茂なる貌。禮記に「美哉奐焉」

【契】

一ケイ、カイ。詰計切。霽。二セツ、セチ。私列切。屑。三キツ、コチ。欺訖切。物。四カツ、ケチ。訖黠切。黠。

一ちぎる、ちぎり(約)二まじはり、ちなみ三あふ、あはす(合)四わりふ、てがたをうれふ(憂)五くるしむ(苦)六やく(灼)七おそる、おづ(怯)八人の名一くるしむ(挈)に同じ、勤苦)二きざむ(鍥)に通ず三うとし(疎闊)四たつ(絕)五かく(缺)六國の名。

【契刀】漢代の貨幣の名。漢書に「更造二大錢一、又造二契刀錯刀一」

【契子】やしなひご。養子。

【契父】やしなひおや。ままちち。養父。(義父)。

【契母】やしなひおや。ままはは。養母。詩經、傳に「有娀契母也」

【契分】ちぎりを結ぶべきちなみ。李摯「因緣三紀異、契分四般同」

【契兄】兄弟約束を結びて、兄となるもの。(義兄)。

【契弟】兄弟約束を結びて、弟となるもの。(義弟)。

【契合】わりふを合せたるが如くよく合ふ。(符合)。

【契券】わりふ。證書。荀子に「合二符節一、別二契券一者、所二以爲レ信也」

【契契】憂ふる貌。詩經に「契契寤歎、哀二我憚人一」

【契約】やくそく。(約契)。

【契書】約束の證文。

【契符】わりふ。華陽國志に「井絡啓耀、文昌契符」

【契盟】ちかひをむすぶ。(締盟)。

【契闊】一ぶさた。うとうとし。漢書に「行路急卒、非下陳二契闊一之所上」二勤め苦しむ。詩經に「死生契闊、與レ子成レ說、執二子之手一、與レ子偕老」

【奏】

一タ、テ。陟加切。麻。二シヤ、セ。詩車切。麻。

一はる(張)二ひらく(開)三ほこる(夸)四おごる(侈に同じ)。

【奔】

一ホン。逋昆切。元。二フン、ホン。方問切。問。三ホン。補闊切。願。古文は、犇に作り、俗に、奔に作る。

一はしる二はしらす、しりぞく、おふ(逐)三やぶる、覆敗す四おもむく、急に赴く。

【奔走】かけまはる。書經に「奔走事二厥考厥長一」

【奔波】早きなみ。轉じて、爭ひおもむくことにいふ。韓愈「老少奔波」

【奔放】勢よくはしる。後漢書に「飛兎腰臂、絕足奔放、良樂之所レ急」又、韓愈「南陲群崖赤、北注何奔放」

【奔命】君命の爲に奔走す。轉じて、すべていそがはしく立ちまはることにいふ。左傳に「余必使下爾罷二於奔命一以死上」

【奔突】はしりつく。後漢書に「馬驚奔二突賊陣一」

【奔星】夜間急に空中に現はるる光體にして、恰も星の飛ぶが如く見ゆるもの。流星。長楊賦に「疾如二奔星一、擊如二震霆一」

【奔流】はやながれ。(急流)。唐太宗「駿骨飲二長涇一、奔流西二絡纓一」

【奔涙】ホンルイ　はやきなみ。駱賓王「下爲ニ奔涙迅波所ニ激射ニ」

【奔運】ホンウン　はやきながれ。蘇軾「黄河西來初不レ覺、但訝清泗流奔運」

【奔湍】ホンタン　はやせ。(急湍)。王炎「轉レ粟涉ニ奔湍、支レ筯入ニ幽塢ニ」

【奔湊】ホンソウ　はしりあつまる。晉書に「勢傾ニ天下、朝野奔湊」

【奔馳】ホンチ　はせかける。後漢書、隗囂傳に「赤車奔馳」

【奔蜂】ホンホウ　小さきはち。莊子に「奔蜂不レ能レ化ニ藿蠋、越雞不レ能伏ニ鵠卵」

【奔潰】ホンクワイ　はしりつひゆ。(潰走)。宋史に「諸城望レ風奔潰」

【奔駛】ホンシヽ　はしる。洛陽名園記に「湍瀑則奔駛、皆可レ喜也」

【奔潮】ホンテウ　ながれのはやきうしほ。柳渾「奔潮溢ニ南浦ニ」

【奔蹄】ホンテイ　人乘る時は奔り、立てば人をふむ。あらうま。漢書に「馬或奔蹄、而致ニ千里、士或有ニ負俗之累、而立ニ功名ニ」

【奔濤】ホンタウ　はやきなみ。虞羌「長瀾疑浴レ日、連島類ニ奔濤ニ」

【奔騰】ホントウ　はしり上る。蘇軾「奔騰過ニ佛脚、曠蕩造ニ平川ニ」

【奔競】ホンケイ　はしりきそふ。南史に「外示ニ寡求、内懷ニ奔競ニ」

【奔竄】ホンザン　はしりてのがる。蜀志、注に「或迎レ軍出降、或奔ニ竄山谷ニ」

【奔車之上無ニ仲尼ニ】ホンシヤノウヘナシチウジニ　君子は危きにちかよらざる義。韓非子に「奔車之上無ニ仲尼、覆舟之下無ニ伯夷ニ」

【奕】エキ、ヤク。羊益切。陌。
一おほいなり二さかんなり三うつくし(美)四かがやく貌、光る貌五うれふる貌六ついで(次序)七かさぬ八かたちづくる九碁を圍むこと。

【奕世】エキセイ　だいだい。(累世)。國語に「奕世載レ德、不レ忝ニ前人ニ」

【奕代】エキダイ　前に同じ。(累代)。陶潛「綴文之士、奕代繼作」

【奕奕】エキエキ　一さかんなる貌。詩經に「駕ニ彼四牡、四牡奕奕」二うつくしき貌。詩經に「新廟奕奕」三大いなる貌。詩經に「奕梁山、維禹甸レ之」四うれふる貌。「奕奕梁山、維禹甸之」五光りかがやく貌。北齊書に「眼光奕奕、敷步射人」

【奕葉】エキヨウ　だいだい。(累葉)。唐書に「奕葉忠鯁、能抗疏規ニ朕之失ニ」

【奕基】エキキ　ごたうつこと。西京雜記に「杜陵杜夫子、善ニ奕棊ニ、爲ニ天下第一ニ」

七畫

【套】タウ、トウ。他皓切。皓。
一明號切。號。

【奘】サウ、ザウ。才浪切。養。
一さかんなり(壯)二おほいなり(大)。

【奚】ケイ、ガイ。弘雞切。齊。
一しもべ、隸役二いづくんぞ、なんぞ、なんすれぞ、なに(疑問及び反語の辭)。

【奚奴】ケイド　しもべ。(僕奴)。陸游「詩蠹隨處累ニ奚奴ニ」

【奚若】ケイジヤク　なんとして。

【奚囊】ケイノウ　詩を入るるふくろ。唐書、李賀傳に「毎旦日出、出騎ニ弱馬ニ、從ニ小奚奴ニ、背ニ古錦囊ニ、遇レ所レ得、書投ニ囊中ニ、及レ暮歸、足成レ之」

【奮】ホン。補袞切。阮。
ふご、あじか、土を盛る器。

八畫

【奘】ヒ。敷尾切。尾。
一父沸切。米。おほいなり(大)。テウ。丁聊切。蕭。おほいなり(大)、おほし(多)。

【奮】シヨン、スン。私閏切。震。
スキ、サイ。息遺切。支。はたたき(鼓翼)。

【奭】ヨク、キキ。越逼切。職。
一ヨク、ケキ。忽域切。職。
一つよし(彊)二おほいなり(大)三けた(方)。

【奩】レン、ロン。離鹽切。鹽。
かうばこ(奢合)、けしやうばこ(鏡匣)。

【奪】タツ、ダチ。徒活切。曷。
ケツ、コチ。丘月切。月。
一うばふ二うばはる三みだる、みだす四せまきみち五うばふ。

【奪目】ダツモク　美しきこと目もくらむばかりなり。北史に「電光奪レ目」

【奪取】ダツシユ　うばひとる。唐書、尉遲敬德傳に「奪ニ取賊矟、還刺レ之」

【奪掠】ダツリヤク　かすめとる。

【套】タウ、トウ。套に同じ。

【奄】エン。奄に同じ。

【執】シフ。執に同じ。

【奄】ケイ、ケ。苦圭切。齊。星の宿り、今、奎に通じ作る。奄と同じからず。

九畫

【奠】一テン、デン。堂練切。霰。
二ティ、ヂヤウ。徒徑切。徑。
一唐丁切。青。
一さだむ(定)。二おく(置)三すすむ(薦)四さだまる(定)、とどまる(停)五まつり(祭)六とどまる。

【奠都】テンド　みやこをさだむ。

【奡】カウ、ゴウ。凝到切。號。
一おごる、あなどる(傲に通ず、慢)二つよし、矯健なる貌。

【奘】ケツ。缺に同じ。

【奢】シヤ、ヂヤ。詩車切。麻。
一おごる、おごり(侈)二ほこる(張)三ゆたかなり(奏)。

【奢佚】シヤイツ　おごりにふけりて物事をおこたる。後漢書に「方今時俗奢佚」

【奢放】シヤハウ　おごりてほしいままなり。詩經、箋に「樂者令ニ人歡樂、惟恐ニ奢放ニ」

【奢侈】シヤシ　おごりかざる。(侈奢)。史記に「富人爭ニ奢侈ニ」

【奢欲】シヤヨク　過度のつひえ。又、かざりをせんとする心。後漢書に「競恣ニ奢欲ニ」

【奢泰】シヤタイ　おごる。西京賦に「奢泰肆情而馨烈彌茂」

【奢肆】シヤシ　おごりてほしいままなり。唐書、魏徵傳に「徵疏曰、頃既奢肆、思用ニ人力ニ」

【奢傲】シヤガウ　はでにおごる。(傲奢)。左傳に「六卿强而奢傲」

【奢綺】シヤキ　はでなるかざり。吳志、諸葛融傳に「融錦罽文繡、獨爲ニ奢綺ニ」

【奢靡】シヤヒ　身分に過ぎたるおごり。(侈靡)。南史、羊侃傳に「窮ニ極奢靡ニ」

【報】ハウ、ホウ。報の本字。

【奔】クワウ。古猛切。梗。
あきらかなり(明)。

【奮】ハン。普伴切。旱。
大いなる面。

十畫

【奈】ケウ。懇幺切。蕭。
一おほいなり(大)二かぐはし(香)三こゆ(肥)四ぶた汁(膿に同じ)。シ。津私切。支。おほいなり(大)。

【奥】一アウ、オウ。於到切。號。
二サン。七亂切。翰。
一キク、ヲク。乙六切。屋。
一おく(極處、要處、寢處、室の西南の隅)二ふかし、おくふかし(深)三つみあつむ、つみあつまる(積聚)四にる(烹和)五にごる六かまどのかみ(竈神)七くま(澳、隩に通ず)八あたたかなり、あたたむ(燠に同じ)。

【奥祕】アクヒ　ひみつ。會稽典錄に「上窮ニ陰陽之奥祕ニ、下據ニ人情之歸極ニ」

【奥突】アウエツ　屋隅のくらきところ。荀子に「奥突之閒、鱉席之上」

【奥義】オウギ　おくのて。深遠なる義理。宋史に「講ニ論諸經奥義ニ」

十一畫

【奩】レン、ロン。離鹽切。鹽。
かうばこ(奢合)、けしやうばこ(鏡匣)。

【奪】タツ、ダチ。徒活切。曷。
ケツ、コチ。丘月切。月。
一うばふ二うばはる三みだる、みだす四せまきみち五うばふ。

【奪目】ダツモク　美しきこと目もくらむばかりなり。北史に「電光奪レ目」

【奪取】ダツシユ　うばひとる。唐書、尉遲敬德傳に「奪ニ取賊矟、還刺レ之」

【奪掠】ダツリヤク　かすめとる。

【奪レ魄】ハクヲ　きもをうしなふ。左傳に「原叔必有二大咎一、天奪二之魄一矣」

【奪レ膽】クワンヲ　氣力をうしなふ。梁武帝「武夫喪レ魄、義夫奪レ膽」

【奪二天地造化一】チクワクヲ　人力にて造化のなすべきわざをなす。關尹子に「人之力、有レ可二以奪二天地造化一者ト」

【奮】キン、ウン。紆倫切。眞。水の深く廣き貌。

【奩】㊀チツ、ヂチ。直質切。質。㊁テツ、デチ。徒結切。屑。おほいなり(大)、さかんなり(盛)。

【奬】ジャウ、サウ。子兩切。養。㊀すすむ(推選、誘掖)㊁たすく(助)、なす(成)㊂ほむ(奬)。

【奬抱】シャウ　すすむ。唐書、李頻傳に「大加二奬抱一、以レ女妻レ之」

【奬率】ソツ　はげましひきゐる。蜀志に「當奬二率三軍一、北定二中原ト」

【奬進】シンヤウ　すすめのぼす。後漢書、孔融傳に「薦二逢質士一、多所二奬進一」

【奬順】シンヤウ　すすめはげまして行はしむ。左傳に「奬二順天法一」

【奬勵】レイヤウ　すすめはげます。後漢書に「奬二勵吏兵一、討二破羣賊一」

十二畫

【奕】セキ、ヤク。施隻切。陌。ケキ、キャク。迄逆切。陌。

【奈】カク。黑各切。藥。なり(盛)㊁赤き貌㊂いかる(怒)。

【奈】ダツ、ダチ。奪の古文字。

十三畫

【奔】ブ、無に同じ。フン、ホン。方問切。問。㊀ふるふ㊁あがる(揚)㊂とぶ(飛)㊃うごかす(動)㊄はたたきす(鼓翼)。

【奮】フン　たけりはやる。爾雅に「諸物有二氣力一者、無不二健自奮迅一」

【奮討】フンタウ　ふるひたちてうつ。蜀志に「或忠義奮討、或上天降罰」

【奮起】キン　ふるひおこる。歐陽修「自二公之奮起徒步、而名動二京師一」

【奮發】ハツ　心をふるひおこす。後漢書に「陛下神武奮發、以少制レ衆」

【奮進】シン　ふるひすすむ。

【奮勵】レイ　ふるひはげむ。(振勵)。傅縛「奮二鋒穎一、勵二羽翼一」

【奮戰】セン　ふるひたたかふ。

【奮激】ゲキ　はげしくふるひたつ。北史に「奮激競赴二敵場一」

【奮擊】ゲキ　ふるひうつ。晉書に「將士奮擊、莫不レ用レ命」

【奮鬪】フンタウ　ふるひたたかふ。宋史に「金人操二短兵一奮鬪」

【奮】クワツ、クワチ。呼括切。曷。㊀むなし(空)㊁おほいなり(大)㊂目の動く貌。

【奮】クワン。呼官切。寒。㊀はじむ(始)㊁かはる(化)。

十四畫

【奭】ヒ、ビ。平祕切。寘。㊀おほいなり(大)㊁さかんなり(壯)㊂ゼまる(迫)㊃いかる(怒)。ライ、レ。魚猥切。賄。おほいなり(大)。

【奮】ライ、レ。おほいなり(大)。

女部

【女】ゼヨ、ニョ。尼呂切。語。ジョ、ニョ。尼據切。御。㊀なみな、なんな、め㊁むすめ、未だ嫁せざるなんな㊂なんぢ(汝に同じ)㊃うるき(二十八宿の一)㊄めあはす(配して妻となす)。

【女士】ジョ　女にして士の行あるもの。詩經に「其僕維何、釐二爾女士一」

【女公】コウ　夫の姉の敬稱。爾雅に「夫姉爲二女公一」

【女丑】ヂウ　神の名。山海經に「女丑之尸生、而十日炙二殺之一」

【女史】シ　㊀後宮に仕へてその記事を掌る女官。㊁後には、女にして文筆に攜はる者の敬稱。後漢書に「女史彤管、記レ功書レ過」

【女兄】ケイ　あね。史通に「傳二同氣女兄摩レ笄引決一」

【女主】シュ　皇后。又、女帝。後漢書に「京皇統屢絶、權歸二女主一」

【女奴】ド　〔動〕貓の異名。採蘭雜志に「猫、一名女奴」

【女后】コウ　きさき。皇后。宋史に「豈宜レ使二女后相繼稱レ制乎」

【女夷】イ　風の神の名。淮南子に「女夷鼓吹、以司二天和一、以長二百穀一」

【女郎】ラウ　女にして男子の才氣あるもの。白樂天「色爲二天下豔一、心乃女中郎」

【女垣】エン　たけ低きかき。ひめがき。說文に「堞、城上女垣也」

【女牀】シャウ　星の名。張淵「酒旗建二醇醪之旌一、女牀別二窈窕之色一」

【女紅】コウ　女子のてわざ。漢書に「錦繡纂組、害二女紅一者也」

【女貞】テイ　〔植〕れいすみもち。羣芳譜に「女貞、一名貞木、一名鱗樹、處處有レ之」

【女桑】サウ　〔植〕めくは。爾雅、注に「今俗呼二桑樹小而條長一、爲二女桑樹一」

【女莖】カウ　〔植〕菊の異名。本草に「菊、一名女花、一名女莖」

【女華】クワ　前に同じ。本草に「菊花、一名女華」

【女節】セツ　むすめの夫、卽ち、むこ。(子壻)。杜甫「門闌多二喜氣一、女壻近乘レ龍」

【女壻】セイ　女より生ずるわざはひ。唐書に「數十年間再罹二女禍一、唐祚既絶」

【女禍】クワ

【女德】トク　女の道に適へるおこなひ。左傳に「女德無レ極、婦怨無レ終」

【女樂】ガク　うたひめ。論語に「齊人歸二女樂一、季桓子受レ之」

【女謁】エツ　婦女にこひたのむ。宋史に「遠二近習一、閉二女謁一」

【女牆】シャウ　たけ低さかき。ひめがき。古今註に「女牆、城上小牆也」

【女蘿】ラ　ひかげのかづら。又、さるをがせ。詩經に「蔦與二女蘿一、施二于松柏一」

【女郎花】クワラウクワ　〔植〕もくれんの異名。木蘭、作二女郎一來。〔植〕こぶしの異名。辛夷。陸放翁「閑看女郎花」自注に「唐人謂二辛夷一爲二女郎花一」〔植〕我國にて、みみなへしの稱。

【女子與二小人一難レ養】ヨジョトセウジンハナンヤシガタシ　婦人僕隸の輩は多くは道理を解せざるを以て養ひ難きなり。論語に「子曰、唯女子與二小人一、爲レ難レ養也、近レ之則不遜、遠レ之則怨」

十二畫

【奴】ド、ヌ。農都切。虞。㊀やっこ(奴子)㊁さは(澤)㊂己を謙り、又、他を賤めて呼ぶ稱に用ゐる。

【奴才】サイ　㊀劣等の才。晉書に「成都王既敗、元海曰、穎不レ用二吾言一、遂自奔潰、眞奴才也」㊁今日は滿洲人が、清帝に對し、自分を卑下して言ふに用ゐる。臣といふに同じ。

【奴畜】キク　しもべの如くに卑みして養ふ。漢書に「奴畜之、不二目爲一兄弟數一」

【奴視】シ　物をみくだす。楊允孚「皮囊乳酒繡鍋肉、奴視山陰對角羊」

【奴僕】ボク　めしつかひ。(臣僕、隸僕)。杜甫「長夏無レ所レ爲、客居課二奴僕一」

【奴輩】ハイ　しもべども。人をいやしめて呼ぶ稱。晉書、石崇傳に「崇乃歎曰、奴輩利二吾家財一」

【奴隸】レイ　しもべ。めしつかひ。(僕隸)。顏氏家訓に「斷二役奴隸一」

【奴顏婢膝】ドガンヒシツ　人に對して卑屈なる態度をなすをいふ。陸龜蒙「奴顏婢膝眞乞丐、反以二正直一爲二狂癡一」

【奸】ティ、チャウ。都挺切。迥。㊀當經切。青。㊁テン。他典切。銑。㊂自ら持する貌㊃面の平かなるにいふ(娛奸)㊄かほよし。

三畫

【奸】 ㊀カン。古寒切。寒。㊁カン、ケン。居顔切。删。㊀一おかす(犯)、みだる(亂)、たばる(姪)㊁もとむ(干に通ず)㊂かたし(堅)㊃一わたくし、わたくしす(私)㊃二いつはり、いつはる(僞)。

【奸由】イウ よこしまなることのわけ。新書に「明者之惑二奸由一也、蚤其除二亂謀一也遠」

【奸計】カン ケイ わるだくみ。(詭計)。

【奸智】カン チ わるぢゑ。(猾智、姦智)。

【奸穢】カン クワイ よこしまなり。陸雲「軍都督李嬰、行實奸穢」

【妲】 シヤ、セ。妲の古文字。

【妓】 ショ、ソ。ダン、ネン。奴還切。删。うったふ(訟)。

【妊】 ㊀タ、テ。陟嫁切。禡。㊁ト、ツ。都故切。遇。㊃一うつくしきなんな(美女)、としわかきなんな㊂みめよし㊃をとめ(少女)。

【犬】 ヨク、エキ。與職切。職。なみなのつかさ(婦官)。

【好】 ㊀カウ、コウ。許皓切。皓。㊁呼到切。號。㊃一よし(善)㊂みめよし、うつくし(美)㊃よしみ㊄べし(決定辭)㊅一す

く、このむ、よろこぶ㊂あな、璧の孔。

【好友】カウ イウ よきとも。詩經に「雖レ無二好友一、式燕且喜」

【好文】カウ ブン 文章又は文學をこのむ。錢起「聖主好レ文兼好レ武」

【好古】カウ コ いにしへをこのむ。權德輿「好レ古每開卷、居貧常閉レ門」

【好在】カウ ザイ きげんよくくらす。杜甫「因君問二消息一、好在阮元瑜」

【好衣】カウ イ よききもの。漢書に「各用二智巧一、好衣美食」

【好尚】カウ シヤウ ここのみたっとぶ。金史に「章帝初卽位、好二尚文辭一、旁求二求文學之士一」

【好逑】カウ キウ よきつれあひ。詩經に「窈窕淑女、君子好逑」

【好景】カウ ケイ よきけしき。(勝景)。蘇軾「年好景君須記、正在二橙黃橘綠時一」

【好遊】カウ イウ あそびをこのむ。淮南子に「虛敎曰、敎幼而好レ遊、至レ長不レ諭」

【好意】カウ イ 深切なるこころ。蘇軾「歸來還受一大錢、好意莫レ違黃髮叟」

【好義】カウ ギ 正道を行ふをこのむ。大學に「未レ有二上好レ仁、而下不レ好レ義者一也」

【好欲】カウ ヨク よきうた。詩經に「作二此好歌一、以極二反側一」

【好漢】カウ カン よき人物。舊唐書に「則天嘗問二石傑一曰、朕要二一好漢任使一、有乎」

【好嘲】カウ チウ あざけりをこのむ。宋史、陳彭年傳に「佛溥好レ嘲」

【好潔】カウ ケツ きれいすき。(潔癖)。左傳に「邾莊公卞急、而好レ潔」

【好學】カウ ガク 學問をこのむ。論語に「敏而好レ學、不レ恥二下問一」

【好醜】カウ シウ かほよきとみにくきと。列子に「賢愚好醜、成敗是非、無レ不二消滅一」

【好繪】カウ クワイ 精好なるきぬ。後漢書に「刻畫好繪」

【好爵】カウ シヤク ㊀よきくらゐ。㊁よきさかづき。王渭「高榮好爵、疊委應際」

【好文木】カウ ブン ボク 〔植〕梅の異名。晉起居注に「晉武好レ文則梅開、廢レ學則梅不レ開」

【好事者】カウ ジ シヤ 物事に深く心を寄する人。ものずき。孟子に「好二事者一爲レ之也」

【好奇心】カウ キ シン ものずきのこころ。

【好時候】カウ ジ コウ 紙の異名。文房四譜に「華陰楮知白、字守玄、亦曰二好時候一」

【好笑鼓】カウ シヤウ クワ 人のここのむ所にそはざる喩。韓愈「齊王好レ竽、有下求レ仕二於齊一者上、操瑟而往、立二王之門一三年、不レ得レ入、中路客罵レ之曰、王好レ竽、而子鼓瑟、瑟雖レ工、如二王之不レ好何一」

【好問則裕】カウ モン ソク ユウ 知らざることは好んで人に問へば、心廣くゆたかなり。書經に「好レ問則裕、自用則小」

【好爲二人師一】カウ ヰ ジン シ 物知り顔して、人の師となるをこのむ。孟子に「孟子曰、人之患在二好爲二人師一」

【好事不レ出レ門】カウ ジ モツ イデズ よきことは世間に、あらはれがたしとの義。北夢瑣言に「好事不レ出レ門、惡事行二千里一」

【妁】 シヤク。職略切。樂。なかうど(酌に同じ)。ウ、チ。雲俱切。虞。

【好】 禮を以て交る。

【如】 ㊀ジヨ、ニヨ。人諸切。魚。㊁如倨切。御。㊃ダ、ナ。乃箇切。箇。㊄ごとし(比較辭)㊂おなじ(同)、ひとし(均)、にたり(似)㊃ゆく(往)㊄いたる(至)㊅して、て(而に通ず)㊆しく(比するに足る)㊇あたる(當)㊈およぶ(及)㊉もし㊊語調を助くる辭㊋ゆく㊌ごとし。

【如干】ジヨ カン いくばく。いかほど。(若干)。任彥昇「食邑如干戶」

【如月】ジヨ ゲツ 二月の異名。きさらぎ。

【如今】ジヨ コン いま。現時。杜甫「艱難味二生理一、飄泊到二如今一」

【如レ玉】ジヨ ギヨクノ 美しきものの形容。詩經に「生芻一束、其人如レ玉」

【如在】ジヨ ザイ 神を祭るに鬼に敬ひ謹むこと。論語に「祭如レ生、祭レ神如二神在一」

【如如】ジヨ ジヨ 變ぜざる貌。又、異ならざる貌。賈島「當空月色自如如」

【如何】ジヨ カ どのやうに。どれほど。孟子に「食二粟而已、如何則可」又、論語に「桓魋其如レ予何」

【如法】ニヨ ホフ 〔佛〕㊀佛法に順ひてよくその行狀威儀をまもる。㊁まごころにて事を行ふ。㊂かたの如くに。㊃いふまでもなく。

【如破】ジヨ ハ 勢のはげしき形容。詩經に「不レ失二其馳一、舍レ矢如レ破」

【如砥】ジヨ テイ 平かなる形容。詩經に「周道如レ砥、其直如レ矢」

【如來】ニヨ ライ 〔佛〕佛の最美稱。道院集に「本覺爲レ如、今覺爲レ來、故曰二如來一」

【如茲】ジヨ ジ かやうなり。陶潛「寒暑有二代謝一、人道每如レ茲」

【如神】ジヨ シン きはめて靈妙なり。中庸に「至誠如レ神」

【如堵】ジヨ ト 人の多く寄り集れる形容。禮記に「孔子射二於矍相之圃一、蓋觀者如二堵牆一」

【如レ書】ジヨ ショノ 美しきさまの形容。後漢書、馬援傳に「鬚髮眉目如レ畫」

【如意】ニヨ イ ㊀思ふままになる。漢書に「陛下雖レ行二此道一、猶不レ得レ如レ意」㊁佛家の具、玉・鐵・竹などにて造り、長さ一尺許、心の表として菩薩これを執るといふ。

【如レ箭】ジヨ ヤノ 過ぎ去ることの早き形容。江表傳に「風猛往船如レ箭」

【如二冠玉一】ジヨ クワンギヨクノ 外貌のみ美にして、その實なき者をいふ。漢書、陳平傳に「絳侯曰、平雖二美丈夫一、如二冠玉一耳、其中未二必有一也」

【如レ探レ囊】ジヨ サグルガゴトシ 事の甚だ易きをいふ。五代史に「李穀曰、中國用レ吾爲レ相、取二江南一、如レ探二囊中之物一耳」

【如レ脫レ屣】ジヨ ダツスル シリヅ 屣は足履、之を脫ぎ棄つるも惜しからざるをいふ。史記、孝武紀に「嗟乎、吾誠得レ如二黃帝一、吾視レ去二妻子一、如レ脫レ屣耳」

【如意輪】ニヨ イ リン 〔佛〕觀世音の六臂ありて、如意寶珠を持ちたるもの。

【如レ歸レ市】ジヨ キイチニ スルガゴトシ 先を爭ひて至るをいふ。孟子に「仁人也、不レ可レ失也、從レ之者、如レ歸レ市也」

【如二天半雲一】ジヨ テンパンノ クモノゴトシ 山などの聳え立てる形容。三秦記に「華山在二長安東三百里一、不レ知二幾千仞一、如二天半之雲一」

【如不レ勝レ衣】ジヨ ガ ミニタヘザルガゴトシ 衣の重さにたへざるが如し、身體の柔弱なるをいふ。南史、周敷傳に「敷形貌眇小、如不レ勝レ衣」又、韓詩外傳に「身若不レ勝レ衣」

【如出二一口一】ジヨ イツコウニ イヅルガゴトシ 衆人の言、皆同樣なるをいふ。(異口同音)。戰國策に「左右俱曰、無有、如出二一口一矣」

【如二風過レ耳一】ジヨ カゼノミミヲ スグルガゴトシ その事に相關せざるをいふ。(馬耳東風)。吳越春秋に「富貴之于レ我、如二秋風之過レ耳一」

【如是我聞】ニヨゼ ガモン 〔佛〕かくの如く我は聞きたりといふ義。如來の指敎に從ひて、阿難これを諸經の佛說の冒頭に冠せし

語。金剛經に「如是我聞一時、佛在二舍衛國祇樹給孤獨園一、與二大比丘衆千二百五十人一俱」

【如二鳥過一目】 鳥が目前を飛び過ぐるが如し。過ぎ去るの疾きに喩ふ。張協「人生二瀛海内一、忽如二鳥過一目」

【如意寶珠】 〔佛〕佛家にいふ尊き珠。法華經に「摩尼珠瓔珞、如意珠瓔珞」

【如二蛾赴一火】 我身の滅ぶるを省みずして、利欲を貪るに喩ふ。事文類聚に「愚人貪レ財、如二蛾赴一火」

【如レ鼓二瑟琴一】 夫妻のよく和合するをいふ。詩經に「妻子好合、如レ鼓二瑟琴一」

【如レ履二薄冰一】 危險の甚だしきに喩ふ。詩經に「戰戰兢兢、如レ臨二深淵一、如レ履二薄冰一」

【如レ蹈二虎尾一】 前に同じ。書經に「心之憂危、若レ蹈二虎尾一、涉レ于春冰一」

【如レ壎如レ篪】 壎は土を燒きて作りたる樂器、篪は笛の如き樂器、壎と篪との聲能く和するごとく、兄弟の睦じきにいふ。詩經に「伯氏吹レ壎、仲氏吹レ篪」又、「如レ塤如レ篪」塤は壎に同じ。

【如二臂使一レ指】 意の如くならざることなきに喩ふ。漢書に「令二海内之勢一如二身使一レ臂、臂之使一レ指、莫レ不二制從一」

【如二犬嚙一枯骨一】 味なきに喩ふ。涅槃經に「菩薩知二五欲法無一レ有二歡樂一、如二犬嚙一枯骨一」 極めて恃みとせる者を失ふにいふ。史記に「人曰、丞相何(蕭何)亡、王怒、如レ失二左右手一」

【如レ失二左右手一】 得ることの容易なるに喩ふ。漢書に「經術苟明、取二青紫一、如二俛拾一地芥一耳」 世の俗塵に汙されざるをいふ。法華經に「不レ染二世間法一、如二蓮花在一レ水」

【如二蓮花在一レ水】 居所の安からざるに喩ふ。左傳に「夫子之在レ此也、猶二燕之巢一于幕上一」

【如二燕巢一幕上一】

【妃】 ㊥ヒ。芳微切。微。ㄈㄟ。盈之切。㊀つれあひ、たぐひ(匹)㊁きさき、后に次ぎて貴き嬪御の稱、又、太子の嫡室。ひめ(姫に同じ)㊂つれあひ(配に同じ)。

【妃耦】 つれあひ。(配偶)。左傳に「天有二三辰一、地有二五行一、體有二左右一、各有二妃耦一、妃同レ配」

【妃嬪】 官女の名。皇后の次を妃、妃の次を嬪、嬪の次を嬪嬪、嬪の次を嬪嬪。漢書に「妃嬪媵嬪、王子皇孫、辭樓下レ殿、輦來二於秦一」

【妄】 ㊥バウ、マウ。巫放切。漾。㊀空しく、いつはりて、みだりに㊁凡に同じ。なし(無)。みだりにもとむ。徐賓「潤屋豐家莫二妄求一」

【妄求】 みだりに言葉を出す。史記に「梁掩其口一曰、毋二妄言一族矣」

【妄言】 みだりにわらふ。南史、王玄謨傳に「性嚴未嘗妄笑」

【妄笑】 みだりにころす。說苑に「智者不二妄爲一、勇者不二妄殺一」

【妄殺】 〔佛〕迷妄なる執念。執念ぶかくおもふ。

【妄執】 みだりにすすむ。張仲素「是非罔レ惑、孰敢妄進」

【妄進】 みだりに發し出す。春秋繁露に「人主好惡喜怒、未嘗差也、中藏二此四者一、而勿使二妄發一、可謂天矣」

【妄發】 みだりなるこころ。蘇軾「盧心閑二地籟一、妄意覓二桃源一」

【妄意】 〔佛〕みだりなるおもひ。思念する所、正理に合はざるをいふ。華嚴經に「无二一衆生而不レ具二有如來智慧一、但以二妄想顚倒執著一、而不二證得一」

【妄想】 いつはり。無根のことば。梅堯臣「愚昧以之爲二妄誕一」

【妄誕】 よりどころなきはなし。れなしごと。蘇軾「後世徒妄說」

【妄說】 そらごと。いつはりごと。(虛言)。蘇轍「妄語自知レ當レ見レ棄、遠人未レ形一、鬼神縮二妄怪一」

【妄語】 みだりに言葉を出す。史記に「梁掩其口一曰、毋二妄言一族矣」

【妄言】 みだりにわらふ。南史、王玄謨傳に「性嚴未嘗妄笑」

【妄笑】 みだりにころす。說苑に「智者不二妄爲一、勇者不二妄殺一」

【妄殺】 〔佛〕迷妄なる執念。執念ぶかくおもふ。

【妄執】 みだりにすすむ。張仲素「是非罔レ惑、孰敢妄進」

【妄進】 みだりに發し出す。春秋繁露に「人主好惡喜怒、未嘗差也、中藏二此四者一、而勿使二妄發一、可謂天矣」

【妄發】 みだりなるこころ。蘇軾「盧心閑二地籟一、妄意覓二桃源一」

【妄意】 〔佛〕みだりなるおもひ。思念する所、正理に合はざるをいふ。華嚴經に「无二一衆生而不レ具二有如來智慧一、但以二妄想顚倒執著一、而不二證得一」

【妄想】 いつはり。無根のことば。梅堯臣「愚昧以之爲二妄誕一」

【妄誕】 よりどころなきはなし。れなしごと。蘇軾「後世徒妄說」

【妄說】 そらごと。いつはりごと。(虛言)。蘇轍「妄語自知レ當レ見レ棄、遠人未レ

信本非才」

【妄談】 前に同じ。後漢書に「採二取虛僞誇誕妄談一、令二忠孝失レ望」

【妄繫】 罪を糺さずしてみだりに囚ふ。唐書に「妄繫二令狐運一」

【妃】 ゲン。魚檢切。琰。㊀婦人の容儀の齊整せる貌(嫌に通ず)㊁とし(敏)、はやし(疾)。

四 畫

【妣】 タン、トン。都含切。覃。たのしむ、たのしみ(樂)。

【妊】 ジン、ニン。汝鴆切。沁。一に、姙に作る。 はらむ(懷孕)。

【妖】 ㊥フ。風無切。虞。㊀イウ、ウ。於求切。尤。㊁むさぼる(貪)㊂女の貌㊃うらむ(眉目間に恨むさまを帶ぶ)。

【妍】 ケン。妍に同じ。

【妣】 ㊥カイ、ケイ。居拜切。卦。㊀ケイ、ガイ。胡計切。霽。㊁れたむ、それむ(妬)㊂やぶる㊃からくす(苛)㊄おほふ(覆)。

【妍】 ネン、ゼン。而琰切。琰。たをやかなり、うつくし。ショウ、シュ。諸容切。冬。

【妐】 ㊀こじうと(夫の兄)㊁しうと(夫の父)。

【妒】 ト、ツ。都故切。遇。妬に同じ。㊀れたむ(羨みて惡む)㊁れたむ(婦、夫を嫉む)。

【妒忌】 それみいむ。漢書に「人性有二男女之情、妒忌之別一」

【妒氣】 れたむ。梅妃傳に「嫉色庸庸、妒氣冲冲」

【妒疾】 れたみにくむ。後漢書に「小人專レ制擅レ權、妒二疾賢者一」

【妓】 ㊥キ、ギ。巨綺切。紙。㊀キ。居宜切。支。㊁あそびめ㊂うたひめ㊃をんなのすがた(女容)。

【妧】 ㊥カウ、キャウ。客庚切。庚。㊀うつくし、美しき女㊃もとる(伉に同じ、戾)㊄女のあざな。

【妖】 エウ。伊堯切。蕭。㊀なまめく、なまめかし、たをやかなり(豔媚)㊁あやし(異)㊂ばけもの(孽)。

【妖幻】 妖術にてまよはす。北史に「沙門法慶既爲二妖幻一、遂說二渤海人李歸伯一、歸伯合二家從一之」

【妖冶】 なまめきてうつくし。謝靈運「嬾生無二文章一、西施嬰二妖冶一」

【妖妖】 うつくしき貌。舒元輿「妖妖、遠遠迤迤」

【妖怪】 ばけもの。趙抃「毫髮雖二遁形一、妖氣二戰淨一、妖氣」 あしきき。不祥の氣。李白「一人をばかすきつれ。玉海露布に「妖狐就レ擒、猶守二舊穴一」

【妖狐】

【妖眚】 わざはひ。晉書に「刑殺失レ中、妖眚並見」

【妖異】 ばけもの。(怪物)。後漢書、公沙穆傳に「穆誦レ經自若、亦無二妖異一」

【妖術】 あやしきわざ。不思議なる術。元史、順帝紀に「以二妖術陰謀一、聚二衆逐擊一兵」

【妖賊】 あやしきわるもの。南史に「宋武既累破二妖賊一」

【妖態】 なまめかしきさま。後漢書、梁冀傳に「梁冀妻孫壽、色美而善爲二妖態一、作二愁眉一」

【妖誕】 あやしきそらごと。(怪誕)。宋史、方技傳、序に「一切煮蕎妖誕之說、皆以二巫醫一爲レ宗」

【妖嬈】 うつくしくなまめかし。唐彥謙「麗詞傳二靜婉一、新曲定二妖嬈一」

【妖孽】 あやしき氣に入りの者にて禍を釀すもの。後漢書、李固傳に「因造二妖孽一、使二樊豐之徒乘一權放恣一」

【妖霧】 あやしききり。(瘴癘)。元稹「妖霧毒濛濛」

【妖魔】 なまめかしくうつくし。(妍麗)。拾遺記に「詔佞幸愛之臣、競以二粧

飾妖麗ニ取レ容ニ〇

【妖寃】マエウ　あやしき惡鬼。歐陽修「存レ之警ニ後世ニ古鑑照ニ妖寃ニ」

【妖不レ勝レ德】エウハトクニ　わざはひは德には打ち勝つこと能はず。史記に「伊陟曰、臣聞、妖不レ勝レ德、帝之政其有レ闕與、帝其修レ德」

【妗】㊀セン、ソン。處占切。鹽。　㊁ケン。馨祖切。鹽。　㊂カン、ケン。虛咸切。咸。㊃キン、ゴン。巨禁切。沁。　㊄善く笑ふ貌㊅　㊆うつくし(美)㊇女の輕薄なる貌㊈　うとめ(舅母)。

【妘】ウン。于分切。文。人の姓。

【妙】ベウ、メウ。彌笑切。嘯。㊀たへ(神妙)㊁わかし(弱少)㊂たをやか、みめよし(纖媚)。

【妙手】シヤウ　すぐれたるうでまへ。名人。樂府解題に「伯牙爲ニ天下妙手ニ」

【妙用】ヨウ　ふしぎなるはたらき。李羣玉「刀圭藏ニ妙用ニ、巖洞契ニ冥搜ニ」

【妙年】ネン　年わかし。朱熹「李公英妙年、讀ニ書此雲房ニ」㊄

【妙技】ギ　すぐれて巧なるわざ。梁昭明太子「巴龍才僮、邯鄲妙技」

【妙味】ミ　すぐれたるあぢ。すべて物事のすぐれたる點をいふ。晉書に「斯玉鉉之妙味、經世之徽猷也」

【妙相】サウ　めづらしきかたち。耶律楚材「山色水光呈ニ妙相ニ」

【妙格】カク　極めてすぐれたるしな。圖畫見聞誌に「夙擅ニ家聲ニ、皆濟ニ妙格ニ」

【妙速】ソク　巧妙にして速かなり。晉書、苻融載記に「融聰辨明慧、下レ筆成レ章、未レ有ニ升レ高不レ賦、臨レ喪不レ誄、朱彤趙整等、推ニ其妙速ニ」

【妙偈】ゲ　〔佛〕佛家の詩詞の敬稱。蘇軾「楞嚴在ニ牀頭ニ、妙偈時仰讀」

【妙略】リヤク　すぐれたるはかりごと。(奇計)。杜甫「妙略擁ニ天機ニ」

【妙筆】ヒツ　たくみなる書畫。米芾「美哉何方彥、精絕入ニ妙筆ニ」

【妙絕】ゼツ　甚だしくすぐる。後漢書、張超傳に「張超善ニ于草書ニ、妙絕時人ニ、世共傳レ之」

【妙算】サン　すぐれたるはかりごと。(高策)。虞綸「妙算干戈止、神謀宇宙清」

【妙意】イ　常人の及ばざるかんがへ。蘇軾「酒醒夢覺起繞レ樹、妙意有レ在終無レ言」

【妙想】サウ　すぐれたるかんがへ。蒲道源「妙想乃與ニ天機ニ通」

【妙說】セツ　すぐれたる言論。曹植「文人騁ニ其妙說ニ」

【妙境】キヤウ　ことばにてあらはしがたきたへなる場所。王僧孺「燭ニ此徽言ニ、若レ開ニ金石ニ、洞ニ茲妙境ニ」曾靡ニ榛蹊ニ」

【妙態】タイ　たへなるさま。傅毅「姿絕倫之妙態、懷惡素之潔清」

【妙趣】シユ　すぐれたるおもむき。すぐれたるあぢはひ。陸游「個中妙趣眞堪レ語」

【妙緣】エン　ふしぎのいんねん。李華「眞乘妙緣、靈祥嘉應」

【妙齡】レイ　年わかし。宋史、蔡崇禮傳に「崇禮妙齡秀發、聰敏絕レ人」

【妙嚮】チン　たへなるさへづり。たへなるしらべ。元稹「吟ニ斷章ニ而離離若レ聞、引ニ妙嚮ニ而二二皆圓」

【妙藥】ヤク　すぐれてききめある藥。(靈藥)。沈約「或得ニ妙藥ニ、或聞ニ異香ニ」

【妙麗】レイ　うるはし。漢書に「延年有ニ女弟ニ、上乃召見レ之、實妙麗善舞」

【妥】サフ、ソフ。悉合切。合。㊀かたち(容)㊁女のあざな。

【妥】ハイ。胚に同じ。

【妣】シ、ジ。嫁に同じ。

【妖】㊀ケツ、ケチ。古穴切。屑。㊁エツ、エチ。一決切。屑。㊂うつくし、美しき貌㊃まゆもと、眉目の間の貌㊄うれひれたむ(憂妨)。

【妝】サウ、シヤウ。側霜切。陽。㊀かざる、かざり(飾)㊁けしやう(粧裝)。正字通に「女に从ふ、牀の省の聲、俗に、粧、妝、裝に作る」

【妞】カウ。好の古文字。

【妟】アン、エン。於諫切。諫。やすし(晏に同じ)。

【妈】㊀タフ、ナフ。諾答切。合。㊁タン、ナン。奴甘切。勘。㊂めとる(聚)㊃あつむ(聚)㊄小兒の肥えたる貌㊅とる(取)、いる(入)。

【妣】ヒ。禮履切。紙。なきはは(歿母)。

【妤】ヨ。雲居切。魚。うつくしきをんな(美女)。キン、クン。規倫切。眞。よそほひ、女の始めての妝。

【妁】タ。吐火切。哿。

【妥】㊀やすし、やすんず(安)㊁おつ(墮に通ず)。おだやかなり。やすし。陸機「或妥帖而易ニ施、或齟齬而不レ安」

【妥帖】ダテフ　をりあふ。

【妥協】ダケフ　おだやかなり。

【妥當】ダタウ

【妊】ハウ、ホウ。敷容切。冬。かろし(輕)。

【妊】ゲウ。五換切。翰。よし、好き貌。

【妨】㊀ハウ。敷房切。陽。㊁敷亮切。漾。㊂さまたぐ、さまたげ(礙)㊃そこなふ(害)。

【妨止】シ　さまたげとどむ。

【妨害】ガイ　さまたげそこなふ。韓非子に「然而妨ニ害於治ニ民者也」

【妨遏】アツ　さまたげとどむ。

【妨礙】ガイ　さまたげ。范成大「靜看詹蹄結ニ網低、無ニ端妨礙小蟲飛」

【妨ニ賢路ニ】ケンロ　賢れたる者の仕進の邪寃をなす。潘岳「在レ疚妨ニ賢路ニ、再升ニ上宰朝ニ」

五畫

【妲】㊀タツ、タチ。當割切。曷。㊁タン。得案切。翰。妲已は殷の紂王の妃。

【妳】ダイ、ナ。嬭の俗字。

【妛】エン、チン。委遠切。阮。㊀婉、嬈に通ず、たをやか、すなほ㊁獸の名。

【妵】トウ、ツ。他口切。有。よし。好き貌。

【妶】ハイ。胚に同じ。

【妬】ト。妒に同じ。

【妬嫉】シツ　れたむ。(嫉妬)。荀子に「小人能則倨傲僻違、以驕ニ溢人ニ、不レ能則妬嫉怨誹、以傾ニ覆人ニ」

【妬】ハツ、バチ。蒲撥切。曷。㊀つま㊁ひでり(魃に通ず)。

【妮】ヂ、ニ。女伊切。支。しもをんな(下女)。

【妯】アウ、エウ。伊鳥切。篠。㊀うつくし、うつくしき貌㊁もとる(妯娌)。

【妯】㊀チウ、チュ。丑鳩切。尤。㊁チク、ヂク。佇六切。屋。㊂ロク。盧谷切。屋。㊃トク、ヂク。徒沃切。沃。㊄むなさわぎす㊅あひよめ(兄弟の妻、姒婦)㊆うごく、靜かならず。

【妯娌】チク　兄弟の妻。あひよめ。廣雅に「兄弟之妻、相呼曰ニ妯娌ニ」

【妸】チャク、ダク。陟略切。藥。㊀しづかなり(靜)㊁婦人の貌、又、をんな。

【姨】㊀イツ、イチ。弋質切。質。㊁テツ。姪に同じ。㊂㊃たはむる(嬉)㊄みだる(淫)。

【妹】カ。嬰の本字。

【妹】バイ、マイ。莫佩切。隊。妹と異なり。㊀いもうと、いもと(女弟)㊁女子を親みて呼ぶ稱。

【妹妹】マイ　よめ。又、つま。北史に「乳母爲ニ姊姊、婦爲ニ妹妹ニ」

【妹】バツ、マチ。莫曷切。曷。妹嬉は夏の桀王の后。

【妻】㊀セイ、サイ。千四切。齊。㊁シ。千杏切。支。㊂セイ、サイ。七計切。霽。㊃つま(夫に配合せる女)㊄めあはす(配)。

【妻子】シイ 一つま。詩經に「妻子好合、如レ鼓ニ瑟琴」二つまとこと。韓愈「其後如ニ東京ニ取ニ妻子」」

【妻孥】ドイ つまとこと。詩經に「宜ニ爾室家ニ樂ニ爾妻孥」」

【妻妾】サイフ つまとめかけと。宋書、周朗傳に「特雉可ニ以聘ニ妻妾ニ大布可ニ以事ニ舅姑」」

【妼】㊀ヒ、ビ。毗至切。寘。㊁ヒツ、ビチ。毗必切。質。かたちよし。

【姑】㊀セン、ソン。處占切。鹽。㊁セフ、ソフ。尺涉切。葉。一いとけなし(小弱)二かろし(女の體輕くして善く走るにいふ)三わざおほし、技藝多し。

【妾】セフ、サフ。七接切。葉。一めかけ、そばめ(側室)二わらは(女の自稱)三むすめ(女子)四つかひびと(給使に供する者)。

【妿】㊀ア。於何切。歌。㊁カ。古俄切。歌。かしづき(女師)、むすめに教ふる女。

【妯】ア、娶に同じ。

【妖】クヤウ。胡戈切。歌。一女のあざな二みやびなるかたち(雅容)。

【妵】㊀ヒク。況于切。虞。㊁ク、コ。權俱切。虞。㊂ク、コ。火羽切。㊃ク、コ。呼句切。遇。㊄ク、コ。美しき貌。㊅和好の貌、やはらぐ、よし㊆ばば、おうな(嫗)二つま(婦)㊇たのしむ(佚樂)。

【妵妵】ク 和好の貌。漢書に「項王見レ人、恭謹言語妵妵」」

【妃】ハフ、ボフ。房法切。洽。一かほよし二婦人の貌。

【妊】㊀セイ、シャウ。諸盈切。庚。㊁之盛切。敬。

【姅】あざな㊀女のあざな二おごそか。

【姊】ホ、フ。普故切。遇。美しき女。

【姅】ハン。博漫切。翰。めぐり(月經)。

【姅】トウ、ツ。都宗切。冬。女のあざな。

【姆】㊀ボ、モ。莫補切。麌。㊁ボ、モ。莫候切。宥。一かしづき(姥に同じ、女師)二あによめ(弟の妻より夫の嫂を呼ぶ稱)三かしづき。

【姅】㊀フ、ホ。芳無切。虞。㊁フ、ホ。房尤切。尤。一うつくし(美)二ろこぶ(悅)三うつくし(美)㊃いろどる(孚に通ず)。

【姈】レイ、リャウ。郎丁切。青。一女のあざな二さかし(巧慧)。

【姈】シ。蔣兒切。紙。一あれ、いろね(同胞の女の年長者)二婦人を親み又は尊びて呼ぶ稱。

【姈姈】シ うば。司空圖「姈姈教レ人且抱兒、逐ニ他女伴一卸頭選」」

【姈】シ。姈に同じ。

【姈】シ。首止切。紙。

【姈】㊀式支切。寘。㊁はじめ㊂はじまり㊃はじむ㊄はじまる㊅はじめ㊆はじめて。

【姈末】マツ はじめとするところ。(顧末)。楊燊「胡不ニ早具ニ姈末一奏レ之達ニ帝都ニ」」

【姈原】ゲン はじめ。おこり。

【姈祖】ソ 初代のせんぞ。書經、傳に「當レ以ニ錫命一告ニ其姈祖ニ」」

【姈如ニ處女一後如ニ脫兎一】ハジメハシヨノゴトシ ノチハダツトノゴトシ 姈は處女の如くやさしく靜かに、後は脫逸する兎の如く急速なり。敵に油斷せしむる策略を示したる語。孫子に「姈如ニ處女一、敵人開レ戶、後如ニ脫兎一、敵不レ及レ拒」」

【姈】ヒン、ビン。毗賓切。眞。めかけ、そばめ(妾)。

【姻】㊀サン、セン。相干切。寒。㊁ハン。鋪官切。寒。㊂セン。篇前切。先。㊃サツ、サチ。桑葛切。曷。㊄一よし、みめよし(好)二そしる(誹)三みにくし(醜)㊅足もとしどろに歩む貌㊆婦人の行くに衣を地に曳く貌。

【姻姻】セン しどろにあゆむ貌。漢書に「立而望之、何姻姻其來遲」」

【姻笑】サン そしりわらふ。漢書に「秦自任ニ私智一、姻ニ笑三代一」」

【姅】アウ、オウ。於郎切。陽。われ、女の自稱。

【姏】バン、モン。謨甘切。覃。ばば(老女の自稱)。

【姏姆】ボウ うば。又、ばば。晉書に「姏姆尼僧、尤爲ニ親暱一」」

【姐】㊀シャ、セ。子野切。馬。㊁ショ。子魚切。魚。㊂一俗言にて、あれ(姉)二蜀人の語にて、ばば(母)三あなどる(慢)四すがた(態)五おごる、おごり(驕)。

【姉】エツ、チチ。王伐切。月。かろし(輕)。コ、ク。攻乎切。虞。一しうとめ(夫及び妻の母)二をば(父の姉妹)三しばらく(且)。

【姑】ショ なほざりにす。

【姑洗】セン 音律の名、三月に配す。禮記に「季春之月、律中ニ姑洗一」」

【姑息】ソク 一時のがれ。一時の安をぬすむ。禮記に「細人之愛ニ人也、以ニ姑息一」」

【姑壻】セイ 父の姉妹の夫。北史に「高隆之父幹、爲ニ姑壻高氏所レ養」」

【姑舅】キウ しうとめとしうとと。夫の母と夫の父と。于潰「父兄未レ許レ人、長ニ妾事ニ姑舅一」」

【姑娒菜】コヂサイ (植)ほほづきの異名。

【姑射山】コシヤサン 一仙人の居るといふ山の名。莊子に「藐姑射之山有ニ神人一居焉、肌膚若ニ冰雪一、卓約若ニ處子一」二我國にて、仙洞の敬稱。

【姆】シ。新慈切。支。女のあざな。

【姥】カ、ケ。去伽切。歌。女のあざな。

【姆】シ、ジ。桑茂切。紙。あによめ(兄婦)、あれ(姉)。

【姆婦】フ あによめ。爾雅に「雉婦謂ニ長婦一爲ニ姆婦一」」

【姓】セイ、シャウ。息正切。敬。一かばね(家名)二やから(同族)三うまれご(生子)。

【姓系】セイケイ 姓氏と系統と。唐書に「敬淳尤明ニ姓系一」」

【孥】ヨウ。孕の俗字。

【毖】㊀シ。卽移切。支。㊁浅氏切。紙。㊂ちひさきをんな二婦人の媚びざる貌㊃まふ、まひ(舞)四婦人の貌。

【妣】ゲン。語寔切。阮。一つみそろふ(積齊)二容の好き貌。

【委】㊀キ。鄔毀切。紙。㊁於僞切。寘。㊂邑危切。支。一まかす(任)二ゆだぬ三つく(屬)四したがふ(隨)五おく(置)六つむ(積)七すつ(棄)八つまびらかに九つぶさに十する(末)㊁一かこひ米(官府に蓄へ、賑恤に備ふ)二倉庫などを司る官府㊂ゆったりとしておちつきたる貌。

【委去】キヨ すてさる。世說に「駛車委去、比レ出已遠」」

【委伏】ブク すてて用ゐず。後漢書に「令ニ搢紳之徒、委ニ伏畎畝一」」

【委曲】キヨク つまびらかなること、わけ。史記、注に「徘徊周浹、委曲得ニ體之序一」」

【委吏】リ 米穀の出納をつかさどる官。孟子に「孔子嘗爲ニ委吏一矣、曰、會計當而已矣」」

【委地】チ 地におつ。又、地におとす。物の衰ふるにいふ。北史、魏昭成帝紀に「身長八尺、隆準龍顏、立髮委レ地」」

【委注】チユウ 心をよせたのむ。宋史に「不ニ敢負ニ陛下委注之意一」」

【委委】ヰヰ あゆみ行く貌。爾雅、注に「委委、行貌」

【委蛇】ヰイ ㊀雅容自得の貌。詩經に「退食自レ公、委蛇委蛇」㊁ヰダ 〔説〕どちゃうの異名。(泥鰌)。莊子に「宜下棲二之深林一、浮二之江湖一、食レ之以ヤ委蛇ェ」

【委細】ヰサイ くはしくこまかなり。禮記、疏に「委細屈曲街巷之禮」

【委遲】ヰチ ゆるやかにめぐりて遠き貌。詩經に「周道委遲」

【委蛻】ヰゼイ ぬけがら。蛇又は蟬などのぬけたるあとの殼。蘇軾「是身如二委蛻一、未蛻何所レ願」

【委質】ヰシン 委は置、質は贄なり、贄を君の前に置く義にて、初めて仕官するをいふ。一説に、質は形體なり、形體を君にまかす義なりと。左傳に「策レ名委レ質、貳乃辟也」

【委積】ヰシキ 少しくつむと多くつむと。儲蓄の義。史記に「夫匈奴無二城郭之居委積之守一、遷徙鳥擧雖二得而制一也」

【委靡】ヰビ 振はざる貌。韓愈「頹墮委靡」

【委囑】ヰショク まかせたのむ。

六畫

【妊】ジン、ニン。妊に同じ。

【姙】ニン はらむ。異苑に「婦人姙孕未滿三月、著二婦衣冠一、平旦左繞井三匝、映二井水一、詳觀レ影而去、勿レ反顧一、勿レ令二婦見一、必生レ男」

【姚】㊀エウ。餘昭切。蕭。㊁テウ。他弔切。嘯。㊂ヨウ。弋笑切。嘯。よし、みめよし、うつくし、美好なる貌。㊃はるかなり、とほし(遙に同じ)。㊄ほろし(蜆に同じ)。㊅はやし、とし、つよく疾き貌。

【姚冶】ヤウヤ 美好の貌。荀子に「美麗姚冶」

【姚黄】ヤウクワウ 牡丹の中にて第一の名品をいふ。牡丹譜に「姚黄千葉黄花」

【姛】㊀トウ、ヅ。吐孔切。童。㊁徒弄切。逕。

【姜】㊀直なる項の貌。㊁ただし(項端)。キャウ、カウ。居良切。陽。人の姓、水の名。シュ、ス。春朱切。虞。

【姝】㊀うるはしきひと(美人)。㊁うるはし、みめよし。㊂にぶし(柔懦)。㊃かざる(粉飾)。

【姝好】シュカウ かほよくうつくし。唐書に「采二擇天下姝好一」

【姝姝】シュシュ にぶき貌。莊子に「暖暖姝姝」

【姝姁】シュキュ うつくしき女。美人。

【姞】キツ、キチ。極乙切。質。人の姓、又、あざな。

【姟】ガイ、ゲイ。柯開切。灰。數の名、兆の百倍。

【姁】㊀シャウ、サウ。式亮切。漾。㊁キャウ、カウ。許亮切。漾。女のあざな。

【姬】㊀ガウ。五果切。哿。㊁ダ、ナ。努果切。哿。俗に、姥に作るは非なり。㊂ウ。烏果切。哿。俗に、姥に作るは非なり。㊃うるはしき貌(緜姥)。㊄よわし、たをやか(弱)。㊅かほよし、みめよし、好き貌。

【姮】㊀クワツ、クワチ。戶括切。曷。㊁古活切。曷。㊂いつはる、いつはり(詐)。㊃はづ、はぢ(靦)。㊄みにくし(醜)。

【娟】エン、ケン。鵑に同じ。

【姣】㊀カウ、ケウ。古巧切。巧。㊁何交切。肴。㊂佞、妖に通ず。㊃うつくし(美)、なまめかし(嫵)。㊄さとし。㊅みだり、みだる、たぼる(淫)。

【姤】コウ、グ。狠口切。有。㊀あふ(遇)。㊁うつくし、みめよし(好)。㊂昜の卦の名。

【姥】ボ、モ。莫補切。麌。姆に同じ。ばば、うば。

【姦】カン。居顏切。刪。㊀わたくし(私)。㊁いつはり、いつはる(詐)。㊂みだりがはし(淫)。㊃よこしま(邪)。㊄あしき行の人(罪人、姪婦、佞者、惡漢の類)。

【姦回】カンクワイ よこしまなり。左傳に「王孫滿曰、德之休明、雖レ小重也、其姦回昏亂、雖レ大輕也」

【姦邪】カンシヤ よこしまなり。又、その者。韓愈「姦邪讒佞欺負之徒」

【姦佞】カンネイ 心のねぢけてあり。又、その者。晉書に「黜二姦佞於州國一」

【姦治】カンヂ 心あしき人の政治。荀子に「事必不レ就、功必不レ立、是姦治者也」

【姦勇】カンユウ 心よこしまにして氣つよし。國語に「姦勇爲レ賊」

【姦俠】カンケフ 心あしきをとこだて。漢書に「遠招二遊俠一、多聚二姦俠一」

【姦倖】カンカウ 心のあしき氣にいりびと。後漢書に「糾二劾姦倖一」

【姦桀】カンケツ わるくあらし。(凶桀)。李清臣「劉項之魁雄、曹馬之姦桀」

【姦惡】カンアク わるもの。潛夫論に「張湯增二定律令一、以防二姦惡一」

【姦慝】カンタク 心あしきものとぬすびとと。晉書に「農事荒、姦慝起」

【姦猾】カンクワツ わるがしこし。漢書、武帝紀に「五年徙二天下姦猾吏民於邊一」

【姦雄】カンユウ すぐれてわるがしこき人。孔子家語に「少正卯、人之姦雄也」

【姦智】カンチ ねぢけたるちゑ。管子に「民貧則姦智生」

【姦富】カンフウ 不義なる以てあつめたるとみ。鶴林玉露に「本富爲レ上、末富次レ之、姦富爲レ下」

【姦筴】カンサク わるだくみ。(奸筴)。

【姦意】カンイ ねぢけたるこころ。列女傳に「舜承二事瞽瞍一、以二孝母慎一舜、而愛レ象、舜猶內治、靡レ有二姦意一」

【姦態】カンタイ 心あしきかたち。蔡邕「公覺二其姦態狀一」

【姦獪】カンクワイ よこしまにしてわるがしこし。又、その者。唐書、盧從史傳に「姦獪得志、又善迎附」

【姦慄】カンセン かたましくねぢけたり。王安石「挺身白辟上、附麗無二姦慄一」

【姦黠】カンカツ わるがしこし。(狡黠)。北史に「引二致姦黠一」

【姦贓】カンザウ 心あしくして、官物をわたくしす。王十朋「擇二守令一、兮、去二姦贓一、愼勿レ擾兮、如レ牧レ羊」

【姦】カン。姦に同じ。

【妥】㊀コ、ゲ。後五切。㊁チ、ウ。烏故切。遇。むさぼる(貪)。

【契】ケツ、ケチ。吉屑切。屑。潔に通ず。きよし(清)。

【姨】イ。延知切。支。㊀たば、母の姉妹。㊁妻と同腹の姉妹の稱。

【姹】イ、エ。於蓋切。徵。女のあざな。

【姻】ジン、ニン。而蓋切。語。くさる、魚肉敗る。

【姙】㊀デン、ネン。乃見切。霰。㊁寧顧切。先。

【姪】㊀美しき女。㊁女のあざな。㊂テツ、デチ。杜列切。屑。㊃チツ、ヂチ。直一切。質。俗に、侄に作るは非なり。㊄めひ、兄弟の生める女。㊅をひ、兄弟の生める子、又、妻の兄弟の子。㊆としより、耋に通ず。

【姪甥】テクサウ めひとをひと。白居易「弟妹妻孥小姪甥」

【娥】セツ、セチ。媟に同じ。

【姪】リヨ、ロ。媚に同じ。

【姹】シン。止忍切。軫。つつしむ、つつしみ(慎)。

【姬】㊀ひめ(王の后、女子の美稱、妾の稱)。㊁人の姓。キ。居之切。支。

【娶】ケン。許欠切。豔。

【姨】コウ、ゴウ。胡登切。蒸。みめよし、好き貌。

【姮】女のあざな。

【姮娥】月の異名。羿の妻姮娥が不死の藥を竊みて月中に奔りたる故事による。後漢書、注に「羿請二西王母一、求二不死之藥一、姮娥竊而奔月中一、月中有二蟾蜍一、是其精也一、故月中有二蟾蜍一、是其精也一、故月中有二蟾蜍一、是其精也一、故

毋、姮娥竊レ之以奔レ月」クワウ。姑黄切。陽。

【姚】一女のあざな　二うつくし、あてやか（妍麗）。

【姁】㊀シュン。須倫切。眞。㊁ケン、クン。規倫切。眞。㊂キン、クン。奚絹切。霰。㊃くるふ（狂）㊄かたちづくる（女妝）㊅かなふ、ひとし、ならぶ（鈞適）。

【姱】㊀クワ、ケ。枯瓜切。麻。㊁ク、チ。匈于切。虞。㊂コ、ウ。後五切。㊃一よし、うるはし（夸に通ず）二うるはし、美しき貌㊁おごる（奢）㊂よし、うるはし㊃一よし、うるはし二あし、かたまし（姣姱）。

【姝】アン、エン。於諫切。諫。女のあざな。

【姞】ケイ、キヤウ。莫迴切。迴。よし（好）。レツ、レチ。力蘖切。屑。うつくし（美）。

【姶】㊀アフ、オフ。遏合切。合。㊁アフ、エフ。乙洽切。洽。

【姽】一うつくし、かほよし（美好）二女の姓、又、その名㊁なんなのたくみ（巧）。イウ、ウ。于救切。宥。

【娟】たぐふ、ならぶ、あはす（耦）。ケイ、ギヤウ。戶經切。青。たかし、女の身の長け高き貌。

【姸】ケン、ゲン。五堅切。先。一うるはし（麗）、なまめかし（媚）、うつくし（美好）二みがく（研）。

【妍皮】ケン　うつくしきかは。古諺に「妍皮不レ裹二痴骨一」

【妍步】ゲン　美人のあゆみ。齊後舞階步歌

【妍芳】ケン　うつくしくにほひよし。李綱「桃李妍芳耀二新粧一也」

【妍倡】ケンシャウ　みめよきわざをぎ。曹植「辯二中廚之豐膳一作二齊鄭之妍倡一」

【妍粧】ケンサウ　うつくしきけしやう（華粧）。

【妍麗】ケンイン　うつくしくつややかなり。楊基「蔥氣日已銷、黃花自妍麗」

【妍豔】ケンエン　うるはし。楊巨源「妍豔照二江頭一春風好客レ留」

【妊】タ。妊に同じ。咤、詫に通ず。

【姚】㊀シン。所臻切。眞。㊁セイ、サイ。小禮切。薺。㊂アン。蕭前切。先。㊃セン。蕭前切。先。㊄行く貌、跚に同じ。

【姻】イン。伊眞切。眞。一よめとりむことり、夫婦上の緣及びその緣者二ちなみ（因緣）三とつぐ、ちなむ、夫婦の緣を結ぶ。

【姻戚】セイキ　配偶者の親族。後漢書に「宗門廣大、姻戚不レ少」

【姻族】ゾイク　親戚のあひだがら。劉禹錫「姻族相賀、壺觴盈レ門」

【姤】㊀フウ、フ。方九切。有。㊁ハイ、ヘ。鋪來切。灰。㊂ハウ、ヘウ。班交切。肴。一好色の貌二なんなのの（女儀）。

【姼】㊀シ、ジ。是支切。支。㊁承紙切。紙。㊂タ。典可切。哿。㊃テイ、ダイ。田黎切。齊。㊄キ、ギ。巨綺切。紙。㊅㊆一おや（父母）二みめよき女三輕薄なる貌㊇おや㊈一やすし（媞に同じ）二かほよし（美好）三一ちひさきなんな三妓に同じ。

【姽】キ、ギ。過委切。紙。たをやか（閑雅）、よし（好）。

【姿】㊀シ。即夷切。支。㊁資四切。寘。㊂一かたちづくる（容）二、こぶ（媚）。

【姿色】シショク　うつくしきかほいろ。後漢書、皇后紀に「姿色端麗」

【姿望】シバウ　すがた。（容姿）。晉書、何劭傳に「劭雅有二姿望一」

【姿勢】シセイ　からだのやうす。

【姿貌】シバウ　すがた。かたち。（容貌）。後漢書、周舉傳に「舉姿貌短陋」

【威】一井。於非切。微。たけし（猛）、おごそか（尊嚴）二やうす（禮貌、容貌）三いきほひ（勢力、權柄）四おそる（畏）五ほばかる（憚）六おどす。

【威力】リヨク　權勢のちから。晉書に「仰憑二威力一、庶雪二國家之恥一」

【威刑】ケイ　威光と刑罰と。又、單に仕置の義。隋書に「國之所レ恃、不レ在二威刑一」

【威光】クワウ　おそれうやまふべきいきほひ。曹植「威光佐二綺辰一彗北鑾」

【威武】ブ　權威と武力と。詩經、疏に「赳赳然威武之夫、可三以爲二公侯之干城一」

【威烈】レツ　さかんなる威光。漢書、度尙傳に「畏二尙威烈一、徙入二山谷一」

【威重】チヨウ　おごそかにしておもおもし。傅休奕「養二威重一、運二神兵一」

【威服】フク　おどして服從せしむ。史記、秦始皇紀に「威二服海內一」

【威風】フウ　威光のあるやうす。

【威容】ヨウ　威嚴のあるかたち。華陽國志に「杜軫爲二尙書郎一、威容可レ觀」

【威信】シン　威重ありて信實なり。後漢書、郭伋傳に「黨與聞二伋威信一」

【威望】バウ　威勢と人望と。（聲望）。

【威禁】キン　威嚴と禁制と。吳志、注に「威禁大行」

【威稜】リヨウ　みいつ。（稜威）。漢書に「威稜憺二乎隣國一」

【威勢】セイ　意氣盛んなるさま。いきほひ。吳志に「務行二威勢一」

【威福】フク　威光と福運と。漢書に「朝無二威福之臣一」

【威儀】ギ　一禮の定まれるのり。（禮儀）。中庸に「威儀三千」二おもおもしくして則るべし。左傳に「北宮文子云、有レ威而可レ畏謂二之威一、有レ儀而可レ象謂二之儀一」

【威綱】ヰカウ　おきて。晉書に「威綱寬簡」

【威嚴】ヰゲン　威嚴さかんなり。史記に「威憚旁逢、莫レ不二賓服一」

【威澤】ヰタク　威嚴と恩澤と。後漢書に「上命不レ行、威澤日損」

【威嚇】カク　おどす。（恐嚇）。

【威靈】レイ　いかめしくたふとき力。吳志に「宣二揚德美一、廣二耀威靈一」

【威臨】リン　威光を以て人に接す。後漢書に「董太后、遽徵レ忠爲二司隸校尉一、以相威臨」

【威權】ケン　威力と權勢と。漢書に「當世君臣有二威權勢力一、其事實皆形二於傳一」

【威嚴】ゲン　威力ありておごそかなり。戰國策に「威嚴不足以易二於位一」

【威如二破竹一】ハチクノゴトシ　威力の大いに振ふなり。晉書に「今兵威已振、譬如レ破竹、數節之後、迎レ刃而解」

【娵】タ、ダ。都果切。哿。一はかる、はかり（量）二うつくし、うるはし（美好）。

【娃】㊀アイ、エ。於佳切。佳。㊁ア、エ。烏瓜切。麻。一うつくし（美貌）、みめよし、かほよし、うつくしき女二深目の貌（娃圓）。

【娼】シ、ジ。疾二切。寘。れたむ、それむ（妒）。

七畫

【娸】ケフ、セフ。即協切。葉。一こころよし二いこふ、やすむ（息）三かすかなるいき。リヨ、ロ。雨舉切。語。

【娼】みにくし、醜き貌。

【娼】㊀ヘイ、ヒヨウ。匹正切。敬。㊁ハウ、ヒヤウ。彼耕切。庚。㊂聘に同じ一とふ（問）二めす（召）三めとる（娶）㊃うつくし（美しき貌）。

【娉命】ヘイ　結婚のやくそく。北史に「與レ君娉命雖レ舉二家多故、未レ及相見一」

【娉婷】ヘイテイ　うつくしき貌。杜甫「不レ嫁惜二娉婷一」

【娟】㊀サウ、セウ。所交切。肴。㊁所敎切。效。㊂シヤク、サク。七約切。藥。㊃おほあね（孟姉）㊄㊅一おかさる（侵）二あなどらる（侮）。キウ、ク。渠尤切。尤。

【娵】一女のあざな㊁たぐひ（匹）。テフ、トフ。陟涉切。葉。あし、女の不善なる貌（孤娵）。

【娵】タ、ダ。都果切。哿。一はかる、はかり（量）二うつくし、うるはし（美好）。

〔女部〕娌娀娶娾娹娘娑娵娼娷娸娾娷娷娷

〔女部〕 娼嫋嫐娵娶婀婁婁婃嬉婆婇婢婢婢

【婦業】ふなのしごと。後漢書に「晝修二婦業一、暮誦二經典一」

【婦德】ふなのそなふべき德。北史に「南陽長公主有二婦德一」

【婦織】ふなのはたおり。李勣「倚レ牀看二婦織一」

【婦人之仁】施すに足らざる小惠。史記に「韓信曰、項王見レ人、恭敬慈愛、言語嘔嘔、人有二疾病一、涕泣分二食飲一、至使レ人有レ功當二封爵一者、印刓弊忍不レ能レ予、此所レ謂婦人之仁也」

【婧】㊀セイ、シャウ。疾政切。敬。㊁ただし。ろ疾郢切。梗。

【婢】㊀ガン。魚肝切。翰。ろゲン。魚變切。霰。㊁キャク、カク。迄約切。藥。

㊀よし、みめよし(好)。㊁婦人の容姿の齊整せざる貌ろあざやか(嬋嬛)。㊁解悟せざる貌(嬋斫)。

【婪】㊀ラン、ロン。盧含切。覃。ろ盧感切。感。

㊀むさぼる(貪)ろつつします。

【婪尾】最後の義。楊萬里「破二除婪尾暑一、領二略打頭清一」

【婪沓】欲ふかくして、妄にものをむさぼる。唐書、李忠臣傳に「忠臣、賓婪沓嗜レ色、所レ至人苦レ之」

【婪尾春】(植)しゃくやくの異名。清異錄に「唐末文人有レ謂二芍藥一爲二婪尾春一者、婪尾酒、乃最後之杯、芍藥殿レ春、亦得二是名一」

【娓】㊀コン、クン。公渾切。元。ろコン。戶袞切。阮。

㊀女のあざなろおほふ(蒙)。

【姪】㊀イン。餘針切。侵。淫に通ず。㊁たのしむ(樂)。㊂たはむる(戲)。㊃あそぶ(遊)。

【婭】㊀あひむこ、兩壻相呼ぶ稱。㊁えア。依嫁切。禡。

【姻】(婚戚)。

【姻壻】あひむこ。唐書、李傑傳に「內恃二明皇姻壻一」

九畫

【婷】テイ。娗、又は、嬬に同じ。うつくし、美好なる貌。

【媕】㊀タウ、ドウ。徒朗切。養。ろヤウ。余章切。陽。

㊁いまま(放)。㊂たはむる(淫戲)。

【婉】㊀ほしいまま(我)ろ女のあざな。

【敵】㊀シウ、ジュ。卽就切。宥。ろシュク、ソク。七六切。屋。

㊀みにくし、醜き老嫗の貌。㊁よし(嬋に同じ)ろよし。

【嫂】㊀ア、ム。亡遇切。遇。ろボウ、ム。迷浮切。尤。㊁ボク、モク。莫木切。屋。㊂したがはずろ㊃うつくし、美しき貌。

【婻】㊀ダン、ナン。奴紺切。勘。㊁うつくし、美しき貌。㊂こゆ、小しく肥ゆ。

【嫠】サウ、ソウ。蘇老切。皓。あによめ(兄の妻)。

【嫡】㊀シャク、ジャク。昌約切。藥。ろジャ、ニャ。人奢切。麻。㊁ジ、ニ。如支切。支。㊂ろさかふ、順はす㊃國の名、嫡羌は西域三十六國の一。

【媿】㊀テン。追萬切。願。ろペン、メン。亡辨切。銑。㊁つれあひ(配耦)ろ娩に同じ。

【媚】コン。婚に同じ。

【嫁】カ、ケ。吉馬切。馬。みめよし、好き貌。

【媛】㊀ワイ、エ。烏回切。灰。ろ鄙賄切。賄。

【嫄】㊀女のあざなろうつくし(妍)。

【嫠】㊀ユ、ヨ。羊朱切。虞。ろトウ、ツ。託侯切。尤。今、偷に作る。

㊁なびく(靡)。㊂うすし(薄)。㊃たのしむ(愉に通ず、樂)。㊄ぬすむ(偷)。㊅かりそめ(苟且)ろ㊆わるがしこし(巧黠)。㊇ままにまかす、したがふ。㊈ぬすむ。

【嫠】チョウ、ヂュ。柱勇切。寡女のあざな。

【媒】㊀バイ、マイ。莫杯切。灰。ろボウ、モウ。彌登切。蒸。

㊁なかだち、嫁娶をとりもつ者。㊂もと(酒醗、麴餅)ろ㊃くらし(味)。㊄むさぼる(貪)。

【媒介】雙方のあひだに立ちて取りもつ。なかだち。唐書に「房玄齡曰、古今用レ人、必因二媒介一」

【媒妁】えんぐみの周旋をする者。なかだち。白虎通に「男不二自專一娶、女不二自專一嫁、必由二父母一、須二媒妁一何、遠レ恥防二淫佚一也」

【媒婦】なかだちするをんな。靑箱記に「使二媒婦通レ意」

【媒鳥】をとり。

【媒媒】くらき貌。(昧昧)。莊子に「媒媒晦晦、無心而不レ可二與謀一」

【媒孼】媒は酒醗、孼は麴なり。媒孼を以て酒を造るが如く、その罪を醸成するなり。漢書に「媒孼其短」

【媥】㊀ベン、メン。彌兗切。銑。ろ彌延切。先。㊁ねたむ(妬)。ろめもとうつくし、目の美しき貌。

【媩】クワウ、ワウ。胡光切。陽。はは(母)。

【媧】ケイ、カイ。堅奚切。齊。女のあざな。

【嫄】㊀ボク、モク。莫木切。屋。㊁ろ㊂ぬすむ。

【嫄生】眞面目なるつとめをせずして生きながらふ。風俗通「將二從レ俗富貴以嫄レ生乎」

【嫄合】人の意を迎へて氣に入るやうにす。史記に「嫄合取レ容」

【嫄居】安をぬすみて位に居る。國語に「嫄居幸生」

【嫄娛】たのしむ。東方朔「凌二恆山一其若レ墮兮、聊嫄娛以忘レ憂」

【婿】セイ、サイ。壻に同じ。

【媯】㊀ゴ、グ。元俱切。虞。ろゴウ、グ。語口切。有。㊁ギャウ、ゴウ。魚容切。冬。㊂ゲ、ゴ。元具切。遇。

㊃ろ㊄女のあざな㊅女の男を妒むにいふ、ねたむ、それむ(妒)。

【嫜】㊀キ。於非切。微。ろ羽鬼切。尾。㊁うつくし、美しく盛んなる貌二悅ばざる貌ろうつくし。

【嫦】㊀テイ、タイ。丁計切。霽。ろ田黎切。齊。㊁圓室の神の名二たをやか、女の貌ろ女のあざな。

【嫋】ジウ、ニュ。而由切。尤。女の媚ぶる貌。

【嫉】ビ、ミ。無鄙切。紙。うつくし。

【嫐】ダウ、ノウ。乃老切。皓。

【嫐】㊀うらむ(恨)二いたむ(痛)二なやむ(惱)。

【嫌】㊀ドン、ナン。奴困切。願。ろゼン、ナン。乳兗切。銑。㊁嫩に同じ、わかし、かほよし、よわしろみめよし、好き貌。

【嫉】㊀キ。吁韋切。微。ろコン、ゴン。吾昆切。元。㊁女のあざな。

【嫉】㊀アク、オク。乙角切。覺。ろチク。烏谷切。屋。

㊁かほよし、かたち㊂くるし、かたち(容)ろかほよし、好き貌。

【嫦】シュン、スン。樞倫切。眞。

【嫦】㊀女のあざな二うつくし。

【嫦】㊀バウ、メウ。莫交切。肴。ろボク、モク。謨沐切。屋。㊁娣に同じ。

【嫦】㊀めもとよし、みめよし二うかれめ(妓女)。

【嫦】㊀セン、ゼン。才先切。先。ろシ、ジ。津私切。支。

星の名。

【嫦】セイ、シャウ。所景切。梗。へる、へらす(減)。

【嫦】フ。婦に同じ。

【嫦】タン。多官切。寒。女のあざな。

【嫦】㊀イ。與之切。支。ろキ。許其切。支。

【嫦】たのしむ(樂)ろ㊁よろこぶ(悅)二妃に通ず。

【嫦】チョウ、ヂュ。柱勇切。

〔女部〕婦婧媧婢婦婷媄嫄嫠嫡媛嫂嫌嫐嫄嫄嫄

〔女部〕 嬪 嬪 嬖 嬉 嫵 媚 嫵 媛 嫉 嬉 嫌 嬉 嬪 嬪 嬪

〔女部〕 嫄嬉嫄嬪嬬嫩嫁嫌嫌嫌

〔女部〕嫭嫮嫠嫁嫣嫪嫩嫩嫩

〔女部〕 媿嬢婷嫋嬖嬉嬉嬉

〔女部〕 嬯嬖嬢嬾嬲嬬嬭嬲嬭嬭嬭

【孔練】コウレン はなはだしくつかる。詩經に「孔練且殆」

【孔道】コウダウ ㊀ひろきみち。漢書に「婚羌國、中略辟二在西南一、不レ當二孔道一」㊁孔子のなしへ。韓愈「孟軻好レ辯、孔道以明」

【孔聖】コウセイ ㊀萬事に精通してあること。詩經に「皇父孔聖」㊁孔夫子の稱。司馬彪「惑二彼孔聖默一、哀二此年命促一」

【孔碩】コウセキ はなはだ大いなり。詩經に「爲レ俎孔碩」

【孔靜】コウセイ はなはだしづかなり。楚辭に「眴兮杳杳、孔靜幽默」

【孔樹】コウジユ 大いなる木。任昉「參差孔樹、臺末成レ拱」

【孔德】コウトク 大いなる德。司馬相如「允哉孔德、此鄙人之所レ願聞也」

【孔樂】コウラク はなはだしくたのしむ。詩經に「孔樂韓士、川澤訏訏」

【孔懷】コウクワイ はたはだしくおもふ。詩經に「兄弟孔懷」

【孔竅】コウケウ あな。韓非子に「知レ事レ天者、其孔竅虛」

【孔繂】コウカツ すきあな。戴復古「神功巧穿鑿、石壁生二孔繂一」

【孔方兄】コウハウケイ 文錢の異名。文錢の中心の孔、方形なるが故にいふ。晉書、魯褒傳に「褒著二錢神論一、曰、親レ之如レ兄、字曰二孔方一」

【孔門十哲】コウモンノジツテツ 孔子の門人中の十人の賢人、顏淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓（德行）、宰我・子貢（言語）、冉有・季路（政事）、子游・子夏（文學）の稱。論語に見ゆ。

【孔席不レ暖】コウセキアタタマラズ 孔子は東西に奔走する爲に、席の暖まる暇なし。韓愈「禹過二家門一不レ入、孔席不レ暖、墨突不レ得レ黔」又、文子に「孔子無二黔突、墨子無二暖席一」

孕 二畫

【孕】ヨウ。以證切。徑。

【孕乳】ヨウニウ はらむ、はらみ（妊）。

【孕婦】フヨウ はらむと乳のますと。後漢書、烏桓傳に「見二鳥獸孕乳一、以別二四節一」

「剖二孕婦一、而見二其化一」

みもちをんな。呂氏春秋に

孖 三畫

【孖】シ。子之切。支。

㊀ふたご（雙生子）㊁しげし、さかんなり（滋に同じ、蕃）。

【字】シ、ツ。疾置切。寘。

㊀うむ（生）㊁いつくしむ、あはれむ（慈）㊂やしなふ、ちちのます（養）㊃あざな（實名の外の呼び名）㊄あざなす㊅いひなづけす、いひなづけ（許嫁）㊆女性の畜類（牸に通ず）㊇女章の森嚴なる㊈もじ、言語を書き表はす記號。

【字孕】ジヨウ 兒をはらむ。元史、世祖紀に「勅、禽獸字孕時無二畋獵一」

【字母】ジボ 音をつづる基となるべき文字。又、活字をつくる基となる模型の文字。

【字乳】ジニウ ちちなのます。やしなふ。論衡に「牛馬則有二數一字乳一之性」

【字典】ジテン じびき。

【字育】ジイク はぐくみそだつ。

【字指】ジシ 文字の意味。魏志、注に「蘇林字孝友、博學多通二古今字指一」

【字格】ジカク 文字の法則。竇臮「字格に「別有二字格存一焉」

【字眼】ジガン 句の中にて最も主要とする文字。滄浪詩話に「詩用レ工有レ三、曰起結、曰句法、曰字眼」

【字畫】ジクワク 文字の點畫。書苑に「字畫交錯者、欲二其疎密長短大小勻停一」

【字彙】ジヰ じびき。

【字義】ジギ 文字の意味。魏書、孫惠蔚傳に「專精校考、參二定字義一」

【字樣】ジヤウ 文字のかた。歐陽修題跋に「唐于祿、字樣模本」

【字體】ジテイ 文字のかたち。（書體）。韓愈「辭嚴義密讀難レ曉、字體不レ類隸與レ科」

【字挾風霜】ジハフウサウ 文章の森嚴なるをいふ。四庫雜記に「淮南王劉安撰二鴻烈二十一篇一、字中皆挾二風霜一」

【存】ソン、ゾン。徂尊切。元。

㊀いきながらふ、ながらふ（保命）㊁います（ありの敬語）、あり（在）㊂あはれみとふ（恤問）、とふ（問）㊃みる（察）、かへりみる（省）㊄すすむ（前）、いたる（至）㊅たもつ（保）、まったし（全）㊆やすし（安泰）。

國訓 ぞんす（思ふ）。

【存亡】ソンバウ のこるとほろぶと。（興廢）。諸葛亮「此誠危急存亡之秋也」

【存立】ソンリツ のこしてたつ。又、のこりてたつ。北史に「使二嬰弱衆孤得二存立一」

【存在】ソンザイ いきながらふ。又、あり。禮記、疏に「知二禮樂所二存在一」

【存身】ソンシン からだをたもつ。易經に「龍蛇之蟄、以存レ身也」

【存拯】ソンジヨウ いかしすくふ。北史に「以レ命歸レ之必存拯」

【存神】ソンシン 精神を浮かれしめざるやうにす。班固「守二寂莫一而存レ神」。

【存候】ソンコウ 機嫌をうかがふ人。唐書に「分二衛兵一護レ第、存候踵レ路」

【存活】ソンクワツ 生命をたもつ。後漢書、蓋勳傳に「出二家糧一以率レ衆、存活者千余人」

【存恤】ソンジユツ とひめぐむ。漢書に「存二恤所レ從之老弱一」

【存問】ソンモン 安否をとふ。漢書に「漢王西入レ關、至二櫟陽一、存二問父老一」

【存肄】ソンイ うしなはざるやうに保ちならふ。漢書に「河間獻王、獻二所レ集雅樂天子一、下二太樂官一、常存二肄之一」

【存養】ソンヤウ こころをたもち性をやしなふ。孟子に「存二其心一、養二其性一、所二以事レ天也」

【存撫】ソンブ なぐさめ安んず。後漢書に「統二三軍之政一、存二撫并州之人一」

【存潤】ソンジユン 安否を尋れてあはれみをかく。北史、抱疑傳に「疑天性酷濁、雖二弟姪甥壻一、略無二存潤一」

【存廢】ソンハイ のこるとすたると。又、保存するとすておくと。

【存頻】ソンヒン 王者の臣下を恤問引見すること。周禮に「存頻省聘、問臣之禮也」

【存錄】ソンロク 臣下を愛撫してあつかふ。庾信「聖慈憐憫、遂垂二存錄一」

【存乎其人】ソンコヒトツ その人に在り。易經に「神而明レ之、存二乎其人一」

孖 四畫

【孖】ソン。存の本字。

【孚】フ。芳無切。虞。

㊀芳遇切。遇。

㊀とりのたまご（鳥卵）㊁まこと（信）㊂つや、玉の采光㊃やしなふ（育）㊄かへす（孵化）㊅めぐみたすく。書經に「上天孚佑下民」

【孚佑】フユウ はぐくみやしなふ。韓詩外傳に「覆伏孚育、積日累久」

【孚育】フイク

【孚信】フシン まこと。

【孚毓】フユ 玉の如くうつくしき色。一切經に「孚毓言二美色一也」

【孖】ヒ、ビ。方味切。未。

㊀しげる（繁茂）㊁顏色かはる㊂ははきぼし（彗星）㊃くらし㊄ははきぼし㊅もとる㊆かほいろかはる。

【孖孖】ヒヒ 明かならざる貌。又、惡氣ある貌。釋名に「孖星星旁氣孖孖然也」

【孖彗】ヒスイ ははきぼし。（彗孖、妖孖）。唐書、遜思邈傳に「五緯縮縮、孖彗飛流、其危診也」

【孜】シ。子之切。支。

㊀つとむ（勤）㊁あつし（篤）㊂いつくしむ（愛）㊃おもふ（思）。

【孜孜】シシ つとめて倦まざる貌。書經に「爾其孜孜、奉二予一人一」

【孝】カウ、ケウ。呼教切。效。

㊀よくおやにつかふること㊁うけたまはる（承）㊂したがふ（順）㊃やしなふ（養）。

【孝子】カウシ ㊀よく父母につかふる子。漢書に「百姓鄉化、孝子、弟弟、貞婦、順孫、日以衆多」㊁父母の祭に子たる者の自ら稱する語。禮記に「祭稱二孝子孝孫一、喪稱二哀子哀孫一」

【孝友】カウイウ 善く父母につかへ、兄弟に善

くす。詩經に「侯誰在矣、張仲孝友」

【孝弟】 善く父母に事ふると善く兄長に事ふると。論語に「孝弟也者、其爲レ仁之本與」

【孝行】 よく父母につかふること。說苑に「孝行成二于內一而嘉號布二于外一」

【孝祀】 よく先祖につかふ。詩經に「苾芬孝祀、神嗜二飲食一」

【孝鳥】 〔動〕からす。烏に反哺の孝あり、故に孝烏といふ。古今註に「烏、一名孝烏、又名二玄烏一」

【孝道】 父母につかふる道。史記に「曾參南武城人、孔子以爲能通二孝道一」

【孝順】 父母に事へてすなほなり。國語に「孝順以納レ之、忠信以發レ之」

【孝敬】 父母を大切にしうやまふ。左傳に「孝敬忠信爲二吉德一」

【孝童】 父母によくつかふるこども。唐書に「段秀實、六歲母病、勺飲不レ入レ口、至二七日一、病間乃食、時號爲二孝童一」

【孝義】 父母につかふるみち。唐書に「貞觀三年、賜二孝義之家粟五斛一」

【孝愛】 よく父母に事へいつくしむ。禮記に「戰則守二於公爾一、孝愛之深也」

【孝感】 孝行の德を以て、神人の心を動かす。晉書、王祥傳に「祥性至孝、母嘗欲二生魚一、時天寒冰凍、祥解レ衣剖レ冰求レ之、忽自解、雙鯉躍出、母又思二黃雀炙一、復有二黃雀數十一、飛入二其幙一、鄉里驚歎、以爲二孝感所レ致一」

【孝廉】 一縣の中にて賢者の聞え高くして朝廷に推擧せらるるもの、卽ち、漢時代の徵士の名號。周禮、注に「興二賢者一謂レ若二今舉孝廉一、興二能者一謂レ若二今舉茂才一」

【孝慈】 よく父母に事ふると子孫を愛すると。論語に「孝慈則忠」

【孝文悲】 〔植〕あさつき。胡葱。

【孝子不匱】 孝子は孤立せず、同類相あつまる義。詩經に「孝子不レ匱、永錫二爾類一」

【孝子愛レ日】 孝子のよく親に事ふるには、これ日も足らざるが如くす、よつて愛日といふ。揚子法言に「事二父母一、自不レ足者、其舜乎、不レ可二得而久一者、事レ親之謂也、孝子愛レ日」

【孝季】 カウ、ケウ。古肴切。肴。

【孝孟】 みちびく(導)。

孟

【孟】 ⑩バウ、ミャウ。莫更切。敬。㊁バウ、マウ。母郎切。養。㊂はじめ(始)㊃つとめさ、かしら(長)㊄はじめ(始)㊅おほいなり(大)㊆みだりつとむ(勉)㊇おほいなり(大)㊈みだり(虛誕)、おろそか(疎漏)。

【孟月】 四季の各のはじめの月。北史に「始以二孟月一祭レ廟」

【孟冬】 ふゆのはじめ。

【孟秋】 あきのはじめ。

【孟侯】 ㊀諸侯のはたがしら。書經に「王若曰、孟侯朕其小子封」㊁太子の年十八なるをいふ。尙書大傳に見ゆ。

【孟春】 はるのはじめ。

【孟夏】 なつのはじめ。

【孟淚】 くはしからず。おろそかなり。とりとめなし。集韻に「孟淚猶二鮫略一也、一曰、不二精要一之貌」

【孟隙】 正月の異稱。史記、集解に「正月爲二孟隙一」

【孟婆】 風の神。轉じて、風の異名。宋徽宗「孟婆好做二些方便一、吹二箇船兒一倒轉」

【孟勞】 魯國の寶刀の名。穀梁傳に「孟勞者、魯之寶刀也」

【孟陽】 正月の異稱。(青陽)。梁元帝纂要に「正月爲二孟陽一」

【孟賁】 古代の勇士の名。說苑に「勇士孟賁、水行不レ避二蛟龍一、陸行不レ避二狼虎一」

【孟仲季】 兄弟の順序、卽ち、長子・次子・三子の稱。

【孟宗竹】 〔植〕竹の一種。

【孟母斷機】 孟軻の母、はたをたちて軻が中途にて學を廢せんとするを誡めし故事。(斷機之誡)。列女傳に「及二孟子既學而歸一、孟母問二學所レ至、孟子曰、自若也、孟母以レ刀斷二其織一曰、子之廢レ學、若二吾斷二斯織一、孟子懼、旦夕勤學不レ息、師事子思、遂爲二名儒一」

【孟渾之言】 とりとめなきことば。緒要ならざることば。莊子に「夫子以爲二孟渾之言一、而我爲二妙道之行一也」

孢

【孢】 タイ、テイ。土來切。胎。

胎に作る、ほらも(孕)。

孩

【孩】 シ。七支切。支。

ほそわた(小腸)。

孢

【孢】 ハウ、ヘウ。平巧切。巧。

ほらむ(孕)。

キ。居悸切。寄。

季

【季】 ㊀わかし(稚)㊁わかきもの(幼者)㊂ちひさし(小)、ほそし(細)㊃すゑ(兄弟中の最も年少き者、終りの時、亡ぶに近き時)㊄とき(時節)。

【季子】 すゑのこ。

【季父】 をぢ。父の兄弟中のすゑなるもの。史記、項羽紀に「其季父項梁」

【季冬】 ふゆのすゑ。(晩冬)。

【季材】 わか木。周禮に「凡服レ耜斬二季材一、以レ時入レ之」

【季春】 はるのすゑ。(晩春)。

【季秋】 あきのすゑ。(晩秋)。

【季夏】 なつのすゑ。(晩夏)。

【季節】 ㊀とき。をり。(時節)。夏侯湛「伊朱明之季節兮、暑爛爍以盛興」

【季諾】 たしかなる承諾。季布といふ人は然諾を重んぜしより、しかいふ。史記に「曹丘生曰、楚諺曰、得二黃金百斤一、不如レ得二季布一諾一」

【季候風】 氣候の變化によりて方向の變ずる氣流、卽ち、一定の時季毎に相反する方向に吹く風、殊に印度洋に於く、五月中旬頃より九月中旬頃まで南西に吹く風、又は十月中旬頃より十二月中旬頃まで北東に吹く風の稱。

孤

【孤】 ㊀コ、ウ。古乎切。虞。㊁みなしご(幼くして親なき者)㊂ひとり(特、單獨)㊃そむく(負)㊄かへりみる(顧)㊅王侯の謙稱㊆官の名(三公の次)。

みなしご。宋玉「孤子寡婦、寒心酸鼻」

【孤子】 孤立狷介の義。心せまし。宋史、王琪傳に「琪性孤介、不二與レ時合一」

【孤介】 一人はなれてとらはれたるもの。柳宗元「二臣得意猶念レ此、況我萬里爲二孤囚一」

【孤囚】 ひとりだつ。(介立)。後漢書、竇融傳に「孤立無黨」

【孤立】 まるき橋。韋莊「淵柳橫二孤約一、巖藤架二密陰一」

【孤約】 一つのふね。陶潛「眇眇孤舟逝、綿綿歸思紆」

【孤舟】 前に同じ。陳子昂「古木生二雲際一、孤帆出二霧中一」

【孤帆】 たしかなる承諾。季布といふ。

【孤注】 賭博するに錢のあるたけ出して勝負すること。長編に「眞宗澶淵之役、王欽若謗曰、寇準以二陛下一爲二孤注一」

【孤村】 かけはなれたるひとつむら。皇甫松「櫓歸而水遶二孤村一」

【孤臣】 君主にはなれたる家來。蘇軾「山憶二喜歡一、勞二遠夢一、地名二惶恐一、泣二孤臣一」

【孤松】 一本のまつ。顧愷之「秋月揚二明輝一、冬嶺秀二孤松一」

【孤兒】 みなしご。劉長卿「獨聞山吏部、流涕訪二孤兒一」

【孤忠】 他の助けなく、ひとりだちて忠なつくす。宋史に「韓琦曰、如レ琦孤忠、每賴二神道一相助、幸而多有レ成」

【孤負】 そむく。李陵「功大罪小、不レ蒙二明察一、孤負陵區區之意一」

【孤客】 たびにあるひとりもの。謝幼度「孤客傷二逝湯一、徒旅苦二奔噂一」

【孤陋】 世間よりはなれて見聞せまし。王十朋「離索恐二孤陋一」

【孤特】 孤立にて助けなし。又、その者。(介特)。唐書に「孤特自恃」

【孤弱】 助けなくしてよわきもの。幼くして親なきもの。吳志、薩甄傳に「矜哀孤弱一、以鎭二撫百姓之志一」

【孤翁】 ひとり身のおきな。易林に「孤翁寡婦、獨宿悲苦」

【孤國】 たすけなきくに。戰國策に「齊魏有二何重一于孤國一也」